PRIDE vs UFC開戦！ 徹底解剖!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2006
101
特別定価 920yen

7.8『UFC61』で何が起こったのか？
PRIDE vs UFC開戦の舞台裏を徹底追跡!!

10.21PRIDEラスベガスで復帰熱望！
ロシアの皇帝がついに全米侵攻開始!!

エメリヤーエンコ・ヒョードル

合言葉は「友情・努力・勝利」!!
リアル・プロレスラー対談実現！

ジョシュ・バーネット×美濃輪育久

シウバ戦のセコンドが語る

藤田和之敗戦 至近距離の真実

『武士道』にアゲ♂アゲ♂旋風！

DJ GOZMA

100号突破記念スペシャル付録つき！

kamipro MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE 紙のプロレス No.51-100

100号の歴史を振り返る小冊子第二弾！

桜庭和志もついに登場！
激震必至！ 8.5『HERO'S』

引っ越しも完了し、背水の緊急出場！

所 英男

"敵前逃亡"を完全否定！

ボブ・サップ会見完全再録!!

挑戦し続ける王者（シウバ）、発射準備完了！

UFC殺る（ヤルウ）!!

今月もやります！ 破壊王一周忌追悼特集第二弾

独占スクープ・インタビュー！

あの「折り鶴兄弟」が登場!!

破壊王イタズラ伝説"重要参考人"

西村 修

ストロングマシン1号&2号そろい踏み！

平田淳嗣／力抜山

プロレスを知らない格闘技ファンに贈る
新日本プロレス凸凹大学校2006

3年G組 金沢先生スタート!!

ニューリン様が髙田総統に反旗！

ハッスル衝撃の新展開突入!!

kamipro 101 格闘スターウォーズ、ホッツ発!!

印刷・製本／図書印刷株式会社

マット界にまたまた激震!! PRIDE vs UFCついに開戦!

格闘スターウォーズ、ボッ発!!

2006 No.101 CONTENTS
kamipro

表紙写真／山口比佐夫

GSOON!!

UFC

UFC Light Heavyweight Champion
CHUCK LIDDELL

スターウォーズ

COMING S

PRIDE

PRIDE Middleweight Champion
WANDERLEI SILVA

開戦！ 格闘ス

10月ラスベガス大会に見えたもの!

DEは

られるか"が

拾う!!

ラスベガス発、鳥肌ゼンブ立った!!『PRIDE』、やっぱ凄いわ!(髙田延彦調)。

アメリカ現地時間の7月8日、マンダレイベイ・イベントセンターにて開催された『UFC61』で、日米マット界を揺るがすビッグサプライズがボッ発した!

「——私の友人を紹介しよう!」

UFC代表ダナ・ホワイトのアピールを受けて、オクタゴンに姿を現わしたのは、なんとPRIDEミドル級王者のヴァンダレイ・シウバ!

ヴァンダレイはマイクを握ると、「チャック、出てこい!!」と、UFCライトヘビー級王者の名前を叫ぶ。チャック・リデルがその呼びかけに応えて姿を現わし、両雄はその場で一触即発のにらみ合いを展開。刺激的この上ない光景を満面の笑みで見届けていたダナ・ホワイトは、「11月のUFCでこの対決は実現するぜ!」と、興奮気味にまくしたてた。

電撃、衝撃、突然の『PRIDE』vsUFC頂上対決、実現へ——!!

これまで交流の話し合いは幾度となく続けられてきた両団体だが、連続性のある展開はついぞ生まれなかった。UFCは『PRIDE』のオポジション『HERO'S』と接近する動きさえ見せていた。

それだけに、降って湧いたかのような対抗戦ムードに驚きの声が挙がるのは無理もない。さっそく様々な噂がマット界を駆けめぐった。

「テレビの地上波中継を打ち切られたし、このまま『PRIDE』はUFCに吸収されるんじゃないか?」

「いや、『PRIDE』はアメリカに基盤を移そうとしてるんだよ」

「まあ、週刊誌のネガティブ・キャンペーンのせいで、日本でビジネスはやりづらくなってるしね」

「え〜、猪木が笑えば世界も笑う!　というわけで、いよいよ念願だった海外戦略が始まるというか。ついでに電機も動きます!　ムフ!!」(これは別の団体か)。

『PRIDE』からすれば、ラスベガス大会のプロモーションや、アメリカ市場進出を目論んだうえでのアクションになるが、これはそんなビジネスモデルだけで捉えられない出来事だ。ここまで「殺るか、殺られるか」という言葉が似つかわしいシチュエーションは、記憶にない。リアルファイトの勝敗がそのまま団体の命運を握りかねないという、前代未聞のコンタクトなのである(かつてのK—1vs猪木軍は、興行におけるアングル色が強かった)。

とくに乗り込む側の『PRIDE』にとっては非常にリスキーだ。すでにアメリカに揺るぎない地盤をつくりあげているUFCからすれば、自分たちの都合のいいところで接触を打ち切ってもおかしくはない。UFCの潤沢な資金力の前に、フジテレビのバックアップを失なった『PRIDE』が取り込まれてしまう危険性だってある。いまの『PRIDE』を新日本プロレスとの対抗戦に臨むUWFインターになぞられる向きもある。

しかし——。『PRIDE』はいつだって「殺るか、殺られるか」の闘いを繰り広げてきた。このリスキーな闘いは、『PRIDE』にとって、非常によく似合う危機であり、『PRIDE』の本領を発揮する好機なのだ。UFCとの全面戦争、シウバvsリデル戦はたしかに衝撃の展開だが、逆風吹き荒れる中でも、"挑戦し続ける"という精神をブレもなく見せつけたことが、最大のサプライズだったといえるだろう。

『PRIDE』は挑戦をやめたときに老いていく。危険を省みない挑戦こそが、『PRIDE』が『PRIDE』たる所以なのだ。

『PRIDE』、やっぱ凄いわ!!

構成/ジャン斉藤　写真/DSE、MMA WEEKLY、Dave Mandel
designed by hisa(TwoThree)

UFCへの危険な殴り込み、10月ラ

PRID

“殺るか、殺ら
よく似

PRIDE新章突入へ!
アメリカ激闘編スタート!!

PRIDEラスベガスもヤルゥ!!

UFC、ヤルゥ!!

協定？ はたまた全面戦争？

『PRIDE』とUFCにいったい何が起こっているのか!?

―DSE USA神田氏に緊急メール・インタビュー敢行!!―

ヴァンダレイがUFCに来場？ しかも、リデル戦が決定!? いったい『PRIDE』とUFCでは何が起ころうとしているのか。そんな巨大な疑問に答えていただくべく、アメリカはDSE USAの神田氏にメール・インタビューを敢行！ さあ神田さん、あれも、これも、全部教えてください!!

構成／松下ミワ　写真協力／DSE　designed by hisa (TwoThree)

神田由紀乃さん
かんだ・ゆきの■『PRIDE.1』高田vsヒクソンの前段階から『PRIDE』に関わり、『PRIDE.4』後にはアメリカに渡って「DSE USA」を拠点に着々と全米進出を図っていたDSEのキーパーソン。

Q ヴァンダレイがUFCに上がる、あるいは、チャック・リデルと対戦するという構想に関して、いつ頃からDSE USAは動いていたのでしょうか？

▼途中いろいろな経緯がありましたが、これは**2003年から継続した案件です**。ご存知のように、2003年のミドル級グランプリにはチャック・リデルがUFCを代表して出場していますし、**ヴァンダレイにはUFCのオクタゴンへ二年前にも上がってもらい、チャンピオンだったランディ・クートゥアーへ挑戦状を叩きつけたことがあります**ので、交流は今回が初めてではないんです。ヴァンダレイの出場については、UFCとのスケジュールがうまく合わなくて、なかなか実現しませんでしたが、今回はより実現する可能性が高いと思います。ただし、11月のUFCまでにヴァンダレイは9月11日の無差別級GP決勝ラウンド、チャックは8月26日のタイトル戦が控えていますので、まだ100パーセント実現することは約束できませんがファンの熱もかなり高まっていますので、ぜひ両者ともグッドコンディションで闘ってほしいと思っています。

Q 今回のサプライズはDSEとしてはどのような狙いがあったのでしょうか？

▼我々はファンの方々の望むこと、**MMAの業界のためにやるべきことをしっかり行動に移そうということだけです**。ここまで大きな反響があったことに対して、逆に我々がサプライズしています。アメリカ市場での過去一年におけるUFCのビジネスの発展ぶりは目を見張るものがありますが、選手のクオリティでは『PRIDE』が世界ナンバーワンだと自負していますので、ヴァンダレイに限らず『PRIDE』のトップ選手をUFCに派遣して、『PRIDE』とUFCの選手の実力差を世界へ向けて知らしめたいですね。日本では悪質なゴシップ記事などで逆風が吹いていますが、**このUFCとの全面戦争で、そうしたネガティブな話題を吹き飛ばしたいとも思っています**。

Q これまで選手レンタルの話は幾度となく浮上しては消えの繰り返しでしたが、今回合意に至った理由とは？

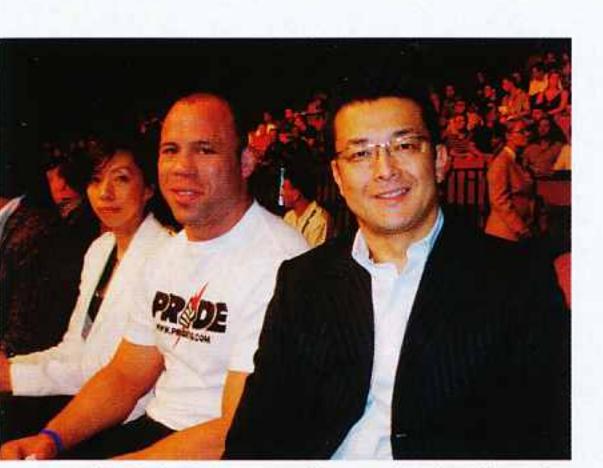
▼諸般の要因がありますが、その中の一つはUFCのビジネスが好調であることだと思います。

Q PRIDEミドル級チャンピオンと、UFCライトヘビー級チャンピオンとの対戦について、UFC代表のダナ・ホワイト氏とは、どのような話をされたのですか？

▼うーーん。ちょっとここでは言えないですね。**内緒です**（笑）。

Q ダナ・ホワイト氏は、ヴァンダレイ参戦に始まる『PRIDE』のUSA進出について、どのような反応を示しているのでしょうか？

▼「**やめさせたい」というのが偽らざるところでしょう**。ヴァンダレイのオクタゴン内でのアピアランスの際に、ヴァンダレイを呼び込んだ**ダナもテレビの解説のマイク・ゴールドバーグも『PRIDE』の〝プ〟の字も言いませんでした**。ダナは〝ボクの友だちのヴァンダレイ・シウバ〟と、またマイクは〝日本で活躍しているファイターの〝ヴァンダレイ・シウバ〟と紹介しましたので、**ほかの団体を一切プロモートしないという彼らの徹底ぶりには感心させられます**。10月の『PRIDE』ラスベガス大会も、彼らの縄張りであるラスベガスへ我々が足を踏み入れるわけですから、もちろん歓迎はしてくれませんよね。ただ、彼らはデキるビジネスマンたちですから、健全なコンペティターの存在がマーケットを広げ活性化していく上で必要であることは認識しているはずです。ですので、彼らとは**お互いのブランドを賭けて正々堂々と闘いたいですね**。

Q アメリカでのUFC人気は相当なものだとうかがっていますが、このリスクの高い対戦をダナ・ホワイト氏が受けた理由というのは、なんだと思われますか？

UFC61を堂々と会場で観戦する『PRIDE』陣営。ヴァンダレイはこの日のオクタゴンを目の前にして、いったい何を思ったのだろうか？

▼いま持っている宝を守って小さくまとまるより、リスクを犯して大きなリターンを得るということだと思います。

Q ヴァンダレイがUFCでマイクしたときの、会場の反応を教えてください。

▼"I want to fxxx Chuck"と言ったときは、会場中がビビッて、たじろいでましたよ（笑）。

Q ヴァンダレイとはUFC参戦についてどのような会話をしましたか？ また、今回の視察でヴァンダレイの印象的なエピソードは何かありましたか？

▼ヴァンダレイは「**UFC61に出場したどの選手でも秒殺できるよ**」と言っていました。フランク・ミアの復帰戦に対しては"あれはスローモーションか？"という辛口のコメントをしていましたね（笑）。

Q アメリカ国内の関係団体やマスコミは、この対決の意味をどのように見ていると思われますか？ また、勝敗に関しては、どういう見方が多いかお教えください。

▼関係団体＝「競合するプロモーター」という意味であれば、彼らにとっては非常に嫌なことでしょうね。関係団体＝「テレビ局やスポンサーなどパートナー」という意味であれば歓迎することでしょう。UFCが終わり会場から離れる際に、DIRECTVの人たちに捕まえられて質問攻めに遭いましたが、彼らは期待に目を輝かせていました。**勝敗に関しては、実力的にはヴァンダレイ、地の利はチャックにある、という声が多いですね。**

Q アメリカでのヴァンダレイの認知度というのは、どのくらいあるのでしょうか？

▼**総合格闘技のコアファンの中では知らない人はいません。**コアファン以外でも去年から始まったケーブルテレビ放送のおかげで、**一般のカジュアルファンでも認知度が上がってきていますね。**二年前にアメリカに来たときよりも街を普通に歩いているときや公共の場所で、呼び止められたりサインを求められる数がかなり増えてきています。もちろん、**UFCの会場ではもみくちゃにされて、前に進むのも大変でした。**

Q ダナ・ホワイト氏は11月に二人の試合を行なうと話していましたが、実際に、ヴァンダレイvsリデルの対決が実現するのはいつになりそうですか？ 見通しをお教えください。

▼**早くて11月のUFC**だと思います。チャックはババルを倒しタイトルを防衛しなければなりませんし、ヴァンダレイは無差別級GPでケガをせずに闘い抜かなければなりません。

『PRIDE』とUFC、お互いのブランドを賭けて正々堂々と闘いたいですね

Q 当日のPPV収入、チケット収入に関して、DSEにもいくらか収益があるのでしょうか？

▼それは、いい案ですね。ダナにぶつけてみましょう（笑）。

Q ヴァンダレイは現在、PRIDE無差別級GPの決勝ラウンドに進むことが決まっていますが、このままヴァンダレイが優勝した場合も、リデル戦というのは実現するのでしょうか？

▼もちろんです。ケガがなければ実現します。UFCのベルトが懸かっていますので、ヴァンダレイにとって、**アメリカで名前を売るいいチャンスですから、本人のモチベーションはかなり高いですよ。**

Q ヴァンダレイがリデルに勝利した場合、ヴァンダレイはUFCのライトヘビー級チャンピオンとしてUFCに参戦し続けることになるのでしょうか？ 二人の対戦後の展望をお聞かせください。

▼**チャンピオンなら防衛するのは義務ですから、チャック以外の次のコンテンダーと闘うことになるでしょう。**防衛戦が続いて、『PRIDE』に戻ってくるヒマがないかもしれませんね（笑）。

Q 反対に、リデルが勝利した場合、その後の『PRIDE』にどのような影響が及ぶと思われますか？ ミドル級のベルトの権利なども含め、お教えください。

▼その可能性は低い（！）と思いますが、**次はチャックが『PRIDE』のリングの中で、かつ『PRIDE』のルールでヴァンダレイと闘う必要があると思いますよ。**そのときは『PRIDE』のミドル級のベルトを懸けることになるでしょうね。

勝敗に関しては、実力的にはヴァンダレイ、地の利はチャック、という声が多いです

Q 今回はPRIDEファイターがUFCに参戦するというかたちになりましたが、今後、UFCファイターが日本に乗り込んでくる可能性もあるのでしょうか？

▼**もちろんです。**もしかすると、11月のUFCにヴァンダレイが参戦する前に『PRIDE』ラスベガス大会や9月の無差別級GP決勝戦にUFCの選手が参戦するかもしれません。

2003年に開催された『PRIDEミドル級GP』にはUFCを代表してチャック・リデルが出場。神田氏によると、当時から『PRIDE』vs UFCの構想はできあがっていたという。恐るべし!!

Q 今回、ヴァンダレイがUFCに上がったように、DSEがUFCの日本進出を、いわば"サポートする"ということもありえるのでしょうか？

▼これは常々言っているのですが、**我々ができることがあれば協力するというスタンスです。**

Q 今後、『PRIDE』とUFCが対抗戦を行なうという話もあるのでしょうか？ あるいは、引き続き、ヴァンダレイのように『PRIDE』のチャンピオンクラスのファイターがUFCファイターと闘う構想はあるのでしょうか？

▼これもズッファ社がUFCを主催するようになった当時から何度か話題には上がってきています。**究極のかたちは全面対抗戦です。**MMAのスーパーボウル、ワールドシリーズの実現に向けた話も今後前向きに進めていきたいですね。

Q 10月21日に『PRIDE』ラスベガス大会開催が決定していますが、この大会にヴァンダレイvsリデル発表はどのような影響を及ぼすと神田さんはお思いでしょうか？

▼ヴァンダレイを『PRIDE』のミドル級チャンピオンとして、敵地へ送り出すわけですから、**この対戦のプロモーションは『PRIDE』の知名度をより上げるためにプラスになるでしょう。**

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソン

アメリカから見た ヴァンダレイvsリデル

**ヴァンダレイvsリデル戦決定のサプライズをアメリカ側はどう捉えたのか？
電撃発表直後、本誌連載『USA cool 宅急便』にて、アメリカ市場のホットなニュースをお伝えしている
スコット・ピーターソン（格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』主宰）に電話取材で直撃!!**

PRIDE × UFC 格闘スターウォーズ

聞き手／ジャン斉藤　助手／ヒデト☆ウエスギ　撮影／Dave Mandel

designed by hisa（TwoThree）

スコット　大変だ、大変だ！　大変なことが起こったよ、デューク!!　ヴァンダレイ・シウバがUFCでチャック・リデルと対戦するぞ！

――（冷静に）はいはい。落ちついてください、落ちついてください。

スコット　あれ？　その声はボクに「パワーアップでオー!!」というへんなポーズを無理矢理教えてくれたミスター・ジャンじゃないか？

――そうですよ。ジャンですよ。

スコット　ボクの相棒、デュークはどうしたんだい？

――え～、『USA cool 宅急便』ナビゲーターの日系三世のデューク東郷はお休みです！

スコット　どうして？

――今回は日本も揺るがす事態だから、MMA事情に無知でチャランポランなデュークには任せられないということですね。

スコット　なんだよ。チャランポランなヤツにコーナーを任せていたのかよ？

――（無視して）さっそく本日発表された衝撃ニュースの話をしたいんですけど。そもそもヴァンダレイのUFC参戦情報は、前もって現地では噂されてたんですか？

スコット　いや、これが誰も知らなかった！　ファンはシウバが来ることなんて知らなかったし、一部マスコミはミスター・サカキバラ（DSE代表）とシウバが視察に訪れるという情報は聞いていたけど、それ以上のことは予想してなかったことが正直なところだね。

――視察情報がカムフラージュになっていたところがあったんですね。

スコット　まさかチャック・リデルとの試合が決まるとは思ってもいなかったよ！　ダナ（・ホワイト／UFC代表）が大会終了後の記者会見で、リデルが8月の（レナート・）ハバルとの試合に勝ってタイトルをキープすれば、UFCライトヘビー級のタイトルマッチになると言っていた。

――ヴァンダレイがオクタゴンに上がったときの観客の反応はどうでした？

スコット　じつは、その前にティト・オーティズとケン・シャムロックの試合があったんだけど、レフェリーが止めるのが早すぎた。そのせいで観客のフラストレーションが溜まっていたから、タイミング的には最悪（笑）。でも、ヴァンダレイが出てきたときのコアなファンの盛り上がりといったら、もうなかったよ!!

――幻聴でヴァンダレイのテーマ曲「Sandstorm」が聞こえたファンもいたかもしれない（笑）。

スコット　それほどの騒ぎだった!!　で、そのあとにリデルが登場して、ようやくライト層も騒ぎだしたんだ。UFCのファンにとっては、リアリティショー番組で観たことがあるか、ないかが声援を送る基準だからね。たとえば、TUFファイター（リアリティショー番組出演者）のファンイベントには人がたくさん押し寄せるし、リデルの試合前の公開計量には2000人もファンが来たりするんだよ。

――凄い人気だなあ。現地の報道陣の反応はどうだったんですか？

スコット　ライト層とあまり変わらないね。というのも、UFCは一般メディアのプレスは受け入れるけど、ネット中心のMMA専門メディアへのプレスパス発行を拒否しているから。だから、メディアルームは、かな～～～り、おとなしかった（笑）。もちろん、会場に入ることができたMMA専門のライターやカメラマンは予想できなかった出来事にエキサイトしたよ!!（電話越

しにも興奮気味に)。それにネットの反応を見ても、ハードコアファンは相当シビレたみたいだしね。

――「UFC61」の大会内容は最悪だったみたいだから、アメリカの"格闘セレブ"にとっての一番のニュースは"ヴァンダレイ参戦"だったみたいだし。

スコット それで一番頭にくるのは、ダナがシウバを『PRIDE』のファイターであることや、歴史に名を残す偉大な王者であることをファンに一言も言わなかったことなんだよ！

――そういえば、そうですね！

スコット つまり、ダナは自分の団体やファイター以外のプロモーションなんてまるで頭にないのさ。そしてこれは、チャックにとってのプロモーションにしか過ぎないとも思うんだ。

――そういうエピソードが一筋縄でいかない抗争劇を予感させるよね。シェイクハンドの交流戦じゃない。潰し合いの対抗戦という。

スコット これはあくまで個人的な考えだけどさ、UFC側からすると、リデルにはいま適当なライバルがいないことが"ヴァンダレイ参戦"に結びついたと思うだよね。

――たしかにこれまでの経緯を振り返ると、こんなにあっさり受け入れるのは考えづらいところはありますね。

スコット セルゲイ・ハリトーノフは「無名のロシア人」ってことで貸し出しを拒否しただろ？ 今回のヴァンダレイ参戦に合意したのは、ダナがUFCのメリットとして、層が薄くなったライトヘビー級戦線の充実を考えているんだと思う。ライトヘビー級について話をすると、UFCはランディ・クートゥアが引退して、『PRIDE』を離脱したクイントン・ジャクソンの獲得に失敗した。

――ランペイジはWFAと契約しちゃいましたね。

スコット だから、新鮮な血がほしかったんだよ。UFCはあくまでもライトヘビー級戦線にシウバを引き込むことにメリットを感じたんだと思う。

――じゃあ、逆にUFCにとってのデメリットはなんだと思いますか？

スコット それは、もちろんダナの"かわいいチャック"が負けることだろうね（鼻で笑って）。でも、そこは用意周到さ。シウバにいきなりタイトルショットをさせるのは正解で、もしリデルが負けたとしても、あと二回は王座を奪回できるチャンスがあるわけだろ？

――チャンスはありますよね、チャンスだけは。でもヴァンダレイはホイス・グレイシーとわけが違うから。

スコット まあ、ダナはUFCファイターが最高、最強だと信じているからねえ。負けるとは露とも考えてないのさ。ただ、ほかのファイターはともかく、リデルに関しては、彼がこのクラスのトップファイターであることに間違いはないね。

――リデルの強さは日本のファンも理解していますね。

スコット そうだよね。アメリカのファンは、シウバの強さは理解してないけど（笑）。

――で、スコットとしてはどちらが有利と予想しますか？

スコット そうだねえ。シウバの打撃は強いけど、チャックのストライキングにも定評がある。それにリデルは鋭いジャブを放つし、背も高くてリーチが長いから、シウバはかなり苦戦することになると思う。あと、シウバは柔術も強いけど、リデルは上のコントロールが強いからね。それになんと言っても、金網での闘いは、リング

かつて一時代を築いたティト・オーティズは、いまだに圧倒的な人気を保ちつつも、実力的には下り坂。ヘビー級王者のティム・シルビアもあまり評判がよろしくない。『PRIDE』との交流は新風景を期待する仕業か？

PRIDEと交流する理由？ UFCは新しい血がほしかったんだよ

Wanderlei Silva vs Chuck Liddell

でやるのとは全然違う。

――ルールも『PRIDE』とUFCとじゃかなり違いますね。

スコット UFCの闘いに慣れてるのはリデルだ。以上のことからリデルのほうが有利かなって思うけど。

――アメリカのライトなファンも、リデルが勝つとみんな思ってるんでしょう？

スコット なんの疑いもなくそう思ってる。こう言うと、アメリカのファンは世界のMMA事情を知らない大馬鹿に聞こえるかもしれないけど。

――まあ、これまでの話を聞いたかぎりでは……（笑）。

スコット そうなんだよねえ。今日なんかも、リデルとシウバが睨み合ったから盛り上がったんじゃない。リデルがオクタゴンに現われたからライトなファンは興奮したんだ。興味深いのは、UFCがこれから二人の対決に向けて、どうやってプロモートするかだね。ダナの性格を考えると、『PRIDE』の名前は一言も言わないようにプロモーションすると思うけど。

――逆にそういう仕打ちが、日本の『PRIDE』ファンのハートに火をつけることになると思いますけどね（笑）。

スコット なるほどね（笑）。でも、それはダナにとっても賢い選択肢ではないんだ。実際さ、チャンピオン同士の試合だということを煽ったほうが、盛り上がるし、勝ったときの価値も大きい。もしリデルが負けたときのエクスキューズにもなる。だから、どうしてシウバに『PRIDE』のベルトを持ってこさせて、「コイツは『PRIDE』のチャンピオンだ！」ってやらなかったのかわからない。つまり、『PRIDE』ラスベガス大会のプロモーションをしないということの徹底なんだろうね。

PRIDEがプロモーション効果を期待しているのなら、それは無邪気すぎるところがあるね

——UFCはこれまで『PRIDE』の米国上陸を妨害してきたわけだけど、その基本方針は変わってないと？

スコット　そうだね。もし『PRIDE』がプロモーション効果を期待しているのなら、それは無邪気すぎるところがある。今回はシウバが『PRIDE』のTシャツを着ていたことだけが、『PRIDE』ラスベガス大会の唯一のプロモーションになったけどさ。シウバvsリデルは『PRIDE』ラスベガス大会のあとだろ？　ひょっとすると、あのTシャツが最大最後のプロモーションになってもおかしくないよ。

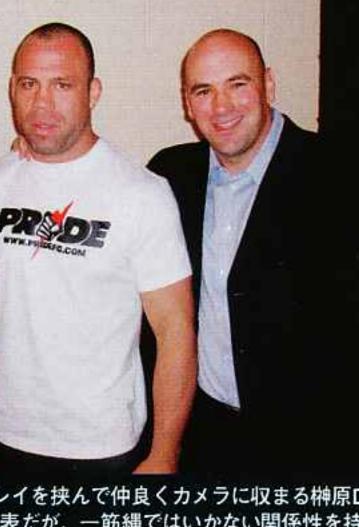
——たとえそうだとしてもいいんですよ。そのTシャツに刻まれた『PRIDE』の五文字を見せつけるために、ヴァンダレイはオクタゴンに入った。そしてリデルと闘う！　と。

スコット　いい話じゃないか！（笑）。

——でしょう？（笑）。これぞ『PRIDE』の神髄、開拓精神ですよ！

スコット　まあ、プロモーションにならないとは言いすぎかもしれないけど、シウバのUFC参戦は『PRIDE』のマーケット拡大にとって絶対的にいいことだよ。ダナがシウバを『PRIDE』ファイターだと言わなかったことは、『PRIDE』にとって痛かったかもしれないけど、でもシウバがいい試合をすればいいだけの話。

——そうなんですよね。結局、リングだろうがオクタゴンだろうが、おもしろくて凄いことやったほうが勝ちなんです。

スコット　アメリカのファンだって、いくら何も知らないからって、一度試合を観れば、「『PRIDE』にはいい選手がいる！」って注目することになるしね。ここアメリカではリデルの地位は絶対なものだから、シウバのほうがこの闘いで得るものは大きい。逆にリデルが負ければ失なうものは大きい。リデルは『PRIDE』でジャクソンに負けたりしてるから、こういう話をすると日本のファンにはちょっとへんな感じに聞こえると思うけどね。

©DSE
バックステージにてヴァンダレイを挟んで仲良くカメラに収まる榊原DSE代表とダナ・ホワイトUFC代表だが、一筋縄ではいかない関係性を持つ。ギャンブルに勝つのはどっちだ？

——逆にヴァンダレイが負けたときの、アメリカにおける『PRIDE』のダメージを聞きたいですね。

スコット　アメリカ市場について話すかぎり、それはないね（キッパリ）。

——ないんだ（笑）。安心したような、なんだか悔しいような。

スコット　なぜかというと、シウバがたとえ負けてもいい試合をすれば、『PRIDE』への注目は高まる。シウバのファイトスタイルは、カウンター狙いのリデルよりもアグレッシブで、エキサイティング。アメリカのファンからも絶対に支持される。これは間違いない。

——高評価を受けるのはほぼ間違いない、と。では、この決戦がきっかけになって、『PRIDE』とUFCの対抗戦の機運は高まると思いますか？

スコット　それはわからないなあ。UFCは基本的には、これまでのTUFファイター路線から変わらないと思うんだ。つまり、リアリティショーで顔を売ったヤング・ファイターを金網で試合させて、集客するというビジネスモデル。ただ、こんな噂もあって、なんでもヒョードル側が『PRIDE』ラスベガス大会で、UFCヘビー級王者のティム・シルビアとの対戦を希望しているらしい。

——ヘビー級もいきなり頂上対決ですか！

スコット　うん。『PRIDE』サイドからすれば、仮にシウバが負けることになっても、一番重い階級のチャンピオンに勝てば、「世界最強のファイターがいる!!」と胸を張れるわけだからね。それが『PRIDE』の戦略かもしれないなあ。

——でも、シルビア派遣はUFC側のメリットが見えづらくないですか？

スコット　そうなんだけど、UFCのヘビー級はそんなに人気がないから、負けてもダメージないんじゃないかなあ。

——なんてうしろ向きの発想なんだ（笑）。

スコット　今日のシルビアとアルロフスキーのヘビー級タイトル戦にしても、試合展開やレベル的に観るに堪えなかった。途中で帰っている客も多かった。ハッキリ言って、この階級で『PRIDE』に負けても、UFCが失なうものはない（笑）。

——ワハハハハ！　もうヤッケパチだ（笑）。

スコット　第一、ヘビー級だと『PRIDE』のトップ4は世界のトップ4だから。シルビアは『PRIDE』だと、6番目か7番目のファイターぐらい。それにシルビアはヒョードルとの最初に対戦するのはイヤらしくて、最初に『PRIDE』ファイターと闘うのなら、ミルコ・クロコップがいいと話しているらしんだけど……どっちとやっても結果は同じだと思う（笑）。

——キツイなあ（笑）。で、話は変わるけど、『HERO'S』とUFCの協力関係はどうなりそうなんですか？

スコット　そこは、ちょっとよくわからないな。もともと正式に発表された協力関係じゃないし。まあ、『PRIDE』ラスベガス大会が成功すれば、また違った流れになるだろうね。ダナはいつもアメリカに新団体ができると、初めは仲良くするんだけど、それがUFCの邪魔になってくると潰しにくる。これまでもの歴史もそうだった。『PRIDE』ラスベガス大会はトーマス&マックセンターが始まって以来、かつてないくらいの観衆を集めるようになるだろうから……。

——そうなると、UFCの出方も変わってくるかもしれない。

スコット　『PRIDE』とUFCの協力体制は非常にエスリリングだよ！

——わかりました。では、この件の新情報は来月号で。10月開催の『PRIDEラスベガス』大会についての詳しい情報は、絶賛発売中の『kamipro Special』で！

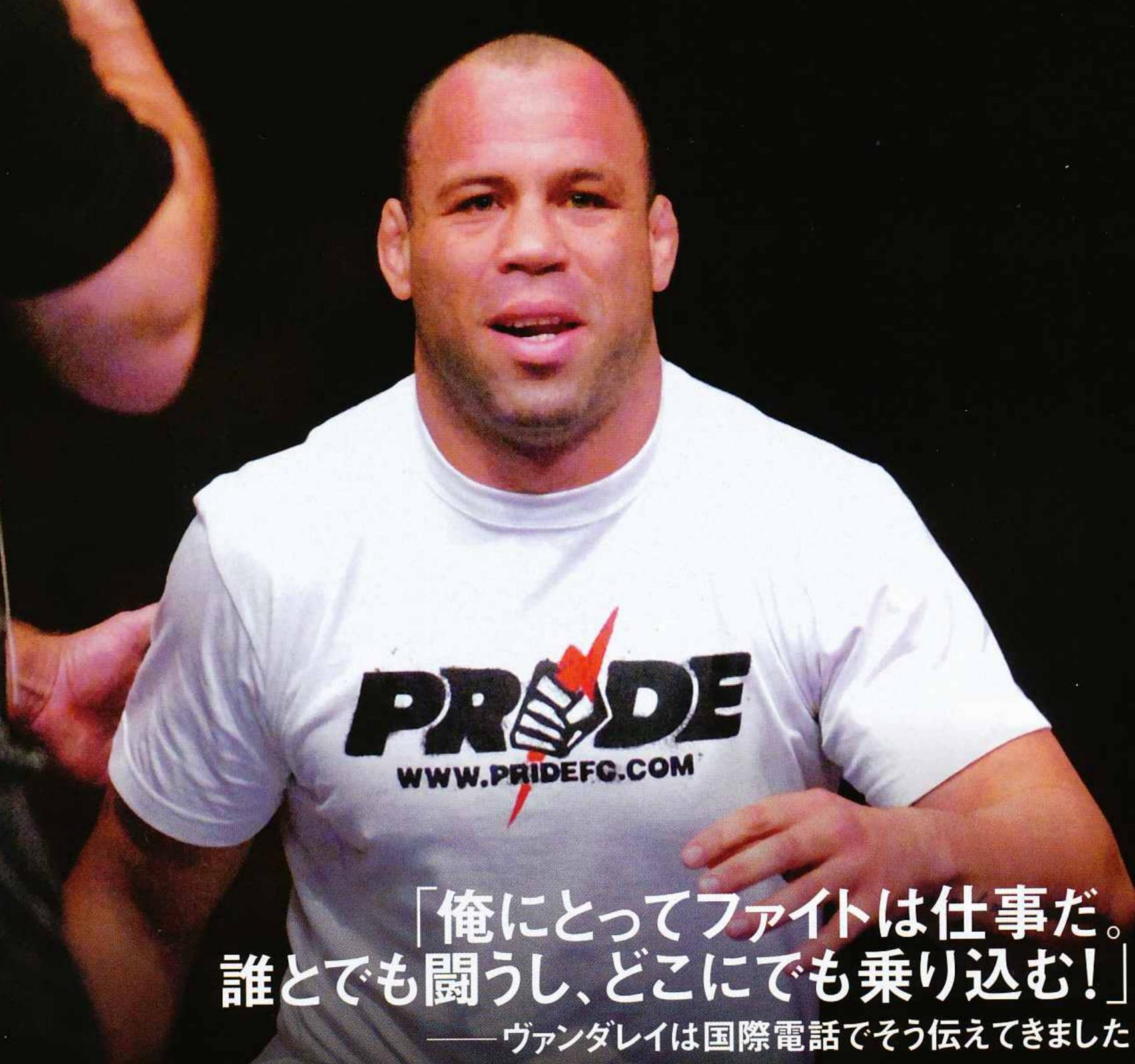
【06年7月9日／『UFC61』直後に電話インタビューにて収録】

Wanderlei Silva vs Chuck Liddell

「俺にとってファイトは仕事だ。誰とでも闘うし、どこにでも乗り込む！」

――ヴァンダレイは国際電話でそう伝えてきました

文／"ブッカーK" 川﨑浩市（シュートボクセ・エージェント）

『UFC61』で急きょ発表されたヴァンダレイ・シウバのオクタゴン参戦表明。じつはこのビッグ・サプライズは、6月17日に『PRIDE』から私に要請があったものでした。

基本的には、10月21日『PRIDEラスベガス』大会のプロモーションという名目でしたが、両団体の話し合いにより、現UFCライトヘビー級チャンピオンで"UFCのエース"チャック・リデルと将来的に対戦するという可能性についての話にまでに発展。消化不良に終わったティト・オーティズvsケン・シャムロック戦のブーイングの中、UFC代表のダナ・ホワイトは、シウバを呼び込むと一転して大歓声に変わった。そこで『UFC』11月大会での実現をアナウンスしましたが、リデルは8月のレナート・ババルとのチャンピオンシップを行ないます。その結果いかんによって変わってくることでしょう。また、ヴァンダレイも9月には『PRIDE無差別級GP』決勝ラウンドという、リデル戦以上の大一番を迎えており、現時点で具体的なスケジュールを発表することは困難です。

また、ルールの違いもあります。UFCのヒジありルールは、ヴァンダレイには持ってこいですが、グランド状態でのヒザ蹴り、ストンピングなしはリングとオクタゴンの違いよりも大きなポイントです。短期間で二つのルールに対応しないといけませんが、「俺にとってファイトは仕事だ。誰とでも闘うし、どこにでも乗り込む！」――大会終了後の国際電話で強い決意を伝えてきたのでした。近い将来、かならずこの対戦が実現することでしょう。

さて、対戦相手と見なしてしまうとすぐに戦闘モード状態になってしまい、ハイテンションになってしまうのがヴァンダレイです、彼は英語があまりうまくないため、ところどころでミスをしてしまいました（笑）。

たとえば、「I want fuc...? fight Chuck」、「Common Chuck!!」と発言するところをつい「fuck、Chuck!!」と言ったり。

そして、なるべく簡単な簡潔な言葉でアピールするため、「挑戦する」という言葉を使いました。たしかにリデルはチャンピオンですが、3年前の『PRIDEミドル級GP』においてクイントンに負けている選手。しかし、ヴァンダレイは以前から対戦要求を繰り返していたリデルに、前からいつでもやってやるモード、日本であれば「リデル、カカッテコ〜イ!!」と挑発するところでした。

リデルににじりよっていたヴァンダレイからすると、あくまで挑戦者はリデルという考えがあります。そして誰の挑戦でも受ける、と。最後に『UFC61』の感想を聞いたところ、彼はこう言い放ちました。

「UFCは退屈な試合が多かった。『PRIDE』のほうがレベルが高い。ヘビー級は見届ける必要はないと感じて、メイン前に会場をあとにしたよ」

ヴァンダレイはUFCでも、きっとアメリカ中のファンが興奮する試合をやってのけるでしょう。

ンコ・ヒョードル

「10月のPRIDEラスベガス大会が私の復帰戦になるでしょう」

ハラショー!!

ロシア全土のPRIDE中継も決定!!

皇帝発世界

当初はシード参戦が予定されていた『PRIDE無差別級GP』を右拳の手術により欠場。復帰戦でいきなりGP優勝者と対戦か？　と今後の展開が注目されている王者ヒョードル。大会視察に来日したところをキャッチすると、『PRIDEラスベガス』大会への参戦を表明!『PRIDEモスクワ』大会の実現性についても激白した!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／丸山剛史
designed by hisa（TwoThree）

皇帝の
ぶらり秋葉原＆浅草
観光レポートつき

エメリヤーエン

「今回はロシア人選手が誰も出場しないので、ロシア語の通訳を用意してないんですよ」

7・1『PRIDE無差別級GP2ndROUND』観戦のために来日するヒョードルのインタビュー取材を申請したところ、『PRIDE』サイドからこんな返事が返ってきた。ああ、そりゃそうですね……とあきらめかけたら、こんな言葉が続いた。

「大会前日に秋葉原で買い物するみたいなんで、そこに同行はできるんですけど。インタビューは難しいでしょうねえ……」

……え？　いまなんておっしゃいました？　行きます、行きます、ぜひ同行します!!　インタビューできなくても、秋葉原ツアーに同行させてくださ～い！　アキバ探索中のヒョードルが冷静な表情で

「メイド喫茶で萌えたくなった」とか言いだしかねないし！

結局、その買い物ツアーには、英会話が堪能なDSE社員の方が付き添うことになり、ちょっとだけ英語がしゃべれるヒョードルに軽めのインタビューができることにもなった。とりあえず、いい加減でもいいから、一歩踏み出してみるもんだ。

観光当日、ヒョードルはさすがに「メイド喫茶で萌えたい」なんてことは言いださなかったが、家電量販店ビルの中にある〝外国人観光客向けのおみやげ〟コーナーで品物を物色したり、そのあと浅草寺にお参りする姿を独占激写！（独占とか激写とか、大袈裟すぎる表現だけど）。

その最中に、復帰戦の話、無差別級GPの話、『PRIDE』のロシア進出の話……。カタコトの英語ながら、興味深い話をいろいろしてくれた!!

来日すると、よほどのことがないかぎり秋葉原を訪れるというヒョードル。一人で足を運び、古びたビルの食堂で、焼きそばとビールを味わってたりすることもあるそうだ。渋い!!

――しかし、家電量販店の中に外国人観光客向けのおみやげフロアが3階にわたってあるなんて、初めて知りました（笑）。

ヒョードル　そうですか。私は日本に来ると、必ずあそこに立ち寄るんですよ。

――ヒョードルさんは秋葉原でいつも家電製品を購入しているイメージがあるんですけど、今日は主に観光客向けの品物を買われてましたね。

ヒョードル　そうですね。さすがにDVDプレイヤーとか家電製品を毎回買ったりしませんよ（微笑）。

――よく考えたらそうですすよね（笑）。ちなみに秋葉原で最近買った高価なものってなんですか？

ヒョードル　そうですねえ……。液晶テレビが高かったと思います。たしか500ドルくらい払いましたが、これが凄く大きなテレビなんです。

――それは日本からロシアの自宅に送ったんですか？

ヒョードル　はい。機内にはとても持ち込めないですから。そういえば、弟のアレキサンダーがマッサージチェアをいたく気に入ったのですが、値段と輸送費が高かったので「はいはい、もう帰ろう、帰ろう」とあきらめたことがあったんです。でも、弟の奥さんのほうがよっぽど気に入ってしまったことがありましたね。

――そのマッサージチェアは、輸送費込みでどのぐらいしたんですか？

ヒョードル　たしか40万円ぐらいでした。

――高っ！　でも、奥さんは気に入ってしまったと？

ヒョードル　はい。「輸送には何日かかるのかしら？」とか店員に聞いていたので、弟は陰でその店員に「〝大きくて輸送できない〟って妻に言ってくれ！」って頼んだんです（笑）。

――そうなると必死ですね、アレキサンダーも（笑）。

ヒョードル　結局、そのマッサージチェアを買わずに済んだんですが、あとで弟は「女は本当に怖い……」ってこぼしてました（笑）。

――ワハハハハ！　どこの国も一緒ですね（笑）。で、今日は観光用のおみやげを大量に買い込んでましたが、ヒョードルさんって品物を選ぶのが早いですよね。パッパッとすばやくカートに入れて。

ヒョードル　私はわりと早く決めるほうかもしれません。大量に買い込んだのは、日本のおみやげはロシアで大変喜ばれるという理由もあるんです。

――へえ～。そんなに日本のおみやげの人気が高いんですか？

ヒョードル　はい。じつはロシアのサンクトペテルブルグでは、日本料理屋が凄く多いんですよ。日本食自体がブームになっていますし、その前にも健康食として日本食レストランが繁盛していました。あと来年、トヨタの工場ができるんです。その周辺にニッサンの工場もできるという話がありますし、そういうことをきっかけに日本のお店や商品が増えてきてるんですね。

いずれロシアで『PRIDE』が開催されることでしょう

EMELIANENKO FEDOR

――そんなに日本ブームだったら、日本で格闘技チャンピオンであるヒョードルさんの人気も高いんですか？

ヒョードル　う～ん。ロシアでは、『PRIDE』はそんなに知れ渡っていないですからね。でも、この8月からロシア全土に『PRIDE』がテレビ中継されることになってますから、そうなったら状況は一変するでしょう。

――え!?　ロシアで『PRIDE』が全国放送されるんですか？

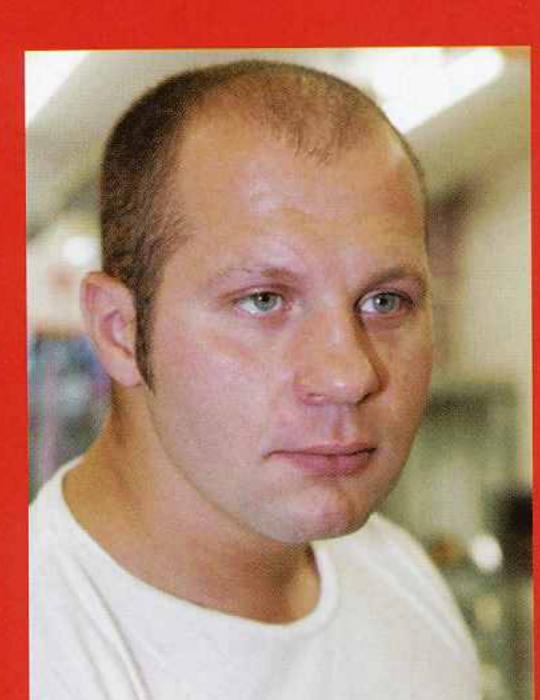
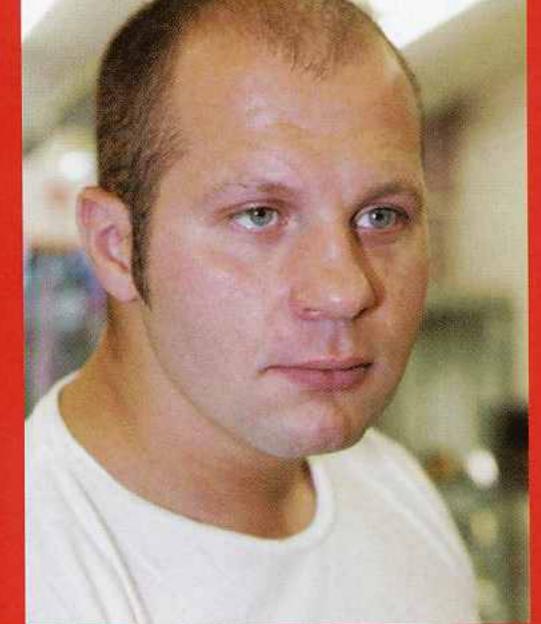
ヒョードル　はい。ロシアだけじゃなく、旧ソビエト圏でも放送されることになります。そうなれば、ロシアの人々は『PRIDE』という総合格闘技イベントをよく知ることになるでしょう。

――その放送では、過去の大会映像から流すんですか？

ヒョードル　そうなりますね。これまで『PRIDE』の試合を観ながら、いまにいたる歴史を楽しむことになるのです。

――ロシア全土の中継がどれくらい凄いことなのか、ボクにはいまいちピンとこな

ヒョードル皇帝のぶらり秋葉原ショッピングレポート

ヒョードルの東京観光に密着！　まずは秋葉原の某・家電量販店の“外国人観光客向け”のフロアでお買い物。マイケル・ジャクソンばりに「THIS!」「THIS!」と次々に品物を指さすかと思われたが、右拳のケガもあって猛威は振るわなかったです。

まるで試合直前の真剣な表情、獲物を捕らえるような目つき！　これが品定めをするヒョードルの顔だ。ズバリ、怖い!!

「＆％＄＃”？」――品物を指さしたヒョードルに英語で声をかけられた筆者だが、中学1年で英語の授業を放棄しているため逃走。以降、近寄らなくなった。

笑う能面と対峙する、笑わない男ヒョードル。いったいどんな印象を持ったのか？　しばらくにらみ合っていたが、興味を示さず、次のフロアへ移動しました。

Tシャツの山をかき分けて、お気に入りの柄、ピッタリのサイズを探す世界最強の男。なんて庶民的な絵だ！　そのハンドスピードは古レコード屋でも通用しそうな勢い。

いんですけど……。

ヒョードル　かなり凄いことです（微笑）。『PRIDE』を放映するテレビ局は、ロシア国営放送の二番手になりますから。だからかなり大きい反響が生まれるんじゃないかと思いますね。

――じゃあ、ヒョードルさんもロシア全土でスターになるってことですよね？

ヒョードル　いやあ、それはどうでしょう（照れ笑い）。まあ、ロシア人はもともと格闘技が大好きなので、『PRIDE』の放送が始まれば、いま以上に格闘技の動きが活発になると思います。ロシアの格闘技界にとっても、『PRIDE』にとってもいいことになりますね。

――すでに番組のプロモーション活動はされてるんですか？

ヒョードル　プロモーション活動は放送の二週間前ぐらいから始まるそうです。大きなテレビ局での放送ですので、かなり力が入ったプロモーションになるでしょうね。

――先ほどヒョードルさんも言われましたが、ロシアは格闘技が盛んですから、あっという間に人気に火がつきそうですよね。

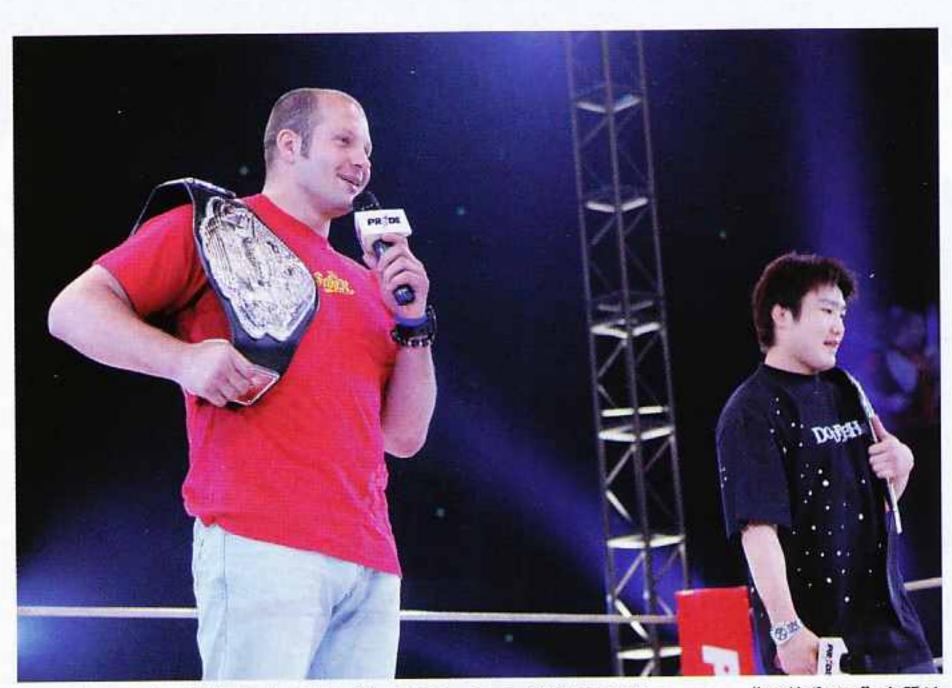
ヒョードル　そうなるでしょうね。昨年末にも、ロシアとフランスの対抗戦をメインにする格闘技の大会があったんですが、大会出場選手と私とアレキがコーナーポストにサインしたんです。それを試合後にオークションにかけられたのですが、普通なら100ドルとか200ドルで落札されるところを、最後列に座っていた紳士が突然立ち上がって1万ドルで落札しました。

――1万ドル!?　いやあ、ボクもロシアに渡って一儲けしたくなってきました（笑）。

ヒョードル　フフフ。そういえば、その紳士は現金で払っていたそうです。

――もうロシアに行くしかない！（笑）。しかし、景気のいい話ですねえ。モスクワはいま、ビジネスチャンスが拡がっているって話も聞いたことがありますし、そうすると将来的には『PRIDEモスクワ』大会が行なわれたりとか。

ヒョードル　ああ、いずれロシアで『PRIDE』が開催することになるでしょう。それは私だけじゃなく、ロシアの格闘家や関係者が願っていることでもあります。

――逆に日本では『PRIDE』の地上

7・1『PRIDE無差別級GP』のリング上からファンに、挨拶をするヒョードル。“60億分の1”を懸けて、ヒョードルと対戦するのは誰になるのか？　皇帝はノゲイラを本命としたが……。

派テレビ中継が打ち切りになってしまって、存続危機がささやかれたりする不穏な状況です。これはロシアでもショッキングなニュースとして伝わったんですか？

ヒョードル　そんなに大きなショックとしては伝わっていません。そのようなことで、『PRIDE』がなくなってしまうことはないですから。たしかにフジテレビにとってもよくない話だと思いますし、同時に『PRIDE』にとってもいい話ではないでしょう。いま日本で『PRIDE』は人気が高いのに、フジテレビの判断を疑いますが、『PRIDE』は日本だけではなく韓国でもアメリカでも人気が高いので、フジテレビでなくてもほかのテレビ局が『PRIDE』をほしがるのではないでしょうか。私がアメリカに行っても韓国に行っても、びっくりするくらい多くの人に写真やサインを求められますから。

――たとえば、いまならロシアを本拠地にして『PRIDE』をレギュラー開催してもいいですよね（笑）。

ヒョードル　そうですねえ（笑）。ロシアの人が『PRIDE』の試合を観たいだろうとは思うんですが、まあロシアは年に

秋葉原の次に足を向けたのは浅草寺。「あ、ヒョードルだ！」と観光客たちが群がる、群がる！ サインや写真をねだられたヒョードルは「ルールを守れーーッ!!」と絶叫！ ……せずに、気さくに応じていました。

一回ぐらいで、あとは日本やアメリカで開催すればいいのではないでしょうか。

――日本で『PRIDE』をやらなくなると、ヒョードルさんも秋葉原に来られなくなりますもんね（笑）。

ヒョードル　そうなんですよ（笑）。私は日本の食べ物や人が好きですし、これからもずっと日本に来ることを約束します。いまはまだ右拳の治療もあって、すぐに試合をすることはできませんが……。

――拳の状態はどうなってるんですか？

ヒョードル　二週間前に手術をしたばかりで、骨をつないでいたプレートを無事に取ることができました。医師が言うには、10月の試合は問題ないそうですね。

――10月の試合というと……ついに開催される『PRIDEラスベガス』大会に出ることになるんですか？

ヒョードル　そうです。『PRIDEラスベガス』大会には間に合うでしょう。

――では、いまは10月を見据えて計画を立てているわけですね。

ヒョードル　（無言でうなずく）。

――ちなみに誰と闘いたいですか？

ヒョードル　『PRIDE』側が用意する相手なら誰でもかまいません。個人的な希望を言えば、ロシアの英雄であるカレリンに勝ったルーロン・ガードナーと闘いたいですけど。

――以前から「闘いたい」と名前を挙げていたガードナーですね。『PRIDEラスベガス』では4点ポジション攻撃のルールが変更になるかもしれないそうです。それについてはどう思われますか？

ヒョードル　まったく問題ないです。なんの支障もないでしょう。

――グラウンドになる前に、相手を倒してしまう自信があるということですかね？

ヒョードル　そうですね。その自信はあります（微笑）。

というわけで、10・21『PRIDEラスベガス』大会での復帰を明言したヒョードル。待望の日本復帰戦は、ただいま開催されている無差別級GP優勝者との対戦が予定されている。このインタビューは2ndROUND前日に行なわれており、すでに試合結果は出ているが、ヒョードルがどのように各試合を予想していたかお伝えしよう。

――そのアメリカでの復帰戦の次は、無差別級GPの優勝者と雌雄を決することになりますよね？

ヒョードル　はい。そうなるでしょうね。

EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ロシア出身。柔道、サンボをバックボーンに初代リングス世界王者に就く。リングス崩壊後、『PRIDE』に参戦。現・PRIDEヘビー級チャンピオン、『PRIDE GP2004』ヘビー級トーナメント優勝。PRIDE戦績13戦12勝1無効試合。いま"世界最強"と呼ばれるに最も相応しい男。182cm、105.5kg。

誰が無差別級GPを優勝しても
万全を期して私は闘います

EMELIANENKO FEDOR

――明日、その無差別級GP二回戦が行なわれますが、その試合についてヒョードルさんの予想を聞かせてください。

ヒョードル　はい。かまいません。

――まず藤田和之とヴァンダレイ・シウバ戦をどう予想しますか？

ヒョードル　フジタサンは前回のジェームス・トンプソン戦のとき、肩で息をしていてコンディションがあまりよくなかったのではないかと思います。もしかしたらいまはコンディションがよくなっているかもしれませんが、前回のままだとヴァンダレイとの試合はかなり危ないと思いますね。おそらくヴァンダレイが勝つんじゃないでしょうか。

――吉田秀彦vsミルコ・クロコップ戦はどうでしょう？

ヒョードル　ヨシダサンが今回の試合でどういう作戦を立ててるのかはわかりませんが、いつものように対戦相手に対して距離を取りすぎると厳しい闘いになるんじゃないかと思います。

――距離がポイントになると？

ヒョードル　はい。ヨシダサンはミルコに比べて、ボクシングやキックのテクニックが劣ります。なので、とくにミルコ戦では距離を取ることが命取りになるでしょう。逆にヨシダサンが近距離で闘うなら、ミルコは苦しむことになるでしょう。

――ジョシュvsマーク・ハントはどうですか？

ヒョードル　ジョシュはグラウンドもボクシングも悪くない。もちろんマーク・ハントも元K－1チャンピオン。いい打撃を持っていますが、グラウンドテクニックでまさるジョシュが有利に試合を進めると思いますね。コンディションはマーク・ハントもいいんでしょうが、やはり試合を制するのはジョシュだと思います。

――最後にノゲイラvsファブリシオ。

ヒョードル　ノゲイラにはいままでたくさんの強者と闘ってきた経験があり、またコンディションもいいように見えるので、ノゲイラのほうが有利だと思います。ファブリシオは打撃でノゲイラに勝てないでしょうから。

――ヒョードルさんの予想では、シウバ、ミルコ、ジョシュ、ノゲイラが決勝ラウンドに進出すると。現時点で誰が優勝すると思いますか？

ヒョードル　う～ん。ヴァンダレイが優勝するのは少し厳しいんじゃないかと思います。無差別級の闘いとはいえ、準決勝に残っている選手はすべてヘビー級の選手ですから。ヴァンダレイは、私の好きな選手の一人で、『PRIDE』を代表する選手ですが、苦しい闘いを強いられるかもしれません。

――ヴァンダレイには不利なポイントが一つあるということですね。

ヒョードル　一番優勝に近いのはノゲイラだと思いますが……ノゲイラ、ミルコ、ジョシュ。この3人は正直、誰が優勝してもおかしくないでしょう。そして、誰が闘うことになっても、私は万全を期して臨まないといけないでしょう。

――わかりました。『PRIDEラスベガス』大会、大晦日の『PRIDE男祭り』を楽しみにしてます！

【06年6月30日／東京観光の最中に収録】

美濃輪育久
利!!

ジョシュ・バーネット

奇跡のマッスル・ドッキング！
リアル・プロレスラー対談実現!!

俺たちの合言葉は
友情・努力・勝

日米リアル・プロレスラー対談がついに実現!
ともに『PRIDE』を主戦場としながら、
自らが“プロレスラー”であることをアイデンティティとし、
熱き理想のプロレスを展開するジョシュと美濃輪育久。
プロレスラー魂だけでなく、
片や『北斗の拳』のケンシロウ、片やキン肉マンを信奉する、
80年代“少年ジャンプ魂”も持ち合わせた二人の合体は、
まさに奇跡のマッスル・ドッキングだ!

聞き手／橋本宗洋　通訳／濱田良太
構成／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

――今回は『PRIDE』のリングで"プロレスラー"として闘うお二人の対談という、夢の企画が実現しました！

ジョシュ　この対談は本当に楽しみだったんだよ！　ボクは前からミノワの大ファンだったからね。

――ジョシュさんのいう「前から」っていうのは、当然パンクラス時代からってことですよね（笑）。

ジョシュ　もちろん！　パウロ・フィリオ戦（01年3月31日、なみはやドーム）でパイルドライバーを決めたときはホントに興奮したね。『PRIDE』で闘うようになってからも、ミノワの試合には注目してるよ。ハイアン（・グレイシー）とやったとき、「オレはプロレスラーだ！」って叫びながらパウンドを打ってたよね。ああいう場面には、凄く共感できるんだ。ただ、ミノワはいまの赤いショートタイツもいいんだけど、昔のパンクラスのロゴが入ったスパッツもカッコよかったよね。

――さすが詳しいですね（笑）。美濃輪さんはいかがですか。ジョシュさんのことは前から？

美濃輪　ええ、噂はかねがね。

――かねがね（笑）。

美濃輪　史上最年少でUFCのチャンピオンになったっていうのを雑誌で読んで。あと日本に来たときに『オマエハモウシンデイル』って言ってましたよね。あれを見て

ボクは前からミノワファン　昔、パウロ・フィリオに　パイルドライバーを決めた　試合はホントに興奮したよ！

『北斗の拳』の主題歌を歌いながら入場するのを見て"やってるな"という嬉しさと嫉妬や悔しさがありますね

"これはもしかして……"っていう。

――自分に近い匂いを感じたと（笑）。

美濃輪　凄く気になる存在になりましたね。共通するものを感じますし。

――UFCに出ているときのジョシュさんにとっては、パンクラスで闘っている頃の美濃輪さんは羨ましい存在だったりしたんですか？

ジョシュ　たしかにちょっとジェラシーを感じたよ（笑）。だから、最初にパンクラスに上がったときは本当に嬉しかったね。憧れの団体だったから。

――お二人はプロレスの中でも、とくにUWF系に憧れたわけですよね。U系のどんなところに魅力を感じたんですか？

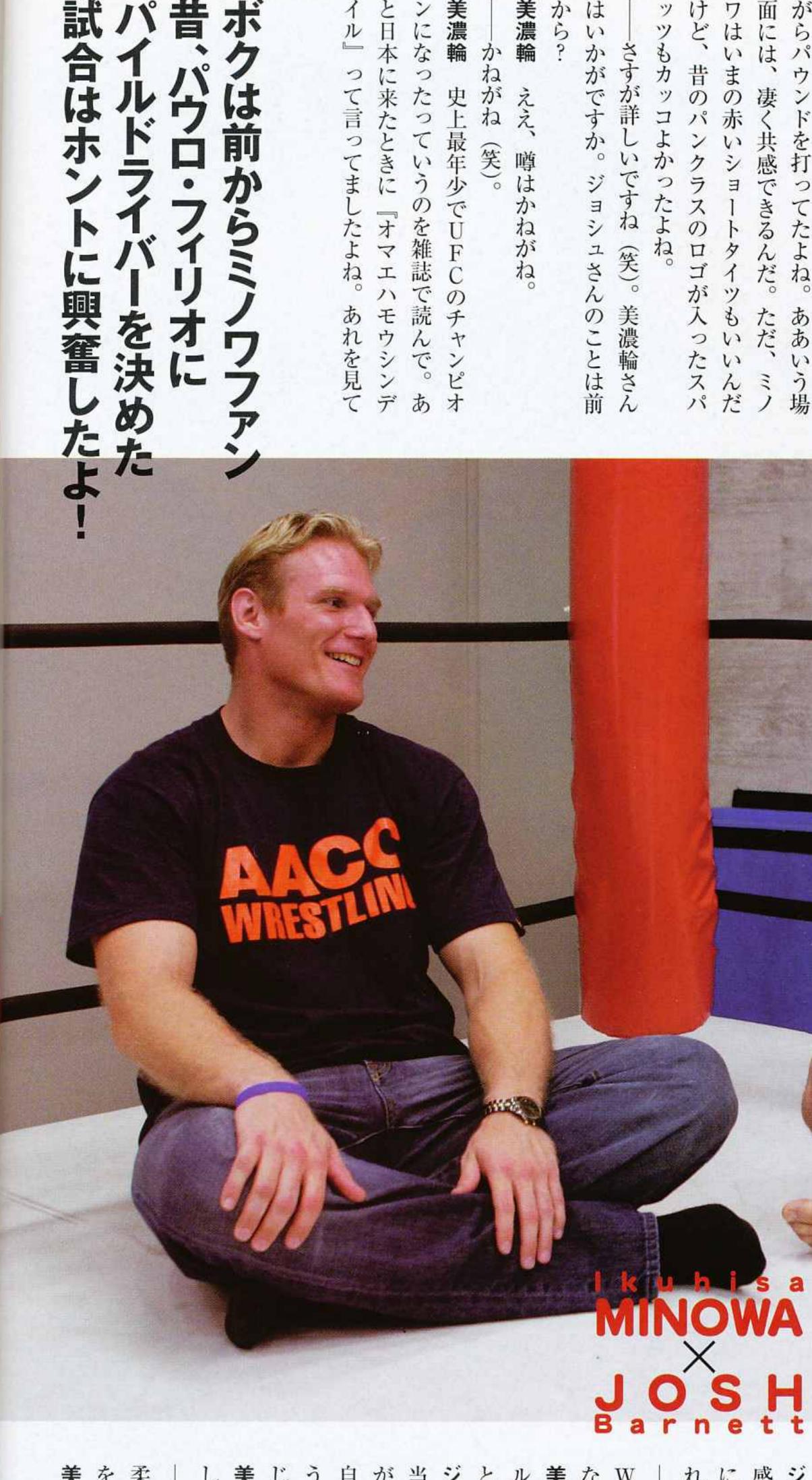
美濃輪　スタイルですね。ファイトスタイルもそうだし、あとファッションスタイルというか。あのレガースがカッコよくて。

ジョシュ　そうなんだよ！　レガースは本当にカッコいいよね！　ボクも新日本に上がるとき、真っ先にレガースを買ったんだ。自分の名前をプリントすると高くなっちゃうんだけど、でもこういうのは値段の問題じゃないからね。

美濃輪　ボクはお金がなかったんで、自作しましたね。

――自作（笑）。美濃輪さんは学生時代、柔道部の道場でUWFスタイルの"興行"を開催してたんですよね。

美濃輪　柔道部の連中が集まって、試合を

してたんですよ。そのときにレガースを作ったんです。UWFっぽくするために。

ジョシュ　それは凄いな（笑）。アメリカの学校ではレスリングのクラスがあるから、マットの上でアルゼンチン（・バックブリーカー）やブレーンバスターをやってたけどね。でもハイスクールでUWFを知ってたのはボクだけだった（笑）。

美濃輪　ああ、その感覚はわかりますね。そういう中で、自分の夢を貫いてきて、いま実現させてるんだろうなっていう。ボクがそうなんで、ジョシュ選手も一緒だと思います。

――高校くらいになるとプロレスファンってグッと減りますもんね。その中で子どもの頃の夢を追いかけてきたっていう。

美濃輪　UWFの話をしても誰にも相手にされなかったりとか、ヘタしたらバカにされてたと思うんですよ。そういうのを超えて、いまプロレスラーで活躍してるんですよね。ジョシュ選手、この前の試合（マーク・ハント戦）で歌いながら入場してきたじゃないですか。

――『愛をとりもどせ！』（アニメ『北斗の拳』主題歌）を。

美濃輪　ああいうの見ると〝やっちゃってるなぁ〟っていうか〝いいなぁ〟って感じがしますね。

ジョシュ　あれは本当に楽しかったね。

美濃輪　あのでかい会場で、『北斗の拳』を歌いながら入場するって最高ですよね。テンションも上がるでしょうし、完全にケンシロウになりきってましたよね。

ジョシュ　あの瞬間のボクはまぎれもなくケンシロウだったよ（笑）。あ、そういえばミノワとは一緒に練習したこともあったね。

カメラの前でケンシロウになりきるジョシュと、なぜかコシティを持ってバントの構えをする美濃輪。どちらも、やってる本人大真面目なところが凄い。

美濃輪　ありましたね。『U-style Axis』のとき。ボクは滑川（康仁）さんと一緒にいたんですよ。

ジョシュ　それをボクが見かけて〝リングに上がって一緒にやろうよ〟って手招きしたんだ。それから握手して、軽いスパーリングを始めて。お互い言葉はわからないけど、一言も話さなくても通じ合うものがあったね。やっぱり同じプロレスラーだから。お互いの力を肌で感じ合ったんだ。

――美濃輪さん、ジョシュさんと手を合わせてみた感想はいかがでしたか？

美濃輪　なんか……気持ちよかったです。

ジョシュ　ありがとう！

美濃輪　なんとなくですけど〝UWFだな〟って感じがありましたね。

ジョシュ　そうそう。ボクもそれは思ったな。

美濃輪　なんなんでしょうね。ファイトスタイルというか、動きというか。肌で感じるものがあったんですよね。

ジョシュ　やっぱりボクもミノワも、同じ流れを受け継いでるんだよね。そういえばボクとミノワは、リングシューズも同じなんだよ。アディダスの同じタイプ。ミノワが赤で、ボクが青でね。なんか偶然じゃないような気がするよ（笑）。

――お二人に共通する〝プロレスラー〟の部分なんですが、総合格闘技の試合だと、どうしても使える技術は〝総合用〟のものがメインになってきてしまいますよね。そういう中でプロレスラーらしさ、プロレス魂っていうのはどういう部分に出てくるものだと思いますか？

ジョシュ　それはテクニックとは関係ないと思うな。たとえば、プロレスには判定決着がないだろう？　だからボクもミノワも、『ＰＲＩＤＥ』であろうと一本を狙っていく。そういうところにプロレスラーの魂が表われるんだと思うよ。それと、プロレスラーがリングに立つときには、自分だけじゃなくチームや相手、それに観客を意識しなきゃいけないんだ。格闘技の選手には、観客を意識しない人間が多すぎるよね。それに、強さという面でも本来のプロレスは他の格闘技に負けないものを持ってるんだよ。

――そもそもプロレスは格闘技として優秀なんだと。

ジョシュ　そう。カール・ゴッチやビル・ロビンソンより前の時代から、この世界にはフランク・ゴッチや（マーティン）"ファーマー"バーンズといった優秀なキャッチ・レスラーがいたんだ。そういう1900年代のレスラーには、グレイシーだって勝てなかったと思うよ。フランク・ゴッチという人はプロレスと（アマチュア）レスリング、両方のチャンピオンで、トー・ホールドの名手だったんだ。彼の技術を完全に受け継いだ人はいなくなってしまったけど、でも、その一部はシャムロック兄弟やフナキさん、サクラバさん、それにミノワやビル・ロビンソンの指導を受けている人間たちの中に生きているんだ。グレイシーがテクニックを伝承しているようにね。ボクは柔術よりも、フナキさんやスズキさんの試合、Ｕインター、リングスを見てテクニックを研究してきたんだ。いまでもＵＦＣのビデオを見て「つまらない」っていう人がいるけど、そういう人には「だったら『ＰＲＩＤＥ』やパンクラス、リングスのビデオを見てくれ」って言ってるんだよ。

――美濃輪さんはいかがですか。総合格闘技におけるプロレスラーのあり方というか。

美濃輪　いや、ボクは『ＰＲＩＤＥ』もプロレスだと思ってますから。

ジョシュ　ボクモ、ソウオモイマス（日本語で）。みんな"ソウゴウカクトウギ"っていうけど、全部プロレスリングなんだよね。新日本もプロレスリングだし、ＵＷＦもプロレスリング、そして『ＰＲＩＤＥ』もプロレスリングなんだよ。それはミノワの試合を見ればよくわかるよ。ガンガン足関節を狙って、常に一本を取りにいくからね。パンクラスの頃から、まったく変わってない。あれがまさにプロレスリングなんだよ。ステファン・レコとの試合でドロップキックを出したシーンも最高だったし。

美濃輪　ボクもジョシュ選手の試合を見てると、凄く"プロレスラーだな"って感じがするんですよ。

――それはどんな部分に感じるんですか？

美濃輪　もう入場から退場まで、全部ですね。試合内容もそうだし、コメントも。

――ジョシュ選手の試合で刺激を受けることも多いんでしょうね。

美濃輪　受けますね。"やってるなぁ"っていう嬉しさっていうか。でも、それは95パーセントくらいなんですよね。残りの5パーセントは、嫉妬とか悔しさですね。やっぱり自分と一緒の気持ちでやってるんだろうなっていう人が、自分より先にやりたいことをやってるんで。

――"それはオレがやりたいことなんだよ！"っていうジレンマみたいな感じですか。

美濃輪　先にやられちゃってるっていう感じもありますし、あと自分よりハマってるなって。自分の好きなもの、ジョシュ選手の場合は『北斗の拳』ですけど、それを表現する力が凄いなって思うんですよ。うまくハマってるなっていう。自分は、まだあそこまで『キン肉マン』にハマってないと思うんで。

そこにリングがあれば、自然とプロレスごっこが始まってしまうのが、プロレスファンの悲しい性（さが）。本職のトップレスラー二人にこんな表現を使うのは失礼かもしれないが、これはまぎれもなく、プロレスごっこだ。

ジョシュ　充分ハマってると思うけどなぁ。

美濃輪　いや～、まだまだですね。

――それだけ美濃輪さんにとっての『キン肉マン』が、高いところにあるってことなんでしょうね。……というわけで、ここで恒例の質問にいきたいと思います（笑）。

ジョシュ　恒例？

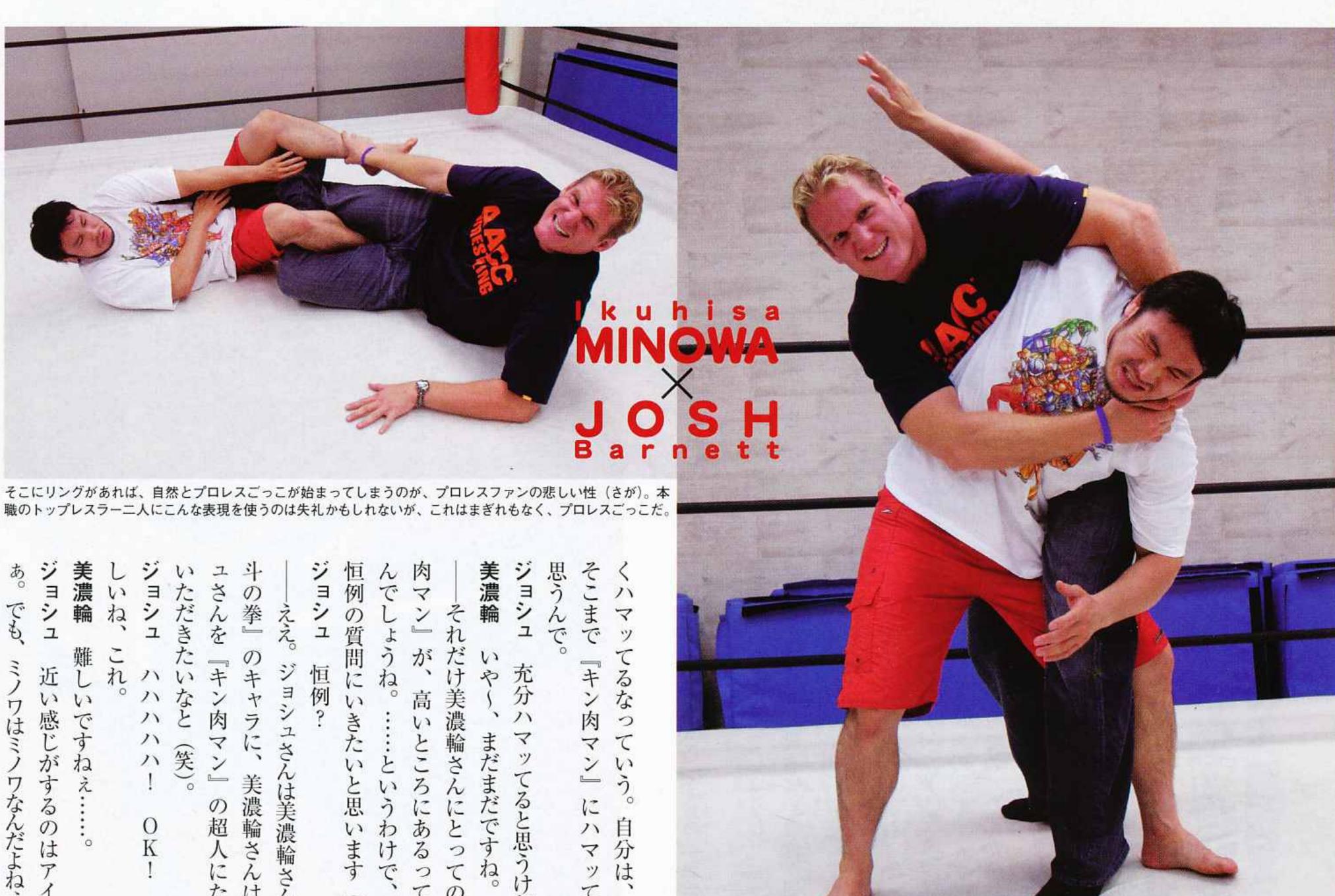
――ええ。ジョシュさんは美濃輪さんを『北斗の拳』のキャラに、美濃輪さんはジョシュさんを『キン肉マン』の超人にたとえていただきたいなと（笑）。

ジョシュ　ハハハハハ！　ＯＫ！　でも難しいね、これ。

美濃輪　難しいですねぇ……。

ジョシュ　近い感じがするのはアインかなぁ。でも、ミノワはミノワなんだよねぇ（笑）。

キン肉マンとケンシロウどちらが強いか？　それは僕の長年のテーマですね

ミノワを『北斗の拳』のキャラクターにたとえるとしたらアインかな？

Josh Barnett■1977年11月10日、アメリカ・シアトル出身。第7代UFCヘビー級王者、現・第10代キング・オブ・パンクラス無差別級王者。その正体はアキバ系オタクファイター。191cm、112kg。
みのわ・いくひさ■1976年1月12日、岐阜県出身。キン肉マンを尊敬し、"ヘブン"への到達を目指す、本能のリアル・プロレスラー。その常人には理解不能な"火事場のクソ力"でファンの支持を集める。175cm、89kg。

美濃輪　ん～……誰ですかねぇ……（ジョシュがしゃべる間も含め数分間、熟考）。……え～、やっぱりなんか……ちょっとテリーマンっぽい感じですかね。

ジョシュ　テリーマン！　いいねぇ、ボクも大好きだよ。

――お互い通じ合うものがあるだけに、たとえるのは難しいって感じなんですかね。じゃあさらなる難問かもしれませんけど、ケンシロウとキン肉マンが闘ったらどうなると思いますか（笑）。

美濃輪　ああ、それは子どものときから考えてた大きなテーマですね（真剣な表情で）。

ジョシュ　ホントニ？（笑）。それも難しい質問だねぇ。ケンシロウもキン肉マンも、いったん落ちても必ず強さを増して復活するって点では似てるよね。ただ、二人はヒーローとしてのタイプが違うからねぇ。キン肉マンはコミカルな感じだから。まあ北斗神拳は経絡秘孔を突けばいいんだから、ちょっと触っただけで勝てるよね（笑）。キン肉マンが勝つのは大変なんじゃない？

美濃輪　いやいやいやいや！　触らせないで勝てばいいんですから（あくまで真剣に）。だから……屁ですね。屁で攻撃しますよ、キン肉マンは。

ジョシュ　へ？　……あ～、オナラ！（日本語で）。ボクもキン肉マンだったらそうするね（笑）。

美濃輪　確実に勝てますね。屁のつっぱりは……。

ジョシュ　イランデスヨ！

【06年7月3日／PRIDE道場にて収録】

■ハロー・ジャンプガイ

写真でおわかりのように、美濃輪が着てきたのは『キン肉マン』Tシャツ。それを見て次々に超人の名前をあげていくジョシュは、やっぱりさすがだった。「これはダーク・エンペラーだね」。え？　ジョシュが指さしたのは悪魔将軍。アメリカじゃそう呼ぶんだ!?　と勉強になりました。（橋本）

新人の頃から凄かった！

〝メジャー・デビュー〟前のジョシュ

UFC参戦以前から、ジョシュは将来のブレイクを予感させる活躍を見せていた。オタク生活を満喫しながらも、高校時代はレスリングに打ち込み、大学に入るとムエタイも習っていたというジョシュ。マット・ヒューム率いるAMCパンクレイションに入門するとメキメキと頭角を表わし、アマチュアで経験を積んだ後、『United Full Contact Federation（UFCF）』でプロデビューを飾る。デビュー戦はチョークで一本勝ち、その後も連勝を重ねたジョシュは、98年9月のUFCFで北東環太平洋スーパーヘビー級パンクレイション王座を獲得。これが初のタイトル獲得となる。

続いてジョシュは日本のファンにもなじみ深い『スーパーブロウル』に出場。リコ・ロドリゲス、ヒース・ヒーリングといったのちのビッグネームたちもエントリーしていたヘビー級トーナメントで優勝を果たす。一回戦は十字で、準決勝はアームロックでそれぞれ一本勝ちを収めたジョシュは、決勝でボビー・ホフマンに判定勝利。さらに2000年には、同じく『スーパーブロウル』のメインイベントでダン・スバーンと対戦する。Uインターに憧れていたジョシュにとっては感慨深い試合だったはずだ。

この一戦、ジョシュは第4ラウンドに腕十字で一本勝ち。レジェンド・ファイターを下したジョシュは、ついにUFCというヒノキ舞台への切符をつかむこととなる。こうして戦績をたどっていくとわかるのが、ジョシュの一本勝ちの多さ。U系団体のビデオを見てテクニックを研究し、プロレスラーとして常に極めにこだわるジョシュの姿勢は、この頃から一貫していたということだろう。

2000.11.17 アメリカ・ニュージャージー州トランプ・タージマハル
UFC28-High Stakes

○vsガン・マッギー

（2R 4分34秒 TKO）

ジョシュのメジャー・デビューとなったのが、『UFC28』でのマッギー戦だった。のちにUFC代表として『PRIDEヘビー級GP』にも参戦するマッギーの巨体に苦しめられる場面もあったジョシュだが、ハイキック、パンチなど的確な打撃で攻め、テイクダウンするとパウンドでダメージを与えていく。フィニッシュはスタンドのパンチによるレフェリーストップ。鮮やかな勝利でファンにインパクトを与えたのだった。

2001.2.23 アメリカ・ニュージャージー州トランプ・タージマハル
UFC30-Battle on the Boardwalk

×vsペドロ・ヒーゾ

（2R 4分26秒 TKO）

ジョシュが初敗北を喫したのが、このヒーゾ戦だった（といっても全部で3敗しかしていないが）。試合はテイクダウンを狙うジョシュと、それを突き放して打撃を当てるヒーゾという展開。組みつこうとするジョシュは徐々にヒーゾのアッパーを食らい、さらに前進したところでカウンターの右ストレートを被弾。グロッギーになったところへトドメの一撃をもらい、TKO（レフェリーストップ）での敗北となった。

2001.6.29 アメリカ・ニュージャージー州コンチネンタルエアラインアリーナ
UFC32-Showdown in the Meadowlands

○vsセーム・シュルト

（1R 4分21秒 腕ひしぎ十字固め）

『UFC32』でジョシュが対戦したのは、当時パンクラス王者だったシュルト。規格外の巨体を鮮やかにテイクダウンしたジョシュは、次々とポジションを進めヒジを打ち下ろすなど有利に試合を運ぶ。マウントは返されたジョシュだが、その直後に下から腕十字を極め、強敵相手に1Rで勝利。ビッグネームのシュルトに勝ったことで、ジョシュの存在は一躍、日本の格闘技ファンからも注目されることとなった。いわば“出世試合”である。

2001.11.2 アメリカ・ネバダ州MGMグランドアリーナ
UFC34-High Voltage

○vsボビー・ホフマン

（2R 4分25秒 TKO）

UFC4戦目は、かつて『スーパーブロウル』で対戦したホフマンとのリマッチ。前回は判定勝利だったジョシュだが、この試合では2Rにパウンドの連打でTKO勝利を収めている。この勝利で、ジョシュはヘビー級王座挑戦権を得ることに。一方のホフマンは試合後の薬物検査で失格。それも二度目。あげく窃盗、暴行、武器不法所持で逮捕されている。そういえばリングスではヒョードル戦をリングに上がってから棄権したこともあった。

2002.3.22 アメリカ・ネバダ州MGMグランドアリーナ
UFC36-World Collide

○vsランディ・クートゥアー

（2R 4分35秒 TKO）

UFC参戦後3勝1敗という好戦績を収めたジョシュは、クートゥアーの持つヘビー級王座に挑戦。1Rから積極的に下からの関節技を仕掛けていくジョシュは、2Rになると体勢を入れ替え、一気呵成のパウンド連打でレフェリーストップを呼び込み王座奪取。だが試合後の薬物検査でステロイドの陽性反応が出たジョシュはタイトル獲得を無効とされ、UFCを離脱することに。じつは検査自体に不備があったとの話もあるのだが……。

2003.5.2 東京ドーム／ULTIMATE CLASH

○vsジミー・アンブリッツ

（1R 3分05秒 レフェリーストップ）

UFCを離脱したジョシュは、03年から新日本プロレスに参戦。デビュー戦でいきなり永田さんのIWGP王座に挑み、5月のドーム大会では『作り試合禁止』を明文化した仰天総合マッチ『アルティメット・クラッシュ』に挑む。相手はKOTC王者のアンブリッツだったが、パンチからヒザ、そしてパウンド連打で圧勝。その後の経歴を見てもわかるように、『PRIDE』参戦前のジョシュはいくつもの“伝説の大会”に出場している。

01

2003.8.31 両国国技館／PANCRASE 2003 HYBRID TOUR

○vs近藤有己

（3R 3分26秒 チョークスリーパー）

以前から大ファンだった“U系団体”パンクラスに念願の初参戦を果たしたジョシュは、近藤との無差別級王座決定戦に臨む。30キロ近い体格差を超える近藤の粘りが光ったこの試合だが、最後に勝利を飾ったのはジョシュ。ジャーマン2連発という見せ場も作り、最後はマウントパンチ連打からスリーパーで一本という完勝だった。憧れのベルトを巻いたジョシュは「このベルトはUWFのファンみんなと勝ち取ったもの」と涙を見せた。

2003.10.13 東京ドーム／ULTIMATE CLASH

○vs髙橋義生

（2R 2分52秒 三角絞め）

『アルティメット・クラッシュ』第二弾でのジョシュの相手は髙橋義生。パンクラス王座の初防衛戦だった。生涯初のタイトルマッチに燃える髙橋にパンチの連打をヒットされるなど、ジョシュは苦しい展開を強いられる。アッパーをモロに食らって鼻血を出し、さらにパウンドを浴びる場面も。だがここからがジョシュの真骨頂。一瞬のスキを突いて三角絞めを仕掛けると、脱出しようとする髙橋の腕も極め、きっちり一本勝ちを収めた。

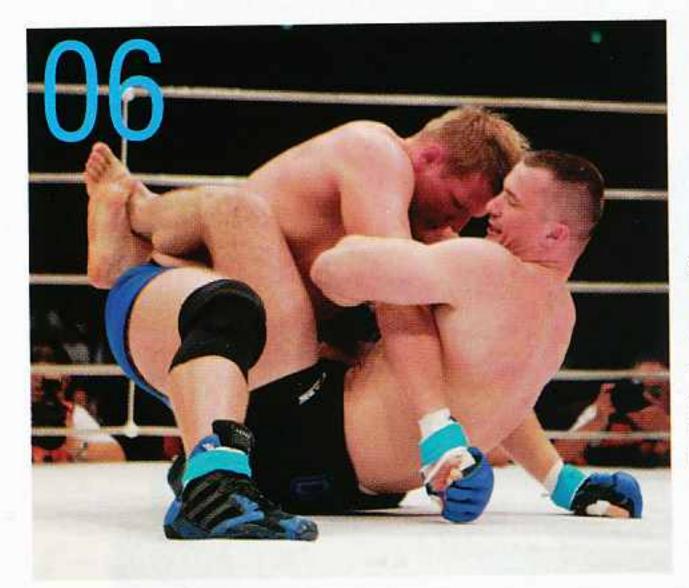
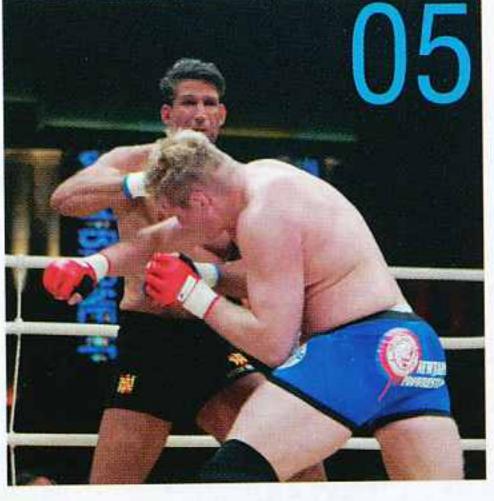
2004.5.22 さいたまスーパーアリーナ／K-1 ROMANEX

○vsレネ・ローゼ

（1R 2分15秒 KO）

一回限りの伝説の大会『ROMANEX』に新日本＆猪木軍のメンバーとして出場したジョシュは、レネ・ローゼと対戦。ローゼは反則上等のやっかいな選手だが、やはり一時代前の選手。ジョシュの敵ではなかった。開始直後に組みついたジョシュはテイクダウンからマウント、そしてパウンド連打であっさりKO勝利。基本通りすぎる勝ち方にはジョシュ自身も満足せず「ゴメンナサイ。ネクスト、パワーボム!」とのコメントを残した。

06

05

2004.10.31 さいたまスーパーアリーナ／PRIDE.28

×vsミルコ・クロコップ

（1R 0分46秒 ギブアップ）

ついに『PRIDE』初登場を果たしたジョシュに用意されたのは、ミルコとの対戦といういきなりの大一番だった。試合開始直後、左ハイを放つミルコだったが、ジョシュはこれをかわしてグラウンドに持ち込む。千載一遇のチャンスを得たジョシュは、しかしテイクダウン時に左肩を脱臼、タップアウトしてしまう。不完全燃焼に両者とも再戦を希望したが、一方でDSE榊原代表は「ジョシュは刀が錆びていたのでは」と厳しい評価……。

2003.12.31 神戸ウイングスタジアム／猪木祭り2003

○vsセーム・シュルト

（3R 4分48秒 腕ひしぎ十字固め）

04

案外忘れられがちだが、ジョシュは伝説の底抜けイベント『猪木祭り2003』にも出場していた。試合はシュルトとのパンクラス王座防衛戦。ジョシュがアグレッシブに一本を取りにいけば、シュルトも強烈なパウンド、ヒザでダメージを与える一進一退の攻防に決着をつけたのは、ジョシュの腕十字。ジョシュはあらためてその実力者ぶりを示したのだった。なんだかんだ言われるこのイベントだが、こういういい試合もあったってことである。

07

2005.10.23 さいたまスーパーアリーナ／PRIDE.30

×vsミルコ・クロコップ

（3R終了 判定0-3）

脱臼というアクシデント的決着から一年、ミルコとの再戦に臨んだジョシュだったが、じつはケガを負い、満足な練習ができない状態だったともいう。フルラウンドにわたる攻防は、打撃に加えマウントポジションを奪うことにも成功したミルコの勝利。厳しい現実を突きつけられたジョシュは、この直後「いまのままの練習をやっていてはダメだ!」と練習環境を一新することに。ジョシュにとってはターニング・ポイントといえる試合だった。

2006.7.1 さいたまスーパーアリーナ／PRIDE無差別級GP2006 2nd ROUND

10

○vsマーク・ハント

（1R 2分02秒 羽根折り固め）

GP開幕戦勝利で大きく株を上げたジョシュは、二回戦でもハントに快勝。テイクダウンできるかどうかがカギと思われたが、パンチから一挙動で放つ見事なタックルでグラウンドに持ち込むとパスガード。上四方固めの体勢から十字にいくと見せかけ、一気に羽根折固め! 一瞬でハントからタップを奪ってみせた。シウバやミルコ、TKをも下してきたハントを1R2分2秒で倒したジョシュには、優勝候補筆頭との呼び声も。

09

2006.5.5 京セラドーム／PRIDE無差別級GP2006 1st ROUND

○vsエメリヤーエンコ・アレキサンダー

（2R 1分57秒 V1アームロック）

アナハイムでの過酷なトレーニングによって肉体改造を進行させつつあったジョシュは、見違えるような引き締まった身体でGPに乗り込む。開幕戦の相手は裏・優勝候補ともいえるアレキ。1Rはアレキのシャープなパンチに苦しんだジョシュだが、常に動き続け、ボディにパンチを集めることで相手のスタミナを奪っていく。そして2R、疲れたアレキからテイクダウンに成功すると、最後はV1アームロックで一本勝ち。強豪同士の潰し合いを制した。

08

2006.2.26 さいたまスーパーアリーナ／PRIDE.31

○vs中村和裕

（1R 8分10秒 裸絞め）

無差別級GPへの査定試合という意味合いもあった中村戦で、ジョシュは見事な一本勝ち。『PRIDE』初勝利を飾った。大外刈りでテイクダウンを許し、サッカーボールキックを食らいかけるピンチもあったが、冷静に足を取って上になると、ジワジワと攻め込みチョークで一本。体格差が大きく響いた一戦に思われたが、じつはこの時点でジョシュはアナハイムに拠点を移し、新たな練習環境で進化した強さを手に入れていたのだった。

ジョシュ・バーネット 救世主伝

文／橋本宗洋　designed by matsu（TwoThree）

NEW APPAREL SERIES

PRIDE

世界最高峰の商品たちを手に入れろ!

BRAZILIAN TOP TEAM

BTT TEE
COLOR: WHITE / GREEN / BLACK ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM TEE
COLOR: WHITE / GREEN / BLACK ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM TANK TOP
COLOR: WHITE / GREEN / BLACK ¥3,675

BRAZILIAN TOP TEAM WORK SHIRT
COLOR: BEIGE / OLIVE ¥9,345

BRAZILIAN TOP TEAM MESH CAP
COLOR: BLACK / OLIVE ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM SPORTS TOWEL
COLOR: GN/YELLOW / GN/WHITE ¥3,465

BRAZILIAN TOP TEAM WRISTBAND SET
¥2,310

EMELIANENKO FEDOR

FEDOR CROWN TEE
COLOR: RED / BLACK ¥4,725

FEDOR TEE
COLOR: RED / BLACK ¥4,725

FEDOR TANK TOP
COLOR: RED / BLACK ¥3,675

FEDOR POLO SHIRT
COLOR: RED / BLACK ¥8,400

FEDOR CAP
COLOR: RED ¥4,725

FEDOR SPORTS TOWEL
COLOR: RED / BLACK ¥3,465

FEDOR WRISTBAND SET
¥2,310

CHUTE BOXE ACADEMY

CHUTE BOXE TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

CB TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

CHUTE BOXE TANK TOP
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,675

CB TANK TOP
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,675

CHUTE BOXE MESH CAP
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

CHUTE BOXE SPORTS TOWEL
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,465

CHUTE BOXE WRISTBAND SET
¥2,310

WANDERLEI SILVA

WANDERLEI TEE
COLOR: IVORY / BLACK ¥4,725

WANDERLEI WORK SHIRT
COLOR: IVORY / BLACK ¥9,345

WANDERLEI TANK TOP
COLOR: IVORY / BLACK ¥3,675

WANDERLEI MESH CAP
COLOR: IVORY / BLACK ¥4,725

WANDERLEI SPORTS TOWEL
COLOR: IVORY / BLACK ¥3,465

WANDERLEI WRISTBAND SET
¥2,310

MIRKO CRO COP

MIRKO V NECK TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

MIRKO CHECK V NECK TEE
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

MIRKO TANK TOP
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,675

MIRKO POLO SHIRT
COLOR: WHITE / BLACK ¥8,400

MIRKO CAP
COLOR: WHITE / BLACK ¥4,725

MIRKO SPORTS TOWEL
COLOR: WHITE / BLACK ¥3,465

MIRKO WRISTBAND SET
¥2,310

MARK HUNT

HUNT HIBISCUS TEE
COLOR: BLACK ¥4,725

HUNT MESH CAP
COLOR: BLACK ¥4,725

HUNT SPORTS TOWEL
COLOR: BLACK ¥3,465

HUNT WRISTBAND SET
¥2,310

BEACH SANDAL

CHUTE BOXE BEACH SANDAL
BRAZILAN TOP TEAM BEACH SANDAL
FEDOR BEACH SANDAL
WANDERLEI BEACH SANDAL
MIRCO BEACH SANDAL
HUNT BEACH SANDAL
¥1,995

「PRIDE GOODS」通販専用NAVIダイヤル

TEL.0570-00-7100

月曜日～土曜日 AM10:00～PM6:00

PRIDE オフィシャルサイト

http://www.pridefc.com/

[商品お渡し方法] 代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料約630円(クロネコ宅急便)、代引手数料約350円(いずれも地域によって異なります)がかかります。お届けはご注文を頂いてから、一週間前後で郵送いたします。オフィシャル携帯サイトからもオーダーできます。

BRAZILIAN TOP TEAM
PRIDE 2006 SPRING / SUMMER
BRAZILIAN TOP TEAM / EMELIANENKO FEDOR
CHUTE BOXE ACADEMY / WANDERLEI SILVA
MIRKO CROCOP / MARK HUNT
BRAZILIAN TOP TEAM

7・1シウバ戦のセコンド・和田良覚が見た

藤田和之敗戦の真実
至近距離

今回の敗因というのは、やっぱり事前のトレーニング内容にあるんですよ

まさに命を張った闘いぶりで『PRIDE無差別級GP』ベスト8まで進出したが、準々決勝でシウバに大激闘の末、敗れた藤田和之。試合後、「完敗です。ただ、これで終わりじゃない」という短いコメントを残し会場をあとにしたが、藤田はいま何を思うのか。フィジカルトレーナーであり、シウバ戦のセコンドについた和田良覚が、至近距離から見た藤田和之の姿を語る。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／山口比佐夫、平専英

designed by hisa (TwoThree)

藤田和之のセコンドとして、さいたまスーパーアリーナの長い花道を歩く和田“最強”良覚。藤田が敗れたいま、その敵討ちとして、いまこそシウバ戦に名乗りをあげてほしいところだが、本人は「死んじゃうって！」。

某覆面レスラーK　今日はなんの取材ですか?

—和田さんにお話を……。

覆面K　ああ、和田さんが9・1『イノキ・ゲノム』に出場する件ですか。

—あ、ついに決まりましたか！　それはビッグニュースですね（笑）。

和田　ちょっと、その男の冗談に乗っちゃいけません！

覆面K　和田さんは〝猪木事務所イズム最後の継承者〟として、あの大会には欠かせない〝選手〟だから。

—ダハハハ！　猪木イズムならぬ、猪木事務所イズム（笑）。

和田　だから、そんな話はないって！

—ま、冗談はそれぐらいにして、今日は7月1日に藤田選手のセコンドについた和田さんに、藤田vsシウバ戦至近距離からの真実ということで語っていただきたいと思います！

和田　はい、よろしくお願いします！

—今回、藤田選手は試合前、ずっとマルコ・ファス道場で練習してたんですか?

和田　はい。だいたい試合前は必ずマルコ先生のところに行って、6月27日に帰国して調整した感じですね。

—藤田選手の体調面はどうだったんですか?

和田　悪くないと思いますね。絞れてたし、アメリカでもけっこう走り込みもしたみたいだし。この前の試合前、ボクシングのトレーナーである野木先生と控室でミット打ちやってたんですけど、凄かったですよ！　一発一発がドスーン！　って。野木さん曰く「インパクトの瞬間の拳の当て方、あれはホントに天性だ」と。もの凄かったです。このパンチをチン（アゴ）にもらったら、たとえマーク・ハントでも絶対沈みますね。ただ、試合はまた別ですから。距離の問題、タイミングの問題もありますからね。もちろん、それに応える藤田選手も凄い。でも、ミット打ちでのパンチはホントに凄かった。

—作戦としてはやっぱり、打ち合いの中から、その〝黄金の右〟を打ち込むというものだったんですか?

和田　もちろん、それもあったし。いろんなパターンを用意してましたね。

—試合前の藤田選手の様子はいかがでしたか?

和田　そんなガチガチに緊張してるわけでもないし、リラックスするところはして、集中するところは集中するっていう、緩急の使い分けはちゃんとしてましたね。

—では、かなりいい状態では挑めたわけですね。

和田　そうですね。調整はうまくいきましたし、マルコ・ファス先生の作戦も悪くなかった、というかドンピシャリだと思います。でも、強かったですねぇ、シウバ（しみじみと）。

—強かったですよね。

和田　やっぱね、百戦錬磨かな。修羅場をいくつもくぐり抜けてるストライカーですから、そういう闘い方に関してはシウバのほうが上でしたね。

—実戦経験の差みたいなものが出た感じはありましたか?

和田　出ましたね。でも、負けてこんなことを言うのもなんですけど、持っている身体的ポテンシャルとしては、絶対に藤田君のほうが上だと思うんですよ。スピードでもパワーでも藤田君のほうが上。でも、総合的な面でシウバは強かったし、百戦錬磨でしたね。

—シウバは勝負どころを知ってますよね。

和田　そうですね。やっぱりファースト・コンタクトでいいのもらって、主導権を握られた部分もあったし。

—並の選手だったら、あそこで完全にKO負けですよね。藤田選手の場合、あれを食らいながら、テイクダウンに成功してるから信じられない（笑）。

和田　そこが藤田クンの強さですよね。普通倒れるだろ?　っていうね。効いてはいるんだけど、動きますからね。

—ダメージもそうですけど、打たれても弱気になりませんよね。

和田　そう。だから打たれ強いだけでなく、気持ちも強いんです。ただ、僕らの作戦ミスだったかな～。

—作戦ミスですか?

和田　ちょっとそれを感じましたね。作戦ミスと言ってもマルコ先生の戦略部分でのミスではなく、僕らが作る事前のトレーニングメニューですけどね。やっぱり選手が負けると、僕たちトレーナーの責任でもありますから。これはホントにプロとして、そう思ってます。その部分では、僕も野木さんも真面目に反省しましたし、真摯に受け止めてるんですよ。

—その「作戦ミス」とは、具体的にどんな部分ですか?

和田　う～ん、これはトレーナーとしての守秘義務もあるので、雑誌には載せられないんですけど、今回の敗因というのは、事前のトレーニング内容の中にあるんですよ、やっぱり。

—ちょっとオフレコで話してもらえますか。

和田　じつはですね……。

覆面K　（割り込んできて）敗因はセコンドです。

和田　ちょっと、いいところでまた割り込んできて！（笑）。

覆面K　セコンドの一人が世界タッグのベルトを全日本に返さなかった。これが敗因です。

和田　もう、あっち行ってなさい！　ね、ふざけてるでしょ?（笑）。僕と野木さんは藤田君の敗戦を真摯に受け止めてるんですけど、セコンドの中で一人、ケンドー・カシンという男だけは受け止めてないんですよ（笑）。

—それはいいとして（笑）。敗因となった「作戦ミス」を教えてください。

和田　それはですね……（ここからは泣く泣くカット！）。

—なるほど、なるほど。

和田　マルコ先生の戦略はホントに凄いドンピシャだったんですよ。でも、さっき言ったようなことが足りなかったと思う。だから、次に向けてどうやっていくかというのは、これから僕も野木さんもミーティングを重ねる予定ですから。それから、僕もじつはフィジカルだけでなくそういった面での練習も付き合えますから。これから、どんどんやらせていくつもりです。

—そういったことも含めて、今回はキャリアの差が出ましたよね。

和田　そう！　実戦の場数ですね。シウバはギリギリの際（きわ）で勝つじゃないですか。そういうところがやっぱり、トップファイターなんですよ。

藤田君はまだまだ進化するし、世界を取れる逸材なんで全然諦めてません！

やっぱり上のほうの選手は、みんなレベルが高いですから、紙一重なんですけど、その中でもトップ取る人は取りますからね。メンタル面も含めて、勝ち方を知ってますよね。

――前半戦で藤田選手が寝技で上を取って、横四方になったときのシウバの対処もうまかったですよね。

和田　「ヒザいけ！」って言ったんですけど、スッとガードに戻されましたよね。ストライカーであれだけできるのは、なかなかいない。

――相当練習してるんでしょうね。

和田　やってますね。そうじゃなきゃ、あんなに素早く対処できないですよ。でも、藤田君もあのファースト・コンタクトが効いてなければ圧力で押さえ込めたんじゃないかとも思いますけどね。藤田君自身、朦朧とした中で動いてましたから。

――後半も、藤田選手が右のフックでKOを狙っているのがわかったんですけど、シウバはそのパンチを打たせる前に、連打で倒しましたよね？

和田　シウバの打撃ってボクシングとかキックの先生に言わせると、そんなにテクニカルじゃないんですよ。僕もいろんなキック団体のレフェリーをやってますから、わかりますけど、うまい・ヘタで言ったら上手じゃない。ただし、パンチの回転が凄く速くて、シウバはそれによって相手が引くと、追ってさらに叩き込むじゃないですか。それをやられて、みんな負けていくんです。だからシウバタイプは逆にこっちから圧力かけて、強引にでも距離縮めちゃったほうがいいんですよね。そういう話もしてたんですけど……。

――藤田選手もそれを実践してましたけど、それ以上に、パンチをもらいすぎちゃいましたね。

和田　そう。しかもカウンターも狙ってましたから。そしてあの体勢からだと、強引にタックルいったらヒザを合わせてきたでしょうしね。マルコ先生はそのあたりをすべて考えてて、傾向と対策を授けてたんですよ。「距離とタイミングだ」って。

――マルコ先生が考えた作戦の一番のポイントはなんだったんですか？

和田　要するに、シウバが打ってきても決して下がらずに、ガードしながらちゃんと打ち返して、また打ち返してきたところを組みついてテイクダウン。いきなりタックルだけには絶対にいかない。打ち合いの中からディフェンスして、その距離になったときだけ、一気に倒しにいく、と。だから、とにかく下がらない、"逃げのタックル"にはいかない、しっかり相手を見て、ガードしながら距離を詰める。そういう練習はしっかりやってきました。

――試合でもそれができてたんですけどね。

和田　そうなんですよ。だからマルコ先生の作戦も良かったし、藤田君も実践できてた。でも、シウバを仕留めるには一歩足りなかったから、あとは経験と練習しかないですよ。

――試合後の藤田選手ってどんな感じだったんですか？

和田　彼はそんなヤワじゃないですから、もちろんガクッとはきてますけど、周りの人たちに「ありがとうございました。また頑張ります」って言ってね。それは藤田君らしい、潔いし、しっかり敗戦を受けとめて、前向きになってますよ。僕らも野木先生と一緒にマルコ先生に「ありがとうございました。またお願いします」って言ってね。また、このチームで作り上げますよ。必ず藤田和之をトップに立たせよう、という気持ちで一致してますから。

――じゃあ、しばらくしたら、またチーム藤田として始動すると。

和田　そうですね。マルコ・ファス先生という凄いコーチを筆頭に、ボクシングの野木さんがいて、フィジカル面の自分がいて、このチームは自分でもいいチームだなと思いますよ。だから反省すべきことは反省して、これからのカリキュラムとか修正してやっていけば、必ずトップ取れると思ってますから。これは気持ちだけでなく、客観的に見てもそうですよ。一撃必殺のワンパンチも持ってるし、レスリング・テクニックもある。そして、藤田君はまだまだ完成されてないですから。筋力的に言っても、パワーもスピードもまだまだ上がるんですよ。

――あれで、まだ進化の途中ですか。

和田　ホントにそう。これは負け惜しみじゃなくて、彼は世界を取れるだけの逸材なんで、全然諦めてないです。今回の敗戦を糧に変えていかなきゃ嘘だし。本人もおそらく期するところがあったはずなんです。だから、「はい、負けたから次に頑張りましょう」だけじゃないですね。客観的かつ冷静に分析して、やっていくしかない。そういう作業が僕たちの仕事だし。それを藤田君に伝えて、コミュニケーション、信頼関係でまた作り上げていくしかないんで。何度も言いますけど、日本人のヘビー級には珍しい、世界を取れる逸材だと思ってるから。僕らそういうところに惚れ込んでますから。

――あんな凄い試合をする人ですからね。

和田　はい。しかも負けたあとすぐコメントルームに行ったでしょ？ あれはみんな不思議がってましたね。「ダメージねえのかよ？」って。だからハートも強けりゃ、身体も強いですよ。あとはもうやり方次第！ ホントにそう思います。

――じゃあ、藤田は折れてないと。

和田　折れてない！ 藤田君も折れてないし、僕たちも折れてない！ 今回は悔しい！ でも、これを糧にします。必ずいままで以上の藤田君をお見せできるように僕たちも努力するし、藤田君も努力すると思います。世界は必ず取ります！ 諦めません！

――わかりました。期待してます！

【06年7月6日／ハイパーストレングスにて収録】

わだ・りょうがく■1963年2月25日、茨城県出身。91年Uインター旗揚げにレフェリーとして参加。以降、キングダム、リングスと渡り歩く。今年、猪木事務所を退社し現在は多くの格闘技団体でレフェリーを務める傍ら、藤田らのフィジカルトレーナーとして「ハイパーストレングス」代表を務める。

逆風にもめげずPRIDEアメリカ進出本格化！

シウバにPRIDEとUFC2本のベルトを巻かせます!!

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

フジテレビ契約解除以降、存亡の危機とまで言われていた『PRIDE』が起死回生の一打！ 7月8日（現地時間）『UFC61』にシウバが登場。UFCライトヘビー級王者チャック・リデルとの対戦をアピールしたのだ。これはもちろん、『PRIDE』とUFC、世界二大メジャーの王者同士による頂上対決。これに勝てば全米制圧への大きな第一歩となることは間違いない。この大会のための渡米直前、本誌はDSE榊原代表をキャッチした！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　写真協力／（株）DSE　designed by bun-chan (Two Three)

――前回のインタビューは桜庭和志選手の電撃移籍という大事件についてうかがいましたけど、なんか今年は春から『PRIDE』にいろんな試練が降りかかりますね。

榊原　去年の大晦日に吉田vs小川戦で高視聴率を獲得していい気になっていたら、半年で視聴率どころか、地上波でテレビ放映もされないところまで来てしまいましたからね（苦笑）。

――ダハハハ！　そんな自虐的な（笑）。

榊原　人間、落ちるときはこんなに落ちるんだなって。この半年間でどれだけ多くの人が『PRIDE』から去っていったことか。金儲けになるんじゃないかとかね、そういった思いだけで付き合ってた人たちっていうのは、こういうときの変わり身は早いですね。その反面、こういう状況だからこそ一歩も二歩も自ら進み出て、この場所を守りたいんだっていう方々も、スポンサーや関係者の中にいるので、こうした想定外のハプニングが起きると、人間の持ってる本質というか、いろんな人間模様が見えましたね。そしてもちろん、誰よりも熱い気持ちで支えてくれたのは一人一人のファンの方々ですね。

――こないだの会場に来たファンも、本当に好きな人が集まった感じがしましたね。

榊原　本当にありがたいですね。7月1日の大会はそういった人たちの期待に応えるためにもスタッフ一同、精一杯やらせていただいたんですけど、やはり時間的な問題もあって、いたらない部分もあったと思います。大会後もファンの人たちのあいだでいろんな声があがっていた選手紹介VTRについても、まずは圧倒的に時間が足りなかった。6月5日にフジテレビとの契約解除の発表を受けて、もうその時点で7月1日まで一カ月切ってたんで。しかも、制作の部分はフジテレビさんと、フジテレビさんから仕事を受けてやっていた業者さんが制作チームを作ってキッチリやってたものですからね。

――これまでのノウハウがあってのものですもんね。

榊原　そういったものを全部ゼロにして、急造チームを立ち上げる作業はあまりにも大変でしたね。この急造チームを造るのにも、やっぱり一カ月切ってるわけですから、ほとんどの人が他の仕事が入っている中を、寝ずに必死でやってくれて、なんとか形にしたものなんですよね。だから当然クオリティの部分だとか、いろんな意見があると思いますけど、ファンの人たちには、今回のこれが我々の実力ではないんで。次回は時間もありますし、もっと練り込んでいいものを作りますから、それは期待してほしいと思いますね。

――それこそ煽りVTRどころか、スカパー！で放映する映像ソフトを作るのも大変だったんじゃないですか？

7月1日の大会は時間的な問題でいたらなかった部分はありますがなんとか形になりホッとしてます

僕が辞めて済むなら辞めます
PRIDEはスポーツ文化として
大事に育てるべきものだと思う

榊原　そこはホントに大変でした。やはり中継の部分で言えば、これまではカメラ一つ、マイク一つについてもフジテレビが持っているものを使用していたわけですよ。それをすべて僕らが外部で発注してとなると膨大なお金がかかるわけですね。まぁ、そういったことがありながら、なんとか滞りなく世界に向けての映像配信もできたし、これまでフジにお願いしてた制作的な部分に関してはなんとかカバーできたので、その点はホッとしましたね。

――では、6月5日の契約解除通告以降、一番苦しかった部分ってなんですか?

榊原　やはりDSEという会社や『PRIDE』に対して信用やイメージが傷つけられた部分ですね。現時点でもまだ、フジテレビに切られた理由がハッキリしないんですよ。

――"不適切な事象があった"の一辺倒ですよね。

フジテレビ契約解除により、テレビスポットやスポーツニュースでの宣伝がなくなり、観客動員が心配された7.1『PRIDE.GP』だったが、ふたを開けてみれば、さいたまスーパーアリーナが4万5000人近い大観衆で埋め尽くされた（写真・上）。フジテレビ"鬼才"佐藤大輔ディレクター制作による、選手紹介VTRは、『PRIDE』名物と化すほどのクオリティだったため、どうしても比べられてしまうが、回を重ねるごとにこの映像も洗練されていくだろう（写真・下）。

榊原　それをハッキリしてください、と言ってるんですけどね。こちらには当然、不適切な事象はないし。その不適切な事象が反社会的な勢力との関わりだというのなら、そういったものが公然の事実として出てきたのか、何か証明できたのか。それは何もないんですよ。そういう状況なのに、理由がハッキリしないから、「まだDSEには問題があるんじゃないか」と思われてしまう。ハッキリしないまま、信用やイメージがダウンしていってしまっている。

――ハッキリしていないから、"不適切な事象"を"適切"に改善することもできないわけですか

榊原　この前の会見でも言いましたけど、僕自身が犯罪を犯していたり問題があって、僕が辞めて済むのなら、辞めてもいいんですよ。でも、犯罪も犯してなければ、逮捕もされてないんです。それでも『PRIDE』がさらに成長していくためベストな道であるなら、自分自身の中で不本意であっても、不名誉なことであっても、その道を選んでいくしかないと思っているんで。とにかく『PRIDE』にとってベストな道を模索して、その道をいくしかないな、と。

――極端な話、疑いが本当に晴れるんだったら、会社を変えてでも、『PRIDE』は残したい、という考えなわけですか。

榊原　そうですね。K-1の前代表が脱税で刑事被告人になりFEGになって放送は存続したわけじゃないですか。我々にはそうしたチャンスさえも与えられなかったわけですから、残念というか……まあ、僕の力不足ということなんでしょうけど。

――そこは残念というか、納得いかないというか。

榊原　まあ、そうですね。濡れ衣を着せられたまま退陣をするのは、自分としては本当に悔しいですよ。不名誉なことだし、そういうわだかまりはありますが、それでフジテレビが「わかりました、じゃあ放映再開しましょう」って言うんだったら、明日でもいいですよ、組織を変えるのは。だけどスタッフはホントに心を持って動いてますからね。そういう人たちがいなかったら『PRIDE』はできないから、そうした人たちが当然ベースになって新しい組織に生まれ変わって、代表に新しい人が来て。そしてたとえばフジテレビさんにもその会社に出資していただいて、会社の経営に参画してもらえればいいと思ってますよ。

――昔の新日本プロレスや全日本プロレスは、そういう形でしたよね。

榊原　やっぱりそうするべきタイミングなのかなと思いますけどね。DSEの中にコンプライアンス本部を作って、警察OBとかに来てもらったりして、『週刊現代』にスキャンダラスに書かれているようなことが本当にあるのか、監視したらいいじゃないですか。今年はサッカーのワールドカップ

がありましたけど、『PRIDE』っていうものはみんなが大事に育んでいけば、10年、20年、50年と続いていくものだと思います。それは「僕が」と言うのではなくて、いろんな人たちの手を介して。せっかくサッカーのワールドカップのようになり得る場所としてここまで培ってきたんだから、それは大事にすべきだと思うんですよ。

—それはDSEがやっている『PRIDE』というわけでなく、『PRIDE』という文化を大事にすべきということですね。

榊原　そう。一つのスポーツ文化にしても、今日明日で生まれるもんじゃないんで。せっかくここまで育てたものは大事にするべきだなと思うんでね。それが、べつに僕の手の中にある必要はないし、そうじゃなくても大事に育てていくべきソフトだと思うんですよ。

—『週刊現代』では、いまも川又誠矢氏がいろいろ言ってますけど、彼に対してはどんな思いがありますか?

榊原　彼が『イノキボンバイエ』のプロデューサーっていうけど、じゃあ格闘技界のためにどれだけ汗をかいて、恥をかいて、走り回ったりした実績が過去にあるのかないのか……まあ、言い始めるときりがないんで。それをこの『kamipro』さんの誌面を借りて言う気はありません。もっと前向きな話をしましょうよ。

—はい、わかりました。話はまったく違いますけど、もう一つスキャンダルとしてボブ・サップの一件がありますが。

榊原　それもまたずいぶんと前向きな話ですね（笑）。ウチの〝子飼い〟のマイケル・コネット弁護士を通じて僕が〝遠隔操作〟した件ですね（笑）。

—ガハハハ! やはりそうでしたか（笑）。

榊原　あり得ないよ（冷静に）。

—顧問弁護士を通じて、DSEが関与しているという疑惑が持たれているようですけど。

榊原　顧問弁護士といっても、2003年のホイスの裁判を行なう際、日本国内で最初に紹介を受けて、「顧問弁護士でこの事件を取り扱ってもらえますか?」ってお願いをして、記者会見には同席してるんだけど、顧問契約もそのときだけの相談で終わっちゃったわけですよ。

顧問弁護士を通じてDSEがボブ・サップを裏で動かしてるなんてことは、あり得ないですね

—それ以降は顧問ではない、と。

榊原　ホイスの裁判にしても担当したのはアメリカの法律事務所なんですけど、カリフォルニアの裁判所に訴えを起こすときに、相談をしたのがマイケル・コネットで、それ以外もポイント、ポイントで何度か相談はしても、顧問契約を専属でして毎月顧問料を払うっていう契約は現実的には一回もしてない。彼はニコラス・ペタスやマーク・ハントといった選手のマネージメント部分や、契約関係も見てる弁護士なんで、逆にカウンター・パートナーだったりするわけですよ。でも、格闘技界にいくらか精通していて、海外の法律もわかっている弁護士って少ないから、何度か相談してますけどね。それをもって、裏でサップを動かしているとか、あり得ないです。

—ボブ・サップに対して試合のオファーを出している事実もありませんか?

榊原　ありませんね（キッパリ）。

—わかりました。じゃあ、今度こそ前向きな話をします。近いうちにPRIDEファンが喜ぶサプライズがあるとかないとか?

榊原　そのサプライズが起こせるように、明日からアメリカに行ってきたいと思います。格闘技界の世界的情勢を考えれば、日本国内でパイの奪い合いをしてる場合じゃないですから。アメリカ市場の中でこれからどれだけ結果を残していけるのか、市場を確保できるのか、根付かせることができるのかが、これから一年か二年かけての勝負なので。

—このインタビューが掲載される号は、7月21日発売なので、できればここで、その〝サプライズ〟について明かしていただきたいのですが……。

榊原　じゃあ、もし実現できなかったら、カットということで（笑）。

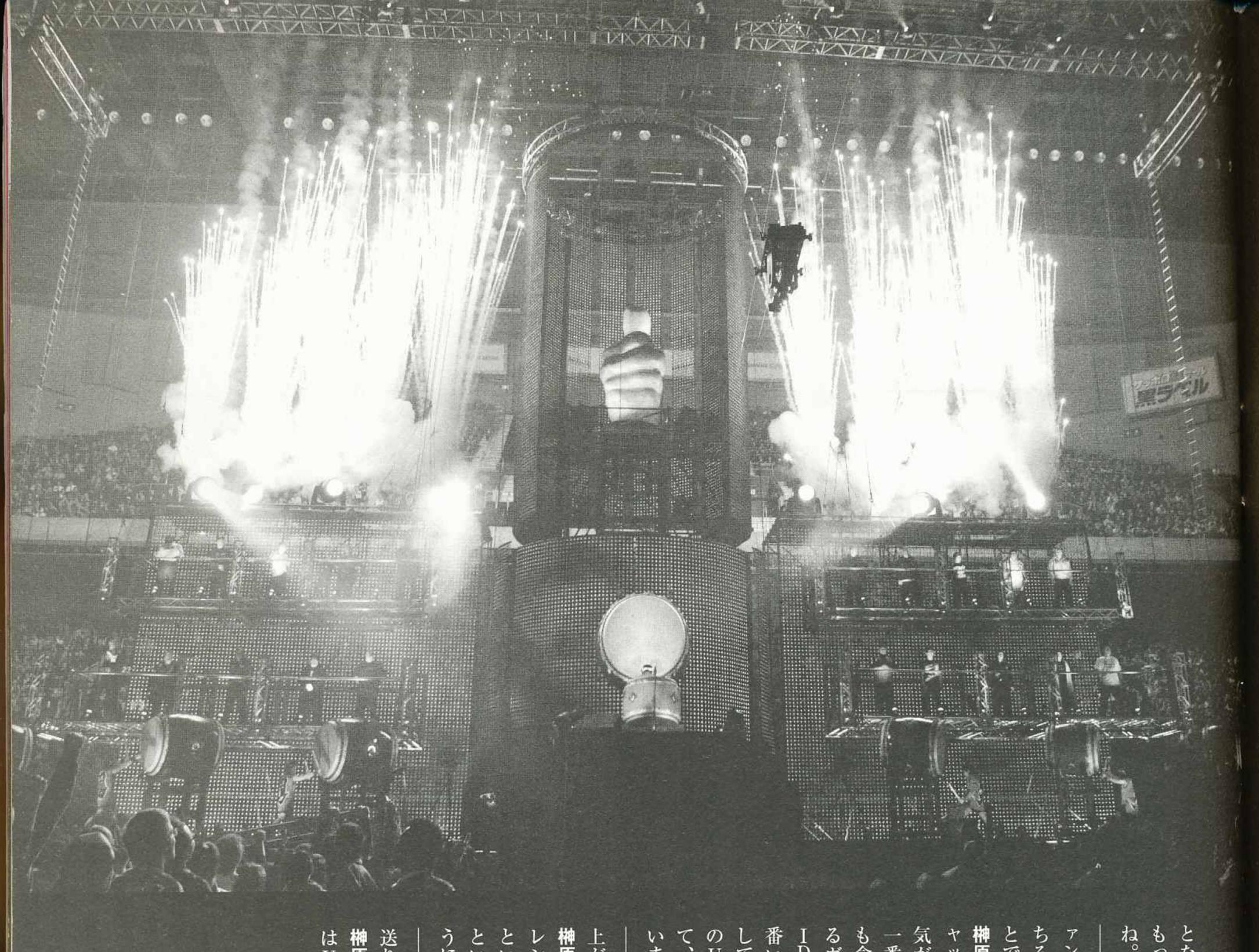
—はい（笑）。

榊原　今回はですね、UFCにヴァンダレイ・シウバを連れていって、オクタゴンに上がって、向こうのチャンピオン、チェック・リデルにケンカを売らせます!

—おぉ〜〜! それは凄いですね!

榊原　詳細はこれからの話し合い次第ですけどね。年内にヴァンダレイ・シウバをオクタゴンに上げようと思ってます。

—それこそ、リアルチャンピオン決定戦ですよね。よくぞ思い切りましたね。

榊原　やはりアメリカ市場においては、我々はチャレンジャーですから。待っていてもしょうがないし、中途半端な選手ではなく、PRIDEの象徴たるチャンピオンが代表

となってオクタゴンに出陣するかたちが、もっともインパクトがあると思いますからね。

――そりゃあインパクト絶大ですよ！　ヴァンダレイをUFCに上げるというのは、もちろんアメリカでの宣伝効果を考えてのことですか？

榊原　当然そういった考えはあります。チャック・リデルって、アメリカでは凄く人気があって認知されているんですよ。その一番人気の男に対して、ミスターPRIDEを体現できるヴァンダレイをぶつける。それが『PRIDE』のなんたるかを知らしめるのに、一番いいんじゃないかということですね。そして、ヴァンダレイ・シウバには前人未到のUFCと『PRIDE』の二冠王となって、2本のベルトを巻いてもらいたいと思います。

――それはヴァンダレイもモチベーション上がるでしょうね！

榊原　そうですね。無差別級GPへのチャレンジもそうですけど、このアメリカ進出というのは、さらにヴァンダレイ・シウバという選手のモチベーションを上げてもらうには充分の材料でしたね。

――ヴァンダレイ以外にもUFCに選手を送り込むことは考えているんですか？

榊原　どんどん出すつもりでいますよ。僕はUFCファイターと比べて、絶対的に『PRIDE』の選手のほうが強いと思ってますから。リングとオクタゴンの違いや、ルールの違いもありますけど、『PRIDE』を代表して行けば、我々としてもPRIDEファンにも新しい刺激になりますから、恐れることなく出陣させたいと思います。

――シウバとリデルの対戦はいつ頃になりそうですか？

榊原　ヴァンダレイは9月に無差別級GPファイナルがあって、リデルも8月に試合がありますから、最短で11月のUFCでしょうね。

――いや～、その前には10・21『PRIDE』ラスベガス大会が控えてますから、この秋は、アメリカが熱くなりそうですね。

榊原　秋だけじゃないですよ。もしかしたら今年は『男祭り』をアメリカでやるかもしれませんから。

――アメリカで『男祭り』！

榊原　そのときは、名称も『PRIDEメンズ・フェスティバル』に変えるかもしれない（笑）。

――ダハハハハ！　とりあえず、ふんどし暴れ太鼓は輸出したいところですね（笑）。

榊原　それだけでなく来年の2月にもアメリカ大会を想定していますし、2007年は二カ月に一回はアメリカ大会が開けるようなかたちにしていきたいですね。

――そんなにですか！

榊原　だから来年の『PRIDE・GP』

今年の『男祭り』はアメリカで『PRIDEメンズ・フェスティバル』としてやるかもしれない（笑）

開幕戦はアメリカで開催しようという案もあるんですよ。その一方で、来年はGPを封印しようか、もう少し熱を溜めてから開催したほうがいいという考えもあるんです。やっぱり『PRIDE・GP』を中心に据えて、この4年くらい走ってきましたけど、毎年連発することによってGPだらけになっちゃうんで、逆にちょっと方法を変えてもいいかな、と。

――それはいいかもしれないですね。他団体も含めてトーナメントはちょっと食傷ぎみですから。

榊原　まだ決定ではないですけど、各階級のタイトルマッチを中心にワンマッチで回すようなことも考えてます。そして、やっぱり日本のファンには『PRIDE』は世界最強の男たちが集まって、最高のクオリティのものだっていうふうに思ってもらえるものを提供できるように頑張るしかないと思いますね。

――わかりました。では、サプライズが実現されることを期待してます！

【06年7月5日／DSEにて収録】

こうして、このインタビュー翌日からアメリカへ出発した榊原代表。そして7月8日（現地時間）、宣言どおり、ヴァンダレイがオクタゴンに上がり、UFCライトヘビー級王座への挑戦表明が行なわれた。格闘技界に久々に訪れたポジティブなビッグサプライズ。これからこの格闘世界大戦はどうなっていくのか？『UFC61』の翌日、米国滞在中の榊原代表に追加質問を答えてもらった。

全面戦争ですから、当然UFCからも『PRIDE』へ乗り込む選手が出てくるでしょう

――まずは『UFC61』を視察した感想を聞かせてください。

榊原　正直、試合自体はあまりパッとしなかったのですが（笑）、これなら『PRIDE』は全然勝算ありますね（笑）。

――ますます自信を深めましたか（笑）。

榊原　まあでも、真面目な話、UFCの活況ぶりを肌で感じることができましたね。やはり『PRIDE』とは客層は違いますし、リングとオクタゴンでは闘い方も、お客さんへの見え方も違いますから、アメリカ人の嗜好も加味して我々『PRIDE』も大会を行なわなくてはならないと、改めて思いました。

――改めて聞きますけど、ヴァンダレイ・シウバをUFCに登場させたのは、どういった意向があってのことですか？

榊原　常々言っているように、アメリカはUFCを中心に総合自体が非常に注目を集めてるじゃないですか。我々もネバダ州のプロモーター・ライセンスの取得に始まって、リングの使用やルールの改正など、ここまでにいろいろな下準備をしてきました。ようやくそうした諸々の準備が整ったこと、加えてアメリカの活況もあって、いまこそ足を踏み出すタイミングだと判断したということですね。

――ここが勝負時だと。

榊原　そして、そこで一歩踏み出すのであれば、様々なモノを巻き込んで大きなうねりを創り出したい。いま、最もホットなUFCと絡むことで、日本にはない〝熱〟を生み出したかったんです。日本ではフジテ

レビの放送中止とか、非常に暗い話題が多いじゃないですか（笑）。

――そうですね（笑）。

榊原　どうせやるのであれば、彼らとの全面戦争が最も注目を集めるでしょうし、もっと言えば、『PRIDE』のチャンピオンであるシウバがオクタゴンに乗り込めば何よりも刺激的でしょうし。シウバがミドル級チャンピオンの実力をそこで見せつけられれば、イコール『PRIDE』の実力を知らしめる最短距離にして最大の効果が見込めると考えたんです。

――シウバvsリデルはUFCルールでのUFCライトヘビー級タイトルマッチになるのでしょうか？

榊原　シウバとも話をして、『PRIDE』とUFCのベルトを同時に巻いた選手はいないのだから、その史上初の選手になろうと。それでシウバも相当モチベーションが上がっているので、ぜひタイトルマッチにさせたいと思っています。チャックが8月のババル（レナート・ソブラル）との試合をパスしなくてはならないでしょうし、シウバも9月の無差別級GPの結果はともかく、ケガをしないことが条件になりますが、最速で11月になるでしょうね。

――一部では「シウバは3試合UFC出場予定」と言われていますが、そういった事実はありますか？

榊原　そうした事実はありませんが、シウバはチャックを倒してチャンピオンになるでしょうから（笑）、3試合どころか、たくさん防衛戦をしなくちゃいけないでしょう。

――シウバとバーターで、UFCから『PRIDE』に上がる選手はいますか？

榊原　全面戦争ですから、当然UFCからも選手が出てくるでしょう。早ければ9月の無差別級GP決勝戦からの登場もあるでしょう。もちろん10月の『PRIDE』ラスベガス大会にも大挙して乗り込んでくる可能性もあります。

――今後もシウバだけでなく、『PRIDE』のトップクラスをUFCに送り込む意向はありますか？

榊原　ズバリ、日本を代表して藤田和之をオクタゴンに送り込みたいですね！　よく

2003年9月にDSE榊原代表、高田統括本部長とともに、UFCのオクタゴンに上がった藤田和之。このときは、UFCで試合をすることがかなわなかったが、今度こそ金網で暴れる野獣が観られるか？

日本を代表して〝野獣〟藤田和之を オクタゴンに送り込みたい！ 金網が非常に似合うはずですから

人間離れしていてゴリラにたとえられる藤田選手ですから、檻のようなオクタゴンは非常に似合うはずです（笑）。藤田選手以外にも、もちろんいろいろアイデアは考えていますので、これは期待していてください。

――ダナ・ホワイト社長とはどんな話をしましたか？

榊原　今回のシウバの件以外にも、今後どうやってお互いに取り組んでいくかという話をしました。具体的な内容は……ちょっと秘密です（笑）

――では、今後の『PRIDE』とUFCの関係はどうなっていきますか？

榊原　それこそお互いに苦しい時間を見てきているので、ある意味共感できる部分がたくさんあります。まあ、だからといってお互い手を取り合って一緒に歩んでいきましょうというわけではなく、健全なコンペティターとして競争していくことになるでしょう。当然、彼らもアメリカでの自分たちの牙城を守るために必死でしょうし、我々もこのアメリカで確固たる地盤を築くためにUFCと闘っていかなくてはならない。それは決して足の引っ張り合いという低いレベルではなく、お互いのブランドを懸けた闘いをしていくつもりです。その時々の状況に応じて合従連衡はあるでしょうが、お互いに切磋琢磨し、このジャンル自体のパイを拡げていくことができればと思っています。

――ズバリ、このUFCとの戦争、勝算はどのくらいですか？

榊原　かつて猪木さんが「闘う前から、負けることを考えるヤツがいるか！」と、おっしゃってましたが、いままさにその心境ですよ！（笑）。日本とアメリカでは生活習慣も嗜好も文化も違いますけど、約10年間で培った『PRIDE』のノウハウ、ライブの熱、選手のクオリティ、どれをとっても負ける要素はありません。当然、簡単にはいかないでしょうが、我々も日本人の誇りを持って、SONYやTOYOTAがアメリカで成功を収めたように、PRIDEブランドを確立させますので期待していてください！

フジショック後のPRIDEをどう見るか？

試合のクオリティは変わらず！ されど……

7月吉日PRIDE GP 無差別級GP 2nd ROUND なんとなく総括座談会

フジテレビの地上放映打ち切り後、初の大会開催となった『PRIDE無差別級GP 2nd ROUND』。周辺環境の大きな変化に伴ない、『PRIDE』がこれまで誇っていたクオリティやスケール感に違いはあったのか？ いまこそ『PRIDE』とは何かを考えろ!!

構成／ジャン斉藤 designed by Tani-yan (Two Three)

原タコヤキ君（以下、タコ） え～、今回の座談会は、『PRIDE無差別級GP 2nd ROUND』をテーマに行ないます！ ……が、『kamipro』の座談会にしては、ここはちょっと高級料理店すぎるやないか！ しかも個室やし。

ジャン斉藤（以下、ジャン） そうですねえ。下見もしないで予約して来店したら、ビックリしましたよ!! でもムードはいいだけで、値段は高くないです。

タコ ホンマ？ でも高そうやなあ。

堀江ガンツ（以下、ガンツ） ま、ちょっと高級でもいいんじゃないですか。『kamipro』は『PRIDE』のマット広告を出せるくらい儲かってるみたいだから（笑）。

橋本宗洋（以下、橋本） 今回の一番のサプライズだよねえ、あれ（笑）。

ジャン 『kamipro』、『格闘技通信』、『ゴング格闘技』って、なんだか『PRIDE』の持っていた"メジャー感"を損なうマット広告ですよねえ。ボクらが耳にした時点ではすでに決定事項だったんですけど。

タコ ああ、いわゆる"大統領決済"やったんかいな（笑）。

ガンツ でも、誤解なきように。ほかの専門誌が出せる程度の広告ですから！

橋本 違った意味で誤解を招く表現だぞ、それ（笑）。

タコ 無駄話はそれぐらいにして、今日はゲストが登場しております！ 元『週刊ゴング』編集長のGKこと金沢克彦さんです！

金沢克彦（以下、GK） はいはい、どうも。

タコ なぜ今回、金沢さんが出席したかといえば、『kamipro』速報号の『PRIDE』取材陣だったんですね。

GK （即座に）いや、私はフリーですよ！

ジャン 『kamipro』の仲間なんかだと思われたくないということですね（笑）。

異常な執着を見せる『週刊現代』のネガティブ・キャンペーンにより、協賛スポンサー激減。『PRIDE』のマット広告に『kamipro』が登場してしまった!! なんだかさみしい風景だよ！

GK そういうことです！ まあ、無所属ってやつですね。

ガンツ まあ、大物外人レスラーの特別参加という。

ジャン ああ、新日本プロレスで言うところのブロック・レスナーみたいなもんですか？

GK それは仕事ができないってことですか？

タコ そんなアホな（笑）。

GK でも、ジャイアント・バーナードじゃ仕事がうますぎるし…：だから気持ち的にはブルーザー・ブロディかなあ。

タコ "プロレスマスコミ界の超獣"ということで（笑）。それで今回の『PRIDE』は、フジテレビ騒動から約一ヵ月後の開催ということで、当初は不安感も大きかったと思うんやけど。

ガンツ スカパー！のPPVが放送できるのかという不安もありましたからね。まあ、無事に放送されましたけど、やはり以前と比べちゃうと……。

【ここで「失礼しま～す！」とお店の女性店員（推定20代前半）が登場。そして、お皿を下げて退場】

GK ……ちょっと、あの店員、かわいいねえ。

ジャン "超獣"より、ターザン（山本！）ですよ、その反応は（笑）。

タコ あの店員がかわいいだけに、このむさいオッサンだらけのメンバーは恥ずかしいなあ……。

橋本 いい加減、話を先に進めると、PPV実況を担当した矢野（武）アナウンサーとか市川（勝也）アナウンサーって、修斗やキックボクシングの格闘技をずっと実況してきた人たちなんです。アナウンス自体のテクニックはわからないけど、「ワキを差した」とか表現の細かさに関しては、フジの実況より上だったと思いますね。

GK あの実況はよかったよね。

橋本 中尾のセコンドについていたFABIANOにまで言及してたり（笑）。あと煽りVTRに関しては、これはもう制作日数的な問題でしょう。6月5日にフジテレビ騒動が始まって、「次は誰が作るの？」ってとこからのスタートじゃないですか。そういう状況下では、最大限に頑張ったんじゃないかなって。

GK 頑張りましたよ。……プロレスの中継に比べたらねぇ（ため息まじりに）。

一同 ガハハハハ！

GK いままでのVTRは洗練されすぎてた部分もあるよね。

ガンツ しかも、ディレクターの佐藤大輔さんが古舘伊知郎の実況ばりに独自スタイルを築き上げてたから、あのあとを引き継ぐのは誰がやったって難しいですよね。

GK フジテレビのおしゃれ感とかにファンが慣れちゃったのがよくないんです。本来はそんなものはないはずだしね。

ジャン プロレス側からすると、ぜいたく言うな！ と（笑）。

ガンツ ただ今回の煽り映像を観てたら、いままでがコカ・コーラのCMだとしたら、三沢光晴が出演中の『ザ・リーブ』になっちゃったような感じがして（笑）。

ジャン それはさすがに言いすぎですよ！（笑）。

ガンツ （無視して）♪アパート・マンション、満室経営～!! 深夜のNOHA中継でしか見られないコマーシャルだけど、最新作の歌謡曲編は最高だよねえ。

ジャン まあ、フジテレビの方法論を踏襲するとどうしても二番煎じで穴が見えてくるから、煽り映像は独自路線を歩むべきですよね。

GK 『PRIDE』の路線的なことで言えば、今回の騒動である意味、観客がコアな層に戻ったところもあったんじゃないですか？

タコ 『PRIDE』はフジテレビを利用して、一見さんを取り込もうとしてたんやけど、これからは敷居が高くなるやろうし。

橋本 そういえば、今回の『PRIDE』は記者席にいる人数が少なかったという話を聞いたんですけど。

ガンツ あ、たしかに少なかった。

橋本 いままでは記者席でビール飲んで騒いでるような輩がたくさ

座談会出席者

堀江ガンツ
本誌・編集若頭＆"海外出張マニア"。帰宅後の冷えたビールと冷や奴の晩酌がどうしてもやめられない32歳。健康のため、近所のDEEP道場へ通うか否かも検討中。

金沢"GK"克彦
GK＝ゴング・カナザワの意だが『週刊ゴング』は卒業済のフリーライター。今月はついにターザンからホワイトボードを奪取、新日本凸凹大学校の講師に就任！

橋本宗洋
日本最重量級フリーライター。立ち技、総合、映画とその守備範囲は広く深い。最近は心の中の"男の子"ツボをメカマミーに刺激されまくり、勝手にグッズ展開切望中！

ジャン斉藤
本誌・永久電機担当＆筋金入りの"破綻興業マニア"として9.1『INOKI GENOM』に熱視線！ 寝ても『GENOM』覚めても『GENOM』な31歳の夏。

原タコヤキ君
小さい判型だった頃の元『紙プロ』編集記者。座談会の司会にフラリ登場する通称「タコ兄さん」。危険な話題に降臨する謎のカリスマ司会者、大阪風太郎とは別人。

んいたんだよね。一般マスコミが取材申請するときに「来たいんだったら、入れてあげるよ」っておネエちゃんを誘ったりさ。そういう人たちが減ったのも、打ち切り騒動の影響なのかなって。

ガンツ ところが、そういう人が少し残ってたんですよ。

GK ああ、ターザンは「招待した女の子が来なかった‼」って大騒ぎしてたね（笑）。

ガンツ それもあったんですけど、記者席でボクの少し離れた席がターザンで。「またターザン寝てるだろうな」って振り返ったら、ターザンはちゃんと起きて観てたんですよ。「お、ターザン起きてる」と思ったら、隣にいた歌枕氏（ターザンの弟子）や周囲の一揆塾生が熟睡されてました（笑）。

ジャン ワハハハ！ しかもプレスでもないのに。さすがターザン・ゲノムの正当な継承者たちですねえ。

ガンツ 彼らはある意味、師匠を超えてるね（笑）。以上、今回のヨカタ（＝相撲用語で素人の意）目撃報告でした（笑）。

橋本 だから、今回の〝格闘セレブ〟度は高めというか。それはフジテレビの『すぽると』で『PRIDE』の煽りがまったくないのも影響してるらしい。ヘタしたら、吉田秀彦が誰と闘うのか知らなかった人もいただろうし、今回は土曜日だったから、気がついたら『PRIDE』が終わってたことに気づいた人も多いと思いますよ。

ガンツ 本来なら、吉田vsミルコなんか『すぽると』で毎日毎日、煽りまくっていただろうにね。

橋本 つまり、今回の観客やPPVの視聴者は曜日が違かろうが、地上波で煽らなかろうが、絶対に見逃さない人ってことだよね。

ガンツ おそらく巌流島でやっても馳せ参じているでしょう（笑）。

タコ 図らずも関係者やファンも含めて、大きなふるいにかけられたと思うねんけど、観客動員の影響ってあったんかな？ 地上波の告知がなくなったからお客さんが少なくなったという考え方もあるし、こういうときこそ日本中から「格闘セレブ集まれ！」って感じで、お客が増えたという考え方もあるねんけど。

ジャン フジテレビを通じて事業協賛各社へのチケット配布がなくてあの入りなんだから、実券率は高いんじゃないですか。いつもだったら巨大な入場ゲートが組まれてほぼ一面は潰れるんですけど、今回は全面使用してましたし。

ガンツ だから、1万7000円と7000円の席はたくさん売れたんじゃないですか。セレブはたいてい7000円の席だから（笑）。

タコ ま、格闘セレブの財布はセレブちゃうからな（笑）。

ガンツ 後楽園ホールのバルコニーをこよなく愛する人たちですから（笑）。

タコ それでまず前半戦の試合がありましたが、正直、低調やったと思います！ そのへんを専門家の橋本さんからコメントお願いできますか？

橋本 ちょっと待って！ 全員、専門家じゃないの？ もしかして、俺に責任を押しつける気⁉

ジャン ズバリ、そういうことなんですけど。

橋本 ズバリ、言うな（笑）。まあ、試合そのものは、レベルが低いものではなかったと思うけど。

異常なテンションで今回のGPに臨んだ藤田和之。前回のトンプソンに続いて、一歩も退かない強靱な精神力は、観る者の胸を強く打った。肉体の打たれ強さだけで語るのはナンセンスだ。

ガンツ たしかによぉ〜〜く観れば、格闘技的には見応えはあったんだよね。

橋本 でも、いつもの『PRIDE』と違う感じは否めなかった。本部長も「GPの4試合とは熱の差はあった」って翌日の会見で言ってましたから。

ジャン 前半のマッチメイクは、今後の展開性が薄かったんですよね。ホジェリオ（アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ）とアリスター（・オーフレイム）にしても、実力的にはヴァンダレイへの挑戦権が懸かった試合としてのテーマはあるんですが、ドラマ的にそういう期待感がなかった。

橋本 今回の前半は〝悪い意味での勝負論〟だよね。〝いい勝負論〟は「どっちが勝つんだろう」だけど、〝悪い意味での勝負論〟って「どっちが勝つかわかんない。でもどっちが勝ってもいいや」ってなっちゃう。

タコ そうなんやなあ。

橋本 だったら、高田本部長が言うようにさ、コールマンだとかボブチャンチンとか『PRIDE』色の強いファイターを揃えるべきだったよね。たとえば、中尾（KIS芳広）さんが『PRIDE』常連ファイターと闘っていれば、実力の測定になってたけど、相手が知名度がないイ・ウンスで〝知らないもの同士〟の闘いだったから、非常に乗りにくかったわけで。

タコ 中尾さんの試合はおもろいんちゃうか？ って期待感もあったけど、本人のキャラが成熟してへんかったね。あのキャラをどう昇華していけるんやろ？ って疑問はあるわな。

ガンツ こういうのは、本人が無自覚なところで、マスコミやファンがおもしろがるのはいいと思うんですよ。プロレスで言うと、かつて「バカ！」コールで一世を風靡した剛竜馬さんという方がいらっしゃいましたけど。剛さんはただ一生懸命にやってるのに、ファンが勝手に「バカ！」コールをして楽しんでいた。そこで本人がウケてると思って工事現場のヘルメットを被ったりしてウケを狙い始めたら、サーッと人気が下がっちゃった。それを連想しましたね。

タコ 剛竜馬を連想するなんて、さすがガンツは格闘セレブやなぁ。

ガンツ お笑いでは「笑われちゃいけない、笑わせろ！」という鉄則があるけど、素人さんの場合は「笑わせちゃいけない、笑われろ」なんですよね。

GK 中西学も真面目にやってるから、おもしろいんだよね。自分ではかっこいいしスマートだと思ってやってるからこそ、バカウケなんですから。

タコ 破壊王も、本人があのコスチュームをかっこいい！ と思ってたから、こっちは全力でツッコめたわけやないですか。また破壊王は、そのツッコミすら跳ね返すのが気持ちいいねんけど（笑）。

GK かっこ悪いんだけど、かっこよく見えてくるんだよね（笑）。

橋本 中尾さん本人はともかく、周囲が「そうさせよう！」としちゃった部分も大きいよね。本人も気にしてるだろうから、今後の巻き返しに期待したいよね。

タコ　話を戻すと、『PRIDE』は前座の試合にさえも、濃いテーマやドラマ性が求められるということだよね。

橋本　もう『PRIDE』に求められているハードルはメチャクチャ高いってことですよ。

タコ　これからも乗り越えられるんかいな、『PRIDE』は？

ガンツ　いやねぇ、じつは『PRIDE』は、もう終わってるんですよ！（キッパリ）。

タコ　終わってたんか！

ガンツ　それは2003年の『PRIDE.26 REBORN』から始まった新生『PRIDE』の物語が終わってるという意味ですけど。去年8月のヒョードルvsミルコ戦で、いったん物語は終わってるんですよ。いまの『PRIDE』は漫画で言うと、クライマックスは終わってるのに、人気があるから連載を続けているみたいな感じ。

橋本　『北斗の拳』や『キン肉マン』の終盤みたいな状態だ（笑）。

ガンツ　だから今回の『無差別級GP』で、なぜみんなが藤田やジョシュ（・バーネット）を応援したかっていうと、その二人が新たな主人公となって、『PRIDE』の新章が始まってほしいという願望もあったんだよね。

GK　ファンは新しいドラマを見たかったわけだよね。

ガンツ　ミルコvsヒョードルという壮大なドラマは一旦終わったわけだし、そのあとで小川直也vs吉田秀彦という究極の大河ドラマの決着を見せたわけだから。『PRIDE』は去年、巨大なる結末を二つも見せてるんだよね。でも、今年になっても、新たな物語が見えてこない。そこが問題だと思う。

橋本　じゃあ、『PRIDE』を離脱し、新展開を図った桜庭（和志）は賢明だったってこと？

ガンツ　いま思えば正解だし、もっともっと早く新しい展開を見せてもよかったと思う。離脱するしないは別としてね。サクの対グレイシー後の物語って、見る側にとっては『PRIDE.17』でヴァンダレイとのリマッチに負けた時点である意味、終わってたんだよ。そこからまた新展開があればよかったんだけど、「シウバへのリベンジ」という物語を続けすぎたと思う。だから『HERO'S』に移ったのは良かったと思う。

タコ　今回のGPで生まれた物語で言うと、ジョシュがどこまでオーバーするか楽しみなファンも多いんじゃないの？

橋本　じつは、フジテレビの放送作家陣の中では「そろそろジョシュを押していこう！」って機運が高まってたらしいんだよ。だけど、上からなかなかGOが出なかった。

ジャン　ところが、もっと上から番組打ち切りのGOが出てしまってねえ……。

橋本　ねえ。結果的にジョシュはテレビの力を借りず、自力と会場の熱で勝手にスターになりそうだよね。

ガンツ　でも、ジョシュはもう一つ主役らしい"何か"がほしいね。

GK　いかんせん、顔がまんま西洋人なんですね。感情移入するには日系だったり、少し血が混ざってたりするといいんだけど。

橋本　ジョシュはどこまでいってもアオレンジャーっぽいですよね。アカレンジャーじゃなく。

新PRIDE物語の主人公として、GP優勝の期待が高まるジョシュ・バーネット。この時代にテレビのバックアップを要さないスター街道を歩くのは、ある意味凄いことである。

ガンツ　なんか、ミドレンジャーのような気もする（笑）。

橋本　もともと資質はあったんだろうけど、五味（隆典）なんかも、一気にアカレンジャーになった気がする。

ジャン　五味で思い出したけど、じつは今年の『PRIDE』の新しい物語って、五味を主軸にした『武士道』のはずだったんですね。

ガンツ　でもさ、五味の物語も昨年の大晦日でチャンピオンになったことで、いったん完結しちゃったんだよ。

ジャン　地上波放映による『武士道』ブレイクの期待感があったじゃないですか。その肝心のテレビがなくなっちゃって。

タコ　『武士道』は痛かったかもしれへんな。まだ五味隆典の魅力を伝え足らんかったし。テレビは絶対にあったほうがいいけど、かといってすり寄っていくもんでもないなあというのは、最近の騒動でよくわかったよね。

橋本　テレビ局的なスタンスは相対的で流動的なものなんですよ。象徴的なのは、何年か前にトラッシュ中沼ってプロボクサーが世界戦のときに、相手がアマチュアも含めると300戦、400戦してる選手だったんですよ。そのキャッチコピーとしてテレビ東京がつけたのが"ボクシング界のヒクソン"で（笑）。

タコ　総合格闘技のほうが上位概念や！

橋本　それ観て「時代が変わったな」って思いましたね。昔ならボクシングが上位概念だったから、格闘家に"〇〇のタイソン"とか"〇〇のアリ"ってつけたじゃないですか。でも、この前、K-1に出たヴァージル・カラコダの煽りが、"K-1の亀田親子"っていうキャッチコピーで（笑）。

ガンツ　あったねえ。新聞のラテ欄に"世界王者vsK-1の亀田親子"って書いてあったから、「なんだこりゃ!?」って（笑）。

橋本　いまのテレビ的なプライオリティは亀田親子になってるわけですよ。

タコ　使い古された言葉だけど、「何を上位概念に置くか？」ってことじゃないですか。『PRIDE』は上位概念にプロレスやK-1があったことで急成長したんやけど。

GK　やっぱり、去年の大晦日で磁場が狂ったって感じはしますね。

ガンツ　それはテレビに強いK-1が視聴率を取れなくなってきたのが大きいんですね。いままで「地上波のK-1」、「PPVの『PRIDE』」でいい均衡だったのが、『PRIDE男祭り』の視聴率が『Dynamite!!』を上回ったおかげで、パワーバランスが崩れちゃった。

GK　あのとき谷川さんは試合後に勝利宣言までしてたんですよね。だからあの結果には相当ショックだったと思いますよ。

タコ　それぐらいK-1にとって視聴率は絶対的なもんだったわけですよ。それすらも『PRIDE』が打ち破って一番上になったら、今後、『PRIDE』が何をモチベーションにやっていくかというのは難しいよね。

ガンツ　概念的にはもう上はないですからね。

タコ そう考えると昔の新日本プロレスは凄いよね。ずっとそのモチベーションを持続していたわけやからね。

ガンツ 次から次と新章が開幕して。じつは維新軍も国際軍団もUWFもそれぞれ一年半くらいしかやってないんですよね。

GK 初代タイガーマスクだって一年ちょっとですよ。凄く短い期間なんだけど、テレビはあっという間に消費しちゃったわけですよ。

ガンツ 『PRIDE』なんかミルコの打倒ヒョードルで3年も引っ張ったんだから！ そりゃ、ミルコも疲れますよね。タイ人相手の亀田興毅・世界前哨戦どころじゃないんですから（笑）。

タコ じゃあ、『PRIDE』の新章は？ ってなると、こないだのGPでは何か見えたのかってことですよ。選手個人としてはジョシュへの期待感はあるけど、現時点でマット界すら巻き込むドラマが感じられたというか。

橋本 GP4試合のレベル自体は、紛れもなく〝世界最高峰〟の闘いだったと思うんですけど。それでも「後半戦がイマイチだった」って人もいて。それはアップセットがなくて、しかも〝あわや！〟のシーンさえもなかったからなんじゃないかと。

タコ 結果を見ると、勝ったほうのゲームプランまんまじゃないですか。勝ったほうが戦略的に緻密だったということなんやろうけど。

橋本 いみじくも大会直後に金沢さんが言ったんですけど「今日は、強いほうが勝ったってだけだね」って（笑）。

GK 大会が終わった瞬間の空気が、ちょい前の新日本の両国大会の雰囲気そっくりだったよねえ。

ガンツ それは極めてヤバいですねえ～（笑）。

GK 「さっ、帰ろうか」みたいなアッサリとした感じ。

タコ たしかに、客が席立つのがホンマに早かった！

橋本 そういう意味で、たとえば二年前の『ヘビー級GP 2nd ROUND』って、「今日は勝つべき人が勝ってくれればいい！」って思ったじゃないですか？ ヒョードルと小川とノゲイラ、ハリトーノフがFINALに残ってくれることを確認できればそれでいい、みたいな。

ガンツ その期待感が巨大すぎたんだよね。「世界で一番強い4人を決めよう」って、我々はそれをず～っと観たかったわけじゃない。

橋本 なのに今回は、そういう気分にはならなかったのはなぜか？

タコ テレビの打ち切りのムードなのかな……。

ジャン じつは、藤田和之への期待感の大きさゆえじゃないですか。ファンの藤田への期待感って、メディアの露出と比例してないから気づきづらいところはありますけど。

ガンツ いまの『PRIDE』のトップグループに藤田がどこまで食い込むかがポイントだったところはあったよね。

ジャン 藤田が『PRIDE』の序列をぶち壊すことができるんじゃないか？ という期待感を多くのファンは潜在的に感じていたはずなんですよね。

ガンツ やっぱり藤田和之は精神的にもズバ抜けて強いから。打たれ強いだけじゃないという。本来、ヴァンダレイのあんな攻撃を受けたら、気持ちが後退する。だって……あんなに痛いんだもん。

タコ そりゃ、痛いやろ！（笑）。

GK 逆に藤田は「パンチを食らっても、俺は落ちない！」という部分で自信過剰になってたのもあったでしょうね。あと自分のパンチに自信を持ちすぎちゃった。具志堅（用高）さんも「藤田のパンチは凄い！」って言ったらしいから。腰が入ってなくても手首のスナップが凄いから、かならず相手が失神する、って。

ガンツ 亀田興毅をけなす具志堅用高が、藤田和之を絶賛、と（笑）。

GK 藤田をいままで批判してた人も「藤田ってやっぱりすげえんだな」って評価が上がっちゃったよね。ただ、藤田はブランクが響いてるのは間違いない。スピードがないし、去年一年間にプロレスだけをやってたブランクは出てる。プロレスもリングに上がってないとダメだけど、格闘技もブランクってこんなに響くんだなってわかりましたね。

ジャン 猪木さんは「俺のもとを離れて幸せになったヤツはいない！」という具合のコメントを出してましたけどね（笑）。

タコ よう言うよな、猪木さんも（笑）。

GK で、これはカシンが言ってたんだけど、「やっぱり藤田vs吉田をやるべきだった」って。新日本が一時期、旬のカードをやらずに腐っていったけど、今回はその旬のカードをやるべきだったんじゃないかって。

ガンツ いや、カード発表した時点では、吉田vsミルコ、藤田vsヴァンダレイは、藤田vs吉田以上のスーパーカードだったんですよ。なぜかというと、その二人が「ミルコとシウバに勝てるんじゃないか？」って期待感があった。でも終わってみたら、実力差があった。

橋本 結果論なんだよね。それに藤田和之vs吉田秀彦を発表してたら、「FINALに日本人を残すため」って言われちゃうから。

ジャン たぶんですね、何を組んでも文句を言われたと思うんですよ。

橋本 そうなんだよね、結局は（笑）。

ジャン 結果的に振って出た目が悪かった。もうそこは運命に懸けるしかない領域だけど、これまでの『PRIDE』にはその領域すら突破してきた歴史があるじゃないですか。

ノゲイラ、ミルコ、ジョシュ、ヴァンダレイ。『PRIDE無差別級GP』決勝ラウンドには、人気・実力ともに世界屈指の強豪が残り、頂点にはヒョードルが控える。超人たちの宴はまだまだ終わらない。

タコ だから今回、俺は『PRIDE』を背負うという人間が見えなかったというか、そういう意志は希薄に見えるんやけどね。K−1 MAXなんか魔裟斗が過剰に背負うわけやないか。今回は視聴率を何パーセント取らんといかんって自分に課すわけやろ。

橋本 去年の大晦日前の「今年は『PRIDE』のほうがおもしろそうって発言を聞いて、ムカついたんで出ることにしました」って発言には「すげえな、魔裟斗」って思いましたね。

ガンツ いや、『PRIDE』を背負うってのは、あまり考えなくていいと思いますけどね。この競技に本気になることとイコールでついてくると思うし。ミルコは「『PRIDE』のため」じゃなく「『PRIDE』のチャンピオンになりたい」って想いが、ミルコに『PRIDE』を背負わせてると思うんですよ。

GK 藤田は『PRIDE』を背

負うというより、「興行を背負う」という気持ちを常に持ってるんですよ。それはね、彼がプロレスラーだからね。

タコ まさに、興行を背負うのはプロレスラーですわな。

GK やっぱり藤田も猪木さんから〝プロレスとは興行である〟という精神を教えられたと思うんですよ。勝負論もある。観客論もある。それをひっくるめたものがプロレスであると。だから興行のなかでの自分の役割に敏感なんです。「ファンの期待に応えるために何をすべきか？」ってことが身についてる。だからトンプソンやヴァンダレイと真っ向勝負する。

ガンツ 今回、GPに出てる選手は「この大会に人生を懸ける！」っていう人が多かったよね。TKだって『PRIDE』がどうとかじゃなく「この闘いにすべてをか懸けてるんだ」っていう思いが伝わってきたじゃない。

橋本 ただ今回は、前回のTKみたいな善戦とか健闘、奮闘なんてものが問題にならないぐらい、ベスト4ファイターのレベルの高さが凄かったと思うんだよ。「あの頑張りには泣けた！」という浪花節が通用しないんだもん。そこが「さ、帰ろっか」の原因だったのかもしれない。

ジャン 〝圧倒的な現実〟をただ確認しただけという側面もあったわけですね。

橋本 次のGPにしたって、ノゲイラ、ミルコ、シウバ、ジョシュの中から3人が確実に負けるんでしょう。こりゃ、ただごとじゃないよ！

ガンツ オーバー・ザ・トップロープもないし、長州力の乱入もないから、うやむやにできないよ（笑）。

GK 60分ドロー間際の脱水症状も……ないか（笑）。

橋本 いずれにせよ、みんなが救いのないかたちで負けていくわけだから。

GK 優勝して気持ちがいいのはジョシュかなって気がするけどね。

橋本 ハッピーエンド感が出そうなのはジョシュですね。ヴァンダレイとミルコが優勝したらすげえなあと思うだろうけど、感動のエンディングにはならないかなあ。

ジャン いやあ、ボクはこの4人なら誰が優勝しても、ファンは喜ぶと思いますけどね。たとえばミルコなんて天山広吉みたいなもんじゃないですか。G1で優勝しそうで、どうしてもできていないって意味では（笑）。そのぶんファンの想いも詰まっているだろうし。

橋本 ああ、たしかにさ、ミルコが優勝したときは、観客の心のエンドロールにヘビー級GPの一回戦でランデルマンに負けたところやなんかが走馬灯のように映し出されるんだろうなあ……。

ジャン だから観客は自分で終幕の映像を作らなければいけないし、心の中で煽り映像を用意しとかなきゃダメなんですよ。この4人が残ったわけですから、フジテレビの力を借りなくても感動できるはず。もうこれからは各自〝心の煽り映像〟を用意する！ということで。

タコ 決勝戦はこのまま盛り上がるやろうけど、次の『PRIDE』新章という感じでは始まらへんよね。

橋本 ……新章、あるのかなあ。

ガンツ それがじつはねぇ、この秋に始まるんですよ！

橋本 何が？

ガンツ 「『PRIDE』世界最強編」に続いて「『PRIDE』アメリカ激闘編」という新シリーズが！

橋本 なにそれ？

ガンツ 明後日のUFC61で、ヴァンダレイがオクタゴンに乗り込んで、チャック・リデルとの試合を発表するらしいんだよ！ さっき榊原代表にインタビューしたら、そんな発言が飛び出しました。

10月開催予定の『PRIDE』ラスベガス大会、UFCとの対抗戦、『PRIDE』新章はアメリカが舞台になる？ 身近で目撃できなくなることで、幻想性が高まるのは確実だ。

橋本 うわっ！ それは凄いねえ～!! 榊原さんが言ってたサプライズって、それだったのか……。

タコ まさに新シリーズが始まるわけやなあ～。

ジャン これまで団体対抗戦って、旬のときには絶対にやらなかったじゃないですか？ そのうえ、団体対抗戦での頂上対決は格闘技としては初ですよね。

ガンツ かつて新日本とUインターの対抗戦の一発目に武藤（敬司）vs髙田（延彦）をやるようなもんだよ。

ジャン で、どっちがUインターになるんですか？

ガンツ ……この流れでいくと、『PRIDE』がUインターになるのかなぁ（笑）。

タコ それ、あかんやん（笑）。

橋本 じゃあ桜庭は山ちゃん（山崎一夫）だったのかなあ。

ガンツ 一足先に沈む船から逃げ出したという（笑）。

GK でも、こうじゃなきゃダメなんだよね。一発目で髙田vs武藤をやらなきゃ。で、最終的な決着がつく前にどっちかの団体が潰れるというね（笑）。

ガンツ それか、みのもけんじ先生ばりに『PRIDEスターウォーズ』の開戦ですよ！

橋本 じゃあチビっ子ファンが「わ～ん！ シウバさん、強いよ～」って泣いちゃう感じだ（笑）。

ジャン ジム・クロケット・ジュニアの役柄なんて、UFCのダナ・ホワイトにピッタリですよ。とりあえず『プロレス・スターウォーズ』のストーリーをなぞるかたちで、初戦は日本vsアメリカ・5チーム選抜のタッグマッチをやってほしいですね（笑）。

GK まあ、タッグマッチなら傷つかないもんね。

ジャン ミルコ&ヒョードル組が恩讐を越えて実現したら最高ですよ！「うわぁぁーん！ ヒョードルさん、ミルコさん、なんだか泣けてきたよ～!!」という（笑）。

ガンツ 真面目な話、『PRIDE』のアメリカ進出は新たな格闘ドラマの始まりですよ。ビジネス的にも成功すれば大きな拡がりを持つだろうし。

ジャン UFCの巨大化は、多くのファンに伝わりきってないけど、『PRIDE』やK―1が大晦日ぐらいにしか起用できなかったホイス・グレイシーを簡単に使ってるわけですからね。そんなUFCに向かっていく『PRIDE』という構図はメチャクチャおもしろそうですね。

タコ 俺も初めてUFCがそんな大きくなってる聞いたわ。そういうのを『kamipro』で煽ってくれると、さっきの上位概念の話じゃないけど、観やすくなるよ。

ジャン　ウチはやってるんですよ！　目立たないながらも（笑）。

橋本　興行論で海外ネタを語る媒体はないからねえ。どうしてもマルセロ・ガウッシアがどうのこうのってなるから。だからUFCやアメリカ市場に関しては、マスコミの役割がより大事になってくるでしょうね。

ガンツ　それなのに我々は『プロレス・スターウォーズ』としてとらえてるという（笑）。

ジャン　地上波獲得も大事ですけど、こうなると本格的な海外戦略の幻想性はありますよね。猪木さんが引っ張りに引っ張って実現しなかったタメがあるのかもしれないけど（笑）。

タコ　新章の上位概念はそこですよ。「どこのテレビ局がつくのか？」より「どこの国が受け入れられやすいか」のほうがロマンあるよなあ。日本ではネガティブな話題が多いし、海外に飛び出せというかね。

ジャン　フジテレビ騒動の次は、6月吉日ボブ・サップ事件が起こりましたし（この座談会はボブサップが記者会見を開催する前に収録されたものです）。

タコ　それにしたって、いろんな噂は流れてるやんか。裏で『PRIDE』が糸を引いてるとか。

橋本　言われてる、言われてる。

ガンツ　でも、今回の件は、さすがに『PRIDE』が直接、手を下してることはないでしょう。

ジャン　まあ、『PRIDE』がやったとしたら、とんでもなくマヌケな仕業ですよね（笑）。

タコ　足がつきすぎやもんなあ。

ガンツ　それにサップ取ってても『PRIDE』は使い道ないでしょう。サップも『PRIDE』で闘いたいか？

橋本　それこそ敵前逃亡したくなる相手ばっかだし（笑）。でも、ハッスルにはほしいんじゃない？

ガンツ　いやあ、ギャラは高いし、日本語しゃべれないから無理でしょ。『チンパンニュースチャンネル』みたいに吹き替えならいいですけどね。サップが「ごもっとも！」とか言って（笑）。

タコ　『kamipro Hand』が一番先にボブ・サップのリリースを全文掲載したってことでも、いろいろ言われてるわけやろ？

ジャン　サップのリリースって時間差で各方面に流れたみたいですけど、その第一報はじつは昼すぎぐらいなんですよ。で、『kamipro Hand』に全文アップしたのは19時ぐらい。それまで、ほかサイトの状況や、現状の確認作業をしてて。

タコ　なるほどな。翌日のスポーツ紙とかは全文アップせずに、しかも内容の肝の部分を抜いた扱いやったからよけいに「キナ臭いぞ！」ってなったわけやんか。

ガンツ　「六月吉日　ボブサップ」という締めも載ってないし（笑）。

ジャン　しかし、この件はどこに着地をするのかわからないですけど、これからどういう展開になっても〝肝〟を抜いた報道だらけになりかねないですよねえ。

ガンツ　どっちの声明文も、ヤバいフレーズが満載だもんね。

ジャン　川又誠矢や『週刊現代』の『PRIDE』ネガティブキャンペーンだったら、一媒体が勝手にやってることとして、無視という立場は取れるんですよ。でも、こうやって正式なかたちでリリースされると、扱わざるを得ないんだけど、扱いたくない（笑）。

タコ　だから中途半端に扱って胡散臭くなるんや。

ガンツ　ホント難しいよ。谷川さんの反論文にしても、よく『kamipro Hand』で全文掲載してるよね。いいのかよ、これ！

橋本　というか、キミらのサイトでしょ？（笑）。

ガンツ　ま、部署が違いますから。

ジャン　ホント、電気部はボクたち編集部にはない勇気を持っていらっしゃる。

橋本　逃げるな、逃げるな（笑）。

ジャン　まあ、そのうち事態は沈静化すると思いますけどね。K-1側もサップの主張にしっかり反論してますし。ここは各媒体がどう動くのか注目するとおもしろいと思いますけど。

タコ　で、ここでもう一回話を戻すけど、『PRIDE』側による桜庭引き抜きの報復と噂されてる部分もあったわけやないか。プロレスの場合、そういう引き抜きが、でっかいアングルになっていくわけやろ？　新日本と全日本が本気で潰しにいってた当時は、結果的にどっちも活かすことになってたわけやんか。そういうことは格闘技には起こりえないんかな。

ガンツ　難しいですよねえ。だって、新日本と全日本は、いちおう裏では握手をしてたわけじゃないですか。

タコ　もう引き抜き自体がアングルになってたと。

ジャン　あと格闘技マスコミがタフじゃないんですよ。こういう騒動に慣れてない部分というか、触ってはいけないという不文律がなんとなくあるじゃないですか。もともとプロレス以上にダーティな業界だったこともあって。

GK　そうか。そこらへんプロレスマスコミはタフだよね（笑）。

ガンツ　このあいだ資料あさってて、20数年前の『週プロ』とか『ゴング』見てたら、ちびっ子ファンも読む雑誌なのに「クーデター」とか、ヤバいフレーズが次々出てくるんだよ。旧UWFのときなんて、豊田商事がどうのこうの書いてあったし、梶原一騎とデビュー前の三沢タイガーがガッチリ肩を組んでる写真なんて、〝黒い交際〟にしか見えない（笑）。

橋本　とても小学生が買って読む本じゃないよ（笑）。

GK　そういえば、俺、ベースボールマガジン社からWAR時代の天龍源一郎への「夢の架け橋」出場依頼の契約書のコピーを持ってましたよ。

一同　ガハハハハハハハ！

GK　会社辞めるんで机の片づけしてたら出てきて「なんで俺、こんなの持ってんだろ？」って（笑）。

タコ　そんなことまで首を突っ込んでいたら、タフにもなるわ（笑）。

ガンツ　本来なら、格闘技も梶原一騎とかがやってたことの延長だけど、それが健全な格闘技雑誌になっちゃったあとだから、難しいよね。だってほかは格闘競技の専門誌なんだから。

タコ　タフじゃないっていうのはまさしくそうで、こういう事態に直面したときに、マスコミはどうやって舵を切ったらいいのかという経験自体がないねんな。

ジャン　コマンドに「闘う」という項目がないですから。ほかの専門誌は「無視」のコマンドしかなくて、ウチの場合は「笑う」しかないという（笑）。

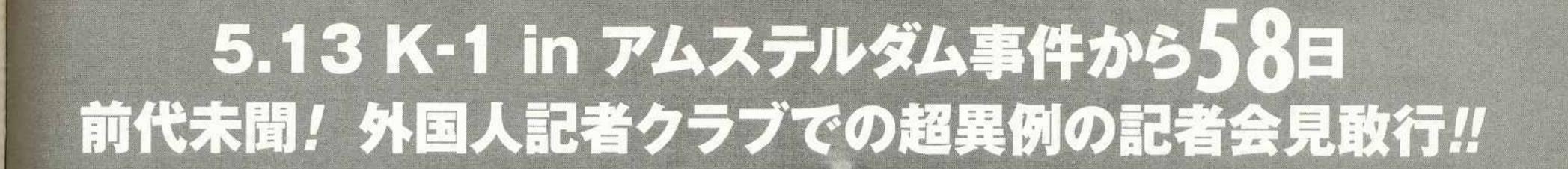
ガンツ　早くI編集長みたいに「妄想」のコマンドを習得したい（笑）。

タコ　どう着陸してくるのか誘導させる問題もあるね。

GK　まあ、相手が着陸してくる前に「逃げる」のが一番でしょうね（キッパリ）。

タコ　さすがタフな年長者の意見やなあ（笑）。

【06年7月吉日／新宿・某所にて収録】

'06 7.10
10:30 START
東京・有楽町
日本外国特派員協会にて

渦中の人物、ついに登場！

ボブ・サップ騒動徹底追跡!!

5.13 K-1アムステルダム大会、試合開始ド直前に、バンテージを巻いたままサップが失踪!! という、そんなバカな！ なニュースが舞い込んできて、早58日。その後、当事件については「（当日の対戦相手だった）ホーストから逃げたんじゃないか」「契約上のトラブルがあったのか」など、衝撃のPRIDE騒動が勃発した直後だっただけに、あることないことさまざまな憶測が飛び交う事態となった。

その後、記者会見等での説明がないまま、事態は収縮していく様子もあったのだが……。6月下旬、突然、マスコミ各社に「ボブ・サップ声明文」と書かれたFAXが届き、再熱！ さらに、当「声明文」に遺憾の意を示したFEG・谷川氏、さらにはサップの弁護士であるマイケル・コネット氏からも続けてFAXが届くという異例の展開に。

両者の肉声を聞けぬまま、まさに混乱状態となっていたこの騒動。しかし！ 7月10日、ついに、渦中の人物、ボブ・サップ本人が記者会見に姿を現わした!!

ここでは、両者（三者）がマスコミ各社に送信したFAXの内容、そして、記者会見での全発言を完全再録する。

構成／編集部　designed by Tani-yan (Two Thre

5.13事件後から記者会見までを追う

サップ、FEG、弁護士(サップ)の FAX文 全容公開！

マスコミ各社に突然送られてきたFAXとは、これだ!!
“事態の経緯”を説明したサップ、FEG谷川氏、両者のFAX文、
さらにはサップの弁護士であるコネット氏のFAX文、計3通。

互いが述べる“真実”の食い違いを、
さあ、どう読み解く!?

06年6月27日

事件から一ヵ月半が経過しようとしていたある日、突然「ボブ・サップ声明文」と書かれたFAXがマスコミ各社に送られてきた。その内容は、次のとおりである。

【ボブ・サップからのＦＡＸ声明文】

私は今年5月13日にオランダの『K－1欧州GP』で起きた出来事についてその真実を明かしたいと思います。なお、この文章は、私が英語で語った言葉を私の代理人が日本語の文章にしたものです。

まず初めに、私がオランダ大会に出場できなかったことについて、会場に足を運んでいただいた皆様、テレビの前で私の試合を楽しみにしていたファンの皆様に対し深くお詫び申し上げます。本日、私はオランダ大会で起こった全ての真実を皆様にお伝えしたいと思い、声明文を出すことを決意しました。

そもそも私は、ホースト選手の試合から逃げたわけではありません。すでに彼を2回KOしているわけですから、彼を恐れて逃げる必要などありません。私はオランダにいた時からこの声明文を出すまでの間、身の危険を感じながら、どう真実を語れば良いか、ずっと思い悩んでいました。「K－1」に裏切られ、失意の日々を送っていました。しかも、オランダ大会後、「K－1」の谷川氏を含む人たちが日本のマスコミに真実を全く語らなかったことに対し、私は言い様のない憤りを覚えました。そこで、全ての真実を語る必要があると強く感じ、今回のことを決心したのです。

事件の真相は次の通りです。

私はオランダ大会の1週間前から「K－1」からいくつかの新しい契約のオファーをもらい、それをお互いの弁護士を通じて交渉してきました。そもそも私と「K－1」との契約のなかで、「契約試合数」にかんしては全て履行しており、今回のホースト戦をするにあたっても、「K－1」側からは「ホースト戦も含めて、新たな契約を結びたい」という話しをもらっていたのです。ですので、新たな契約を結ぶにあたって、詳細に関するやり取りをしていました。そして、試合当日の午前9時に「K－1」に契約書を提出し、「K－1」側がこれを受領しました。この契約書とは、元々「K－1」が作成したもので、私たちがそれを修正したものです。その後、最終的にサインをもらうため、ずっと部屋で待っていたのです。しかし、何の音信もなかったため、午後1時にホテルを出る選手用のバスに乗ることができませんでした。すると、ホテルのロビーでは関係者らしき人たちが怒鳴りながら喧嘩をしていました。さらに「K－1」の関係者に『君が試合をしないと、もっと大変なことが起きるよ』と言われ、本当に怖くなり急遽二人のボディーガードを雇ったのです。

私は試合に出場するつもりで契約の交渉を進めていました。日本の報道では私が欠場をちらつかせて無理な要求をしたということになっているようですが、事実ではありません。私はプロのファイターとして契約書に基づいて試合をする為に、現地入りし、そしてあくまでビジネスに基づいて契約交渉をしていたに過ぎません。私は当然、「K－1」が契約を結んでくれるという約束を信じてオランダへ行ったのです。

そして午後2時が3時になって、「K－1」の弁護士から電話が入りました。同日午前9時に私の出した契約書について、弁護士が『「K－1」の谷川代表が、契約書に同意しました。谷川氏は会場で待っているので、会場に来てください。彼は会場でサインする』と言われたため、私はボディガードと一緒に会場に向かいました。

私はオープニングセレモニーに出た後、ロッカールームでずっと谷川氏を待っていました。私はウォームアップをし、手にはテーピングもして、戦うつもりで準備をしていました。しかし、2時間以上待っても彼は全く姿を現わしませんでした。その間、フジテレビや「K－1」スタッフに対して、谷川氏を呼ぶように何回も催促しました。結局谷川氏は来ませんでした。すると、谷川氏の代わりに、「K－1」の共催者で地元のオランダ人プロモーターと男二人がロッカールームに乱入してきたのです。プロモーターが『お前が戦わないと、誰かが傷つけられたり、死ぬこともあるぞ』と脅迫しました。私は強い恐怖を感じ、試合開始が近づくにつれて居ても立ってもいられなくなり、契約書を持ってリングサイドにまで行ったのです。石井館長に谷川氏を呼んでサインするよう求めました。私の試合は30分後に始まるので、本当に切羽詰まって追い詰められた状況でした。

その時石井館長は、契約書を初めて見たかのように装い、全く取り合ってくれませんでした。その後「K－1」の弁護士がやって来て『谷川氏は英語を読めないから、契約書にサインできない。今朝同意した契約書かどうかわからない』などと言ってきました。しかし、今朝提出してから既に9時間も経っています。しかも今朝提出し、その後彼等が同意をした契約書と全く同じ契約書でした。2時間以上ロッカールームで待たされ、弁護士は接触しようともしてこないで、この土壇場でこんなことを言ってくる。そこで私は気づいたのです。「K－1」は、サインする意思は皆無で騙されたのだと。さらに、リングサイドで凶暴そうな男たちに囲まれ、彼らは脅迫や暴言を私に繰り返してきました。そして、「K－1」の地元プロモーターが、『お前が戦わないなら、人が殺される』と再度私を脅したうえ、彼が拳銃を持っているかのような仕草までしたのです。「K－1」側もこの暴挙を知っていたにも関わらず、ただ傍観していました。

ボディガードは、私の命が危ないと判断して『直ちに会場を去るべきだ』と言い、やむを得ずに会場を後にしました。この経緯は地元の警察でも調べており、私も捜査協力を頼まれました。よく考えた末、捜査に協力すると決断しました。「K－1」と地元の共催者はどういう関係にあるのか、私にはわかりませんので、直接「K－1」に問い合わせていただければと思います。私が聞いた所によると、以前、この「K－1」の地元共催者たる人間は暴力事件を起こし、つい最近まで警察に捕らえられていた犯罪者です。

私はオランダで起きた事実を日本のファンに知ってもらいたいのです。冒頭にも申し上げた通り、いまだに身の危険を感じています。しかし黙ったままいたのでは、結局何も解決しないと判断し、この声明文を出すことを決心しました。

最後に本件に関して、「K－1」、フジテレビ、ファンの皆様にお願いしたいことを列記し、私の声明文とさせていただきます。

「K－1」に対して。

オランダ大会後、「K－1」は日本のマスコミや日本のファンに真実を伝えておらず、自分たちの保身に終始してきました。それらの誤った報道によって私の名誉・イメージ、格闘家としての評価が著しく落とされたことには、強い怒りを覚えています。「K－1」に対してこれまで一方的に流していたデマを撤回するとともに、真実を認めて謝罪してほしいのです。そしてプロモーターとして信頼関係を築き直し、安心して戦える場を私に提供してほしい。「K－1」が、格闘家としてのデビューを応援してくれたことに感謝している一方、私を、このような危険

な状況にさらしたうえ、助けようとしなかったことについては、裏切られた心境です。

フジテレビに対して。

オランダ大会を放送したフジテレビは、オランダにおいて私と「K—1」と地元共催者との間で起きた本当の事を知りながら、ただ黙って傍観し、イベント放送中と放送後も真実を全く語ろうとしなかった行為に極めて遺憾に思います。実は、私のロッカールームにフジテレビのスタッフもずっと居合わせており、出来事の一部を目撃しています。担当者の名前を知っていますが、友達だと思っているので私の口からは言いたくありません。彼女には勇気を持って真実を語ってほしいのです。しかし、彼女の立場も理解しているつもりなので、もし彼女が真実を話すことができなくても責めることはしません。また、私とファンへの説明責任を放棄したことに対しても大変遺憾に思います。事件後、フジテレビは一度も私から事情を聞こうとしていません。恐らくファンへ真実を語る必要性を感じていないのでしょう。どうして事実を伝えようとしないのでしょうか？

ファンに対して。

私はプロのファイターです。プロとして契約を守り、一刻も早くリングに上がってファンの皆様の前に戦う姿を見せたいのです。「K—1」はプロモーターとして信用と、安心して戦う場を私に約束してもらえるなら、私はいつでも戦う用意があります。しかし、オランダ大会と同じ悪夢のような恐怖をもう二度と味わいたくないのです。

日本のファン、マスコミ各社、イベントを放送するフジテレビを含む皆様にも応援していただけるよう、心からお願い申し上げます。

なお、私は近日中に記者会見を開き、自らの言葉で話したいと思っています。

【2006年6月吉日　ボブ・サップ】

「ボブ・サップ声明文」が届いた翌日、その内容に対し、「事実に反することが多数書かれています」と指摘するFAXがFEG代表・谷川貞治氏からマスコミ各社に届けられた。

【FEG・谷川貞治氏からのFAX】

マスコミ各位殿

マスコミの皆様方におかれましては、平素より別格のお引き立てを賜わり、誠にありがとうございます。

さて、この度は弊社と長期契約期間中にあるボブ・サップ選手の件に関しまして、大変お騒がせし、ご心配をおかけしていることを心よりお詫び申し上げます。ご存知のように、サップ選手は5月13日の『K—1オランダ大会』でアーネスト・ホースト選手と対戦する予定だったにもかかわらず、当日会場で開会式にも出席しておきながら、試合をボイコットして会場をあとにしました。このことについて、6月27日にサップ選手より、第三者を介して「声明文」がリリースされましたので、混乱を防ぐ意味もあって、あえて弊社の見解を述べようと思います。

サップ選手が出した「声明文」の中には、このオランダ大会に関して、事実に反することが多数書かれています。その中でも、とりわけ重大な事実誤認部分について以下のとおり正させていただきます。

① まず、サップ選手は昨年末より、K—1との長期契約期間を更に延長したいという意志を持ち、契約の見直しを申し出てきました。その際、サップ選手は、他団体から高額のオファーを受けているので、延長の条件も高額であるべきだとの要求がなされました。私共も、こうしたサップ選手の要求に対し、可能な限りサップ選手の意向を汲んであげようと思い、本人と具体的な条件につき直接交渉してきました。そこでは、当然のことながら、5月13日のオランダ大会における対ホースト戦が前提となっていました。

2006年4月の終わりごろ、サップ選手から、自分の代理人として、山森克史国際法律事務所の山森克史弁護士を立てたいとの意向が表明され、具体的な延長契約書の完成に向けて、山森弁護士を含む関係者全員が鋭意作業を続けていました。ところが、オランダ大会の約1週間前である2006年5月7日に、突然、PRIDEを主催する（株）DSEの弁護士を務めているマイケル・コネット氏（日本在住米国人弁護士）から弊社に対し、「今回はあくまでも個人的にボブの相談相手になっている。あくまでも主任弁護士は山森先生である。」という前提で、自分もサップ選手側の代理人であるとの連絡が入りました。マイケル・コネット氏は日本での弁護士資格を有していないことからしても、何故このタイミングで別の弁護士が増えるのか、私共は当惑しましたが、サップ選手から「あくまでも主任は山森弁護士で、延長契約書を確認するのも山森弁護士であるから、山森弁護士と遣り取りして欲しい」との指示を受けたので、私共は、山森弁護士と話を続けることにしました。なお、後で発覚したのですが、山森弁護士は、上記コネット弁護士の紹介でサップ選手を代理するに至ったようです。

上記オランダ大会が目前に迫っていた2006年5月11日深夜、延長契約が弁護士間で一旦合意されました。しかしながら、サップ選手の方から、延長契約の大枠すら覆すような全く新しい提案が突然なされました。オランダ大会の2日前に、これまで話し合い、かつ了解してきた内容を大きく覆され、私共のみならず、山森弁護士まで大いに困惑しました。しかし、熟慮した結果、サップ選手の要求を極限まで認める方向で協議が再開されました。関係者の必死の努力で、2006年5月13日（試合当日）の早朝から午前中にかけて、弁護士間で新たな延長契約書が整備され、後は署名を待つのみとなりました。上記の遣り取りにつきましては、全てEメール・ファクシミリ等で記録されています。

こうした関係者の努力にもかかわらず、試合当日になって、再びサップ選手が延長契約の大枠を変えたい旨申し出てきました。今回は、前回の変更要求をさらに上回り、「もう延長契約に興味はない。この試合が終わったら、現在の長期契約を破棄してほしい。認めなければ試合には出ない。今回の試合の報酬は無料でよいから自分を長期契約からリリースしろ」と強要してきたのです。私共は、本当にサップ選手は真面目に私共と向き合う意思があるのかと大いに不安になりました。当然のことながら、こうした強要に届することは出来ないので、私共は、サップ選手の申し出を断りました。当日サップ選手が長期契約破棄を迫ってきたことについては、延長契約成立にご尽力いただいた山森弁護士にとっても驚きであり、むしろ、サップ選手には、延長契約がまとまりかけだしたころから、別の者と連絡を取っていた節があります。その後、サップ選手や山森弁護士と遣り取りを繰り返し、なんとかサップ選手に会場に来てもらったのですが、自身の試合の30分前に、自ら作った長期契約破棄のための合意書と思しき書面を手にリングサイドに現れ、署名を強要してきたのです。私自身は試合の解説をしていましたので、その時リングサイドで何が起こっているのか正確に把握できず、対応することも出来ませんでした。そしてそのままサップ選手は会場をあとにしたのです。もちろん、リングサイドで観戦していた石井館長は、現在K—1の現場から離れている立場なので、サップ選手が何故そのような要求をしているかの背景すら知らない上に、サップ選手が押し付けてきた長期契約破棄のための合意書と思しき書面の意味も存在も知らなかったことは言うまでもありません。

② サップ選手は「声明文」の中で、何かとフジテレビの名前を出していますが、ご存知のように選手とプロモーターの間で結ばれるファイティング及びマネージメント契約は全て選手とプロモーター／マネジメント会社間の問題であって、テレビ局がそこに関与することは全くありません。サップ選手のオランダでのトラブルは、起こってからフジテレビのスタッフが知ったことであり、さらに正確に言えば、試合後に私共から事の経緯を説明しに行ったことで、初めて具体的な内容を知っていただいたというのが真実です。従って、どんな意図があって「声明文」にフジテレビの名前が強調して書かれているか分かりませんが、嫌がらせ・八つ当たりにも似た記載に過ぎません。このことによってフジテレビの皆様にご迷惑をおかけしたことは、この場を借りてお詫び申し上げる次第です。

③ サップ選手は、会場でオランダの地元プロモーターに暴言を吐かれて身の危険を感じたと主張していますが、その地元プロモーターに確認したところ、サップ選手が試合をボイコットしようとする行為に対して困惑したが、そのような暴言はおろか、論争すらしていないということでした。また、それについては多くの目撃者も存在すると断言しています。そもそも、このオランダ大会は第1部が「イッツ・ショウタイム」、第2部が「K—1　W・GP」というジョイントでイベントを行ったのですが、地元プロモーターは第1部の「イッツ・ショウタイム」のプロモーターであり、第2部の「K—1　W・GP」はマッチメイク等全て日本サイドで仕切っているので、サップ選手の件は直接関係ないのです。サップ選手もそのことを理解していたのか、オランダ大会直後に自主的に行った海外のインタビューで「地元プロモーターはむしろ被害者で何も悪くない」といった趣旨の発言をしていました。それなのになぜ、今回このように、地元プロモーターまで巻き込むような発言に急に変わったのか理解に苦しみます。

また、当然のことながら、声明文に記載されていたようなホテルのロビーで、喧嘩があ

サップ、FEG、弁護士のFAX文全容公開!

った事実は全くありません。会場の各入り口でも空港で使用するような金属探知器を設置してセキュリティにあたっていましたので、危険物が持ち込まれた事実も一切ありません。サップ選手は、自ら日本のある人物を介してオランダ人のボディ・ガードを数名雇ったと言っていましたが、異常に過剰な反応としか思えませんでした、私共としては、そのような得体の知れないボディ・ガード数名の会場入りを拒否することも出来たのですが、「それでサップ選手がアウェイの地で安心して試合が出来るのならば」と上記ボディ・ガード数名の入場を受け入れた次第です。もちろん、私共K―1と致しましては、格闘技という素晴らしいスポーツを世に広めようと、長い間心血を注いで活動してきましたので、その夢を壊すような反社会的勢力に関与することは、今後も一切ありえません。

このようにサップ選手の「声明文」については、具体的に証言や証拠も挙げながらひとつひとつ完全に否定することは出来るのですが、私共としては、サップ選手との事態を泥沼化させるより、一刻も早く解決することを目指しています。現在の格闘技界の状況に照らしても、これ以上格闘技のイメージを貶めることなく、健全で夢のあるジャンルにし続けることこそ本望でございます。

最後になりますが、サップ選手に対しての私共の気持ちをお伝えします。

確かに、サップ選手がこのオランダ大会で起した件に対して、私共は大変遺憾に感じていますし、計り知れないほどのイメージダウンを受けました。しかしながら、サップ選手と我々が失った信用を回復するには、もう一度サップ選手自身にK―1のリングに上がってもらい、ファイターとして素晴らしい試合をしてもらうことが一番だと考え、7月30日の札幌大会でアーネスト・ホースト選手とのリベンジ戦を契約に則り誠実にオファーしていたのです。サップ選手には日本でもう一度、ホースト選手と試合に向けた調印式を行い、ファンに必ず試合に参加することを真摯に約束し、日本で、伊原道場等において一生懸命トレーニングして試合に臨む姿勢を見せれば、勝敗に関係なく、サップ選手の復活の第一歩となると考えたのです。

しかし、残念ながら私共のこのオファーはサップ選手に断られてしまいました。しかも、今回のように真実を曲げてでも自己弁護すれば、ファンにも納得してもらえるのではないかと甘く考えるサップ選手の姿勢には、本当に心を痛めて止みません。それでもサップ選手は私共が独自に米国で発掘し、手塩にかけて売り出してきた大切なスター選手の一人です。今でも、サップ選手の可能性は信じていますし、長期契約を結んでいる以上、今後も定期的に試合のオファーをしていく予定です。もしサップ選手が心無い第三者の意見に惑わされているのなら、早く目を覚ましていただきたい気持ちでいっぱいなのです。

マスコミの皆様におかれましては、以上の事情を考慮されながら、どうか格闘技のイメージをこれ以上悪化させないようご配慮いただくとともに、後向きな話題あるいは事実を適切に反映しないような話題を、不必要に過大にお取り扱いになりませぬよう、心よりお願い申し上げます。上記のようにサップ選手の「声明文」に対して説明させていただいたのは、あくまでもこの件を面白おかしく煽り立てないでいただきたいからです。これまで、私共はサップ選手のことを思い、オランダの件に関しましてもマスコミで騒がれていてもコメントは出来るだけ差し控えてきました。現在もまだ、サップ選手が活躍していた頃のようにハングリーな気持ちを取り戻し、必ずやよい形で復活することを信じていますし、そのために今後も交渉を続けていく所存です。また、サップ選手には、心無い第三者の意見を鵜呑みにして、これ以上自らのイメージを貶める行為はくれぐれも慎むよう願って止みません。

皆様には大変お見苦しい状況をお見せしてしまいましたが、一刻も早く解決できるよう努力していく所存ですので、温かい目で見守っていただけますようお願い申し上げます。

【K―1　イベントプロデューサー
株式会社FEG代表取締役　谷川貞治】

谷川氏から送られたFAXの内容を受けて、今度はサップの弁護士であるコネット氏から「谷川氏の言こそが重大な事実誤認がある」と主張するFAXが届けられる。

【マイケル・コネット弁護士からのFAX】

「ボブ・サップ氏声明文に対するFEG谷川貞治氏の反論について」～ボブ・サップ代理人マイケル・コネット

マスコミ各位殿

6月27日にボブ・サップ選手から出された声明文に対して、翌々日の29日に株式会社FEGの谷川貞治氏から反論のFAXが出されました。氏曰く『事実に反することが多数書かれている』とのことですが、谷川氏の言こそが重大な事実誤認があることを本文をもって説明いたします。

まず、私に対する誤った認識を糺したいと思います。

まず谷川氏が私のことを『PRIDEを主催する（株）DSEの弁護士を務めている』と述べていますが、誤解を招く非常に不正確な表現です。私は（株）DSEの専属弁護士ではなく、（株）DSEは数ある依頼人の一人に過ぎません。私は完全に独立した弁護士で、いわゆる格闘技業界のなかにあって色々な人の代理人を務めています。例えば「K―1」が私を雇うならば、もちろんそれも可能です。

また、私のことを『日本での弁護士資格を有していない』などと言っていますが、私はカリフォルニア州での弁護士資格と、日本でも外国法事務弁護士としての資格を持っています。その活動は法務省からも認められたものです。個人を言葉で攻撃する際は、まずきちんと事実関係を確認された方が良いでしょう。私に対することだけでも、これだけ事実誤認があるわけですから、その他の事項に関してもいわずもがなです。また、日本でボブ・サップ選手の代理人を務める山森弁護士に聞いたところ、先生も、自分に関係する谷川氏のコメントには誤解を招く部分もあると話しています。

では、今回の反論について、そもそも私が腑に落ちないのは、谷川氏がどういった立場で、反論されているかなのです。サップ氏の声明文は、「K―1」、「フジテレビ」、「ファン」に向けてされたものですが、谷川氏はこの三者のいずれにも該当しない、株式会社FEGの代表取締役です。つまり、サップ氏が契約交渉をしていたのは、（株）FEGではなく、株式会社K―1です。本来であれば、（株）K―1の現代表取締役社長である渋谷久美子氏、もしくはサップ氏とのそもそもの契約の当事者であるK―1元代表（法人税法違反などの罪に問われ、上告中）がすべきです。

そしてまた、先月「K―1」側から私に『もしボブ・サップが公に事実を語ったら、お前の名誉を失墜させてやる』との脅しを受けました。まさしく今回彼らは、その脅迫通りのことを実行に移し、反論文のなかで私のことを先述した通りに侮辱しています。

そして本来の問題は、私への個人攻撃ではなく、「K―1」側からサップ氏を危険にさらしたことです。私への攻撃をすることでオランダで起こった脅迫事件から注意をそらし、本件の核心から遠ざけようとする主張は甚だ遺憾です。サップ選手に対して誠意を持って対応し、一刻も早くこの問題を解決できるよう、オランダ大会での出来事や契約問題の解決に専心していただけることをお願いする次第です。

そしてマスコミの皆様におかれましては、今後もこの問題を注目していただき、何が真実なのかを報道いただけるようお願い申し上げる次第です

【2006年7月3日
マイケル・コネット、外国法事務弁護士】

5.13、オランダで何が起こったのか

公の場で、ついにその“真相”が明かされた!!

ボブ・サップ会見 完全再録!

事件後、完全にマスコミの前から姿を消していたボブ・サップが、ついに記者会見に登場! しかも、日本外国特派員協会(通称・外国人記者クラブ)で会見を行なうという前代未聞の展開に。5月13日、いったい現地で何が起こっていたのか、さらに、今後のボブ・サップの行方は?

弁護士のマイケル・コネット氏同席のもと、サップの口から、その“真実”が語られた。

【会見冒頭で、前ページで掲載した「ボブ・サップ声明文」が本人の口から読み上げられる。その後、マスコミによる質疑応答へ。

※なお、当会見の質疑応答はすべて英語で行なわれ、本誌ではその録音テープをもとに翻訳した内容を記載している。】

——オランダの現地のプロモーター、サイモン・ルッソは「ボブ・サップが試合を承諾して（石井）館長に『今晩、闘います』と言った」と話しているが、それは本当ですか？

サップ　ノー。それは真実ではありません。

——では、どうしてサイモン・ルッソはそのようなことを公表したのでしょうか？　あなたの声明によると、館長はそこにいたと。でも、サイモン・ルッソの発表とあなたのおっしゃってることには相違が見られます。この説明をお願いします。

サップ　K－1サイドとは話が違ってきています。本当に、私自身どうしてそういうことになっているのかわからないのです。今回、私が石井館長と直接接触したのは私が部屋（会場内のロッカールーム）を出たときでした。

——では、日中（大会前）は石井館長に会いましたか？

サップ　そうです。石井館長に会ったのはその日の日中のことで、谷川氏に契約にサインをしてもらえるように館長にお願いしました。石井館長と話した内容はほとんどそれだけです。

——ということは、石井館長とプライベートルームで会ったことはないのですね？

サップ　そのとおりです。プライベートルームで石井館長と接触することはありませんでした。

——契約について、もう少し詳しく話してください。試合前にもかかわらず、契約がないのに、どうしてオランダまで行ったんですか。途中で気持ちが変わったということはないのですか？　契約の内容を一日前に変えるなんて、おかしくないですか？

サップ　ちょっと待ってください。これは本当におかしなことだったんです。試合会場で契約書にサインするなど、普通では考えられません。ここは私が強調したいところでもあります。普通なら、試合の一週間前に契約が結ばれるなんて例外中の例外です。選手は試合に集中するべきで、契約にサインするためでなく、試合をしに会場に行くのです。ましてや試合の前日に契約の話など、普通では考えられません。今回のように試合の前日に契約の内容が変わるという事態は非常識で、なぜK－1がこの問題を指摘しなかったのか、私自身も驚いています。

——どうしてK－1は契約書をサインしなかったのでしょう？　そしてなぜ、あたかもサインを約束するような誘導的行動をしたのでしょうか？

サップ　私たちはK－1側の新しい弁護士ナカハラ・トオル氏より、契約書にはサインをすると聞かされていましたが、結局サインはされなかった。理由は、単に過去のすべての契約が無効になるからでしょう。これまでの契約にも謳われているように、フル・ライフ・タイム（＝終身、長期の意）契約には一週間や二日ではなく、30日を要することが法的に明確に記されているからです。しかし、今回彼らは私に30日の猶予を与えたくなかった。ですから、契約書がない状態でも「とにかく闘え」というふうに半ば脅迫されたようなものです。すでに会場には何千人というファンが待っていましたし、会場では対戦相手も準備が整ってました。もの凄いプレッシャーを感じたし、すでにあとに引けない状態にまでなっていたことは充分わかっていましたが、危うく彼らの思うツボにはまるところでした。契約書がない以上は闘えないし、少しの身の危険も感じたので会場を去りました。

——契約書のことをおっしゃいましたが、二つほど質問をさせてください。まず、あなたの声明文によると、あなたは契約書をリバイス（改訂）して認めさせようとしたとのことですが、どの部分をリバイスしたのですか？　谷川氏はあなたの希望された条件は度を超えていると言っています。

サップ　契約書の内容については秘密文書であるため公表できないことをご理解いただいた上で、質問に答えられる範囲で答えますが、まず、リバイスが行なわれたのは、（アムステルダム）アリーナでのことです。どうか、このことだけは理解していただきたいのですが、K－1側が持ってきた改訂版の契約書にも私とライフ・タイム契約を結ぶには30日の期間（の交渉）が必要であると明確に記されているのです。それに私は一生の決断を一日ですることはできませんし、試合の一日前はおろか、一週間前でもそんな大切な契約にサインすることなどできません。万が一、その「30日の期間を要する」という部分が明記されてなかったとしたら、もしかしたら何かほかの手段を施すことができたのかもしれませんが、私はしませんでした。契約書にサインをする、ということは、契約書に書かれていることに従う、という意味です。今回の場合、それは「試合をすること」でした。私はそれにサインをしなかった。だから、試合をする義務もない。単にそれだけのことです。ですから、このことは皆さまにご理解いただきたいのです。サインをするから、試合をする。サインをしないのなら試合はできない。こんなシンプルなことなのです。

——K－1はあなたと長期での契約を結びたいと望んでいたのですか？

サップ　そうです。長期にわたる契約について話し合いを続けていました。しかし、どちらにせよ一日や一週間では決められない重要なことです。そのことはもちろん申し出ました。

——あなたはK－1を信用していたのに、裏切られたようなかたちとなってしまいました。いまとなってもK－1ファイターとして活躍を続けたいと望みますか？　それとも『PRIDE』に転身するとか？

サップ　もちろん私は格闘家ですし、リングの上に立ち続けたいと望んでいます。K－1とのあいだにはいくつかの信用問題が起こってしまい……いくつものですよ。このような記者会見で話をすることをとても残念に思っています。しかしながら、今後の話し合いの中で今回の件のみならず、税金の問題やロイヤリティの問題などいくつかの問題点を協議し、改善していかなくてはいけないと思っていますし、その責任と義務を自覚しています。K－1側は断固としてこれに応じない印象を受けますが、私は2005年から試合を待っています。法的に契約の改定そのものが難しいのであれば、同意書でもなんでも、きちんとメールや紙の上で約束をしてくれればいいのです。

——ほかのリングで闘う可能性は？　『PRIDE』とか？

サップ　ほかのリングで闘う可能性はあるかもしれませんが、まだはっきりと答えられません。これまではK－1が私をブッキングしていたので、K－1との契約の件をクリアにしなくてはならないからです。ただ、この場ではっきりと申し上げたいことは、〝ビースト〟は嫌な思い出を抱いたまま日本を絶対に離れたくありませんし、いままで支援してくれた日本の方々、日本のファンには本当に感謝しているし、ここでファイトできたことは誇りに思っています。

——私はレポーターで、今回、何が起こって、何が問題とされているのか詳細を知らされてないままこの会場にいるのですが、脱税の件について簡単にどういうことかご説明いただけますか？

サップ　……つまり私が言えるのは、こういうことです。基本的に私のマネージャーとプロモーターをしてるのがK－1です。ですから、今回彼らが裁判を起こそうとしていることや、私を訴えようとしていることは、極めて異例で不可思議なことです。マネージャーとしてK－1が責任を持ってケアをするクライアントは、つまり「私」であるわけで、その私をプロモーターでもあるK－1が訴える、ということはK－1がK－1自らを裁判にかけ、訴えることと同じです。複雑で非常に興味深い現象だと思います。税金の問題に関しては、とてもシンプルなことです。日本における興行すべてに関しては私のマネージャーであるK－1が興行営業・広報を担当し日本の法律に則って活動、

またしかるべき確定申告をしているはずです。私は法に則り、本国アメリカにもきちんと税金を申告しています。今回の（オランダ）大会のあと、K−1の経理担当者から一通のメールを受け取りました。それを見ると、K−1はいままでの経理に関する記録をなくしているようでした。ワオ！　それは大変なことで、私への脅しにも見受けられますが、私は心配していません。なぜなら、私はそれ（経理的な記録）をなくしてませんからね！　私の収入、経理の記録はアメリカにちゃんとありますから、私には関係ありません。

——わかりました。ありがとうございます。あなたにもう一つ質問をさせてください。あなた自身、とても大柄な男性で怪力であるにもかかわらず、当時、試合会場で、「とても凶暴な感じの男性たち」に恐れを抱いた、というコメントがなかなか信じられないのですが？

サップ　それは、あなたの想像する「恐れ」や「脅迫」といった情報と当時私が感じた「恐れ」に違いがあるからでしょう。私は自分自身の身の危険だけでなく、ファンの安全も考えて「恐れ」を抱いたのです。あのときは会場がとても殺気立っていましたし、それはテレビでも感じることができたと思います。あのとき、私が試合に出なかったからという理由で、会場に集まったファンはもちろんのこと、私自身がケガや事故に巻き込まれるような事態は絶対に避けたかったのです。

——なるほど、そしてあの事件のあと、あなたはボディーガードを強化したと伝えられましたが、この会場にはそれに値するようなボディーガードは見受けられませんね。日本ではその「恐れ」を感じないのですか？

【会見場の隅にいた男性が立ち上がり、自分がボディーガードであることを意思表示する】

——ＯＫ。誰を恐れているのですか？　詰まるところ、あなたを恐がらせた男たちとは「ギャングスター」系の人たちだったということですか？　言えますか？

サップ　いえ、そういうことではありません。私が常に注意を払っているのは、ほとんどお集まりいただいた皆さんの安全なのです。問題解決に関しては弁護士団が協議に入っていますし、いまは余計な争いや恐れを招く必要はないと判断しました。そして、問題はすぐに解決されることを望んでいます。そういうことです。

——簡単に質問させてください。あなたは法的手段でK−1に訴えかけるつもりですか？　隣には弁護士がお座りになってるのを見受けられますが。

サップ　いえ、いまのところはまだ決定的に法的手段に出ようとは思っていません。問題がそれ以前に解決すればいいと願っています。時間がかかる問題なので、解決を待つ期間を利用して、日本で今後も活動をしていく上で知っておくべき必要な法的事項を理解しておこうと思い弁護士を雇っています。これ以上、問題が複雑になるのは望んでいませんし、不当な契約書にサインをすることなど望んでいません。しかし、今回K−1が起こした私の名誉毀損にかかわる問題が解決されないのであれば、私はK−1を離れるしかありません。私は無理矢理にでもK−1からリタイアしようとはしていませんが、今後しばらくはアリーナで私のファイトをお見せすることができなくなるでしょう。そしてこの問題の解決が長引いた場合、法的手段をとる可能性もあります。本当に残念なことです。もう（最後に試合をしてから）7ヵ月になるのです。侮辱され（名誉棄損）、脅迫もされましたから、私は（他団体への出場に向けて）しかるべき手段をとるまでです。しかしながら、それはK−1にとっては好都合なのではないでしょうか？　彼らは私を訴えたいはずです。彼らは金がほしいんですから、私が働いてたほうがいいんじゃないですか（笑）。誰でも生計を立てなきゃいけませんからね。もちろん、私自身もですが。

——マイケル氏に質問があります。いつボブ・サップ氏に雇われたのですか？　というのも、あなたはＤＳＥ側の方ですよね？　皆、ボブ・サップ氏があなたとＤＳＥに操られているという推測をしてますが？

マイケル　その件は新聞で記事を読みました。ＤＳＥは多くのクライアントの中の一つでした。ですが、私は日本における多くのクライアントを持つフリーの独立した弁護士で『ＰＲＩＤＥ』やＤＳＥの専属弁護士ではありません。『週刊現代』やK−1が出版しているオフィシャル雑誌（発言ママ）の中で、私についてそのようなコメントをするなど、極めてばかげた話です。K−1の谷川氏の発言やそのほかの記事にもそういったことが掲載されてましたが、私自身の口からそのようなことは一切コメントしていません。サップ氏の弁護人として登場したことで、私について記事が載りましたが、そのことはK−1側も理解しているはずです。あと、興味深いことにサップの声明文発表の直後に彼ら（メディア）は私を個人的にも攻撃してきました。

——ですから、いつ、ボブ・サップ氏に雇われたのですか？

マイク　いま、一ヵ月です。

——オランダでの事件以来、日本やオランダでの今後の活動はどうなっていくのですか？（※意訳）。

サップ　とにかく、日本において格闘家として活動できるのであれば、それを第一に考えたいし、それを可能にするために必要なことはしますし、そのために弁護団と協議をしてます。石井氏やK−1とも話をして、日本での活動を円滑にするため取らなければならない手段はきちんと取るつもりです。

——3つ質問があります。ボディーガードを雇ったのは誰ですか？

サップ　雇ったのは私です。それにボディーガードは安全のためにいつもいますし、時と場合によって雇われます。

——しかし、彼らはＤＳＥに雇われたと言ってますが？

サップ　彼らがＤＳＥの人間かどうかは私は知りませんが、彼らは私からコンタクトを取りました。

——去年からＤＳＥからオファーがあったようですが？

サップ　いいえ、ありません。それこそ、わたしはK−1との問題がスムーズに解決して、K−1から新しい契約ができるのだと思ってました。皆さまにご理解いただきたいのは、私がサインした契約書は東京都裁判所の承認を得たもので、そのことは誤解であることを皆さんにご理解いただきたい。

——では、なぜ事前に契約を解約しなかったのですか？　谷川氏によると、あなたはリングに立つ寸前に契約破棄の書類を提示したということですが？

サップ　契約解約の書類に関しては、K−1側に何ヵ月も前から提出しています。しかし、彼らからなんの返答もありませんでした。私は話し合いの時間を充分用意していたのに、K−1側からはなんの返答もないままで、私がリングに立つ2、3時間前に差し迫ってきたのです。そんな状況下で私がサインできるわけありません。さあ、試合だ、という間際にサインをしろ、というのです。無理でしょう？　当然ですよ。

——二つ質問があります。オランダのあとに契約はどうなったのですか？

サップ　いまのところ、契約はメールでのやりとりによって、ライフ・タイム（終身）契約からロング・ターム（長期）契約に変更されました。その意図はわかりません。

——K−1からの正式な謝罪を望んでいますか？　もしくはそれ以上を望んでいますか？

サップ　K−1側が私に謝罪をしたがっていますし、こちら側も事を荒らげないよう穏便にしようという姿勢ではいます。しかし、残念ながらいまの段階では（感情的にも）ちゃんとした話し合いが持てない状態で、時間だけが進んでいます。ただ、状況はどうであれ、申し訳ないが、私も生計を立てていかなくてはならないし、待ってはいられない。しかし、小さな試合で食いつないでいこうなどと思ってませんし、だいたい、私は試合をしていません。そのことはK−1側も理解してほしいと思います。もう私のことが嫌いなら、自由にしてもらいたい。

——今回の事件はオランダ警察に摘発されたと聞きましたが、誰が通告したのでしょうか？　それともオランダ警察はたまたまその現場にいたのでしょうか？

サップ　私はなぜオランダ警察が今回の事件に関与してるのか、理由などわかりません。ただ、大げさに書き立てただけかもしれません。たまたまサッカーのワールドカップと重なって、警察が神経過敏になっていただけかもしれません。ですから、どんな小さなことでも神経質に取り調べしたのでしょう。私はK−1のマネージャーに「警察とは関わるな」と言われました。

——取り調べを受けたのは誰ですか？

サップ　K−1の（オランダの）プロモーターです。しかし、通常そうであるように、「もう騒ぎは起こさないように」と忠告を受けただけです。

——実際に「事件」として取り扱われたのですか？　また、「○○事件」という名前がつけられたのですか？

サップ　「事件」の名称など知りません。カメラやビデオで現場検証してましたが、それは安全対策のためです。もしくはどんな小さな騒ぎでも「事件」として扱いたかったのでしょう。

——あなたとK−1は互いに真実を語ろうとしてますが、ファンは混乱しています。ファンに釈明をお願いしていいですか？

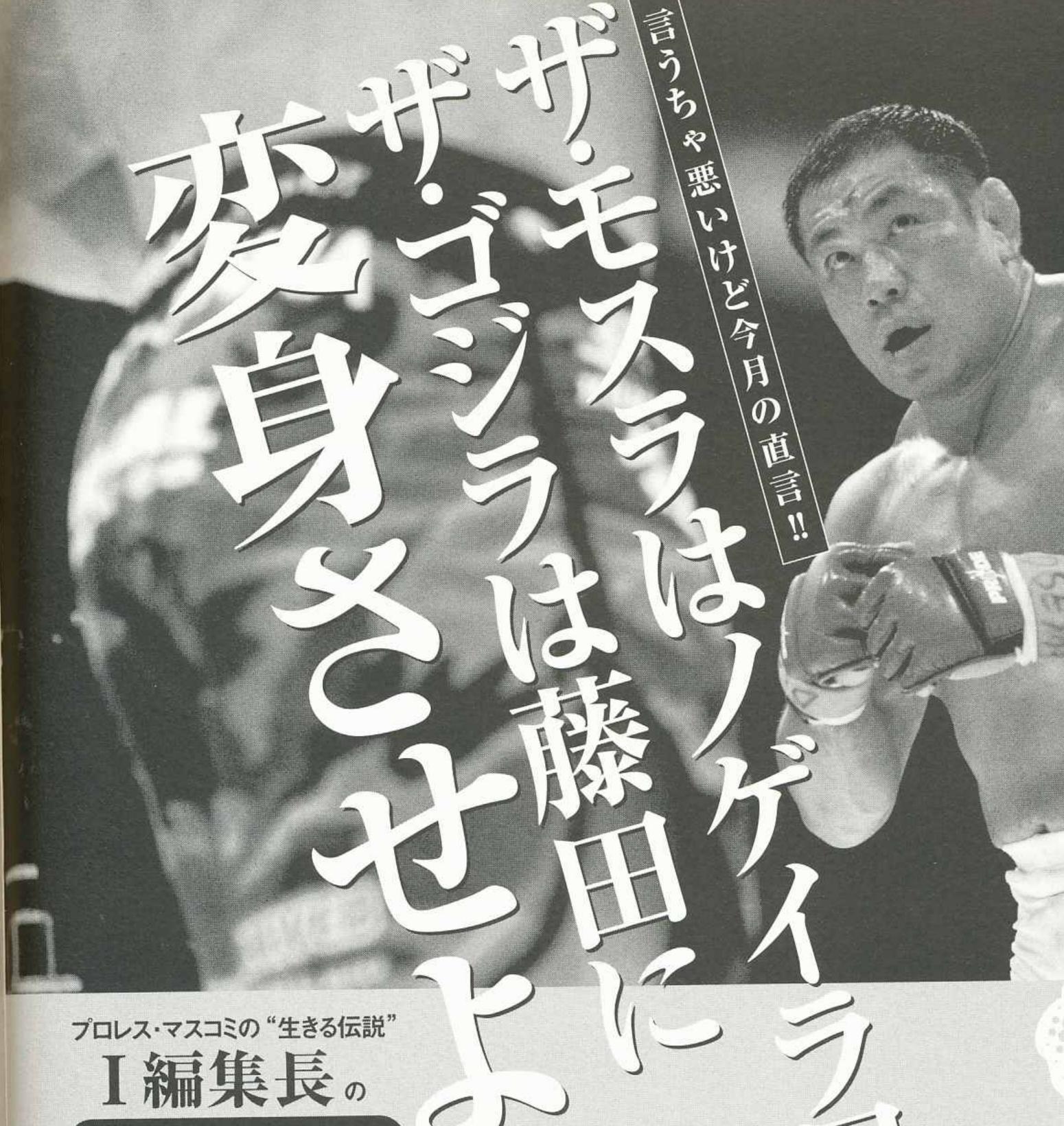
サップ　もちろんです。ファンの皆さまが混乱しているのは理解しています。私が強調したいのは、試合を控えた一日前、一週間前に、しかもオランダで、なぜ契約の話が持ち上がらなければならなかったか、そこが問題なのです。第一、契約の話をなぜオランダでしなくてはならなかったのか、そこが理解できないところなのです。試合の前に契約は交わされるべきで、それをもって闘いに臨むべきだったのです。それであればこのような問題は起こってません。以上です。

言うちゃ悪いけど今月の直言!!

ザ・モスラはノゲイラ兄 ザ・ゴジラは藤田に変身させせよ!

プロレス・マスコミの"生きる伝説"

I編集長の

喫茶店トークラウンド

発売中の『kamipro Special 2006 SUMMER』7.1PRIDE.GP速報号での、『喫茶店トーク』において、「『PRIDE』はベガスに向けて、覆面ファイター、ザ・ゴジラ&ザ・モスラを作りだせ!」という驚愕の提言を行なってくれたI編集長。『PRIDE』vsUFC開戦が決定し、その妄想パワーはさらに増大中だ。今月は何が飛び出すか!?

聞き手/堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳を越えたいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

——さて、井上さん。「『PRIDE』はもう駄目なんじゃないか」との世評の中で、井上さんだけは「プロレスと違ってプロ格闘技の『PRIDE』には底力がある。苦しい経営状態は続くだろうが、潰れるはずがない」とおっしゃっておられた。その通りの方向が色濃く出てきたことで、改めて、井上さんの目から見た『PRIDE』の今後を占っていただきたいのですが…。

井上 (大声で)『PRIDE』健在なり!

——うわっ、ビックリした。

井上 それを満天下に示したのが7・1『無差別級GP』二回戦ですよ。

——そんな大声で言わなくても……。

井上 (無視して) 何しろ、さいたまスーパーアリーナに4万5000人近い大観衆を集めたのだから、「それ見たことか!」ではあったね。しかも、チケットの大半は実券で、コンビニのカウンターの横に積んであるタダ券とはわけが違う(笑)。PRIDEファンの「『PRIDE』を潰してはならない!」との意識のなせる業でもあるが、『PRIDE』に底力がなかったら、ああした現象は生じない。

——そのことは、会場でヒシヒシと感じましたね。

井上 かつて国際プロレスという団体があった。TBSがなんとか後押ししたのだけど、結局、潰れてしまった。末期の国プロなんて哀れでね。あの広い大阪府立(体育会館)に300人ぐらいしか集まらなかった。それも「半分はタダ券です」と営業担当の若い兄いちゃんが暗い表情で耳打ちしてくれたものだ。金網デス

マッチの連発で、これ以上、やりようがないというところまでラッシャー（木村）なんか頑張ったんだけど、どうにもならなかった。吉原（功）社長なんか、何度もリングの中央で切腹しようと図ったというぜ。

――寂し過ぎる話ですね。

井上　だから、マスコミが団体の足を引っ張るような報道をしたら駄目なんだよ！　スキャンダラスな面だけを強調した暴露本なんて、それが真実に近いものであっても絶対に世に出すべきではない。「700万円出しますが、暴露本どうですか？」と涎が垂れそうな話を持ちかけられたのに、きっぱり断った硬骨漢が大阪にいた。それが本当だよ。あのときの俺は本当にピィーピィーしてたんだからな。

――感動物語ですね（笑）。

井上　ところで、なんの話だ？（笑）。

――井上さんの目からご覧になった『PRIDE』の巻き返しと今後の見通しですよ（笑）。

井上　そうだった（笑）。何度も言っているが、海外戦略にこそ札束が眠っているってことだ。榊原（信行）社長はベガス、ロスといったアメリカ・マーケットだけじゃなく、ブラジル、中国、ヨーロッパ、韓国などにも積極的に打って出るとぶち上げた。とくにブラジルは有望株だ。手広く市場拡大を狙うのもいいが、やはり、ブラジルに重点を置くべきだ。

――ほうブラジルですか。

井上　ブラジルにはブラジリアン・トップチーム、シュートボクセ・アカデミー、グレイシー一族などがひしめいている。いまのところ、ブラジルでの興行地盤は弱い。それを一つにまとめて、『PRIDE』がビジネスにすることだ。このことは、単に、ブラジル国内だけで興行を行なうという意味だけじゃないんだよな。ブラジルでぼっ発したチーム別戦争を世界のマーケットに輸出する方策を考えるべきですよ！　アメリカはアメリカだけのお膳立てなんて愚の骨頂だ。早い話、UFCとブラジル内戦を結びつけるチエこそ成功への道だ。

――そこまでリンクさせますか（笑）。

井上　当たり前ですよ！　ただ、局地戦争に終わらせてはならん。あくまでワールドワイドな観点に立って、世界に通用する骨組みにしないとな。

――どういうことですか？

シウバとリデルが10回やったら10回シウバの勝ちですよ！

井上　具体的に言えば、各セクションにチャンピオンを作り、タイトルマッチと団体対抗戦の二本柱を興行の核に据えろっていうことだ。

――各クラスに王者を設けよということですか？

井上　そう。榊原社長はこのことに気がついているから、大きな顔をしてああだ、こうだと言いたくはないんだが、ヘビー級、ミドル級、ライト級、ウェルター級だけの王座ではなく、いまやっている「無差別級GP」の優勝者とは別に、同王座のチャンピオン決定戦を行なって王者を設定する。その真の王者に、その年の『無差別級GP』の優勝者がチャレンジするという方式だ。今年は時間もないことなので、9月10日の優勝者をもって初代王者とするという臨時の措置もやむを得ないだろうが、来年からはチャンピオン決定トーナメントを個別に行なって王者を決めることだ。『無差別級GP』と二本建てになるが、その方が権威も生じるし、興行の地盤も安定する。

――たとえばチャンピオン決定戦でハリトーノフが、『無差別級GP』でノゲイラ兄が優勝して、ふたり二人つかり合うというやり方ですか。

井上　そうだ。その勝者が大晦日にPRIDEヘビー級チャンピオンとタイトル統一戦をやる。ヘビー級王者ヒョードルにノゲイラ兄がぶつかっていく大一番だ。無論、無差別級だけじゃなく、スタンディング部門、グラップリング部門の王者を別に設け、ベガスではスタンディング王者のミルコがチャック・リデルのチャレンジを受けて闘い、中国の上海ではノゲイラ兄が中国出身の柔道家のチャレンジを受けて寝技部門でのタイトルマッチを行なうといったやり方だ。柔道を主軸としたこのやり方はパリなどでは成功すると見ているんだが……。

――もの凄く飛躍していますが、独創的でおもしろい企画ですね（笑）。

井上　とにかく、なんらかの形でタイトルマッチ、対抗試合を組む必要がある。無論、真剣勝負の世界だから、賞金マッチをやるというのも一つの手だろう。ヒクソンに誰でもいいから掛かって行け。勝てば100万ドルといった具合いだ。無論、大っぴらに賭けの対象となる。トトカルチョだ。世の中、賭けをはずしたのでは儲からない。ベガスなんかではガンガンやることだ。ロスではシュワちゃん（シュワルツェネッガー州知事）が許可しないだろうが（笑）。

――そのベガスですが、今年の11月にUFC大会で、ヴァンダレイ・シウバ（PRIDEミドル級王者）とチャック・リデル（UFCライトヘビー級王者）が対決します。タイトルが懸かるかどうか。現時点ではそこまで決まっていないようですが……。

井上　フーン。いよいよ、『PRIDE』とUFCの戦争が始まるな。先陣を承るのがシウバというのも、自慢するわけじゃないがどんぴしゃりだ。

――充分、自慢してます（笑）。

井上　（かまわず）ヒョードルを『PRIDE』の王者でございというんでオクタゴンの真ん中に立たせても、「オメエ、なんだ？」で終いだからな。やはりUFCのファンが知った顔を第一戦には持ってくる必要がある。桜庭（和志）がいない以上、考えられるのは、かつてオクタゴンで闘ったことのあるシウバだけだ。UFCの古株は、「シウバなんてオクタゴンで勝てないものだから、日本へ行かざるを得なくなったんだ」なんて笑っていたんだが、強くなったシウバを見たらキモを潰すぜ。この前（7月1日）の藤田（和之）との〝殺し〟なんて、オクタゴンの中では滅多に見られない、もの凄いものだ。だからな、リデルもやみくもに振り回すパンチがラッキーに当たればいいが、そうでなければ、いまのシウバには10回闘って10回とも負ける。

――10回やって10回！　そこまで差がありますか⁉

井上　そりゃそうですよ！　だからリデルはヘタにライトヘビー級のタイトルなど懸けないことだ。とにかく、ベガスのファンは「ジャップなんて、やっぱりパールハーバーだ。フジタにしたって、ザ・ゴジラなんてリングネームがピッタシじゃん」と目を丸くすることだろう。

――凄い反応ですね（笑）。

井上　ノゲイラ兄のザ・モスラはモゾモゾしすぎてウケないかもしれんが、あのゴジラぶりは大ウケにウケるからねぇ！

――ち、ちょっと待ってください！「ザ・モスラ」の正体はノゲイラ兄だったんですか⁉（笑）。

井上　そりゃあ、地べたでモゾモゾ闘えるのは、ノゲイラでしょうが！

――モスラは幼虫なんですね（笑）。

井上　そういったことも踏まえ、プロ格者が「編集長の『藤田をザ・ゴジラとして売りだせ』なる提案は〝妄想〟や〝井上小説〟ではなく、ひどく実現可能な話なんですね」と電話で話していたが、わが意を得たりといったところだった。青い目のファンには、こうした持っていき方しか正解はない（キッパリ）。10月21日のベガス旗揚げ戦には、ズバリ、藤田をゴジラとして売りだすことだ。2、3試合やったあとで、「ザ・ゴジラにリングネームを変えます」では遅い。いまから用意周到に考えて、間違いのない戦術を立てることだ。

――ちょうど藤田選手はシウバに敗れたあと、ファンの前から〝消えて〟ますから、ゴジラに変身するにはちょうどいいかもしれませんね（笑）。

井上 それと10・21にシウバを出すというのなら、強い選手を相手に選ばないことだ。ベガスのファンにはそこそこ馴染みがあるが……といった選手にワリを食ってもらうことだ。

――アメリカで名が知れているが、実力的には一枚落ちる選手を選べ、と。

井上 同じことは藤田の相手にも言える。日本と違って、カードの中身なんて考慮に入れて会場にやって来るファンなんていない。みんな、相手などどうでもいいんだ。ただ、強い勝ち方、もの凄い試合をやって見せれば、それで事は足りる。ロスでやったチェ・ホンマンとザ・プレデターのド素人の殴り合いがいい例ですよ。あれがアメリカでは立派に興行が成り立つ。この意味で、藤田のザ・ゴジラは正解となる。何も俺はおもしろ半分にあんなことを言い出したんじゃないからねぇ！ よくよく考えて、青い目のファンがワーッと飛びつく方法は何か。それには、日本人即ちゴジラとの持って行き方こそ正解と踏んだのだ。

出場予定選手としてジョシュ、ルッテン、レスナー、小川、永田、中邑、村上、柴田らアントンになんらかの関わりがあった大物選手をズラリと並べた『ゲノム』。実際に出場するのは「メカユージで出る」と宣言した永田さんぐらいだと思われるが、アントンの愛娘・猪木寛子さんのデビューだけは実現してほしい！

9・1『イノキ・ゲノム』なんて成立するわけないんだよな！

――熟考のうえ導きだされた答えがゴジラだと（笑）。

井上 地元のテレビ局にしたって、アクビをしたままでカメラを回したって仕方がない。アナウンサーや解説者が「お〜と、あのゴジラの扮装で出てきた選手は見てくれだけじゃなく、本物のゴジラそっくりのパワーと迫力ですね。あの男の正体は誰なのか。いずれ、皆さんに正体を明かすときが来ると思います！」と叫んでこそ、『ＰＲＩＤＥ』と手を結んだ値打ちがあったってことになる。

――素晴らしい実況です（笑）。

井上 だから、あんまりルールを制限しすぎると迫力を欠く結果となって感心しない。たとえば首をつかんでのヒザ攻撃なんかを禁止すると、セーム・シュルトだけじゃなく、シウバにしたって勝ち味を失なって、せっかくの迫力がどこかへいってしまう。これでは興行論は成立しない。とにかく、日本感覚をガラリと捨てることだ。そのためにもヘタなＧＰやトーナメントはやらないほうがいい。どうしても、まともなルールを適用しないといけないとなるからだ。スペシャルマッチ（ワンマッチ）の連発でいいんでね。

――まぁ、ちょっとトーナメントは食傷気味でもありますよね。

井上 とにかく意外性を持たせるにはどうしたらいいかが勝負となる。ＤＳＥとＵＦＣの戦争だけに限らない。ブラジルでの試合にしても、ある程度、こうした色合いを加味しないと、ブラジル勢と日本人の対決だけで客が集められるとは思えない。地元のヒーローはヒーロー。それ以外にアニメ的なキャラクターを総動員する必要もあるし、マスクマンを次から次へと送り出すというご苦労もついて回る。メキシコじゃないんだからじゃなく、ブラジル人でもそれに似た感覚が求められている。ルチャ的な軽いものも子どもや若いファンは求めているんじゃないのかな。上海なんかでのマンガ志向、アニメ志向が意外とミーハー的なのがいい例だ。そんなに高い水準を求めてはいないってことだ！

――熱弁ありがとうございました（笑）。ところで、アントニオ猪木が立ち上げようとしている9・1日本武道館『イノキ・ゲノム』はいかがですか？

井上 急に話題を変えるな！ 言っておくが、俺は「アントニオ猪木弁護士会会長」と言われてはいるが、なんでもかんでも猪木を擁護する気なんて小指の先ほども持ち合わせていないからねぇ！

――すいません（笑）。

井上 9・1『イノキ・ゲノム』なんて成立するわけがないだろう！

――成立するわけがない！

井上 そりゃそうですよ！ 猪木が候補に挙げた選手のうち、小川直也、ジョシュ・バーネット、マーク・コールマンなんかはＤＳＥの契約選手で、出てくるはずがないんだよな！ ＤＳＥが潰れかけていて、それらの選手が闘う場所を失なってしまっているとでもいうのなら、まだ話はわかるが。いま言ったように、ＤＳＥは国内だけじゃなく海外でもマーケットをつかみかけているのだから、闘う場所はいくらでも出てくるって寸法だ。となると、誰もありがたがって「イノキさん、お願いします」とはならない。

――となると、誰が出てくるんでしょうね？

井上 所詮、猪木の意のままになる新日レスラーだけとなって、なんとも変わり映えのしない顔振れとなる。これでは興行など成り立たない。ということは、大晦日の『イノキボンバイエ』（仮称）もなしってことだ。

――そう断言していいんですね（笑）。

井上 第一、テレビ局のどこが『ボンバイエ』をオンエアーするというんだよ！ 日本テレビはまず『男祭り』に名乗り出るだろうし、ＴＢＳは亀田兄弟、フジテレビが『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』に手を出すか、出さないか。残るのはテレビ朝日だが、さて……といった思案。まず『ボンバイエ』は引き取り手がいない。ただ、猪木が別立てとして口にしている『プロ格闘技リーグ戦』のほうは可能性大ありだ。

――あ、そっちは可能性ありですか。

井上 こっちは何しろ『イノキ・ゲノム』と違って猪木自身のプロデュースではないからねぇ。韓国で開催されると伝えられている『Ｘ−ｉｍｐａｃｔ』（韓国の世界格闘技連盟＝ＷＸＦ主催）にしても、猪木が噛んでいないまったく関係のない団体が行なう興行。4月29日（現地時間）、アメリカのアトランティックシティで行なわれた新しい総合格闘技イベントの『ＩＦＬ（インターナショナル・ファイティング・リーグ）』にしても、猪木が名目だけのコミッショナー兼アドバイザーにすぎない。だから成功したのであって、猪木のプロデュースならおそらく失敗していただろう。だから、猪木が口にしている『プロ格闘技リーグ戦』は猪木直接ではないだけに成功すると見ているんだ。

――猪木さんが直接手を下さなければ成功すると（笑）。また来月もよろしくお願いします！

【06年7月10日／電話取材にて収録】

語ろう!! この男の存在を忘れちゃダメや!

おまえ、平田だろ!

新弟子時代は前田日明と同期
カナダではモヒカンのインディアン
そしてキン肉マンになり損ねた男とは……

平田淳嗣

蘇れ! 昭和新日本プロレス 黄金伝説

破天荒なエピソードの宝庫として、本誌の大好物である昭和新日本プロレス。その中でもとくにとんでもないのが、70年代末、伝説の"前田寮長時代"の新日本合宿所だろう。そんな時代の真っ只中を生き、のちに「マシン軍団」として一世を風靡した男に、その破天荒な人生を語ってもらった。その男の名は、おまえ、平田だろ!

聞き手&撮影/堀江ガンツ designed by shiraki (TwoThree)

中学からプロレスラーを目指して浜辺でドロップキックの練習したり空手チョップやったりしてましたね

——平田さん、はじめまして！　本誌初登場ということで、よろしくお願いします！

平田　はい、よろしくお願いします。

——平田さんは現在、『レッスルランド』のスポークスマンとしても活躍されてますけど、そこに至るまでのプロレス人生を今日はたっぷりとうかがわせてください。

平田　第一回の『レッスルランド』が5月13日にあったんですけど、それは自分の新日本プロレス入門記念日なんですよ（笑）。

——あ、そうなんですか（笑）。そもそもプロレスラーになるきっかけはなんだったんですか？

平田　きっかけというか、もともとドロドロのプロレスファンだったんですよ。

——ドロドロのプロレスファン（笑）。

平田　誰のファンというより、プロレスそのものが好きで、小学校5～6年から中学生ぐらいまではプロレスキ○○イでね。小学校時代は見るぐらいだったけど、中学入ってからはプロレスラーになるために柔道部に入ったんですよ。

——中1ですでにプロレスラーになる準備に入りましたか。

平田　あとは、ウチの親父が鉄工所をやってまして、鉄板とか、バーになるようなものがけっこうあったんでね、それを使って手作りのダンベルでトレーニングしたりして、まぁ、真似ごとですけどね、練習してましたね。あと海が近かったんで、朝早く起きて浜辺で走り込んだりとか、ドロップキックの練習したりとか（笑）。

——すでにドロップキックも練習してましたか（笑）。

平田　あとは、庭の杉の木に空手チョップをやったり。

——ガハハハハ！

平田　いま考えるとバカですよね（笑）。で、ホントは中学卒業してすぐプロレス入りしたかったんですけど、親の手前、「高校ぐらいは」っていうんで高校行きまして。でも、2年生のときに、「ここにいても俺はなかなかプロレスラーにはなれないな」と思って、東京に出て身体を作りたくて中退したんですよ。

——それで上京したわけですか。

平田　親には大反対されましたけどね。で、渋谷の新聞配達屋さんに住み込みで働いて。当時はエレベーターとかない時代ですから、仕事はキツかったんですけど、「これも練習だ」と思って、マンションの階段は全部駆け上がって、一生懸命走りながらやってましたね。だから足にはもの凄い自信があったんですよ。あと並行してボディービルセンターにも通いまして、そこで身体を大きくして。バーベルスクワットで180キロぐらいのヤツ持ってましたからね。いまは上がらないですけど（笑）。

——そこから新日本プロレスに入ったのはどういった経緯だったんですか？

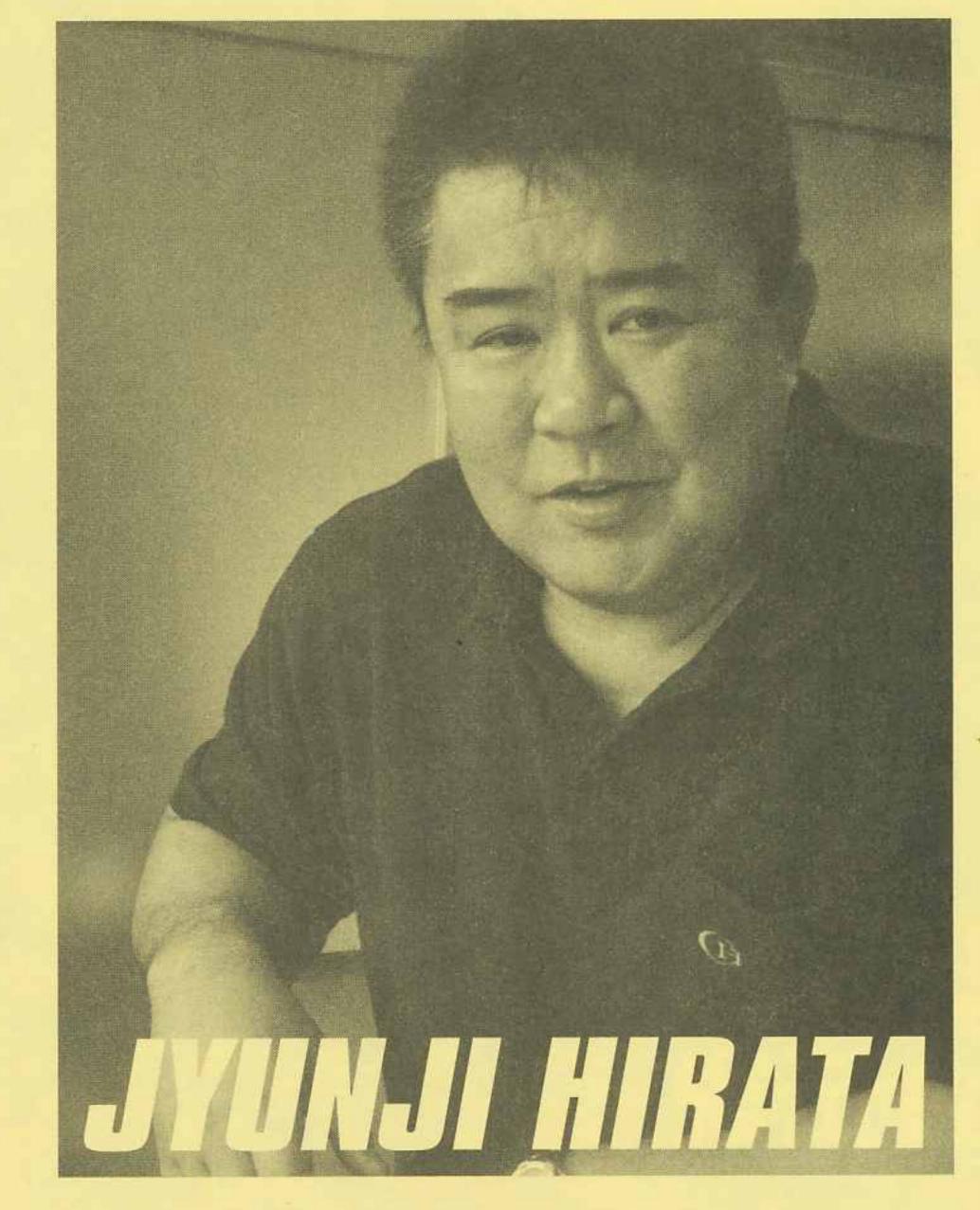
平田　これはあんまり公表してこなかったことなんですけど、新日本プロレスに入る前、じつは全日本プロレスに入門してるんですよ。

——え!?　そうだったんですか？

平田　短い期間だったんですけど、自分は渋谷に住んでいて、全日本の道場が恵比寿で近かったから、道場の練習を覗き見に行ったんです。それで覗いてたら怒られて、そのとき「すいません、入門したいんですけど」って言ったら中に入れてもらえたんですよ。

——あ、そんなアッサリ（笑）。誰に入れてもらったんですか？

平田　あのときいたのは高千穂（明久＝ザ・グレート・カブキ）さん、ロッキー羽田さん、大仁田（厚）さん、渕（正信）さん、ジャンボ鶴田さん、上の人ではサムソン・クツワダさんですね。そこで「裸になってみ」って裸になったら「おっ、いい身体してるな。明日練習に来い、テストするから」って言われて。で、次の日行ったら、いきなりもの凄いスパーリングが始まりまして。

——いきなりスパーリングですか（笑）。

平田　それもいきなり相手が鶴田さんで、自分柔道はやってたけど、レスリング系はほとんどやったことなかったんで、ギトギトにされましたね。

——相手は五輪レスラーですからね（笑）。

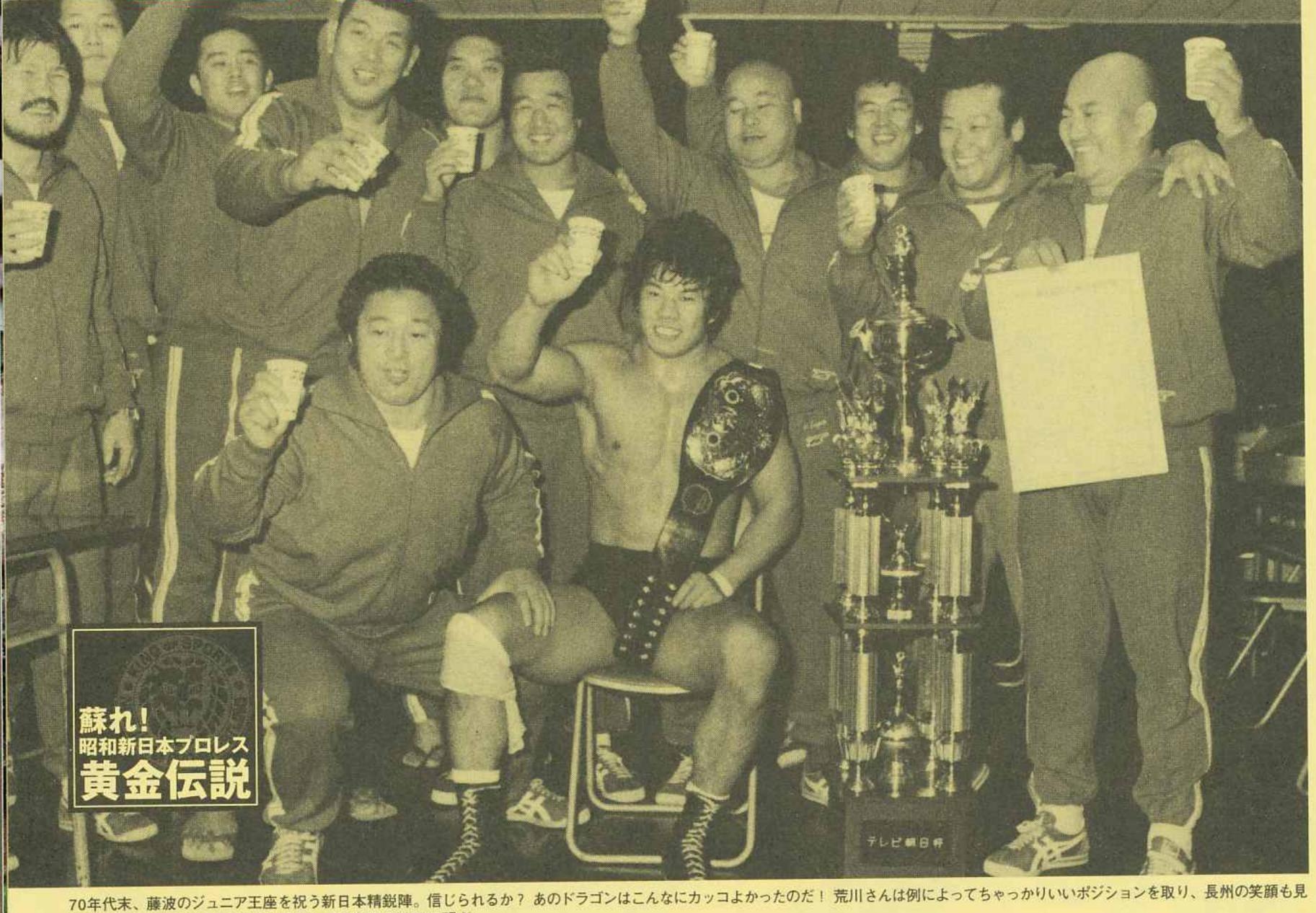
平田　その後、渕さんや大仁田さんともやらされて、2時間ぐらいぶっ続けでギトギトにされて。それで、終わったあと「やる気があるんだったら事務所に来い」って言われたんで、次の日、身体はボロボロだったんですけど事務所に行ったら「おう、おまえよく来たな。あそこまでやられたら普通来ねえぞ」って言われて、それでちょっと全日本プロレスさんにお世話になったんですよ。

——その二時間のスパーに耐えられるかどうかが、入門テストだったんですね。

平田　入ったあとは、ちゃんと巡業とかにもついていって、馬場さんがジャック・ブリスコに勝ってNWAの世界チャンピオンになった鹿児島の試合とかもついていってるんですよ。凄いときに入っちゃったな、と思いましたけどね（笑）。

——その全日本を辞めたのは、何が理由だ

語ろう!! この男の存在を忘れちゃダメや!

じつはデビュー前に一度、全日本プロレスに入門してるんです

70年代末、藤波のジュニア王座を祝う新日本精鋭陣。信じられるか？ あのドラゴンはこんなにカッコよかったのだ！ 荒川さんは例によってちゃっかりいいポジションを取り、長州の笑顔も見える。なお、後方左から3番目が平田。その左隣が前田日明だ。

ったんですか?

平田　親父が病気で倒れたのと、自分自身の体調を崩したのが重なっちゃって、凄く悩んだんですけど、辞めたんですよ。でも、辞める前に大仁田さんに挨拶ができなかったのが心残りですね。合宿所に行って、鶴田さん、渕さんには話したんですけど、大仁田さんはたまたまいなくて。一番面倒見てもらって、映画とかも連れていってもらったりしてたのに黙って辞めちゃったみたいになって。鶴田さんには、温かい言葉をかけてもらいましたけどね。

——どんなことを言われたんですか?

平田　自分は「辞めます」って言いながら、悔しくて涙を流してたんですけど「おまえ、どこの世界に行っても、俺のレベルまで稼げるようになれよ」って言ってくれて。

——稼ぎの話ですか！　さすがジャンボさんですね（笑）。

平田　いまだに当時の鶴田さんのレベルまでいってないかもしれないけど（笑）。

——ガハハハハ！

平田　そういう言葉がもの凄くありがたかったですね。で、一回実家に帰ったんですけど、やっぱりどうしてもプロレスがやりたくて、もう一度上京して新聞屋さんに務めたんですよ。それと並行してジムでの練習も再開して、今度はもう何があっても辞めるようなことがないように自分を追い込んで。で、その当時、新聞屋の店長に誘われて一緒に武道館に新日本を観に行ったんですよ。猪木vsチャック・ウェップナーを。

——格闘技世界一決定戦ですね。

平田　その試合を観たら「猪木さん、カッコいいな」と思ってね。そしたら全日本に戻ることより、頭の中が新日本プロレスばっかりになっちゃってね（笑）。

——たった一試合で、すっかり新日派になっちゃいましたか（笑）。

平田　その後も新日本の試合を何度か観に行ったんですけど、パンフレット買って、また何日かあとに読み返したら「新人募集」っていうのが載ってたんですよ。それがちょうど応募締め切り直後で、それでもダメ元で、当時、鬼コーチと呼ばれていた山本小鉄さんに手紙を書いて、青山の事務所に送ったら、自分が勤めてるお店に小鉄さんから電話がかかってきたんですよ。「今度、大田区体育館で興行があるから、テストしてやるから来い」って。それで行きまして、テスト受けまして、即入門、と。

——新日本も一発合格ですか。まぁ、元全日本の練習生で、身体もできてるわけですからね。

平田　体型的には体重は80キロちょっとぐらいで、年齢も21歳になってたんですけど、その手紙がよかったんでしょうね、個人的にテストで入ったっていうのは、その手紙で気持ちが伝わったのかなって。それで晴れて新日本プロレスで再出発っていうか、自分はこれがプロレス人生のスタートだと思ってますね。

——入ったとき、合宿所にはどんなメンバーがいたんですか?

平田　合宿所は小林邦昭さんが寮長で、あとは前田（日明）さん、ジョージ（高野）、ヒロ斉藤さん、それから辞めちゃった花薗選手。あと（ドン）荒川さんもいましたね。

——じつに素晴らしいメンバーですね（笑）。

平田　で、入門したのが5月13日で、8月の巡業中に猪木さんに挨拶したら「おまえ、明日から試合しろ」って。

——入門3カ月でもうデビュー！　それは全日本で基礎ができてたからですか?

平田　いや、全日本にも短期間しかいませんでしたから、受け身一つ、ヘッドロック一つも練習してない状態ですよ（笑）。

——そんな状態で新日本もよくデビューさせますね（笑）。

平田　スクワットとか基礎体力の練習以外は、セメントを毎日やってただけですから。それで「試合しろ」と。

髙田に酒を覚えさせたのは俺なんですよ 最初から「こいつ酒乱だ」ってわかりました（笑）

前田さんを誘ってディスコに行ったら ホールの真ん中で空手の型を始めちゃって

——ムチャな話ですね（笑）。なんか昔は全日本プロレスと新日本プロレスは、教え方が全然違ったらしいですね。全日本はちゃんとプロレスの型というか、ベーシックな動きをちゃんと教えて、新日本プロレスは逆に教えないで、そのままリングにぶち込むみたいな感じで。

平田　いまは（新日本も）教えてますけどね。その頃はまったくなかったですね、プロレスのベーシックな練習って。

——まったくないんですか。

平田　練習とかじゃなくて、先輩が教えないっていう状況ですね。それは猪木さんの考えなのかわかんないですけど。俺なんかデビュー前に、投げられたときの受け身の練習とか、ロープ走ったりとか、まったくやったことがない状態で、デビュー戦の相手が藤原（喜明）さんだったから、それはもうギトギトですよ（笑）。

——もうされるがまま、というか（笑）。

平田　デビュー戦はみんなそんな感じでしたね。前田さんも小鉄さんとデビュー戦やりましたけど、強烈なバックドロップやられて（笑）。だから要は、何も教えられないままリングに放り込まれてるんで、若手同士じゃ試合にならないんですよ。

——なるほど。

平田　試合を通じて「プロレスとは、こういうもんだ」っていうのを教えられるような感じなんですよ。ただ、自分の場合は、全日本にちょっといましたし、もともとプロレスファンだったから、こういうときはこういう技っていうのはわかってたから、たぶん前田さんよりかはできてたんですよね。

——逆に事前の知識がない前田さんは、理解するのに時間かかったでしょうね（笑）。

平田　そうですね、でも理解してからは、けっこうガンガンやってましたけどね。

——だから以前、平田さんがインタビューで言ってましたけど、「前田日明が若手時代に〝クラッシャー〟と呼ばれていたのは、要はヘタクソだった」って（笑）。

平田　そういうこと言うと、また前田さんに怒られちゃうから（笑）。

——若手時代の前田vs平田戦は、前田さんの蹴りで平田さんの唇が吹っ飛んだっていう伝説がありますけど、これなんかもよく考えると、そもそも当てる場所が危ないだろ、というか（笑）。

平田　まぁ、自分と前田さんは一日違いのデビューですけど、自分はプロレスファンだったからプロレスに馴染みやすかった部分があって。彼の場合、空手やってて、プロレスもそんな見たことないまま入ってきてるんで、何をどうしたらいいかわからない状態でデビューしてますからね、そこの違いじゃないですかね。だから試合やってても、ここ返してほしいって思うところで返してこなかったりとか。あとやっぱり若いからキレちゃうわけですよ。

——試合中にキレちゃいますか（笑）。

平田　先輩に対してはそういう気持ちはたぶん出ないと思いますけど、若いの同士のときは、見えないところでバカーンッて入れてね（笑）。前田さんも最初の半年ぐらいはぎこちなかったんですけど、ある日、何か吹っ切れたのか、突然バカーンッて拳で返してきましてね。「目覚めたな」と思ったら、もうそれから大変でしたね。

——殴り合い、蹴り合いばかりになって（笑）。

平田　ムチャクチャな試合でしたね。ただ殴ったり蹴ったりだけじゃなくて、その駆け引きが凄かったですね。15分1本勝負で、とにかく自分が取ろうっていうね、そういう意地の張り合いみたいなのが出まして、けっこう激しい試合やってましたね。

——それは他の若手選手とやってもそうだったんですか？

平田　それがまたジョージなんかと試合するとね、「おまえらちょっと（試合が）きれいすぎるんだよ」って先輩によく怒られましたね。手が合いすぎちゃって。

語ろう!! この男の存在を忘れちゃダメや!

当時はデビュー前にベーシックな練習ってまったくさせてもらえなかったんですよ

―当時の前座っぽくない試合というか。

平田　そうですね、「若手らしくない」って言われて。ドロップキックやったときなんて、控室に戻ったら山本さんに殴られましたからね。「しょっぱい！　二度とするな！」って。

―ドロップキックやっただけで食らわされましたか（笑）。

平田　でも、自分もジョージもヒロさんも、徐々にプロレスっぽい試合をやっていったんですけど、やっぱりちょっと違ったんですよね、前田さんは。まあ、試合とか練習以外では一緒に楽しんでましたけどね。

―でも、同期が"トンパチ"と言われていた前田さんや、"宇宙人"と言われていたジョージさんじゃ、いろいろと大変だったんじゃないですか？

平田　そうですね、小林さんが寮長でいた頃はまだよかったんですけど、小林さんがメキシコ遠征に行きまして、寮長が前田さんになってからがヒドい。

―伝説の前田寮長時代ですね（笑）。

平田　あの寮長は自分は何もしないのに口だけうるさいんですよ。

―ガハハハハ！　当時からそうでしたか（笑）。なんか外出とかの縛りもやたらキツかったらしいですね？

平田　縛りがキツいというか、本人が大阪から東京出てきて、東京わかんないっていうことでどこにも出かけないわけですよ。で、みんなはオフになると渋谷行ったりとか新宿行ったりとかするでしょ、実家が近い選手はちょっと帰ったりとか。それが羨ましいみたいで、自分は出らんないから八つ当たりっていうか（笑）。

―厳しさの根本は、ジェラシーと八つ当たりでしたか（笑）。

平田　デビューして二年ぐらい経ったとき、一週間ぐらいまとまった休みがあったんですよ。それで自分は旅行に行って5日間、道場を離れたんですけど、それで帰ってきたあと前田さんに「休みのあいだどっか行った？」って聞いたら、「う〜ん……」って考えたあと、「イケダヤ行ったかな」って。イケダヤって合宿所から歩いて2〜3分のところにある雑貨屋ですよ。5日間でそこしか行ってねぇのか、あと何してたんだって（笑）。

―一人じゃまったく行動しなかったんですね。その反面、合宿所の道場生とツルんで何かやるのが好きだったっていうことですけど。

平田　自分が酒好きだったんで、よく一緒に飲みに行ったりしてましたね。あとは当時、『サタデー・ナイト・フィーバー』が流行ってた頃で、前田さんも誘ってディスコに行ったんですけど、まぁ、大変なことになりましたね。これはご想像におまかせします（笑）。

―よく暴れた話は聞きますけどね（笑）。

平田　前田さんの場合は、ディスコの踊るところで、空手の型を始めちゃうんですよ。

―ガハハハハ！　なぜだ（笑）。

平田　だから3メートル四方誰も近寄らない、ホールの真ん中なのに。みんなが白い目で見てるんで、僕ら他人のふりしましたけどね。それはよくありましたね。

―そんなことがよくありましたか（笑）。

平田　あと高田（延彦＝当時・伸彦）選手とか入ってきたときね、彼は17歳ぐらいで入ったのかな。酒飲んだことないみたいで。それで彼がどこかから帰ってきたとき「高田、一杯飲まねえか」って、ビールをコップに注がせて飲ませたんですよ。それ半分ぐらい飲んだら、目が据わってきて、「どうした？　眠いのか？」って言ったら、「（低い声で）酒なんか飲ませやがって」って。「あ、こいつ酒乱だ！」って（笑）。

―一発で酒癖の悪さを見抜きましたか（笑）。

平田　それで「ビールはいいから、飯食え！」って、飯食ったらもうケロッと忘れてましたけどね。俺が高田選手に酒を覚えさせちゃったんですよ（笑）。

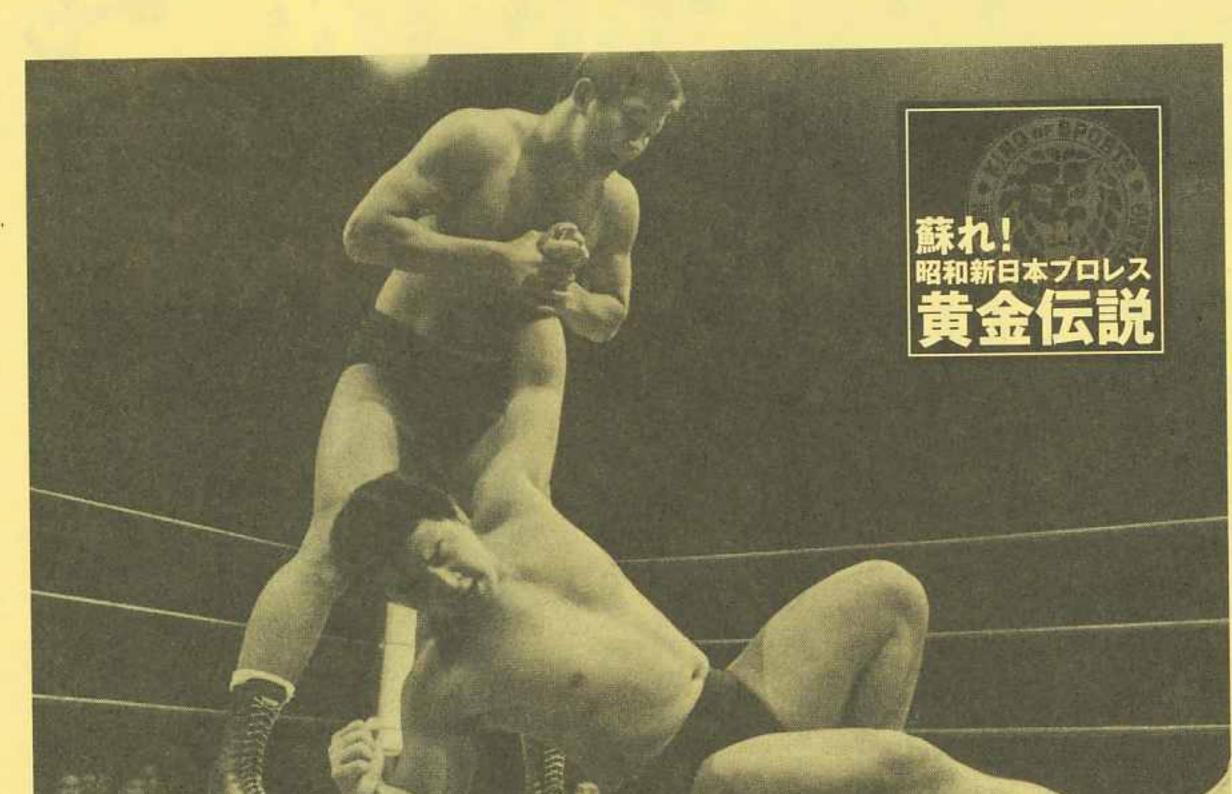
―その後、飲めるようになってからはもう大変だったらしいですね。

平田　そうね。俺はもともと渋谷に住んでたから知ってる店いっぱいあったんで、高田選手や仲野の信ちゃん（仲野信市）とか連れて、飲みに行くわけですよ。そしたら仲野の信ちゃんと高田っていうのは、また手が合うわけですよ、酒のことになると。

―あ、酒のことになると（笑）。

平田　もう一緒に飲むのが嫌で。暴れちゃうから。どこ行っても踊りだしたり、暴れだしたり。で、ある日、前田さんも海外遠征行ったんで、自分が寮長を引き継いだんですけど、ちょっと出かけて夕方合宿所に帰ったら、台所でドーン、ドーンって音がするんですよ。真夏だったんですけど、見に行ったら仲野の信ちゃんと高田選手が宴会してまして。当時クーラーがなかったんで窓開けっぱなしにして、蚊が入ってくるじゃないですか。蚊が壁に止まると、そこにヘッドバット入れるわけですよ。

―ダハハハ！　蚊を殺すためにヘッドバット（笑）。

平田　手で潰しゃいいのに、止まるの待ってて、そこにドーンッてやるんですよ。そ

同期の前田明（当時）との試合は、70年代末の新日本プロレス前座戦線を沸かせた黄金カード。派手な技は一切使わず、お互い意地と気迫だけでゴツゴツとした激しい闘いを見せ、前田のニールキックで平田の唇が吹っ飛んだ伝説もある。

ブレット・ハートにゲームウォッチをプレゼントしたら「カルガリーに来い」って誘ってもらえたんですよ

れで壁にボコッて穴が開いちゃって。「何やってんだ！」って言ったら「平田さん、一緒に飲みましょう！」だって。断りましたよ！　そんなことばっかでしたね。

——バカな人たちですねえ（笑）。

平田　酒にまつわる話は多々ありますよ。練習のときはビシッとやってるから、ストレスをそういうところで発散してたんでしょうね。いまは飲み方わかってるからそんなことしないけど。ムチャクチャやってましたね。それがその後いろんな選手に。

——それが伝統になっちゃって（笑）。

平田　まぁ、最初にみんなに酒を覚えさせたのは私なんですけど（笑）。

——で、その後、海外遠征に行かれるわけですね？

平田　そうですね。若手の頃にブレット・ハート、ダイナマイト・キッドと一緒になりまして、とくにブレットなんてもの凄い仲良くなったんですよ。昔、ゲームウォッチっていうのがあって、それをプレゼントしたら、それがきっかけで「おまえ、じゃあカルガリーに来いよ」って言ってくれたんですね。

——ゲームウォッチでカルガリー行きが決定ですか（笑）。

平田　それでもう僕はカルガリーに行くもんだと思って、周りもそういう空気を作ってくれて。で、ある日、永源さんとの試合で勝ったあと、「よし、カルガリー行くぞ！」とか叫んで、お客さんもワーッてなって。そしたら永源さんが後ろで「中止！　中止！」とか言ってるんですよ。何を言ってるんだろうと思ったら、案の定ホントに中止になりましてね。急遽、メキシコ行きが決定したんですよ。

——なんで急にメキシコに行ったんですか？

平田　その頃、メキシコ遠征していた長州さんが帰ってくることになって、その代わりがほしいっていうことで、たぶん長州さんが俺の名前を出したんだと思うんですけど。

——長州さんが容疑者ですか（笑）。

平田　クサりましたねえ（しみじみと）。メキシコってその時代、経済が凄い悪かったんですよ。大インフレがあって。

——なんか貨幣価値が大暴落したらしいですね。

平田　そんな大変なときに飛ばされて、「もう終わったな」と思いましたね。何もやる気が起きなくなって、合同練習もサボって合宿所で寝てましたけど、誰も言ってきませんでしたよ。

——みんなが悲惨な境遇を理解してたと。それぐらい当時のメキシコ行きを告げられるっていうのは大変なことだったわけですね。

平田　ヒロ斉藤選手が先に行ってまして、その後、保永（昇男）選手と一緒に行ったわけですけど、もう嫌でねえ……このまま逃げちゃいたいなと思って。

——プロレス界から逃げたいぐらいの。

平田　そうそう（笑）。まあ、開き直って、頑張って早く帰りたいな、と。逆に夢を持って行きましたね。行ったら行ったでなんとかなったんですけど。それはそれで経験になったし、楽しい思いもしたしね。

——その後、晴れてカルガリーに行けることになるわけですよね。

平田　それもヒロさんとジョージが先にカナダに行ったんですよ。で、先に向こうに行った連中からいい話を聞くわけですよ、「カナダはいいよ～」って。だから、ますます行きたくてしょうがなくなって。最後は無理矢理メキシコを離れたんで、ちょっと揉めちゃったんですけど、もう日本に戻れない覚悟でカルガリーへ転戦しましたね。だから、開き直って頭もモヒカンにしてやったんですけど。

——インディアンキャラのサニー・ツー・リバースに変身したんですよね。普通、日本人だと忍者とかオリエンタルなキャラクターになりますけど、平田さんはなぜモヒカン刈りのインディアンだったんですか？

平田　ブレット・ハートが「おまえの顔はインディアンみたいだ」って言ったのを安達さん（ミスター・ヒト）が聞いてたんですよ。それである日、安達さんの家に呼び出されまして。いきなりバリカンを持ってきて、下に新聞紙敷いて、ガーッて刈られて。「おまえは今日からインディアンだ」って。

——ある日突然インディアンにされましたか（笑）。

平田　それを見た娘さんがね、まだ12～13歳だったかな、怒ってましたね。「パパひどい人！」って（笑）。

——当時モヒカンはいないですよね。

平田　いないですよ（笑）。でも僕も開き直ってますからね、まあいいやと思って。自分でお土産屋さんに行ってインディアンブーツを買ってきて、それをリングシューズ用に改造してね。本物のトマホークも借りてきて。その日はスタンピート（カルガリーの団体）でテレビ録りだったんですけど、入場式に出たら、客に笑われて、それで火がつきましたね。

——「ナメんなよ」と（笑）。

平田　他の有名なレスラーが出るとワーッ、ワーッてなるんだけど、俺がトマホーク振り回しながら出てきたら失笑に包まれましてね、それが悔しくて試合では新日本でやってたスタイルでバッカバカやったんですよ。そしたらね、お客さんが喜んで。試合後、ブッカーが「サニー、グッド！」って握手を求めてきまして。もうニヤッと笑いましたね。

——向こうは激しいスタイルが好まれてたんですか？

平田　カルガリーはそうでしたね。ダイナマイト・キッドみたいな、ガンガンいくスタイルに近い、日本のスタイルですね。だから日本人はみんな評価高かったですね。自分なんかもカルガリーでデビューして10日目ぐらいにタイトルマッチが組まれまして。その地区のジュニアヘビー級のタイトルを獲ったんですよ。

——わずか10日でチャンピオンですか。ホントに評価高かったんですね。

平田　初めてのチャンピオンベルトでね、正面の模様がシールで貼られてるようなベルトだったんですけど（笑）、嬉しかったですね。当時は海外遠征の写真を日本に送ったりするチャンスがあまりなかったんですけど、日本に送って「ざまあみろ！」って言いたかったですね。で、しばらくインディアンやってたんですよ。カナダってインディアンリザベーションが確立されてて、興行打てるような部落がいっぱいあったんで。

——インディアン居住区でけっこう興行打

JYUNJI HIRATA

語ろう!! この男の存在を忘れちゃダメや!

蘇れ!
昭和新日本プロレス
黄金伝説

しょっぱいくせにシュートが強い ビッグ・ジョン・クインと組まれたとき 安達さんに相談したら「〝生〟でやれ」って。

新日本プロレスには1984年、第2回『IWGP』リーグ戦出場のために、一度だけ来日しているビッグ・ジョン・クイン（ちなみにカナダ人なのにヨーロッパ代表）。IWGPではまともな勝ち星を一つも挙げられなかったが、じつはシュートに強い実力者だったのだ。

ってたんですか。

平田　そうなんですよ。そこに俺が出たらインディアンのヒーローですよ。必ず満員になりましたからね。俺がホントは日本人だなんてわかってないから、インディアンから大声援を浴びてね、まさに力道山ですよ!

――サニーはインディアン居住区の力道山でしたか（笑）。

平田　吉村（道明）さんが血だらけにされて、ようやくタッチした力道山が怒りの空手チョップをバーン、バーンってね、あれですよ!

――じゃあ中学時代に杉の木に打ち込んだ空手チョップの練習が役に立って（笑）。

平田　俺の場合はトマホークチョップでしたけどね（笑）。だからそこでベビーフェイスの勉強ができたし、けっこうアメリカからうまい選手が来るんで、そういうレスラーと対戦したりして、いろいろ勉強になりましたね。

――当時はどんな選手と闘ってたんですか?

平田　地元カナダの選手のほかは、キューバン・アサシンとか、モンゴリアン・ストンパー、バッドニュース・アレン、たまにマスクド・スーパースターが来たときにやったり。あとビッグ・ジョン・クインって知ってます?

――ああ、第2回IWGP（84年）に出場したひげ面のレスラーですよね。

平田　あれとやったときは大変でしたね。なんか、シュートが強くて有名らしくて、プロモーターも頭下げる、ブッカーの言うことも何も聞かないような人で。そいつと何回も試合組まれたんですよ。

――それは嫌ですねぇ（笑）。

平田　しかも対戦したらね、どうにも試合がしょっぱいんですよ。しょっぱいくせに馬力が凄いんでね、試合が展開しない。で、安達さんに相談しまして。「あいつ全然しょっぱいんですけど、どうしたらいいんでしょう? 客も喜ばないし」って言ったら、安達さんが一言「生でやりゃいいんだよ、生で」って。

――ダハハハハ! そんなことを焚きつけられましたか（笑）。

平田　「反則でもなんでもいいからやれ」って。当時は、総合なんかないから、そっち方面というと拳で顔面殴るとか、そういうことしか思いつかなかったんで、やったんですよ。

――やっちゃいましたか（笑）。

平田　そしたらあの男も思いきり殴ってきて、僕もバーンって殴り返して、新弟子の頃、前田日明とやったような試合になってね。それやったら客が興奮しちゃって、レスラーも全員控室から出てきて観てるんですよ。

――前田 vs アンドレじゃないですけど、そういう試合になるとみんな観に来るわけですね（笑）。

平田　それで俺、ボコボコになりながら最後はバーンッてやられて、試合後はホント

に動けなくて大変だったんですけど、プロモーターもレスラーも全員「おまえ、凄い！」って言ってきて。まさかビッグ・ジョン・クインに仕掛けるようなバカは、それまでいなかったみたいで（笑）。

——それで一気に評価をまた上げたわけですか。

カルガリーに坂口さんから電話がきて「帰国してキン肉マンやらないか？」って

平田　安達さんっていうのは、それがわかってたんですかね。でも、おかげで同じようなボコボコの試合を3～4試合やらされてね（苦笑）。

——ダハハハ！　好評にお応えしてアンコール（笑）。

平田　これはあとで聞いたんですけど、ビッグ・ジョン・クインって、痛めつけるのも、痛めつけられるのも両方好きな、サドであり、マゾみたいな男だったらしいんですよ（笑）。

——ダハハハ！　SとM両方の性癖を持つ男でしたか（笑）。

平田　いまなら「総合出ろよ」って言いたいけど（笑）。でも、その試合やったおかげでね、最初のうちは、ビッグ・ジョン・クインに挨拶に行ってもね、タバコ吸ってふんぞり返ってたんだけど、そういう試合をやったあとは、向こうから握手してきましたからね。

——ビッグ・ジョン・クインに認められたわけですね。そうやって平田さんがカルガリーで活躍していた頃、新日本プロレスが離脱者続出でかなり大変なことになってましたよね。

平田　そうみたいですね。

——それって凄い不安になりませんでした？

平田　いや、自分はもうカナダにずっといようかと思ってましたからね。新聞や週刊誌は送られてきてたんで、情報は入ってきてましたけど、俺はべつに。

——「大変なことになってんだな」ぐらいの。

平田　そうですね。「へえ～、前田日明が新団体に行くことになったのか」とか、なかば他人事でしたね。ちょうど当時、キラー・カーンさんがアメリカから遠征に来てて「テキサス行くか？」って誘ってくれたんですよ。テキサスっていったら当時、凄い景気のいいマーケットでしたからね。

——エリック兄弟とかブロディ、あとはカブキさんなんかが活躍してた時代ですよね。

平田　しかも念願だったプロレスの本場ですからね、「やった！　アメリカに行ける！」と思って。弁髪のキラー・カーンとモヒカン刈りの俺でタッグ組んで暴れてやろう、とか夢が広がってたんですよ。

——それは素晴らしくキャラの濃いタッグですね（笑）。

平田　だから日本より、気持ちはアメリカだったんですけど、しばらくしたら坂口（征二）さんから直接電話がありまして「日本に帰ってこないか？」。「いや、アメリカのほうで話があるんで」って断ったんですけど、「一回日本に帰ってからでもいいじゃないか」と言われたんで、とりあえず一回帰ろうと思って日本に帰ったんですね。帰ったら今度は……皆さんご存知だとは思うんですけど、「キン肉マンをやらないか」と。

——やっぱり、そのために呼び戻されたんですね（笑）。タイガーマスクの二匹目のドジョウということで、覆面レスラー「キン肉マン」への変身が企画されてたんですよね。

平田　べつに「キン肉マンやれ」はいいんだけど、権利関係とかの話が全然できてなくて、構想だけで呼び戻されたんですよ。

——ダハハハ！　そんなにズサンだったんですか（笑）。

平田　ビックリしましたね。嫌ですよ、そんなもん。

・というわけで今月はここまで。次号【後編】はついにストロングマシン誕生秘話。「おまえは、平田だろ！」事件の真相、カルガリ・ハリケーンズとジャパン・プロレス、冷遇された全日本プロレス時代、そして現在の新日本プロレスについてまで、平田スポークスマンがたっぷり語ります。お楽しみに！

JYUNJI HIRATA

ひらた・じゅんじ■1956年12月20日、神奈川県平塚市出身。78年に新日本プロレスに入門。同年8月に藤原喜明戦でデビュー。メキシコ、カナダ遠征を経て、84年、ストロングマシンとして新日マットに再登場。その後、スーパー・ストロングマシンと改名し活躍。94年からマスクを脱ぎ平田淳嗣となるが、その後、ラブ・マシン1号、魔界1号などに、ちょこちょこ変身している。183cm、120kg。

語ろう!! この男の存在を忘れちゃダメや!

破壊王! Part 2

いってみよ〜!

橋本真也 一周忌追悼特集

今年も来年も再来年も7月は破壊王追悼特集で決まり!　前回の天山&破壊王ファミリーも好評だったが今回の特集も負けてはいない。破壊王イタズラ伝説の重要参考人にして、ケロちゃんらと無我興行をスタートさせる西村修が『kamipro』初登場!　極めつけは折り鶴兄弟のスクープ・インタビューや!　読むしかないやろ!?　押忍!!

構成／松澤チョロ　扉写真撮影／吉場正和　破壊王イラスト／師岡とおる

designed by matsu (TwoThree)

あれから6年……。 折り鶴兄弟が語る 破壊王との素晴らしき思い出。

今回、破壊王追悼特集の一発目に登場するのは〝折り鶴兄弟〟こと米川宝クンと力クンの二人だ。2000年4月に小川直也に敗れ、公約どおり引退を表明した破壊王に対し、復帰を願い百万羽の折り鶴を必死に集めたのが、この二人である。当時の模様はテレビ朝日系列の『スポコン！』で何度か特集が組まれたので記憶に残っている人も多いはず。あれから6年、大好きな破壊王は天国へと旅立ってしまったが、はたして、折り鶴兄弟は、いまどこで何を考えているのだろう？　大きく成長していた折り鶴兄弟（＆プロレス大好きなお父さん）を独占直撃!!

聞き手／松澤チヨロ　撮影／丸山剛史

designed by matsu(TwoThree)

語ろう!! 破壊王! YONEKAWA BROTHERS

――橋本真也さんの一周忌追悼特集として、今回は破壊王を復活させたとして有名な100万羽折り鶴の米川兄弟を発見したので、お話を聞かせてもらえればと思っております！

宝&力 よろしくお願いします！

――こちらこそ、よろしくお願いします。まず簡単に自己紹介からお願いします。

宝 兄の宝です。いまは19歳で、大学で言語学を学んでいます。

――次は弟さん、お願いします。

力 弟の力です。16歳で高校2年生です。あと、いま俳優を目指していて、「エヴァーグリーン・エンタテイメント」という事務所に所属してます。

――あ、そうなんですか？ でも、たしかに、かなり男前に成長しましたね。

力 ありがとうございます（笑）。

――それと、今日は折り鶴兄弟のお父さんにも来ていただいて。お父さんはなんのお仕事をされているんですか？

パパ ボクはビジネスコーチングと商品開発の会社を経営しております。で、いろんな事業をいっぱいやっておりまして。

――つまり、社長さんってことですね？

パパ ええ。でも貧乏暇なしですけど（笑）。

――お二人はお父さんの影響でプロレスファンになったって感じなんですかね？

宝&力 そうです。

――お父さんは、いつぐらいからプロレスファンなんですか？

パパ かれこれ40年近くですね。ですから、いろんな歴史的な試合はけっこう目の前で観てますね。日本人同士の闘いであれば、ストロング小林とアントニオ猪木の試合は蔵前国技館で目撃してますし、他にもいろいろビッグマッチは観てますんで。だからいまはかなりマニアックな見方してるよな、俺たちは。

宝 そうかもしれない（笑）。

――折り鶴ファミリーはマニアックなプロレスファンでしたか（笑）。最初にプロレスを観に行ったのって覚えてます？

宝 ボクはWARでしたね。

パパ 宝が幼稚園のときにWARが旗揚げして、それに連れてったのが最初ですね。

現在、大学生でソフトボールやバイトで忙しい宝クン。弟の力クンは「CHIKARA」という名前で芸能活動中。そして、語りだしたら止まらないのが左のパパだ。

力 ボクは新日本で橋本真也vs天龍源一郎がメインの日本武道館が最初です。そのとき3人で初めて観に行ったんだと思います。

――一番最初が破壊王だったんですね。基本的には新日本好きだったんですか？

パパ 当時は新日本をよく観てましたね。三銃士もいたし、永田（裕志）選手も藤田（和之）選手も出てきて層が厚かった頃で。

――勢いがあった時期ですよね。一番最初は誰のファンだったんですか？

宝 ……誰っていうんじゃなくて、父とプロレスを観てて、プロレス自体が好きになって。その後に橋本選手っていう凄い熱い選手がいて。だから一番初めって考えると、やっぱり橋本選手じゃないかなと思いますね。

――弟さんはどうですか？

宝 お前、小島（聡）好きだったよな。

力 そうでしたね。小島さんが好きで。でも、最終的には橋本選手が一番好きになって。やっぱメチャメチャ強いじゃないですか。そこが一番の魅力です。

――やっぱり、お父さんも破壊王のファンだったわけですか？

パパ もちろんです。前に神宮球場で大仁田（厚※グレート・ニタとして）さんが電流爆破マッチやったときがあったじゃないですか。そのとき私の親父も連れて行ったんですよ。そのとき親父から「お前、いまのプロレスはカリスマ的な凄いヤツがいないじゃないか。でも橋本は違うぞ。アイツは初めっから気合いの入り方が違う」って言われて、ふと気がついて。そういえば橋本さんの出てきたときの迫力たるや……気がつかなかったけど、凄い選手だなと。私の親父もプロレスファンなんで、三代なんですね。

――親子三代のプロレスファンなんですね。

パパ そうなんです。それで私が橋本好きだって騒いでたから、コイツらも啓蒙して橋本好きになっちゃったんでしょうね。橋本さんは一撃がキツいし、見るからに痛そうじゃないですか。それに重いですし。なにしろ試合が熱いし、気合いの入り方が違うもんな。

宝 ホントに熱かったです。

――当時、橋本さんは小川さんに負けて引退というかたちになりましたけど、折り鶴を折ろうと思ったのはどういうきっかけですか？

パパ 小川選手との試合はボクらは全員勝つと思ってたのに負けちゃったから、「あれっ？」と思って。これは事故だと思ったんですよ。マニア的な見方をすると（笑）。

――たしかに、いままでのプロレス的な流れでいえば「負けて引退することはないだろう」って感じで観てた人が多かったですよね。

パパ そうですよね。でも実際、橋本さんが負けてしまって、これはなんかきっかけがないと復帰できないだろと思ったんですよ。じゃあ千羽鶴送ろうよって。それで送ったんです。心を込めてやれば動く人間だと思うからって新日本プロレスに送ったんだよな。

宝 そうです。

――きっかけはお父さんだったんですね。最初は3人で折ってたんですか？

パパ ウチの家内と4人で折って送ったんです。そしたら手紙が来たんですよ。その手紙の回答が……これ本物ですけど（と言って破壊王から届いた直筆の手紙を取り出す）。

――当時の『スポコン！』でも公開してましたけど、これが破壊王直筆の手紙ですか。

パパ 最初に送った折り鶴は色とかもグチャグチャだったんですよ。でも、この手紙が来て、もはや我々の力だけじゃ無理だろうっていうことで、だったらいろんなマスコミの力を借りてやればモチベーションになるじゃないですか。取り上げられるとは思ってなかったですけど、宝がハガキを書いたんですよ。

いま16歳で高校2年生です。俳優を目指していて芸能事務所に所属してます（力）

—今度は誰宛てに書いたんですか？

宝　テレビ朝日の『スポコン！』宛てに書きました。あのときは『スポコン！』でプロレスも取り上げてましたし、やってくれるんじゃないかなっていう気持ちもあって。

—手紙を書いたら、リアクションがあったわけですね。

宝　そうなんですよ。それで取材に来ていただいて。

パパ　急にナンチャン（南原清隆）が家まで来ちゃったんだよな（笑）。

—いきなりお宅訪問されたわけですか？

パパ　ビビるの大木さんと大内さんと3人で来て。そしたら意気投合して、それからですね。それから、カッちゃん（勝俣州和）とかプロレス好きに広がりまして、本格的にテレビで放映されて。で、「自分たちで折るのもいいけど、外でも集めたほうがいいんじゃない」ってなったんですね。

—それから折り鶴運動が本格的に始まったと。具体的には、どのへんで活動してたんですか？

宝　自宅から近い錦糸町とか亀戸がメインでしたね。あとは当時あった渋谷の『闘魂ショップ』の前とかです。箱を作って、「橋本真也さんが復活するために折り鶴に協力してください」って書いて、折り紙と段ボールを用意して、そこで折ってもらってました。

力　それと、いろんなプロレスショップに箱を置いて頼んだんです。そしたらみんな折って入れてくれて。

—当時の『スポコン！』で、そういった映像は流れてましたけど、カメラが回ってないところでもやってたわけですよね。

宝　当然やってました。けっこう嫌がらせもありましたけどね。

—どういった嫌がらせがあったんですか？

宝　その当時、船木（誠勝）さんがヒクソン・グレイシーに負けて。そのときに「橋本なんかより船木のほうがいいじゃねえか」って折り紙を紙飛行機にされたりとかして。

—ヒドイですねぇ。船木さんもヒクソンに負けて引退を表明した時期でしたからね。

宝　そうなんですよ、「船木が復帰したほうがいいじゃねえかよ」みたいな。

パパ　あと『闘魂ショップ』の前で「そんなのやめろよ」みたいなことも言われたよな。

力　言われましたね。あとは後楽園ホールで紙を配ってたときもさんざん言われました。橋本選手が決めたことだから、それに対してファンがどうこう言うことじゃない、と。橋本真也が決めたことは、それは認めてあげろよって感じで。ホントいろいろありましたねぇ……（しみじみと）。

—裏側ではいろいろと大変なことがあったんですね。

パパ　宝は折り鶴やってたときが一番キツかったんですよ。なぜかっていうと学校で選ばれてオーストラリアに短期留学することになって勉強が大変だったんですよ。あと塾も大変だし、折り鶴活動もあって毎日寝ずにやってたからな。

—その頃、折り鶴活動って一日何時間ぐらいしてたんですか？

宝　ひたすらやってましたね。正直、学校でもやってましたし。学校のみんながけっこう盛り上がってやってくれてたんで、自分でもやらないわけにいかなくて。それで家帰っても折って。基本的に一日の生活のほとんどが折り鶴活動で。それでオーストラリアの勉強もしなきゃいけない。いままでの人生の中で、あのときが一番大変でした（苦笑）。

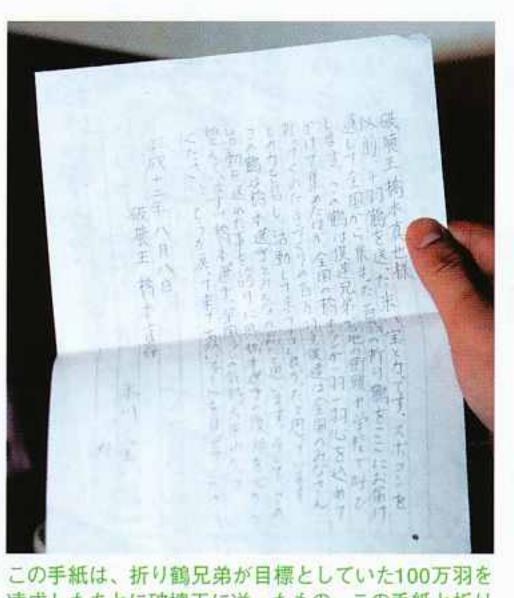
力　アニキがオーストラリアに行ってるときは一人で街頭立ってやってましたね。

—テレビの力もあって、近所ではかなりの有名人だったんじゃないですか。

当時は基本的に一日の生活のほとんどが折り鶴活動でした（宝）

宝　街頭でやってると一回通った人がジュースを買って戻ってきてくれたりしましたね。そういうのは嬉しかったです。

—その当時、村上和成さんにバッタリ会ったってチラッと聞きましたけど。

宝　そうなんです。よく100万羽の活動をしてたウチの近くの商店街があるんですよ。そこを塾に行くために歩いてたら、前から村上さんが来て。おばあさんとかが多い商店街なんで、みんな身長が低くて村上さんが異常にデカく見えたんですよ。「うわ〜、村上だ！」って思ってたら「お前、100万羽だろ！」って言われて、ヤバいと思って（笑）。

この手紙は、折り鶴兄弟が目標としていた100万羽を達成したあとに破壊王に送ったもの。この手紙と折り鶴を手にした破壊王は数週間後、引退撤回を表明。

—「100万羽だろ！」っていうのも凄いですね（笑）。

宝　『力道山メモリアル』の前に村上さんが橋本さんを襲ったことがあったじゃないですか？　あのときのイメージがあったんで、凄い怖くて。まだ子どもだったんで、どうしても橋本さんと仲が悪いはずだっていう先入観があったんで、マズいと思ったんですよね。でも、実際に会ったらいい人でした（笑）。

—村上さんは普段とリング上のギャップが激しいですからね（笑）。

パパ　それで、つい最近、ボクが村上さんと北千住のスナックでバッタリ会ったんです。そのときに、「あのときウチのせがれに声かけてくれて」って言ったら「そうなんですよ、こっちも驚きました」って話になってね。ホント、折り鶴がきっかけで垣根を越えていろんな人とお話をさせてもらってますね。

—破壊王を通じて、様々な出会いを経験したわけですね。

宝　そうですね。ホントに凄く感謝してます。

パパ　人の温かさを感じたよな。あんなゲリラ的なやり方って普通の親だったらやらせないでしょ。でも、のちにコイツらの血となり肉となるんであればと思って……実際、いまなってますよ。どんな人とも話は合うし、人の痛みはわかるし、逞しくなった。そういうふうになってくれたのは橋本復帰運動を通して非常に成長したのかなって思いますよね。あとは家族の絆がより深くなった。我々3人は本当に仲がいいんですよ。いつもプロレスのことを話してますから。

—やっぱりプロレス話なんですね（笑）。

パパ　そうなっちゃいますね（笑）。たしかに嫌がらせとかもありましたけど、それ以上に応援してくれた人もたくさんいて、それには勇気づけられたよな。

宝&力　（無言でうなずく）

パパ　ウチには全国から寄せられた段ボール一杯のファンレターがあるんですよ。涙なくしては語れないんですけど、いいですかね？

—ぜひお願いします！

パパ　入院してる方がテレビで息子たちを見て、プロレスっていうのを見たことはないんだけど、きっと橋本っていい人なんだな、と。子どもたちをそこまで動かせる素晴らしい人間なんだったら私も折ってみようとか、プロレスファンじゃない人まで輪が広がってね。それで相当集まったんですけど、折り鶴と一緒にコイツらへのファンレターが段ボールでテレ朝宛てに来まして。いまでもウチで大事

2000年10・9東京ドームでの藤波辰爾戦で185日ぶりにリングに帰ってきた破壊王（レフェリーは小鉄さん）。入場時から目に涙を浮かべていた破壊王は藤波をボコボコにして勝利。試合後はリング上に宝クンとカクンを上げて歓声に応えた。当時、カクンは、このときの感想を「凄くいい匂いがした。金持ちの匂いだった」と語っていたという。

語ろう!! 破壊王!
YONEKAWA BROTHERS

に保管してるんですよ。
――ちょっとした子役タレント状態ですね。
パパ　そんな感じでしたね。で、ウチにガレージがあるんですが、そこにも15万羽ぐらい集まりましたから。
――15万羽って想像もつかないですけど、どれぐらいなんですか？
パパ　車2台分に山盛りで15万羽ぐらいですね。もう置ききれなくなって、それでテレ朝の人が「テレビでやった責任もあるから」ってことで芝あたりの倉庫を借りてくれたんです。それで橋本選手が亡くなったときに、鶴をそんなたくさんかずみさんにあげても忍びないですし、どうしようかと思ってたら「処分は我々に任せてくれないか」ってテレ朝の方から話がありまして。私としては再生紙にして手紙とかハガキとかにしようかと思ってたんですよ。それでいろいろ交渉したんですが、ヒモを取らなきゃならなかったり、銀紙とか仕分けなきゃいけないとかで、再生紙にするのは莫大なお金がかかるんですね。それと倉庫に置いとくと劣化していくんですよ。グニャグニャになったり、カビたりね。
――まあ、そうでしょうね。
パパ　橋本さんは橋本さんで自分で借りてた倉庫に折り鶴を置いててくれて。正直言って持て余してたと思うんですよね。でも橋本さんは誓ってたんですよ。「これは一生、俺の宝物にする」って。
――いい話ですねぇ。最終的に折り鶴は何羽集まったんでしたっけ？
宝　１０９万７４００いくつだったかな？　でもあとからも来てますから、実際にボクたちの認識では１２０万羽です。
――１２０万羽！　実際に橋本さんに最初に会ったのはいつになるんですか？
力　２０００年の８月８日です。『スポコン！』として１００万羽達成しましたっていう最終回の収録のときに。そのときに橋本選手にここで収録しますっていうことを伝えていただいて、2～3時間待ってたんですよ。
――伝えてはいたけども、来るか来ないかはわからなかったんですよね。
力　そのときに橋本選手に来ていただきまして初めて生でお会いできたんです。
――そこではどういう会話をしたんですか？
宝　「よく頑張ったな」ってガーッて抱きしめられて。そのとき号泣ですよね。で、南原さんとかも泣いてて。こないだも改めて見直したんですけど、僕また泣いちゃって。凄くいい思い出ですね。
――たしか、そのときはまだ復帰の約束はされなかったんですよね？
宝　そのときの答えは、まだノーでした。
力　そのちょっとあとに藤波さんがいろいろ橋本選手に「戻ってこい」とか、そういう動きをしてくれて、10月の東京ドームで復帰することになって。
――復帰を知ったときはどう思いました？
宝　ファンの力が集まれば大きなことってできるんだなと思いました。本当に皆さんに感謝しましたね。
パパ　中2と小学校5年でこんな大偉業をやったヤツはいないですよね。……親バカかもしれませんけど（笑）。
――いやいや、ホントにいないと思いますよ。
力　ボクが芸能界を目指すようになったのも、あれがきっかけなんです。収録とかでテレビ局に行って芸能界に興味を持つようになって、それからダンスとか歌とか習いに行くようになったんです。
――そうだったんですか？　でもファンレターとかも来てたくらいだから、街とか歩いてたら「写真撮らせてください」とかもよく言

われたんじゃないですか。
パパ　いろんなとこで「一緒に写真撮っていいですか?」とか「握手してください」って言われてスター気分ですよ（笑）。
力　そういうのもあって、いま俳優を目指してるんです（笑）。
——プロレスラーになりたいとか、そういう時期はなかったんですか?
宝　ちょっと鍛えてたりしてたこともありましたね（笑）。
——それは過去形なんですか?
宝　こないだ大地君に会ったら「プロレスラーになる」って言ってたんで、ボクも、ちょっとなりたいって思ったんですけど、やっぱり体格的に無理だなって思って。
——いまのプロレス界には、もっと小さい選手もたくさんいますし、それこそ折り鶴兄弟っていったらプロレス界ではネームバリューもありますし。
宝　いや〜、でもやっぱりボクは大地クンには勝てないですよ（苦笑）。空手の試合のビデオ見せてもらったことがあるんですけど、強かったですからね。
——力君はどうですか?
力　プロレスラーになりたいとは思わないですけど、格闘家にはなりたいと思います。
——何か習ってたりするんですか?
力　ジムで筋トレしてるぐらいです。俳優としての身体作りって意味もありますけど。
——プロレスはかなりマニアックな見方をしてるって話でしたけど、いまは格闘技のほうが興味あったりするんですか?
宝　それはないです。やっぱりプロレスのほうが好きですね。
力　ボクもプロレスのほうが好きなんですけど、キックとか身につけたいし全部やりたいなと思って。やるんだったら総合ですね。でも興味あるぐらいで、本気でやるとかじゃないですね。
パパ　（割って入って）でも最近のプロレス界はちょっと元気がないですよね。仕掛人と言われたブラック・キャットさんも亡くなられて、ヘタな●●とか●●●●●●●とかが●●りするじゃないですか?
——ちょっと活字にはできないですけど、まあよく言われますよね（笑）。
パパ　そういうマニアックな見方をしちゃうんですよ（笑）。
——それは、かなりマニアックですね（笑）。

カクンが巻いているハチマキは破壊王が復帰した藤波戦の入場時に着けていたもの。当時、破壊王の付き人だった健想から手渡された、このハチマキは米川家の家宝だという。下の折り鶴は破壊王自ら折った宝&力とサインが入った貴重な逸品だ。

宝　ボクもそういうのが最近はわかるようになってきましたね（笑）。
——最近は暴露本的な雑誌とかもよく出てますけど……。
パパ　（さえぎって）そんなもの百も承知ですよ、我々は。
——それはそれは失礼いたしました！（笑）。
宝　そういうのも含めてプロレスの良さなんですよ。格闘技とはまた別の良さっていうものを見ないといけないと思うんですよね。
——でも、大学や高校だったら、周りは『PRIDE』とかK—1のほうが人気あるんじゃないですか?
宝　そうですね、それはもう間違いないです。正直な話、自分の周りにはプロレスファンはいないですね。
力　K—1とか総合に出てるレスラーは知ってるんですけど、プロレスだけを観てる人はボクの周りにもいないですね。
宝　そういう時代になってきてますよね、プロレス離れっていうか。
パパ　去年の健介vs小橋建太みたいな試合があれば、お金払いますよ、我々も。でも、東京ドームで6万人とか集めてたときはもったいないぐらいいいカードばっかりだったじゃないですか。
——ドームが満員になってたときは、やっぱりそれなりのカードが組まれてましたよね。
パパ　「え、こんな試合もやっちゃうの? 次に引っ張れるのに」とか我々は思うんだけど、それぐらいいい試合やってて。いまはホントに観たいカードって一試合ぐらいでしょ。
——そう思っている人が多いでしょうね。
パパ　ただ、ZERO—ONEの旗上げ戦は最高におもしろかったです。
宝&力　おもしろかったです！
——たしかに、あの旗揚げ戦は破壊王らしさが爆発したというか、ハチャメチャなおもしろさがありましたよね。
パパ　プロレスはああじゃなきゃ！　あれがエンターテインメントですよ。最近は（ブロック・）レスナーとかいっても、一般の人たちってレスナーなんて知らないじゃないですか。
——一応〝世界標準〟って売りなんですけど、まだまだ日本での知名度は低いですよね。
パパ　我々が考えてるのは、レスナーは中邑真輔が帰ってきて倒しますから。そういう物語だと思うんですよ。そうしないと新日本は生き延びれないし、レスナーで引っ張ってい

くって言ってもギャラが高すぎるからね。そこまで読んでますから、我々は。

——米川ファミリー恐るべし!(笑)。

パパ レスナーは華がないと思うし、チャンピオンとしてはふさわしくないよ。昔のフリッツ・フォン・エリックみたいに来ただけで怖い、あとはカブキさんみたいに自分でピューッと血を吹き出すとか、あとは星野勘太郎とマスカラスの第一戦とか、心に刻む試合がたくさんあるんですよ。そういう背筋がゾクゾクする試合っていうのがこの頃ないね。

力 ない!(キッパリ)。

パパ あと余談なんだけど、いいですかね?

——全然オッケーです!(笑)。

パパ 青山葬儀場で橋本さんの合同葬をやったじゃないですか。あのときの控室がおもしろかったんですよ。まず我々が行ったら当時・新日本にいた山中さんが「社長が一人でお待ちですから、どうぞご挨拶してください」って言ってくれて、僕ら3人で控室に行ったら藤波さんが一人でいらして、広い控室に藤波さんと私たち3人でいたんですよ。ところがそこは新日の控室でして、スーパースターが続々と来られたんですよ。

——藤波さんとも面識があるんですか。

力 知ってますね。ボクらを見て「大きくなったな」って言ってくれましたし。永田(裕志)さんも知ってますし。写真を一緒に撮ってもらったときも「君たちのほうが有名だろ」とか吉江(豊)さんに言われたり。

——それぐらいの選手たちは、もうゴールデンではやってない世代ですから、折り鶴兄弟のほうが知名度はあるかもしれませんね。

宝 西村さんなんかも「アメリカでテレビ観てたよ」とか言ってくれて。みんな知ってるんですよね。でも、ボクらが見たことない選手が控室にいて。「あれ誰だ?見たことねえぞ」って。

——素顔のマスクマンとかですかね?

宝 素顔のエル・サムライだったんですよ。あとタイガーマスクもマスク脱いでるし、(獣神サンダー・)ライガーさんも脱いでて、ボクらここにいていいのかなとか思って。

——すっかりファンみたいな感想ですね……ってファンでしたね(笑)。

宝 ちょっと気まずかったですね(笑)。

パパ で、裏話なんだけど、控室の入口のドアのところで若手が一応ガードマンみたいに立ってるわけですよ。そしたらタイガーマスクがマスクを脱いで自分のとこに置いて、そのままトイレ行ったんですよ。それを見てたライガーさんがイタズラしてそれを若手に被らせて。それでタイガーマスクがトイレから帰ってきて「あれ? マスクがない」って探すと若手が被ってるわけですよ。「お前、なんで俺のマスク被ってんだ!」っていうやりとりが葬式なんだけどおかしくてね。

——ライガーさんは昔から橋本さんと一緒に、よくイタズラしてたみたいですけど、葬儀のときもやってましたか(笑)。

パパ お茶目なんですよね、ライガーさんは。

——最初に橋本さんが亡くなったって聞いたときはどう思いました?

宝 力が抜けましたね。信じられなかったです。テレビを観てたら「橋本真也選手が亡くなられた」って。絶対あり得ないと思ったんですけど、僕、そのとき凄く具合が悪くて、40度ぐらいずっと熱があったんですよ。

——体調が悪かったんですね。

宝 そうです。ホントにキツかったんですよね。そんなときに橋本さんが亡くなったって聞いて精神的にもボロボロの状態でした。

——力君はどうでした?

力 信じられないの一言で。アニキが浪人してたんで、ZERO−ONEとか誘われてもボクだけ行って、橋本さんに会ってるのは自分のほうが多いんですよ。国技館の控室とかにも連れてってもらって、小池栄子さんとか勝俣さんとか、みんなで話しさせてもらったりして、そういう思い出も凄いあったんで、もう涙々で。ずっと落ち込んでましたね。

パパ 私は家内から「橋本真也が亡くなったんだって」ってメールが来て、「なに言ってんだ?」って思って。「でも、いま日テレでやってた。間違いかもしれないけど」って。

——最初に聞いたときはホント信じられなかったですよね。

パパ そうそう。そしたら、その頃、新日本プロレスにいた渡辺さんから電話がかかってきたんですよ。「米川さん、橋本が、橋本が……」って普通じゃないんですよ。だからそれでわかっちゃって。ホント、一瞬のうちに崩れましたね。夢も希望もなくなっちゃったって感じで。とにかく呆然として覚えてないですね。それで、会いに行きたいと思ったんだけど、どこに行っていいか誰もわからない。その後に一休庵でお通夜があって聞いて行ったら橋本さんのマネージャーがいて、「どうぞ」って中に入れてもらったんです。僕はそこから入らなかったんですけど、コイツらを行かせたんです。

宝 そこで、かずみさんに会って「ああ、ホントだったんだ」って感じで。

——会うのは久々だったんですか?

合同葬のときライガーさんが若手にイタズラしてるのがおかしくてね(パパ)

語ろう!! 破壊王! YONEKAWA BROTHERS

宝　久々ですね。それでお焼香をとりあえず済ませて。で、橋本選手からもらったハチマキがあるんですけど、それを持っていって。その場はそれで終わったんで控室で待ってたら、ZERO1・MAXとか新日本のレスラーとか芸能人の人とかがいたんですよ。

パパ　かずみさんの友だちから「アンタたち、来なさい」ってかずみさんとこに連れてってもらって、コイツらを見た瞬間にかずみさんは泣き崩れたんだよな。

力　そうなんです。

宝　「真也もアンタたちに一番会いたがってるから、顔見てあげなさい」って言われて。顔が全然違ったんですよ。橋本真也じゃないっていうか。でも、それでも信じられなかったですね。

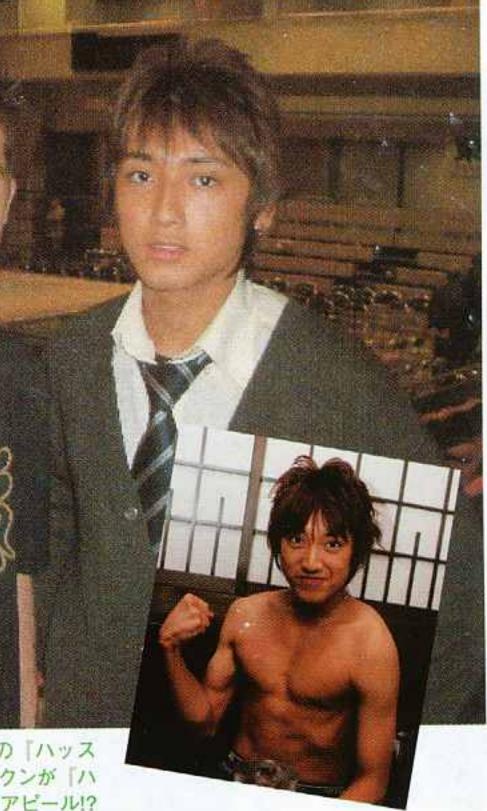
――大地クンもその場にいたんですか?

宝　いました。大地クンはホントに強かったです。全然涙も見せなかったし。

パパ　翌日のお葬式にも行って、そのときもかずみさんに「そばについてて」って言われて、ずっと近くにいたんだよな。

力　棺の中にボクたちが最後にメッセージとして鶴を折って入れさせていただいたんですよ。全部は入らなかったので、一部をファンの皆さんの気持ちとして入れさせていただいたんです。それができてよかったと思いますけど。

――最後に橋本さんと話したのって、いつか覚えてます?

力　最後に話したのは亡くなる2カ月前なんですよ。3月に『ハッスル』が両国国技館でやった日かな? アニキは浪人だったから行けなくて、僕だけ行ったんですよ。そのときに「お前、彼女できたら俺に電話しろ」って携帯番号を教えてもらったんですよ。

大地クンに負けずにボクも頑張って、いい俳優になろうと思ってます!(力)

プロレスラーになるのはあきらめてたけど、正直、『ハッスル』には出てみたいです!(宝)

破壊王ファミリーとも交流がある折り鶴兄弟。7・9&7・11の『ハッスル』では、ついにリングに上がった大地クン。折り鶴兄弟と大地クンが『ハッスル』で競演する日は来るのか? 力クンは上半身裸で参戦をアピール!?

――憧れの橋本さんの携帯番号を教えてもらったんですか?

力　そうなんです。そのあと電話しようと思ったこともあるんですけど、なかなか勇気が出なくて。橋本真也さんに電話するなんて。

――憧れの人っていうのもありますし、その頃、橋本さんは手術したりとかで、なかなか電話はしづらい状況ですよね。

力　しづらいじゃないですか。だから亡くなったときは電話しときゃよかったなと思って凄く後悔しましたね。

宝　小池栄子さんを紹介してくれたときも、「俺の恩人なんだ」って紹介してくれて。

力　橋本さんに「コイツらがいなかったらいまの自分はないんだよ」って言っていただいたんですよ。それで、最近も『ハッスル』を観に行ったときに小池栄子さんに会ったんです。

――お忍びでよく行ってるみたいですからね。

力　「覚えてますか?」って言ったら「覚えてるよ」って言ってくれて。で、ボクも芸能活動を始めたっていうことを伝えたんです。

――『ハッスル』はよく行かれてるんですか?

宝　ボクは行けない日がどうしても多いんで。それで「GyaO」でよく観させていただいてるんですけど、おもしろいですね。もうどっちが強いかとかじゃなくて、楽しませてくれればいいと思うんで。でも、力は最初は嫌いだったんですよ、『ハッスル』は。

力　最初は嫌いだったんですけど、いま一番好きですよ。おもしろいです。

――将来的に出てみたいとか思ってないですか? 芸能人も出てますし、それこそ折り鶴兄弟が参戦ってことになったら、プロレスファン以外の人も興味を持つだろうし。

力　それはいいですよねぇ。

宝　『ハッスル』だったらボクも出てみたいですね(笑)。

――じゃあ、『ハッスル』の偉い人に伝えておきます!(笑)。

宝＆力　よろしくお願いします!

――お父さんもマネージャーとかでどうですか?(笑)。

パパ　いやいやいや(笑)。でも、いまプロレス界はホントにヤバい状況ですよね。橋本さんがいたらまた違うんでしょうけど。なんとか、また盛り上がってもらいたいですね。

力　ボクは大地クンに懸けてますね。いまメル友なんですよ。

――大地クンとメル友でしたか。

パパ　コイツらは、かずみさんから会場とかに招待してもらって、大地クンと話したり、ひかるちゃんを抱っこさせてもらったり、いいお付き合いをさせてもらってるんですよ。

――じゃあ、近い将来、お二人も大地クンにもビッグになってもらって対談とかしてもらいたいですね。

力　もう約束してます(笑)。そのために大地クンに負けずにボクも頑張って、いい俳優になろうと思ってますので。そのときにはぜひ『kami-pro』さんでお願いします!

――もちろんです!

パパ　でも、かずみさんと大地クンと茉莉ちゃんとひかるちゃんが幸せになってくれればなとホントに思いますね。

――この前、取材させてもらったときは皆さん元気でした。とくに、ひかるちゃん(笑)。

パパ　それは良かったです。あとはプロレス界がさらに盛り上がるよう願っています。

――そのためには大地クンと、あとは折り鶴兄弟に、いろんな意味でハッスルしてもらいましょう!(笑)。

宝＆力　よろしくお願いします!(笑)。

【6月29日/都内・錦糸町『四季の蔵』にて収録】

破壊王の一周忌に蝶野、勝俣さんらが出席

いつだって
アナタを忘れません……

破壊王NEWS

構成&撮影／松澤チョロ
designed by matsu (TwoThree)

本人の希望で、お母さんと同じ岐阜県土岐市内の嶋香寺のお墓に眠っている破壊王。戒名は「天武真優居士（てんぶしんゆうこじ）」

昨年の四十九日法要以来、土岐市へ足を運んだ次女のひかるちゃん。橋本さんの生家で飼っている犬とも久々に再会した、ひかるちゃんは雨の中でも、やっぱり元気!

右ヒジを手術し欠場中の蝶野正洋が昨年の四十九日法要に続き、一周忌にも出席し墓前に手を合わせた。しかし蝶野は、この日の夜の後楽園大会に姿を見せなかったためサイモン社長はタッグベルトの剥奪を示唆。これをキッカケに両者には深い溝ができてしまった。

昨年7月11日に脳幹出血により40歳という若さで亡くなった橋本真也さんの一周忌法要が7月2日、故郷の岐阜県土岐市の嶋香寺（とうこうじ）で、しめやかに営まれた。

一周忌法要には、破壊王の親代わりの野田夫妻や妹さんら親族、さらには柔道時代の恩師・高塚正敏氏、長男の大地クン、長女の茉莉ちゃん、次女のひかるちゃん、闘魂三銃士の盟友・蝶野正洋、芸能界で一番仲が良かったといわれる勝俣州和も妻子とともに姿を見せ、故人を偲んでいた。その後、破壊王が眠るお墓まで移動しようとしたところ、突如、集中豪雨が襲い、しばらくのあいだ、参列者は足止め状態。参列者は口々に「きっと、真也のイタズラだ」と笑顔で語り合い、ありし日の橋本真也さんを思い出していた。

その後、野田さん宅で顔を合わせた蝶野と大地クン。「プロレスラーになるの？」と蝶野に聞かれた大地クンは「なろうと思ってます！」とキッパリ。さらに「足のサイズはいくつ？」と蝶野に聞かれると「28か29あります」と答えた大地クン。蝶野は「それは凄いなぁ。だったら、絶対もっと大きくなるよ。将来が楽しみだね」と太鼓判を押していた。

じつは蝶野、この二日後、マルティナ夫人が都内の病院で男児を出産していたことが判明。悲しい別れから丸一年、第一子が誕生するというのも何かの縁なのかもしれない。

ちなみに、この一周忌法要翌日の7月3日は破壊王の誕生日。この日は中村祥之FOS社長、大谷晋二郎代表をはじめとするZERO1-MAX勢が嶋香寺を訪れ、大地クンら子どもたちを連れた前夫人のかずみさんと合流。ZERO1-MAXの選手、社員は線香を供え、墓前で手を合わせ故人を偲ぶとともに団体のさらなる発展を誓っていた。

来年も再来年も、それからもずっとずっと、破壊王のことは絶対に忘れません。押忍!!

西村の名勝負として名高いのが、98年4月4日東京ドームでの橋本と組んで挑戦したIWGPタッグ戦。王者は武藤&蝶野組！

またもや新事実!!

破壊王イタズラ伝説もう一人の重要参考人

西村修登場！

新日本時代の破壊王イタズラ伝説をよく知る被害者として、前回は天山広吉が登場、驚愕のエピソードを連発してもらったが、今回はもう一人の重要参考人である西村修を直撃！至近距離から見た破壊王の姿、そして天山の真実までを完全告白！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　構成／真下義之
designed by hisa (TwoThree)

「真ちゃんラーメン」秘話
道場犬ワカと破壊王二十往復ビンタ事件……
天山の〝情報操作〟も発覚!!

語ろう!! 破壊王!
OSAMU NISHIMURA

―ついに西村さんが新団体『新無我伝説』を旗揚げすることになったわけですけど、今回はそれとはまったく関係なく、一周忌を迎えた橋本真也さんの伝説的エピソードをいろいろ語っていただきたいと思います（笑）。

西村　あ、そうですか（笑）。

―じつは前号で天山選手に話をうかがったんですけど、破壊王に詳しい"重要参考人"として、西村さんにも話を聞かねばと思いまして。

西村　天山は何を話してたんですか？

―橋本さんとの多摩川の投網漁とか、空気銃乱射事件とか、矢ガモ犯人疑惑とか。

西村　そこだけ聞くと、推理小説のサブタイトルみたいですね（笑）。ただ、天山の記事には、彼の"情報操作"があるかもしれないんで。記事は読まずにしゃべろうと思います（笑）。

―よろしくお願いします（笑）。では、橋本さんとの出会いからうかがえますか？

西村　私は新日本プロレスに90年の4月2日に入門しまして。それから3、4日経った頃、私が道場の二階に行って用を済ませて階段を下がったら、そこに橋本さんがいたんですよ。で、「このたび入門しました、西村です。よろしくお願いします！」と挨拶したら、「なにぃ～！」って怒鳴られまして。

―いきなり「なにぃ～！」ですか（笑）。

西村　挨拶の声が小さい、という意味だったんでしょうね。それがファースト・コンタクトです。

―それからどのように橋本さんと関わりが深くなっていったんですか？

西村　そのときちょうど、武藤（敬司）さんが凱旋帰国して。藤波（辰爾）さんが欠場してたので、金本（浩二）が武藤さんに付いて、小原（道由）がマサ（斉藤）さん。天山が長州（力）さんに付いてたんです。

―そういう付き人の配置だったと。

西村　それでなんとなく、私が橋本さんの係みたいになっちゃったんです。ま、天山もやってましたけど。

―その頃は正式な付き人ではなかったんですか？

西村　そうですね。最初は薬箱当番として、テーピングとか入った大きな箱を持たされたんですよ。で、いつの間にか橋本さんから「俺の荷物も持て！」って指示されて。そこからは洗濯に、荷物管理、食事会のお供とか。主に巡業中より道場の用事が多かったですね。……それに、橋本さんって昼夜が逆転しているんですよ。

―完全な夜型で、寝るのは朝7～8時だったという噂を聞きますね。

西村　だから道場には夕方来るんです。もちろん合同練習はとっくに終わってるんですけど、午後3時ぐらいになったらガーッと車に乗ってきて道場に来る。それで着いたら、まずはごはんね。

―まずはごはん！（笑）。

西村　橋本さんにとっちゃ朝飯ですね。それから練習するんですけど、練習をしながら～空気銃を撃ったり。練習をしながら～料理作ったり。練習しながら～買い物行っちゃったり。

練習しながら料理したり、東急ハンズ行ったり その間も我々はず～っとお供ですよ！

―ガハハハ！　それは練習なんですか？

西村　ずーっと集中して、はい終わり！　じゃないんですよ。練習しながら～サウナ行っちゃったり。ちょこちょこ練習やって……パッと見ると、漫画読んでたり。

―本能の赴くままに生きてますね（笑）。なんかサル山を観てるような。

西村　一応、格好は練習着なんですけど、練習のパーセンテージはかなり低かったです（笑）。午後3時頃に来て、夜中の12時とか1時まで同じ格好で。

『新無我伝説』の記者会見終了後の取材日程にも関わらず、非常にジェントルかつサービス満点なトークで素敵な破壊王伝説を語ってくれた"ミスター無我"こと西村修。

―気持ちは練習のつもりなんですね。

西村　そのまま、お料理教室が始まったり。東急ハンズに行っちゃったり。我々はず～っとお供ですよ。

―そんな自由きままなスケジュールに付き合い続けるのは、かなりキツそうですね（笑）。

西村　ただ、新弟子でも、金本や小原は大学を卒業してから入ってますから要領がいいんですね。体育会でそういうのを体験してたから、先輩の雑用を逃げて、自分の時間を作るのがうまかった。でも天山と私は要領悪くて、すぐ橋本さんに捕まっちゃう。それで私は道場の外の用事を担当して、道場の中の用事は天山でしたね。……とくに私は、車を持ってたんで。

―必然的に買い出しや運転手の役目になったわけですね。

西村　そのきっかけは蝶野さんなんです。蝶野さんとたまたま話をしたときに「お前、車持ってるの？　じゃあ、持ってこいよ」って言われたんです。でも、あの人は合同練習に一回も参加したことない人ですから。以前に道場で「ドラゴンボンバーズの説明会があるから、朝10時に集合！」って緊急指令があったときも、一人だけ夜の10時に来た人ですし。

―ガハハハ！　まさに黒のエゴイスト（笑）。

西村　そういう無責任な人から、「（優しい声で）車、あると便利だよ～」って言われて。それを信じて、車に乗ってきたんですよ。そしたら「道場に見慣れない車がある」って大変な騒ぎになっちゃって……。

―やっぱり、話が違っていましたか。

西村　いまさら「蝶野さんに言われた」なんて言えないし。その車もずっと道場の前に停めてるから。だんだんへんな空気になってきてね。ミスター高橋さんも「あのスカイライン、誰の車だ？　ずっと停まってんじゃねえか？」って気にして、「西村！　"この車の持ち主、道場に出頭せよ！"って紙に書け」って言われて。……どんどん言えなくなっちゃって。

―それは非常にきり出しにくいですね。

西村　その紙を「貼ってこい！」って言うから、自分で貼りに行っちゃってね。

―ガハハハ！

西村　仕方なく、次の日に謝りに行ったら、その世代の代表的な爆笑事件になっちゃった。それで橋本さんにも「10年早い！」と言われたんです。ところが、いままで新弟子に「ワックス買ってこい」だの、「BB弾を買ってこい」っていう雑用が可能な範囲って、せいぜい二子玉川や等々力、遠くても自由ヶ丘近辺だったんです。ところが私は車を持ってるから……。

―活動範囲が一気に広がってしまった、と（笑）。

西村　ええ。東京中に広がっちゃったんです。それで遠いときは東京の隅から隅まで。"雑用大魔王"の橋本さんと獣神ライガーさんの注文が来るんです。

―いわゆる新日本プロレス道場最凶コンビですね（笑）。

西村　とくに橋本さんは空気銃ね。最

強のバネが入った、大改造したライフルを大阪で買ったんですよ。

――それってヘタしたら、殺傷能力あるんじゃないですか？

西村　しかも弾が普通のBB弾じゃなく、鉛でできた弾なんです。

――絶対に危ないじゃないですか！

西村　ええ。ただ、その弾に欠点がありまして、照準のスコープに微妙なズレが出るんです。それで、スコープの調整をしなくちゃいけないから、道場に来てごはんを食べると居間のソファに座って、あたりかまわずバンバン撃ち始めるわけです。

――ガハハハハ！

西村　その弾を「おっ、どこいった？」って聞かれるから、私が「左です！　右です！　下です！」って。30分くらい答えるんですけど。ハッ！　と我に返って「自分は新日本プロレスに入ったはずなのに……」と思ったりね。これじゃ『日本野鳥の会』の訓練所じゃないか、って（笑）。

――そりゃ、複雑な気持ちにもなりますね。

西村　あと橋本さんの車のワックスがけは全部、私の担当だったんです。最低、3時間かかって、完璧にしなきゃいけない。しかもあの人は、凄～くタチの悪いAB型ですよ。

――凄くタチの悪いAB型（笑）。

西村　ちょっとの汚れでも、磨き直しですから。夏なんて、ワックスがどうしても跡になっちゃう。しかもワックスした日に限って雨が降ってくるんです！　そんなときも橋本さんは練習しながら、ワックス磨きの様子を見回りに来たり、『美味しんぼ』読んだり。

――橋本さんは『美味しんぼ』のファンでしたか（笑）。

西村　『美味しんぼ』が大好きでね。漫画もテレビもよく見てて。番組でやってる料理をなんでも作りたがるんですよ。

――有名な〝真ちゃんラーメン〟の伝説もありますね。

西村　〝真ちゃんラーメン〟のときも「おい！　お前の友だちにラーメン屋いるか？」って聞かれてね。

――また唐突な展開ですね。

西村　その質問自体がおかしいですよね（笑）。ただ、残念ながら、私の友だちの友だちにたまたまラーメン屋の知り合いがいたんです。そしたら「そいつに麺の作り方を教われ！」って言うんです。

――まず、麺の作り方からですか！

西村　それも私が麺の修行に行くのか？　レシピを書いてくるのか？　橋本さんが具体的に求めてることが一切、わからないんです。でも一応、一生懸命に調べてる態度を見せなきゃいけないじゃないですか？　その頃はこっちも要領がよくなってきて……いいかげんな嘘もつきましたね。「お店が閉店しちゃったんです。お店の人も東京にいないみたいです」とか（笑）。

――ガハハハ！

西村　じつは、神保町のけっこうな名店でね。そんな店が教えてくれるわけないじゃないですか？

橋本さんがワカ（道場犬）をはたくようになって、だんだん「困ったような顔」になっちゃって

――ラーメン屋にとっては重要な企業秘密ですよね。それで橋本さんは道場にほど近い等々力の『紅蘭』に「オヤジ！　ラーメンの作り方教えろ！」って言ってたみたいですね。

西村　ええ。そこからはスープにこだわって、トリガラから何から全部試して試行錯誤しながら。道場をも～の凄く散らかしてました。

――ちなみに味はいかがだったんですか？

西村　かつおだしが効いて、けっこうおいしかったんですけどね。そしたら、次は「豆腐作る！」って始まってね。豆腐の器具まで買ってきちゃって。それで一丁作るのに10万円もかかっちゃって（笑）。

――器具まで買いそろえてましたか。

西村　一丁作るのに10万ですよ？　で、うまく作れないともう飽きちゃうんです。

――本当に子どもですねぇ。

西村　空気銃を撃つときだって、だいたいは天山が標的なんですけど……。まずは、フル○ンにさせてね。

――あ、天山さんはフル○ンでしたか！（笑）。

西村　フル○ンでしたね（キッパリ）。それでチ○コをテーピングでグルグル巻きにして、そこに缶ジュースの缶を吊るして、その缶が標的なんですよ。

――ダハハハ！　チ○コからぶら下がる缶！（笑）。

西村　当たると「痛てててっ！」ってわめいてね。たまに「後ろ向け！」って言われて、後ろ向きになったらわざとケツに当てたりね。弾も鉛だから、血も出ますし。

――えっ、普通のBB弾じゃなかったんですか？

西村　BB弾にも鉛の弾の種類があるんですよ。

――そりゃ、猫も死にますよね（笑）。しかし、そのフル○ン伝説のことは天山さんも言ってませんでしたよ。たぶん、自分からは言いづらかったんでしょうね。

西村　あと橋本さんの標的といえば、スズメですね。

――天山さんが、7羽食べたというアレですね。

西村　私は食べませんけど、天山は「食べてみろ！」って言われて食ったんですよ。それで体調がおかしくなっちゃった。ライガーさんからも「バカじゃねえか？　身体にサナダムシ入ってんじゃねえか？」って言われて、天山も「そうですねぇ……」って悩んじゃってね。それで目黒の『目黒寄生虫館』という場所を訪ねて「僕は野生の鳥を食べました。体重がどんどん落ちてきました。寄生虫か何か入ったんでしょうか？」って聞いたんですよ。

――ガハハハ！　直接、聞きに行かれたんですか。

西村　そしたら「ウチじゃわかんないから病院行ってくれ」って言われて。『寄生虫館』は、寄生虫を研究するところですから、体調までわからないですよね（笑）。

――天山さんは「西村さんが電話した」って言ってましたけど。

西村　いやいや、一緒に行きました。

今回もまたもや素敵すぎる一枚。三銃士にライガー、西村、天山、小島に金本、キャットさんにサムライ、飯塚。新日本の最後の黄金期を象徴する90年代ベストメンバー。

橋本さんの空気銃の獲物は天山や猫、スズメだけじゃない。じつは……

—なんか、天山さんの話とは微妙にニュアンスが違いますね。

西村 やっぱり、情報操作がありましたね（笑）。そういえば、道場にいたワカって犬は、私が巡業中に拾ったんですよ。

—あ、ファンにも有名な、道場犬のワカは西村さんが拾ったんですか。

西村 ええ。どうせ迷い犬だから、バッグに入れて、バス下のトランクルームに入れて。「コインランドリーの洗濯中に一晩だけかわいがろう」と思ったら、バッグから「ワン！」って出てきちゃったんです。それを橋本さんがたまたま見て、「おう、かわいい犬がいるな。持って帰ろう！」って。

—一番、見つかっちゃいけない人に見られたと。

西村 最初は橋本さんも家に連れて帰ったり凄くかわいがってたんですね。でもだんだん大きくなって、臭くなったりすると連れて帰らなくなって……。最後なんか見かけただけではたくようになっちゃったんですよ。

—ひどい男ですね（笑）。

西村 ワカを子犬のときから表情をずっと追っていったらわかりますけど、最初はかわいらしい柴犬がだんだん「困ったような顔」になっていくんです（と眉間をつまんでみせる）。それでおもしろいのが、橋本さんがロッカールームに入ってくると、物陰からじーっと様子をうかがってるんですよ。

—身の危険を察知していたんですね。

西村 犬がですよ！ そこに橋本さんがいるかどうか、ビクビクしながら見てるんです。

—本当に動物の敵ですね（笑）。あと魚とかも撃ってたらしいですけど。

西村 魚どころか、道場の前には橋本さんが嫌いなおじさんがいたんですよ。

—まっ、まさか……。

西村 撃ってましたね（キッパリ）。

—それって、犯罪じゃないですか！

西村 ま、向こうもわかってましたけどね。それに道場に橋本さんがブーン！ って車で来て、車を停めると、そのおじさんがちょうど出入りできなくなっちゃう場所に置くんですよ。

—悪質なヤリ口ですねえ（笑）。

西村 そのおじさんもおじさんで、たいした用もないのに一日に5回も6回も出入りするんです。しょうがないから、そのたんびに私が移動するんですけど。いまだに、そのときの車、インフィニティのハンドルの感触が残ってますよ。……日産には悪いけど、一生乗ることはない車ですね。

—ガハハハ！ あと「小島さんの部屋に大量のセミを放った」って伝説もありますね。

西村 あのときも虫捕りカゴを、その道場の前のおじさんの子どもに借りてきて、獲りに行ってましたね。近所の子どもとは凄く仲よかったですから。

—自分も子どもだけに、気が合うんでしょうね（笑）。そのセミって橋本さ

んが何百匹と捕ったわけですか？
西村　何百匹じゃなく、実際は何十匹のレベルですけどね。そのまま多摩川でセミを捕って帰ってきて。小島の部屋は、奥の個室だったんですけど、小島が「うわ～。今日も疲れた」って帰ってきて、部屋を開けた途端、「ミミミミミミ！」ってセミが鳴いて。小島が「ギャ～ッ！」って（笑）。
――ガハハハ！　そういうイタズラ好きな一方で、凄く寂しがり屋な面もあったと聞いてますけど。
西村　ええ。橋本さんがカナダに行ってるときにホームシックになっちゃって。日本に毎日、コレクトコールしてたらしいです。新日本の会社に電話してくるときなんか、経理の人から総務のおばちゃんまで社員全員としゃべったらしいですから（笑）。毎日、毎日ね。当時なんか通話料も高いですし。
――いまとはかなり違いますよね。
西村　私が93年に海外にいたときも一分、100円しましたからね。で、橋本さんはあっという間にコレクトコールの金額が500万以上になっちゃったらしいですよ。
――ご、500万以上……！
西村　それを会社に借金してる、って伝説がありましたね。まぁ、私も1ヵ月、150万使ったことありますよ。相手はドイツの女だったんですけど。
――ガハハハ！　そのへんは破壊王イズム継承ですね。しかし、日本でも寂しがり屋で、女性関係も派手になっていったという感じなんですか？
西村　そうですね……。でも私の時代は、すでにかずみさんとお付き合いしてたんで、ちょこちょことファンにイタズラって程度でしたね。
――当時は、道場前に待ってるファンが沢山いたらしいですね。
西村　ええ。それで皆さん、ちょこちょことね。……中西（学）なんか、手を出そうとしたら「助けて～」って逃げられて、その女性が馳（浩）さん行きつけのバーで馳さんに言いつけたら、それが長州力に伝わって、永島（勝司）さんに伝わって、次の日にスクワット5000回やれ！　って命令されてね。それが原因で一時期、中西はモヒカン刈りになったんですよ（笑）。
――あ、中西さんのモヒカン時代ってありましたね。
西村　あれは罰ゲームなんですよ。
――モヒカンはファンに手を出した罰ゲームでしたか（笑）。
西村　それでネコさん（ブラック・キャット）にいつも怒られてましたね。「女の子口説くのもいいけど、やり方がある」って（笑）。
――相当、人間離れした口説き方だったんでしょうね（笑）。
西村　あと近所の薬局が閉店セールで全品半額になってたんですけど、ある日行ったら、コンドームの棚が全部カラッポなんですよ。
――いやな予感がしますね（笑）。
西村　道場に帰って、中西の部屋見たら、案の定それらしき箱が大量にありましたからね（笑）。
――ガハハハ！　期待にたがわぬ、野人ぶりですね。それはともかく、その頃の破壊王はかずみさんにご執心だったと。
西村　ええ。92年か91年ぐらいだから、かずみさんに夢中でしたね。橋本さんとかずみさんのデートのカムフラージュのために、私がダミーでかずみさんと歩いたりしました。それで橋本さんが遠くを歩いて、一緒の車に乗せたりね。
――かなりアツアツの状態だったんですね。
西村　二人で旅行行ったりするときは、羽田や成田に迎えに行ったりね。でも当時、私がいないと道場の雑用が成り立たなくなっちゃってましたから。
――雑用のプロと化していたと。
西村　つらい時代でしたね（しみじみと）。そのおかげでワックスのかけ方なり、掃除の仕方なり、様々なことを覚えました。ただ、空気銃は勉強する必要なかったけど（笑）。
――空気銃は必要ないですよね。
西村　もちろん、橋本さんもたくさんいい部分もありましたし、後輩の面倒見がいいので、私と天山はとくにかわいがってもらいました。でも小島の下の世代くらいから橋本さんの付き合い方も変わってきましたね。
――その時代が、古き良き新日本プロレス道場の最後の世代じゃないですか？
西村　いまはレスラーが個人主義ですしね。小島まではそういうのを経験してます。まぁ小島は、小原にかなりシゴかれてましたけど（笑）。
――ガハハハ！　道場での小原さんの評判は悪いですよね（笑）。
西村　私は同期だったんで、小原には普通の感情しかないですけどね。
――天山さんは「新日本プロレス学校時代は西やん！　山ちゃん！の仲だったのに、一回辞めて戻ってきたら、西村さんの態度がまったく違ってた」と言ってましたけど。
西村　いやいや、プロレス学校時代

道場で天山に厳しい態度をとった理由？あまりにミスが多かったからですよ！

は違いますよ。天山はプロレス学校に3ヵ月ぐらいしかいないですもん。私が天山に対して態度が厳しくなったのは……あまりにミスが多かったからですよ！

――あ、天山さん自体に問題がありましたか（笑）。

西村　天山の行動は、部外者だったら大爆笑ものですけど、道場での連帯責任とかになると、たまったもんじゃない。いちいち先輩に怒鳴られますから。水まき一つにしたって、あたりをびしょびしょにしながら、蒔いてましたし。

――水まきさえ、不充分でしたか。

西村　一番凄かったのは、ある夜に（気弱な声で）「私はもう耐えきれません。今日限りで辞めます……。西村さんだけには言っておきます」ってシリアスな顔で告白するから、「じゃあ、頑張って」って最後に固い握手をしたんです。それで、夜逃げの時間ってだいたい深夜3時、4時ぐらいなんですよ。

――いわゆる丑三つ時ですね。

西村　それで多摩川近くの通りでタクシーを拾うか、最寄りの駅に行くかね。で、朝が来て、自分がバッ！と8時に起きたら、天山がまだ寝てるんですよ。

――ガハハハハ！

西村　「あれ、何やってんの？」って聞いたら、「えっ！　あーーっ！　寝過ごした！」って。しょうがないから、また道場の掃除してましたね（笑）。

――夜逃げですら、寝過ごしたと（笑）。

西村　涙を溜めて、「辞めます」って言った奴が、思いっ切り寝てるんですからね。

――いや〜。天山さんはおもしろすぎますね。

西村　あと90年の8月に道場でまとまったお休みが突然、取れたんですよ。小原と相談して、とりあえず実家が遠い人から家に帰そうと、天山と金本を先に実家に帰したんです。その代わり「2泊3日で帰ってこい」って言って。

――それは新弟子には嬉しいでしょうね。

西村　でも、そのあと合同練習の予定が急に決まっちゃってね。最終的に「全部で3日間」しか休めなくなって、このままだと私と小原の休みが取れなくなっちゃったんです。

――それは困りますね。

西村　仕方ないから、二日目に金本と天山を呼び戻そうってことになった。まず、金本に電話したけど、アイツはマイペースだから連絡つかない。天山に電話したらお母さんが出てくるんですね。事情を話して「申し訳ないけど、すぐ帰してもらいたい。まだ新幹線もありますから」ってお願いしたんです。でもお母さんに「いま親戚じゅうが集まってますから。勘弁してください」って言われてね。

――やっぱり、お母さんには言いづらいですね。

西村　仕方ないから「本人を出してもらえますか？」って。で、本人に電話口で怒ったら「じゃあ、いまから帰ります」って。でもそのときはもう夜10時、11時になっちゃってね。

橋本さんに殴られ、蹴られて生まれて初めて人に殺意を持ちました

――京都から東京に戻るのは厳しい時間ですね。

西村　新幹線に乗ったら、名古屋止まりでその先に行けなくて。仕方なく名古屋からタクシーに乗ったらしいんです（笑）。もう山本小鉄さんも凄く怒ったし、飯塚（高史）さんや橋本さんもカンカンになってましたから。「とにかく帰んなきゃいけない」って思ったらしくて。

――必死になるのが、ちょっと遅かったですね。

西村　その夜は天山は帰ってこないし、連絡も取れないから、飯塚さんが「もういいよ。お前たちも帰れ。一泊だけで悪かったな」って言われて私と小原も実家に帰ったんですよ。

――なるほど。

西村　あとで聞いたら、名古屋からタクシー乗ったはいいけど、運転手さんに「ホントにお金持ってんの？」って言われて静岡で降ろされて。静岡からまたべつのタクシーに乗ったらしいんです。結局、東京に到着したのは朝ですね。でも、あとから考えたら、始発の新幹線のほうが全然早かった（笑）。

――ガハハハハ！

西村　それでタクシー代、10万円ね。それで（気弱な声で）「これ、経費で下りるんでしょうか？」って（笑）。これが天山のタクシー事件の全貌ですね。

――いや〜。天山さんも、破壊王とはちょっと違った伝説の持ち主ですねぇ。そういう常識破りな面で、橋本さんから受けた影響とかはありますか。

橋本さんのお葬式には、青森から寝ないでレンタカーを運転して行きましたね

西村　ま、ああいうのは常識人ではなかなかできませんよね（笑）。この世界、型破りな発想や人は必要ですし。昔のプロレスの世界は、非常識人が多かったですからね。

——プロとしては、必要な要素ですよね。

西村　橋本さんにはいろいろ複雑な感情もありましたけどね。じつは、ZERO-ONEが旗揚げするときに誘われたんですよ。

——橋本さんから、誘われてましたか？

西村　ただ、個人的に橋本さんへは複雑な思いもありましたから。素直に二つ返事では返せませんでしたね。…20往復ぐらいの強烈なビンタ食らったこともありますし。

——20往復ですか！

西村　入門当時に挨拶の仕方で注意されてね。バチーン！　バチーン！って往復ビンタが始まって。私も殴られ疲れてきちゃって。床に倒れたとき、ヘビ柄の靴で顔面をバーン！　って蹴られてね。ブァー！　っと血が出て、顔面が腫れ上がっちゃった。その傷がいまだに残ってます。もうちょっとで失明ですよ！　……そのとき、生まれて初めて人に殺意を持ちました。それで包丁を3時間くらい、見つめましたから。

——エーーッ！

西村　「この人が世の中からいなくなるなら……」って。まあ、いま思えば、それだっていい思い出ですよ（笑）。

——この時代に、そこまで濃い人間関係もなかなかないですよね。

西村　付き人としては橋本さんを反面教師的に見てた部分もありますけど、キャリアを経ると、橋本さんが言ってたことを理解できた部分もありますね。

——西村さんは付き人を付けない主義なんですよね。

西村　それは師匠のヒロ・マツダさんの教えもあってですね。アメリカでは自立してないと、人の協力なんか得られませんし「大人である」ことが求められますから。その発想から付き人は付けてません。「勉強したいから、洗濯からやらせてください」って人がいたら、話は別ですけど。

——さすがの天山さんも、破壊王の悪い部分は見習わず、付き人にはあまり無茶は言ってないみたいですしね。

西村　迷惑といえば、橋本さんの葬式のときも、東北の奥地の青森県の三沢ってとこにいたんですよ。北海道だったら飛行機も1時間で着くけど、よりによって三沢ですよ？　そこから急に帰らなくちゃいけなくなっちゃって。電車も超満員、バスも間に合わないから、レンタカーをみんなで借りて。

——それは、また大変でしたね。

西村　そこからレンタカーで寝ないで葬式に行きましたから。とにかく橋本さんには最後まで迷惑かけられっぱなしでしたね（笑）。

——破壊王はどこまでも、人騒がせだったわけですね。今日は本当にありがとうございました。

【06年6月23日／水道橋・東京ドームホテルにて収録】

にしむら・おさむ■1971年、東京生まれ。90年に新日本プロレス入門。91年4月に飯塚孝之（現・高史）戦でデビュー。海外からの凱旋帰国後に後腹膜腫瘍で欠場。手術後、食事療法と精神修行で00年の藤波辰爾戦で復帰。プロレスの原点を模索する『無我』スタイルに傾倒。今年、1月に新日本を退団。8月2日には『新無我伝説』の自主興行を開催予定。

ついにドラゴン合流!!　ブラック・キャット追悼　「新無我伝説」旗揚げ!!

"辞めそうで辞めない"状態が続いていた悩めるドラゴン、藤波辰爾がついに新日本プロレスを退団し、西村修&ケロちゃんと合流を表明！　8月2日に後楽園ホールで旗揚げする『新無我伝説』へバックアップを約束。そして「選手でも参加するし、全面的にサポートさせてもらう」と断言したから、ドラゴンマニアにはたまらない。

ドラゴンを決意させたのは、今大会がドラゴンボンバーズの盟友の故ブラック・キャットさん（今年1月に急逝）の追悼大会という側面も大きく、「スタートにあたって、ネコちゃんの追悼試合をやってからっていう、彼らのケジメに心を打たれた。……僕はそういうのに弱い」と心境を告白。

気になる試合カードだが、念願のドラゴン参戦を受けた西村が「胸を借りたい」と名乗り！　この対決が実現すれば無我マナーに則った極上のプロレスを披露してくれるのは間違いない！

西村は「藤波さんの築かれたコネクションが大事になってくる」とドラゴンネットワークにも注目。ケロちゃんも「藤波さんには言ってないけど、チケットも売っていただければ（笑）」とドラゴン効果に期待は膨らむ一方だ。

ドラゴン参戦で注目度倍増の『新無我伝説』から、もう目を離せない。終わりなき無我戦士たちの宴はすぐそこだ。アイ、ネバーギブアップ！

ドラゴン合流に先駆けて6月23日には、西村とケロちゃんが自主興行を発表！　手作り感あふれる会見にはヒロ斉藤、吉江豊、竹村豪氏も登場。

新無我伝説 エピローグ
〜BLACK CAT MEMORIAL〜
8月2日（水）東京・後楽園ホール
試合開始 19:00

［対戦カード］
西村修vsヒロ斉藤／藤波辰爾vs海外強豪選手
吉江豊vs長井満也／後藤達俊vs竹村豪氏
■ブラックキャット引退、並びに追悼セレモニー

［チケット料金］
SS席 6,000円／A席 5,000円
B席 4,000円／立見（当日のみ）3,000円
※後楽園ホール、チケットぴあ、ローソンチケットで発売。

［問い合わせ&電話予約］
無我実行委員会 03-3265-8390

ついに開校!! プロレスを知らない総合世代のヤングに送る

新日本プロレス

韓国の古豪は"昭和・新日"の勝ち組だった!

私はマシン軍団で蔵を建てました

ストロングマシン2号の正体

力抜山

今号は"マシン祭り"だ、ワッショイ、ワッショイ! ギガガガガガ!!(マシンボイスで)。前号のK-1ソウル大会出張の際に、ストロングマシン2号の正体、力抜山に会ってきた!! いまはスポーツジムを経営しながら、悠々自適の生活を送る韓国プロレス界の古豪。早すぎた(?)韓国カミングアウト問題にも「ギガガガガガ!!」と言及しましたよ!

聞き手/ジャン斉藤 協力/大川"隊長"義之 designed by shiraki(TwoThree)

橋本
レン

西村　ま、ああ
かなかできませ
界、型破りな発
昔のプロレスの
かったですから
―プロとして
ね。
西村　橋本さん
情もありました
RO―ONEが
れたんですよ。
―橋本さんか
か？
西村　ただ、個
複雑な思いもあ
二つ返事では返
…20往復ぐらい
たこともありま
―20往復です
西村　入門当時
されてね。バチ
て往復ビンタが
疲れてきちゃっ
ヘビ柄の靴で顔
られてね。ファ
顔面が腫れ上が
いまだに残って
失明ですよ！
て初めて人に殺
で包丁を3時間
から。
―エーーッ！
西村　「この人が
るなら……」って

韓国プロレス スーパースター列伝

―いやあ、今日は伝説のマスクマンに会えて光栄です！

力抜山　ん？　伝説も何も、俺はまだ引退してないからな！

―あ、そうなんですか（笑）。

力抜山　まだまだ現役だよ。今年の夏にまた試合をやるし、こないだもリングに上がったばかりだ。前半はストロングマシンのマスクを被って、後半は脱いで闘ったんだよ（自慢げに）。

―あ、ストロングマシンのマスクを被って！（笑）。

力抜山　そうだ。いまでも俺がストロングマシン2号だったことは、韓国のプロレス界では広く認知されてるんだよ。

―一種のブランドではあるんですね。しかし、いまだにリキさんが現役だったことは驚きです（笑）。

力抜山　まあ、そんなにたくさん試合をやっているわけではないけどな。オファーがあればリングに上がっているぐらいだけど。

―リキさんはこんなに立派なスポーツジムをお持ちですから、やっぱりトレーニングは欠かしてないですか？

力抜山　ん？　いまはそんなに一生懸命やってないよ（笑）。健康を維持する程度かな。いちおう新韓国プロレスという団体に所属しているけど、こっちも食っていかなきゃいけないから。ほかの仕事をしながら、プロレスのほうは、ほどほどにやってるって感じだね。

―プロレスだけじゃ食っていけないですか？

力抜山　食えないなあ。いまの韓国では難しい（キッパリ）。

―リキさんは実業家として成功されてるから、プロレスもできるってことなんでしょうね。

力抜山　まあね。このスポーツジムも当初は100坪くらいのスペースだったんだが、そこからいろいろ努力をして広げてな。いまは1500坪ぐらいあるからな。

―1500坪！　トレーニングマシンの設備は見るからに最新だし、かなり繁盛してるって聞いてますよ。

力抜山　このスポーツジムの経営は俺の息子に任せてるんだ。で、俺は建設業を手掛けてるんだよ。

―ああ、建設業まで。そのもとになった資金はプロレスで稼いだお金なんですか？

力抜山　そうだね。あとプロモーターとしても10年ぐらい活動してきたからな。いまは不景気なのでプロレス事業もかなり苦しくて、K―1や『PRIDE』に押されてる状況なんだけどな。

―韓国でも格闘技人気のほうが高いんですね。

力抜山　そういうことだ。でも、今年の2月10日に22年ぶりにテレビ局がプロレスを生中継したんだ。スポンサーを見つけるのが難しかったんだけど、いざ放送したら意外にも視聴率が良くて再放送までされた。だから長期的な目で見ると、まだまだプロレスの可能性も捨てきれないと思うな。

―リキさんがプロレスの職業に就いた頃はこの業界の景気も良くて、だからこそプロレスラーになったところもあるんですよね。

力抜山　そうだね。当時のプロレス業界はとても華やかだったし、お金もたくさん稼げるだろうと思って入門したんだよ。それが32年前ぐらいの話。一試合のギャラが3万ウォン。その当時の銀行員の月給が12万ウォンだから、かなり恵まれていたよな。あの頃は一年間で50試合くらいやっていたから、年間150万ウォンぐらいは稼いでいた。

―リキさんが入門したのは、大木金太郎（キム・イル）さんの道場になるんですよね。

力抜山　そうそう。キム・イル道場。俺がテストを受けたときは580人も練習生志願者がいたんだけど、最終的に残ったのは、俺を含めてたった4人だよ。

―しかし、580人の志願者もいたんだから、それくらいプロレス人気があったって証ですよね。

力抜山　当時は大変なプロレス人気だよ。それにキム・イルは当時の韓国大統領とも交流があって、もの凄い力を持っていたんだ。

―大木さんは政界に通じていたんですか。政治家がバックにつくところは、日本のプロレス界と構造は似ていますね。

力抜山　キム・イルは日本で長らく選手生活をやっていただろ？　韓国国内ではチャン・ヨンチルという選手が活躍していて、どちらかというとキム・イルより人気が高かった。だけど、キム・イルは政治家ともつながっていたから、業界自体を動かす力を持ってたんだよな。

―そのキム・イルの道場では、どういう練習をされてたんですか？

力抜山　当時はレスリング韓国代表選手が道場のコーチをしてたんだ。朝6時から午後2時まで練習して、そのあとでようやく朝食を食べて。スクワットを50分間ずっとやってもう歩くこともできないぐらいになって。それを6ヵ月間、毎日やっていたんだよ。強くならないわけがない！

―大木さんから何か指導なり言葉なりもらいましたか？

力抜山　主にスパーリングの指導を受けたね。韓国選手は日本で試合をやるときは殴られるようなシーンが多いから、スパーリングをしながらどういうふうにそういう攻撃を防御するかとか、どう受けるとか、そんなことをたくさん指導してもらったよ。ただ、キム・イルは日本でずっと選手生活をしていたからな。

―大木さんは日本でトップレスラーでしたからね。

力抜山　それほどたくさんの指導を受けられなかった。一ヵ月に一回ぐらいしか会う機会はなかったな。そのときはキム・イルがどのくらい日本で活躍したかという武勇伝を聞かされたもんだ（笑）。

―俺はこんなに偉いんだぞ！　と（笑）。

力抜山　それは冗談として、キム・イルからは「自分のオリジナルを作れ」と言われたな。他人の真似をしようものなら、あとで強烈なヤキを入れられたもんだよ。

―そこは昭和のプロレスと同じですね（笑）。リキさんのオリジナルとは、どういうスタイルだったんですか？

力抜山　俺はバスケットボールをやっていたから、最初の頃は機敏な動きを売りにしてメキシコの選手の動きを参考にしてやってたんだ。

―当時の新日本プロレスで、ヘビー級でノータッチトペをやるのはマシン2号ぐらいだったと聞いてますね。

プロレスだけじゃ食えないから ジムや建設業をやっているんだよ

力抜山が経営するスポーツセンターは最新スポーツマシンがズラリと揃い、ミニゴルフ施設やサウナまで完備している！　古ぼけたジムをイメージして訪問したのでちょっとビックリでした。

ついに開校!!　プロレスを知らない総合世代のヤングに送る

新日本プロレス

力抜山　そうそう。当時の体重は115キロくらいだったが、場外にポンポン飛んだもんだよ。でも、俺の身体が大きかったからか、猪木さんは怖くなったんじゃないかな。猪木さんがトペをよけたせいで、そのままリング外の鉄柵にヒザを強打してしまってな。ヒザを壊してしまったんだ、これが（笑）。

――ダハハハ！　猪木さんはとんでもないことしますねえ（笑）。

力抜山　そのケガのせいで俺は飛んだり跳ねたりする試合ができなくなってしまって、巨体を活かして重量感溢れる試合をするようになったんだよ。

――しかし、ヒドイ話ですね（笑）。それで、リキさんが初めて日本に来たときのことを教えてください。

力抜山　それは国際プロレスでラッシャー木村さんや寺西勇さんがスターだったときだな。俺はヤン・スンイとして日本に来たんだ。

――国際プロレスで一番、親しかった人は誰だったんですか？

力抜山　歳の差は開いているんだが、吉原（功）社長が楽に話せる相手だったよ。スター選手とも一緒にすごしたけど、当時の俺は下っ端から中堅レスラーの位置を行ったり来たりしてるような選手だったから。吉原社長によく面倒を見てもらったんだ。

――当時の国際プロレスには、のちにマシン軍団マネージャーになるワカマツ（若松市政）さんがいたと思うんですけど。

力抜山　ワカマツさんは巡業トラックの運転手もやってたし、選手としてもやっていたが、プロレスが凄くヘタで代打要員みたいな感じだったよ。誰か選手がケガするとその代わりに試合に出たりね。身体はシェイプアップされてんだけど、動きが遅くて、身体が硬くて、殴られたらもの凄く痛がるしで大変だったんだ（笑）。

――なるほど（笑）。プライベートの仲はどうだったんですか？

力抜山　ワカマツさんと仲は良かったよ。当時はお金がなかったからワカマツさんに散髪をしてもらったり。でも、ワカマツさんは散髪もヘタでヘタで（笑）。

――散髪もヘタでしたか（笑）。

力抜山　うん。虎刈りにされたことがあったな。逆に俺がワカマツさんの散髪をしてあげたこともあったけどな。

――当時、ワカマツさんの助手で冬木（弘道）さんがいたと思うんですけど、憶えてますか？

力抜山　う〜ん……。そういえば、凄く美男子の若い少年がいたけど、よくは憶えていないな。

――おそらくその少年が若き冬木弘道だったんでしょうね。リキさんは当時の国際プロレスにはどのような印象がありますか？

力抜山　当時の国際プロレスはラッシャー木村がメインイベンターで、たしかにパワーもあって重厚な試合をするんだが、馬場さんや猪木さんに比べると観衆へのアピールが足りなかったように思う。たとえば、馬場さんは得意技がそんなになかったのに、それでも観衆が喜んで憧れの対象としたのは、体格の良さと観衆へのアピールがうまかったからだ。そして猪木さんは観衆を引っ張っていく才能に溢れた人だった。木村さんは性格は凄くいいんだけど、その二人に比べると観衆へのアピールが足りなかった。ただ、これはいまだから俺がそう評価できるということで、当時はまだ下っ端だったからそれはできなかったがな。

――それで国際プロレスは崩壊してしまって。

力抜山　韓国でも大変なことが起こったよ。俺はその当時、韓国に戻っていたけど、そのあいだにキム・イル道場も閉鎖することになってしまったんだ。

――当時の韓国でリキさんはどういう立場だったんですか？

力抜山　79〜80年頃にSBSというテレビ局が開局してプロレス中継をしてたんだけど、俺はメインイベンターだったよ。練習中にガラスでケガして脚を60針縫ったのに、試合をしなきゃいけない立場だった。

――韓国プロレス界を背負っていたんですね。

力抜山　というのも、俺は大韓プロレス協会の選手会長をやっていたからな。当時26歳だったが、キム・イル道場では一番トレーニングをやっていたし、体格も一番よかったから韓国ではメインイベンターになれた。そこで新日本プロレスからオファーがきたんだ。

――力抜山として韓国で活躍しながら、日本でストロングマシン2号へ変身することになるんですね。

濃すぎてたまらない"昭和プロレス原液"とでもいうか、新日本のリングで藤原喜明と肌を合わせる力抜山のゴツゴツした濃い！ その濃さが写真を通して伝わってくるというものだ。

これが力抜山スポーツセンターの看板。ソウルのどっかにあるので訪韓の際は血眼になって捜索！　もし幸運にもリキさんに会えたら、「ギガガガガ！」とマシンボイスで挨拶しよう！

橋本
レン

西村　ま、ああ
かなかできませ
界、型破りな発
昔のプロレスの
かったですから
――プロとして
ね。
西村　橋本さん
情もありました
RO―NEが
れたんですよ。
――橋本さんか
か？
西村　ただ、個
複雑な思いもあ
二つ返事では返
…20往復ぐらい
たこともありま
――20往復です
西村　入門当時
されてね。バチ
て往復ビンタが
疲れてきちゃっ
ヘビ柄の靴で顔
られてね。ファ
顔面が腫れ上が
いまだに残って
失明ですよ！
て初めて人に殺
で包丁を3時間
から。
――エーーッ！
西村　「この人が
るなら……」って

新日本プロレスで一世を風靡した、マネージャー若松率いるマシン軍団。この身体つきを見れば、イロモノじゃないとこはわかるはずだ。

韓国プロレス スーパースター列伝

力抜山　そうそう。最初は力抜山として闘っていたけど、すぐにストロングマシンをやるようになった。

――どういった経緯であのマスクを被ることになったんですか？

力抜山　まず平田（淳嗣）さんが海外から帰ってきてマシン1号になった。俺は平田さんと親しくしていたこともあって2号になったんだ。

――はあ。そんなあっさりとした理由だったんですか（笑）。

力抜山　そんなもんだよ（笑）。それに俺は日本人レスラーじゃないし、もっと長く日本で試合をしていればもっといいポジションに就いたかもしれないけどなあ……。

――選手として浮上するきっかけがマシンへの変身だと思った？

力抜山　そうだね。それでマシン軍団は大人気になっただろ？ こっちはケガしてもなかなか休めないぐらいな。たとえば、大阪府立体育会館でストロングマシン1号＆2号vs木村健吾＆クロネコ（ブラック・キャット）をやったときなんて、クロネコのギロチンドロップを受けたときに脚じゃなくてケツがまともに俺の身体にのしかかってきてね。凄く痛くて試合ができないくらいの状況になってしまったんだ。でも、俺は翌日のテレビ生中継のメインで試合をする予定だったから、どうしても休めなかった。しょうがなく鎮痛剤を打って無理矢理リングに上がったよ。

――マネージャーのワカマツさんを含めて、マシン軍団は当時の新日本に欠かせませんでしたもんね。

力抜山　ワカマツさんもマネージャーとして大人気だったもんなあ（しみじみと）。それでストロングマシンも3号、4号と増えていったんだが、そのときはギャラもけっこうよかったし、いい待遇を受けていた。

――その報酬で母国の韓国でこんな大きなジムを造って。昭和・新日本出身レスラーの中では、〝勝ち組〟ですね（笑）。

力抜山　そういうことだ（笑）。あの当時、日本では悪役だったけど、韓国ではベビーフェイス。ビジネスもやりやすい環境ではあったんだよな。

――ちなみにストロングマシン3号＆4号の正体は誰だったんですか？

力抜山　う〜〜〜ん……。いや、それがよく知らないんだよ（苦笑）。

――え？ そんなわけがないでしょ（笑）。

力抜山　本当に憶えてないんだよ（申し訳なさそうに）。

――そ、そうなんですか（笑）。なにかヒントもないですか？

力抜山　そうだなあ……。3号は、ハワイの日系アメリカ人だったような気がするなあ。

――ダニー・クロファットという選手じゃありませんか？

力抜山　う〜ん。どうだったか……。

――しかし、試合をするうえで3号や4号とコミニュケーションを取る必要はあったわけですよね？

力抜山　とくにない（あっさり）。

――とくになかった!? ある意味、プロですね、それは（笑）。

力抜山　シリーズがあったら会場で会って、シリーズが終わるとまたそれぞれ散っていくという感じだったからな。平田さんと俺はマシン軍団初期のメンバーだったから、平田さんとは親密だったが、3号や4号はあとから来たから詳しいことはよくわからないんだ。本当によく知らないなあ……。

日本よりも先!!　韓国プロレス界カミングアウト事件とは何か？

65年韓国ソウルでチャン・ヨンチルと全日本プロレスの大熊元司がシングルマッチで対戦。大熊のキャメルクラッチにヨンチルがギブアップの意思を示したが、なぜか大熊は技を解かず。激怒したヨンチル側のセコンドがリングに雪崩れ込み、大熊に凄惨な暴行を加えた。この乱闘は警察が出動する騒ぎに発展。取り調べを受けたヨンチルは「筋書きを大熊が破った」「プロレスはショーだ」という内容の供述をすることで事件性を否定したという。この発言により「プロレス＝ショー」という認識が広まってしまった。

ついに開校!!　プロレスを知らない総合世代のヤングに送る

新日本プロレス

ストロングマシン1号の平田さんとは親密だった。じつは3号と4号は……

――パーマン1号が、3号の正体をアイドルの星野スミレだって気づかなかったみたいなもんですかね（笑）。ワカマツさんが3号と4号を連れてきたんですか？

力抜山　それも知らない。会社が連れてきたみたいだけど。

――いい加減な軍団ですね（笑）。

力抜山　そこはワカマツさんがうまく仕切っていたからな。彼は試合はヘタだけど、マネージャーとしては有能だったよ（笑）。

――エキセントリックなキャラクターを演じてるワカマツさんを見て、どう思いました？

力抜山　ワカマツさんは顔が凄くカワイイけど、サングラスをかけたら凄味があったから、褒めてやったよ。プロレスはホントにヘタだったんだけど、国際プロレスのときからは想像できないぐらいガラッと変わって、マネージャーとして試合を引っ張っていってくれたね。

――しかし、しつこいぐらい「プロレスがヘタ」って言いますね（笑）。

力抜山　いやあ、本当にヘタだったから（笑）。でも、マネージャーとしては超一流だった。

このインタビューはリキさんのスポーツジムの中で行なわれた。インタビュー終了後、「俺が奢ってやるから、メシを食いに行こう！」と誘われたが、K-1ソウル大会開始時間が迫っているため泣く泣く断念！

試合のときには凄く過激なことをやるんだが、試合が終わったらガラッと変わって非常に物腰の柔らかい人だった。

――マシン軍団はヒールというポジションでしたけど、リング外でファンからヒドイ目に遭ったりしませんでした？　まあ、マスクを外しちゃうから、マシン2号だってわからないとは思うんですけど。

力抜山　いや、日本のマニアなファンはマシン2号の正体が俺だってことをわかってて、試合が終わってみんなでメシを食いに行くと、うしろのほうからファンが「りきばっさ～ん!!」って叫んだりしてたよ。

――そんなエールをもらってましたか（笑）。

力抜山　ちなみにこの「力抜山」は中国の〝借力〟の人の名前から取ったんだが、韓国人は日本人から差別用語でチョッパリとか言われただろ？（「足が短い」という悪口の意）。力抜山にかけて「チョッパリサン」という陰口を言われたけど、ヤン・スンイからこの名前に変えたことは間違いなく俺にとってターニングポイントだったと言えるな。

――当時の新日本には韓国語の通訳はいたんですか？

力抜山　いなかったけど、俺は少しだけ日本語ができたから、そんな苦労はしなかった。言葉はわからなくても、試合に関することは問題なくわかったしな。

――そこらへんは〝あ・うん〟の呼吸で。新日本プロレスには在日韓国人のレスラーがたくさんいたと思うんですけど。

力抜山　木村健吾、前田日明、長州力、星野勘太郎なんかがそうだった。俺も最初は日本語があまりできなかったので、ほかの日本人よりは彼らのほうが面倒を見てくれたり親しくもしてくれたんだ。でもやはりプロの世界というのは自分のことは自分で管理しないといけない。ある意味では冷たい世界ということも言えるだろう。結局、在日選手同士の付き合いも個人を超えるほどの間柄にはならなかったということだな。でも俺はあの国でプロレスをしていくうちに日本の状況にも慣れて居心地も良くなった。そういうプロレスを取り巻く状況を、なんとか韓国にも根づかせられないかといつも考えていたよ。俺はいまもプロレス団体に所属しているし、4人の息子もすべてプロレスラーにしたいとも思っているが、4人すべてというのは資金的にもかなり難しいんだ。まあ、いまは事業を成功させることに専念して、その成功を後進の育成に役立てることができればと思うよ。

――実業家として成功することがプロレスのためになる、と。

力抜山　俺も教えられることはたくさんあるしな。まず、女性には手を出すな（キッパリ）。

――女はダメですか！（笑）。

力抜山　ダメだ（笑）。俺はこの土地で20年ぐらい生活しているから、面が割れてしまって不便なことも多いんだが……。

――それは、なんだか個人的な問題になってないですか？（笑）。

力抜山　まあ、俺の場合はワイフの助けもあって、なんとか順調に事業を運営できてることもあるからなあ。酒を飲むにしても酒乱みたいに酔っ払うのはダメ。焼酎を少し飲むぐらいにして、くれぐれも言っておくが女を買うようなところには決して行ってはならん（笑）。大変なことになるぞ！

――女性関係で身を滅ぼしたレスラーは多いですからね（笑）。

力抜山　このスポーツセンターに来る女性たちも薄い服を着て汗を流しているが、彼女たちを食事に誘うことはもちろん、声をかけてもいけない（笑）。それは息子たちにも強く言ってるんだ。

――このスポーツジムにはそんなルールがあるんですか（笑）。

力抜山　「もしもお前が付き合いたい女がいるのなら、下心を持って近づくのではなく、『彼女と付き合いたいです！』と宣言してから近づけ」と。しかもそれは一人だけにしておくべきだってな（笑）。顔の知れている地域では、何かあったときにいかに身辺が潔白かということが重要になってくるんだからな。

――でも、新日本のレスラーたちの女性関係はハデじゃなかったんですか？　たとえばドン荒川さんとか。

力抜山　……凄かったなあ、荒川さんは（しみじみと）。

――ワハハハハ！　リキさんの目から見ても凄かったですか？

力抜山　なんてたって、女の前で歳を聞かれたら「俺は30歳！」と元気よく答えていたから（笑）。

――ワハハハハ！　さすがだなあ（笑）。

力抜山　俺の場合は、まだ日本の文化がよくわからなかったから、「女性とそういう関係になると問題になるんじゃないか」などといろいろ考えて、むしろ怖がってたという感じだった。だから荒川さんのようにハデに遊ぶことはなかったよ（笑）。

――わかりました（笑）。で、当時の猪木さんはアントン・ハイセルとか事業に熱を上げてましたが、力抜山さんは投資に誘われたりしませんでした？

力抜山　いや、そんなことはなかったけど、個人的に猪木さんは好きだったよ。会うといつも「身体は大丈夫か？」と心配してくれた。

昭和の日韓ミステリー 猪木vsパク・ソンナンとは何か？

76年韓国で行なわれた二連戦。生中継された一戦目は、いつになっても試合が始まらず、40分間近くも選手不在のリング上が映し出された。遅れて開始された試合は、一度はアントンがパクからギブアップ勝ちを奪ったが、パクがギブアップを否定。激怒したアントンがパクの目に指を入れたり、鉄拳制裁でシュートを仕掛け、戦意喪失に追い込んだ。パクはキラー猪木の前に、二戦目は初めから戦意喪失のリングアウト負け。猪木の暴挙に激怒した韓国の観客が暴動を起こしかけたという話もある。

橋本
レン

西村　ま、ああ
かなかできませ
界、型破りな発
昔のプロレスの
かったですから
――プロとして
ね。
西村　橋本さん
情もありました
RO－ONEが
れたんですよ。
――橋本さんか
か？
西村　ただ、個
複雑な思いもあ
二つ返事では返
…20往復ぐらい
たこともありま
――20往復です
西村　入門当時
されてね。バチ
て往復ビンタが
疲れてきちゃっ
ヘビ柄の靴で顔
られてね。ヴァ
顔面が腫れ上が
いまだに残って
失明ですよ！
て初めて人に殺
で包丁を3時間
から。
――エーーッ！
西村　「この人が
るなら……」って

当時のヘビー級でこれをこなせるヤツはそうそういなかった。これがリキさんの得意技、ノータッチトペだ！　アントンはこれを受けずに逃げ出したためにリキさんは大怪我を負ってしまった。

台湾の遠征では猪木さんと一緒にメシ食いに行ったけど、いつもステーキをおごってくれたんだ。さすがに毎日、ステーキはつらかったけど（笑）。

――猪木さんってじつは面倒見がいいですよね。それで当時のレフェリーにミスター高橋さんという方がいたんですけども、少し前に「プロレスはすべてショーである」という内容の暴露本を出したんです。それはご存知ですか？

力抜山　その話は初めて聞いたが……韓国でもだいぶ前に同じようなことがあったよ。

――あ、そうなんですか！

力抜山　韓国のプロレスもかつては人気があったんだが、あるプロレスラーの「プロレスはショーだ」という発言があって、人気がガクンと落ちてしまった。

――そのときの詳しい話を聞かせていただきたいんですけども。

力抜山　あれは全日本プロレスの大熊元司が遠征してきたときのことだな。大熊はチャン・ヨンチルという韓国のスター選手と試合をやったんだが、ヨンチルがタップをしているのに、大熊はなぜか技を解かなかった。それに怒ったヨンチル側のセコンドがリングに上がってきて大熊に暴行を加えたんだけど、それが生中継で放送されてしまって、警察沙汰になってしまったんだ。

――プロレスの乱闘ではなく、暴行事件として大騒ぎになってしまったんですか！

力抜山　そうなんだよ。それで事情聴取を受けたヨンチルは「暴行ではなく、プロレスはショーの一部だから大ごとにはしたくない」という内容のことを言ってしまった。それを検事がマスコミに報告して、それによってファンは「プロレスはショーだ」と受け止めてしまった。それで人気は急降下したんだな。

――そんなカミングアウト事件が大昔にあったんですね……。しかし、なぜ大熊さんは技を解かなかったんでしょうか？

韓国プロレス スーパースター列伝

力抜山　真相はわからないなあ……。

――まったく？

力抜山　まあ、状況だけで推理してみると、当時のキム・イルは海外のトップスターで、チャン・ヨンチルが国内のトップスターだった。ちょうどその試合はキム・イルが海外から帰ってくる時期と重なっていたんだ。キム・イルと馬場さんは友好関係にあって、馬場さんの弟子である大熊さんに何かしらの含みがあったのかもしれない……。

――ひょっとすると、馬場さんが大熊さんにシュートマッチの指令を下した可能性があると？

力抜山　かもしれない。馬場さんやキム・イルが大熊に「チャン・ヨンチルを潰してしまえ！」というけしかけがあったのかもな。

――大熊さんは“昭和の小川直也”だったかもしれない。グリコポーズで駆け回る姿は、オーちゃんの飛行機ポーズに似てなくもないですし（笑）。

力抜山　キム・イルがなにかしら画作したかどうかは断言できないが、俺は大熊さんが悪いと思うよ。大熊さんだけがすべての真相を握っているという言い方もできる。

――大熊さんは亡くなられてしまったから、真相は永遠にわからないですね。

力抜山　そんな事件もあったから、キム・イルとチャン・ヨンチルはもの凄く仲が悪いんだ。この前も和解したというニュースがあったけど、あれは口だけだ。あの二人には、相当若いときから根本的な問題が積み重なっていたからな。

――あと韓国プロレスでミステリーな事件といえば、猪木 vs パク・ソンナンの二連戦がありますよね。一戦目ではソンナン側のセコンドが「セメント、セメント！」を叫ぶ中、猪木さんが相手の目に指を突っ込んだりのセメントスタイルでソンナンを叩き潰して。続い

ついに開校!!　プロレスを知らない総合世代のヤングに送る

新日本プロレス

て二戦目ではソンナンが戦意喪失のまま試合が終わってしまったという。いったい何があったんですか？

力抜山　俺は二戦目しか観てないから、裏側の全貌は知らないな。

——一説によれば、ソンナン側が地元・韓国での負けを飲まず、猪木さんに〝引き分け〟を要求したけど、その交渉がこじれた末の出来事だったとか。

力抜山　まあ、そういう問題があったのはたしかだろうな。

——パク・ソンナンも地元のスターだから、そうそう引き下がれないでしょうし。

力抜山　結局はプロモーターが選手やマッチメイクの管理をきちんとできてなかったんだと思うよ。もう一つは実力差。そういうスタイルになったときに、パク・ソンナンは猪木さんに対応できなかったんじゃないかな。興行として試合をやるからには負けるにしてもいいところを出して観衆にアピールしなければならない。でも俺が見るかぎりあの試合はなんの意味も残せないような試合だった。そこにはドラマもなく、試合が終わって観衆の中に何が残せたかというと、何もなかった。もう選手たちのエゴしかないわけだ。

——そういった試合も韓国のプロレス人気が落ちた一因になったと思います？

力抜山　一つは「プロレスはショーだ」という発言を受けて、観客がプロレスに関心を持たなくなっていったんだが、興行団体である以上、観客が入らないと選手へのギャラも払えない。次に出てきた問題は、80年代に入ると政府が働きかけていろんなプロスポーツをスタートさせるんだが、たとえばプロサッカーとかプロ野球なんかが出てきた。昔なら大衆が見られるスポーツといえばプロレスしかなかったんだがな。

——娯楽はプロレスだけじゃなくなったんですね。そこは日本の市場と似たところがありますね。

力抜山　そういうこともあってプロレスに興味を持っていた観客が、ほかのプロスポーツに流れてしまったんだ。その中でもテレビ放送がなくなってしまったことが一番大きな問題だったんだが、ある時期になってテレビ局がプロレス中継に乗り出したこともあった。それで一時期盛り返したりもしたけど、そうすると今度は別の団体がそのテレビ局に「なぜ、この団体だけをテレビ中継するんだ!?」と猛抗議してな。テレビ局は「じゃあ二つとも放送しません」となった。

——そんな簡単に打ち切りになるもんなんですか？（笑）。

力抜山　その程度のものだったとしか言いようがないな（笑）。複雑な裏の事情もあったみたいだけど、ほかの団体の嫉妬でプロレス中継そのものがなくなってしまった。

——韓国のファンはいまプロレスをどういう目で見てるんですか？　完璧なエンターテインメントとして受け入れてるんですか？　それとも格闘技的なものとして？

俺も若かったらチェ・ホンマンみたいにK－1に出ていただろうな

りきばっさん■1955年韓国ソウル出身。ヤン・スンイとして国際プロレスに初来日。新日本プロレスに参戦し、ストロングマシン2号に変身する。現在はソウルでスポーツセンターや建設業経営に携わりながら、たまにリングに上がっている。

力抜山　……俺たちプロレスラーが一番聞きたくないのは、「プロレスはショーなんでしょ？」という質問だ。アメリカではWWEが既得権を得ていて、「プロレスはショーだ」と認めながらもファンは楽しむ土壌があるが、韓国の国民性を考えると、「プロレスは完全なショーだ」ということがわかってしまうと、つまらないものに分類されて観客は入ってこないのではないかと思う。だから「すべてがショーだ」というふうには言わないで、新しい世代、子どもたちには強い姿勢をアピールしないとプロレスは続いていかないな。それはそのうちわかることかもしれないが、おおっぴらに「ショー」だと言う必要はないよ。

——日本で活躍された力抜山さんから見て、日本でも「プロレスはショーである」というメッセージを100パーセント打ちださないほうがいいと思いますか？

力抜山　俺はなぜミスター高橋さんが「プロレスはショーだ」と言ったのか、まったく理解できないが、やはり日本でも言わないほうがいいと思う。そういうことを明かしてしまうと、観客は興奮できないし、「ルールがあるうえで闘って勝負を決定する」という要素が少しはないといけないと思う。アメリカみたいにプロレスをテレビ用に録って、うまくいかないところは取り直すということは、少なくとも韓国ではできないし、受け入れられない。やはり国民性の違いも大きいから、観客が感情移入できる要素がないと難しいと思う。試合がどちらが勝つにしてもレスラーとして、ファンに強さとか説得力を与えなければならないな。

——いまはチェ・ホンマンの活躍もあって、格闘技人気が上がってますが、そのへんはどう思われますか？

力抜山　いいことだと思うよ。俺もテレビでちゃんと観てるし（笑）。チェ・ホンマンはいいところもあるが、パンチばかりに要点を置いていてキックの技術が足りないと思う。もし俺がチェ・ホンマンぐらいの歳だったら、喜んでK－1に出ていただろうな。

——自信はあるんですね（笑）。

力抜山　キム・イル道場でやっていた練習は、格闘技そのものだったし、それに俺はストロングマシンだからな！（笑）。

——なるほど（笑）。では、最後にそのマシン軍団で盟友だった平田さんに何かメッセージをお願いします！

力抜山　平田さんとは一番一緒にやってきた期間が長いから、一番会いたい日本人だよ。いま平田さんは元気なのか？

——ちょっと前まで現場監督をやってましたが、いまはセミリタイアというか。リング外の仕事が多そうですね。

力抜山　そうか。いまはビジネスが忙しいが、機会があればまた日本で試合をやりたいな。

——また日本でストロングマシン2号が見られることを期待してます！

【06年6月4日／韓国・力抜山のスポーツジムにて収録】

kamipro終身名誉アドバイザー
吉田豪
セメントインタビュー
11連発
必読! プロレスインタビュー本の最濃傑作!
驚ガクの全344ページ!!
プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!
全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判 344ページ
定価=1890円（本体1800円＋税）
enterbrain
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
TEL.0570-060-555（代表）
[通信販売のお問い合わせ先]
http://www.enterbrain.co.jp/
吉田豪の
セメント!!
スーパースター列伝
ストロング小林
田代まさし
猪木快守
イーデス・ハンソン
阿修羅原
鶴見五郎
サムソン・クツワダ
康芳夫
倉持隆夫
田中健一
小川宏
パート1
吉田にニラまれたら、
生きてる心地がしない。
リリー・フランキー

ついに開校!! プロレスを知らない総合世代のヤングに送る

新日本プロレス 凸凹大学校 Returns

KING OF SPORTS NEW JAPAN PRO-WRESTLING

プロレスって何? からG1、ドラゴン問題まで完全レクチャー!

ターザンから、ついにホワイトボードも奪取!

生徒
プロレス超初心者
松下ミワ

まつした・みわ■『PRIDE』や総合格闘技、とくにダン・ヘンダーソンについて豊富な知識を誇り「ヒョードルの全試合パウンド数をカウントするのが苦にならない」集中力を誇るも、プロレスのことには本当にからっきしな、本誌『ハガキ愛ランド』担当。

特別講師
3年G組 金沢先生

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍、長州力の番記者として一時代を築く。05年に『週刊ゴング』発行元の日本スポーツ出版を離れ、フリーとして絶賛活動中。新日本系のプロレスラーとのネットワークの厚さ、信頼度は絶大なものがある。

新日本プロレス取材解禁! を祝して「G組しゅ～ご～!?」と河川敷で絶叫したくなるほど凄いアイツがやってきた! それが新日本プロレスなら俺にまかせろ! な3年G組金沢先生。今回は本誌“プロレスを知らない”女記者、松下ミワに新日本のすべてを懇切丁寧にレクチャー三昧!!

用務員/ジャン斉藤 構成/真下義之 design by さおとめの事務所

一時間目『教えて!! プロレスのこと』

——前号から新日本プロレスの取材が解禁になりまして、その新日本の魅力をぜひ金沢さんに教えてもらおうということで、新コーナーがスタートしました!

GK はい、よろしく!

——その名も「新日本プロレス凸凹大学校! 3年G組 金沢先生～」! ♪暮れ～なずむマット界の～、光と影の中ぁ～!

GK (無視して)それにしても、いつの間にか取材が解禁になってたね。そして天山広吉が水を得た魚のようにしゃべりだしたという(笑)。

——天山は普段あんなにしゃべらないんですか?

GK まあね。じつはあんまりしゃべらない人。

——なるほど。そういったことを含めて、『kamipro』は新日本プロレスのことがよくわかっていない。まあ、違った角度からのおもしろがり方は熟知しているんですけども(笑)。とくに編集部の松下ミワは、新日本どころかプロレスのこともよくわかってないので、彼女をこの学校の生徒に据えて、金沢さんにビシビシ講義してもらいたいというのが、本コーナーの狙いになります。

ミワ 金沢先生、よろしくお願いします。将来的には「かなぱっつぁん!」と気安く呼べるぐらいのデキる生徒になります!

GK (無視して)プロレスはまったく知らないの?

ミワ は、はい。

GK ふ～ん。ダン・ヘンダーソンしか興味がないって聞いたことがあるけど。

ミワ はいっ!!

GK そもそも『kamipro』に入る前、プロレスを観たことあるのかな?

ミワ 地元の福岡にいたときは二回だけ。女子プロレスと、ZERO-ONEを観に行きました。

GK に、二回だけぇ!?

ミワ す、すいません! ZERO-ONEは高校か大学のときに兄に連れられて行きました。

——女子学生がZERO-ONEを観に行くというシチュエーションもある意味で凄いですけど(笑)。

ミワ たしか会場は博多スターレーンでした。

GK 博多スターレーンは〝プロレス・西の聖地〟ですよ、聖地。

ミワ は? 聖地? はあ。

GK 感想はどうだった? おもしろかった?

ミワ ……それが、何があったか忘れちゃいました。

GK 忘れた!? それはヒドイなあ(笑)。

ミワ でも! プレデターが入場のときに暴れたのは憶えてます。周りの人が「大きいガイジンがこれから暴れるよ」って言ってたんですけど、私は何がなんだかよくわからなくてそのまま椅子に座ってたら、大変なことになって(笑)。

GK ふ～ん。『PRIDE』は当時からプロレスよりもおもしろがって観てたんでしょ? 格闘技は興味はあったけど、プロレスはそうでもなかった?

ミワ はい。

——いまはこういう読者が多いんですよ。『PRIDE』やK-1は観るけど、プロレスはそれほど関心がないという。

GK 『PRIDE』はいつぐらいから観始めたの?

ミワ 桜庭和志からですね。

GK やっぱりホイス・グレイシー戦?

ミワ いや、ハイアン・グレイシー戦から。

——『PRIDE』の歴史的にはそれほど重要な大会ではないし、ゴールデンタイムで流れていたわけじゃない。当時からとてつもないパワーがあったってことですね。

GK どうしてプロレスには興味を抱かなかったの?

ミワ う～ん。格闘技としてだったら、『PRIDE』やK-1のほうがおもしろい……。

GK ああ、なるほどね。

ミワ プロレスと格闘技を同時に観せられたときに、初めてプロレスを観る人は楽しみ方がわからないじゃないですか。

GK たしかにプロレスに格闘技的なものを無理に取り入れると、プロレスの醍醐味は失なわれてしまうときはあるよね。とりあえず〝これぞプロレス!〟というベストサンプルとして、昨年のプロレス年間最高試合に輝いた小橋建太vs佐々木健介戦があるんだけど、これは観た?

ミワ テレビで観ました。編集部で〝NOAHヲタ〟の真下(義之)さんに無理矢理、観せられました。「これがプロレスだ、これがNOAHだぁ!」という感じで。

GK どう思った?

懇切丁寧にプロレスをレクチャーする金沢先生の図。一方、己のプロレス知識のなさに「かなぱっつぁん、俺は腐ったミカンじゃねえ!」と心で泣く松下ミワ(想像)。

3分間ですぐわかる 新日本プロレスヒストリー(簡易版)

- **1972年1月** アントニオ猪木、新日本プロレスリング設立を発表。
- **1972年3月** 新日本プロレス旗揚げ(大田区体育館)。メインは猪木vsカール・ゴッチ
- **1973年4月** 新日本プロレスに坂口征二が合流。
- **1973年3月** NETが金曜夜8時より、新日本プロレスのテレビ中継『ワールドプロレスリング』放送開始。
- **1973年10月** 世界最強タッグ戦として蔵前国技館で猪木&坂口vsゴッチ&ルー・テーズが実現。
- **1974年3月** 〝巌流島の対決〟猪木vsストロング小林が実現。新日本ブームの発火点に。
- **1976年2月** 格闘技世界一決定戦、猪木とモハメド・アリが日本武道館で対戦。3分15R 判定引き分け
- **1978年2月** 藤波辰巳(現・辰爾)がMSGでWWWFジュニアヘビー級王座奪取。凱旋して人気者となる。
- **1979年8月** 国際、新日本、全日本の3団体が初のオールスター戦を日本武道館で開催。
- **1980年2月** 蔵前国技館で猪木が格闘技世界一決定戦。極真カラテのウイリー・ウイリアムスと激突!! 4R、両者ドクターストップ。
- **1981年2月** 初代タイガーマスク(佐山聡)がデビュー。四次元殺法でお茶の間の人気者に。
- **1982年10月** 後楽園ホールで、長州力が藤波に「俺はおまえのかませ犬じゃない!」と反旗を翻し、維新軍を結成。長州、藤波の名勝負数え歌がスタート。
- **1983年6月** 猪木が『'84-WGP』優勝戦で、ハルク・ホーガンのアックスボンバーで失神KO、病院直行の大事件に。
- **1983年8月** タイガーマスク突然の引退。新日本の首脳陣が一新、猪木が社長、坂口が副社長を辞任、新間寿が謹慎処分されるクーデター事件勃発。
- **1984年4月** 新日本プロレスを退団した前田日明らが、新興団体UWFを旗揚げ。
- **1984年9月** 長州力、アニマル浜口らが新日本を離脱しジャパンプロレス設立。戦場を全日本プロレスへ。
- **1985年7月** 窮地の新日本にブルーザー・ブロディが電撃移籍、救世主となる。
- **1985年12月** 前田率いるUWFが新日本と業務提携を発表。両軍の対抗戦は緊張感をもたらした。
- **1987年8月** 長州力らが、新日本プロレスにUターン参戦。契約書の関係でテレビに登場できず。
- **1987年10月** 猪木がマサ斉藤と因縁清算のため、巌流島で決闘。
- **1987年12月** ビートたけし率いる「たけしプロレス軍団」が両国国技館に登場。猪木は試合カード変更したのち→

どうしてプロレスには興味を抱かなかったの？（GK）

う〜ん。格闘技なら、『PRIDE』やK―1のほうがおもしろい……（ミワ）

ミワ いや〜、単純に「凄い!!」と思いました。

GK ホント？

ミワ ホントです！（笑）。

GK たしかに凄いでしょう。だからいま現在の格闘技に対して、「これはプロレスにしかできない」という非常にデフォルメして極端に表現したのが、あの試合なんだよね。チョップの打ち合いでお互いの胸が内出血で真っ赤になって、それでも絶対に退かない。格闘技にはありえない攻防として、端的にプロレスを表現したのがあの試合でしょう。

ミワ それはわかりました。

GK たとえば腕十字が極まっているのにロープに逃げちゃうとか、そういう攻防ってプロレスで安易にやることではないと思うんだよね。飛びつき腕十字とか、オリジナルの見せ方をすることによってファンが喜ぶわけじゃない。普通の十字は極まらなくなった。じゃあ次は何がある、飛びつきがある、回転式がある、と。ケンドー・カシンの雪崩式飛びつき腕逆十字固めというのもあったからね（笑）。

ミワ な、雪崩式ぃ？

GK あるんだよ、そういう技が！ 相手をコーナーに上げておいてそこに飛びついて十字を極めて回転する技。わかった？

ミワ な、なんとなくわかりました……う〜ん。雪崩式？

GK で、こないだの『PRIDE』で藤田和之がシウバに三角から十字を取られたよね。髙阪剛は「藤田なら抜きますよ」って言ってたけど、実際に抜いたでしょ。

ミワ はい。

GK あれがプロレスならどういう抜き方をしたかというと、あのまま持ち上げて叩きつけるんだよね。それを格闘技で観られたらビックリしない？

ミワ はい。ビックリします。

GK 拍手喝采でしょ？ 昔ランペイジが三角絞めを極められたままアローナを持ち上げて、パワーボムでKOしちゃったことがあったけど、あの攻防こそがプロレスなのよ。プロレスは格闘技の常識を超えてなきゃいけないわけ。

ミワ （メモを取る）プロレスは格闘技の常識を超えてなきゃいけない。

GK 格闘技の世界って、勝つために何をすればいいかということを理詰めに研究していくわけでしょ。子どもの頃からずっとケンカの勝ち方を研究していたグレイシー一族というのがいたけど。で、レスリングが強い人が強かった時代とか、打撃が強い人が強かった時代とか、いろんなものが入っていく中で理詰めにいろんなことを研究していくわけでしょ。でも、そういう理詰めをありえないかたちで破壊するのがプロレスの魅力なわけよ。だからプロレスは格闘技に手を出しちゃいけない。それをやっちゃったのが猪木さんだけどね。猪木さんは「プロレスはショーじゃない」ということに凄く反発して、「じゃあ勝負してやろうじゃないか」ということでモハメド・アリやウイリエム・ルスカとやったわけだからね。でも、いまは『PRIDE』なりK―1なり純粋な格闘技がちゃんとあるからね。

ミワ そうなんです。だったら、ハッスルのほうが観やすいですし……。

――こんな松下ミワがいかにして従来のプロレスに興味を持つか、そして新日本プロレスを楽しむようになる日は来るのか？ いろいろを学習しながら進めていきましょう！ ♪総合だけでは、さびしすぎるから〜！

松下ミワも驚愕!! ケンドー・カシンの これが雪崩式飛びつき腕逆十字固めだ

プロレスでしか観られない醍醐味が詰まった技。それが"雪崩式飛びつき腕逆十字固め"！（長い）。まず、トップロープのエプロン付近で、相手をキャプチャー。そこから同体で落下しつつ、回転しつつ腕をキャッチ。着地のあとは逆十字でしっかりキメよう！

にビッグバン・ベイダーに敗れ、ファンが暴動。両国国技館が使用停止に。

1987年11月 前田による長州への顔面襲撃事件が勃発。前田は出場停止処分となり、新生UWF旗揚げへ。

1989年4月 新日本がプロレス界初の東京ドーム進出。5万3800人を動員。

1990年2月 新日本の東京ドーム大会で、実現不可能といわれた全日本プロレスとの対抗戦が実現。

1991年8月 両国国技館3連戦にて、第一回『G1クライマックス』開催。蝶野が武藤を破って優勝。以後、G1は新日本のドル箱興行に。

1995年10月 新日本とUWFインターナショナルの全面対抗戦を東京ドームで開催。武藤が高田延彦に勝利。

1998年4月 アントニオ猪木が東京ドームで引退試合。ドーム新記録の7万人を動員。

1999年1月 小川直也が橋本にセメントマッチを仕掛けた"1・4事変"勃発。

2000年11月 大仁田厚が新日本に初登場。橋本が新日本を解雇され、ZERO-ONEを旗揚げ。

2001年8月 K―1 JAPANに出場した藤田和之がミルコ・クロコップに21秒で敗北。新日本の最強神話が揺らいでゆく。

2002年1月 武藤敬司、小島聡、ケンドー・カシンが退団、全日本プロレス入り。

2002年5月 武藤らの離脱騒動を受けるかたちで、長州が痛烈な猪木批判をしつつ、新日本を退社、WJプロレス旗揚げへ。

2003年12月 永田裕志が『イノキボンバイエ』でヒョードルに敗北し、ミルコ戦に続き、総合格闘技二連敗。

2004年10月 台風の中、開催された両国大会で藤田が佐々木健介と不完全燃焼のIWGP戦で敗北。あわや、暴動寸前に。

2004年11月 大阪ドーム『闘魂猪木祭り』にハッスルの小川直也、川田利明が緊急参戦。「ハッスルする、しない」をめぐり大騒動に。

2005年1月 東京ドームで総合ルールのバトルロイヤル『アルティメット・ロワイヤル』開催、ファンから酷評を浴びる。

2005年10月 長州力がリキプロ所属のまま、現場監督に復帰。元WWE王者、ブロック・レスナーがIWGPヘビー級チャンピオンに。

2005年11月 株式会社ユークスが猪木が手放した50%以上の株式を取得し、新日本はユークスの子会社化。

2006年1月 契約更改で、最終的に11人が退団する大量離脱騒動が勃発。古株の田中秀和リングアナ、木村健悟も退団。

2006年6月 藤波辰爾が正式に新日本プロレスを退団

二時間目 『教えて!! G1 CLIMAX』

―さあ、GK先生。二時間目のテーマは、開催が迫っている〝プロレス界・夏の祭典〟G1の講義をお願いします!

GK G1は知ってるよね?

ミワ は、はい（小声で）。

GK どういうイベント?

ミワ じ、じつは、名前しか知りません……。

GK ……（ア然とした表情で）え〜っとね、まずG1の正式名称から教えると、『G1 CLIMAX』っていうの。

ミワ 『G1 CLIMAX』（棒読み）。

GK 新日本プロレス年間最大のイベントなんだよ。かつての新日本にとって最大のお祭りといえば、IWGPリーグ戦だったんだけど……IWGPは知ってる?

ミワ はい。なんとなく……。

―なんとなく（笑）。

GK 略称はインターナショナル・レスリング・グランプリ。新日本プロレスが猪木さんの時代に、新間寿さんという参謀が……新間さんというオジサンは知ってるでしょ?

ミワ どういう人かはわかりませんが、エライ人です!

GK そう、エライ人。その人がプロレスに最高の権威をつくりたいということで、世界各国でトーナメントをやって代表者を決めて、最終的に日本でプロレス世界一を決めようということを、いまをさかのぼること25年ぐらい前にやってたわけ。いまのK―1のGPシステムと同じだね。

ミワ あ、そうですね。

GK K―1はIWGPのやり方をいただいたわけ。25年もの昔にそういうことをやっていた団体なわけよ、新日本プロレスという団体は。

ミワ 凄いですねえ。

GK ホントにそう思ってる?（笑）。

ミワ 思ってます、思ってます!!

GK その第一回リーグ戦で初代のチャンピオンに輝いたのがハルク・ホーガンだったわけよ。さすがにホーガンは知ってるでしょ?

ミワ はい。知ってます!

GK それでハルク・ホーガンは一躍日本でスターになったわけだよね。悪いけど、アーネスト・ホーストやピーター・アーツなんて世界ではべつに有名ではないけど、ハルク・ホーガンは世界中で知られてる。そう思うでしょ?

ミワ そうですね。……いや、わかんないです（笑）。

GK 映画『ロッキー』にも出てるんだよ!

ミワ え?「エイドリア〜ン!」のロッキーですか?

GK 『ロッキー3』に出てるんですよ。サンダー・リップスっていう敵役で。

ミワ え? ホントですか! じゃあ、今日『TSUTAYA』で借りてみます!

GK ぜひ借りなさい（笑）。で、そのIWGPが昭和・新日本のお祭りだとすれば、G1は平成・新日本の最大のお祭りだったわけ。始まったのは91年で愛知県体育館、両国3連戦というシリーズをやったんだけど、G1全盛期には両国国技館7連戦をやったんだよ! プロレスを知らないミワちゃんでも、これは凄いと思うでしょ?

ミワ す、凄いです! お客さんはいっぱい入ったんですか?

GK 途中は、そりゃ入らない日もあったさ（笑）。

ミワ ああ、そうですよねえ（ちょっと冷たく）。

GK でも、そういう大きな挑戦を次々にやってたんですよ、当時の新日本プロレスは! 89年に初めて東京ドームで興行もやったでしょ。一番乗りが新日本プロレスなんだよ。

ミワ それも知りませんでした!

GK なんか凄く偉大に思えてきたでしょ?（笑）。第一回G1のときに闘魂三

昨年のG1は「何か違う力がオレの背中を後押ししてくれた……」と盟友、橋本真也に優勝を捧げた蝶野正洋。だが、今年はケガのために"G1の夏男"がまさかのノーエントリー。そりゃないよ、オラ! エー!

『G1 CLIMAX』歴代優勝者

		優勝	準優勝
第1回	1991年	蝶野正洋	武藤敬司
第2回	1992年	蝶野正洋	リック・ルード
第3回	1993年	藤波辰爾	馳浩
第4回	1994年	蝶野正洋	パワー・ウォリアー
第5回	1995年	武藤敬司	橋本真也
第6回	1996年	長州力	蝶野正洋
第7回	1997年	佐々木健介	天山広吉
第8回	1998年	橋本真也	山崎一夫
第9回	1999年	中西学	武藤敬司
第10回	2000年	佐々木健介	中西学
第11回	2001年	永田裕志	武藤敬司
第12回	2002年	蝶野正洋	高山善廣
第13回	2003年	天山広吉	秋山準
第14回	2004年	天山広吉	棚橋弘至
第15回	2005年	蝶野正洋	藤田和之

今年の『G1 CLIMAX』情報

〝真夏の祭典〟G1にコジが「イッちゃうぞ、バカヤロー!」と緊急エントリー! 新日本を離脱以来、5年ぶり7度目の同リーグ戦への参戦が決定。盟友の天山を「眼中にない」と突き放すなど、コジの奮闘ぶりが今年のG1の焦点になる予感。また昨年の覇者、蝶野正洋はヒジのケガの回復状況が遅れ、参加ならず。

■『G1 CLIMAX 2006』出場メンバー

Aブロック
小島聡、中西学、棚橋弘至、獣神サンダー・ライガー、ジャイアント・バーナード

Bブロック
天山広吉、永田裕志、金本浩二、真壁刀義、山本尚史

■大会日程

8月6日（日）	新潟市体育館	17時開始
8月8日（火）	横浜文化体育館	18時30分開始
8月9日（水）	グランキューブ大阪	18時30分開始
8月10日（木）	愛知県体育館	18時30分開始
8月12日（土）	両国国技館	18時開始
8月13日（日）	両国国技館	15時開始

さすがにG1は知ってるよね？（GK）
じつは名前しか知りません……（ミワ）

銃士が大ブレイクしたんだけど……あの、闘魂三銃士はさすがに知ってるよね？

ミワ　え〜っと、武藤、橋本、蝶野の3人です！　……よね。

GK　フルネームで言ってみようか！

ミワ　え〜っと、武藤敬司に橋本真也、蝶野……蝶野、蝶野アキヒロォ？

GK　おしい！　というか、蝶野アキヒロのほうがカッコイイな（笑）。

ミワ　え、え、あ！　正洋ですッ!!

GK　正解です！　その3人が強烈なドラマが生んだわけですよ。あの当時はまだまだ藤波・長州の時代だったんだけど、洗練されたメンバーが出場する中、最終的に勝ち残ったのが闘魂三銃士だったという。最終日にBブロックで橋本と同点首位に並んだ蝶野とが決定戦を制して、Aブロックの単独トップだった武藤と決勝戦をやった。結局一日2連戦になった蝶野が優勝したんだけど、蝶野がそこで一気にトップに躍り出るわけだよ（懐かしそうに）。

ミワ　躍り出ましたか。

GK　あの頃はプロレスの興行でも座布団を貸し出ししてたんだけど、闘魂三銃士の中で一番地味で、一番目立たなかった蝶野の優勝の瞬間、国技館に座布団が舞ったわけですよ（しみじみと）。

ミワ　座布団が舞いましたか。

GK　G1二日目に武藤がベイダーに勝ったときも舞ったんだよね。多くのお客さんはまさかベイダーが負けると思ってなかったしね。

ミワ　ベイダー？　……う〜ん。

――当時、武藤敬司の大ファンだったボクは、二日目だけ観に行ったんですけど、凄かったですよねえ、あの盛り上がりは。

GK　凄かった、凄かった。いまで言えば、朝青龍が負けたときぐらいの座布団が舞ってたねえ。

ミワ　……はあ。とにかく凄く盛り上がったわけですね!!

GK　で、その盛り上がりを受けて、翌年にはトーナメント形式のG1をやったんだけど、NWAのベルトを懸けたわけですよ。NWAって知ってる？

ミワ　まったくわかりません……。

GK　じゃあ、ハーリー・レイスって知ってる？

ミワ　はい。それは知ってます！

GK　ほう。じゃあ、説明してみなさい。

ミワ　ハーリー・レイスという人はですね、（いきなり右手をクローポーズにして）ナントカ・クローが必殺技の……。

GK　それはフリッツ・フォン・エリック!!　必殺技はアイアン・クロー！

ミワ　ち、違うんですか!?（汗）。

GK　全然違います！　ハリー・レイスはそのNWAという団体で何回もチャンピオンになったプロレスラー。NWAはかつて全米を制覇していた団体なの。いまはWWEが全米を支配しているけど、当時はWWFという名前でニューヨーク地区だけのローカル団体にすぎなかった。要するにNWAのチャンピオンであるということが世界一の称号だったわけ。で、そのNWAのベルトを懸けて第二回G1をやって、そこで蝶野が誰も想像しない二連覇でベルトを巻いちゃったわけよ。そのあとにUWFインターと新日本の因縁が生まれるわけだけど……。「巌流島でやる！」とかでもめたの知ってる？

ミワ　もう、わけがわからないです……（肩を落として）。

GK　蝶野が『ゴング』の増刊号で、「高田さんと闘いたい」という発言をしたら、UWFインターがアポなしで新日本事務所に乗り込んできたんだよ。

ミワ　それは……ガチですか？

GK　ガチで！（笑）。それで新日本が怒っちゃったね。あとでUインター勢があらためて交渉に来たときは、長州力とマサ（斎藤）さんが「ああ、よく来た、よく来た」って笑顔で出迎えたんだけど、会議室に入ったらガチャンと鍵を閉めて「ナニコラ、お前ら!!」って凄んだ話もあるからね（笑）。

――ワハハハハ！　長州とマサさんが一番ヤバかった時代のことですね（笑）。

GK　軟禁状態になった途端に二人の顔色がガラリと変わったそうだよ（笑）。

ミワ　う〜ん。それは"反社会勢力"な事件になったんですか？

GK　ならない、ならない（笑）。ま、その話は置いといて、G1というのは夏のプロレス界最大のブランドになったわけよ。いまでいう『PRIDE・GP』並みのお祭りだよね。で、G1の凄いところは、最後の最後まで誰が優勝するか予想できないところなんだよね、意外にも。「天山しかないな」と予想していたら突然雲行きが怪しくなって、途中でコケたり、去年なんて決勝戦の直前まで「藤田が勝つだろう！」って誰もが確信してたんだよ。でも、ふたを開けたら蝶野だった。もう先が見えないから、選手はピリピリしちゃって控室の緊張感はただごとじゃないですよ。ハッキリ言って格闘技以上！

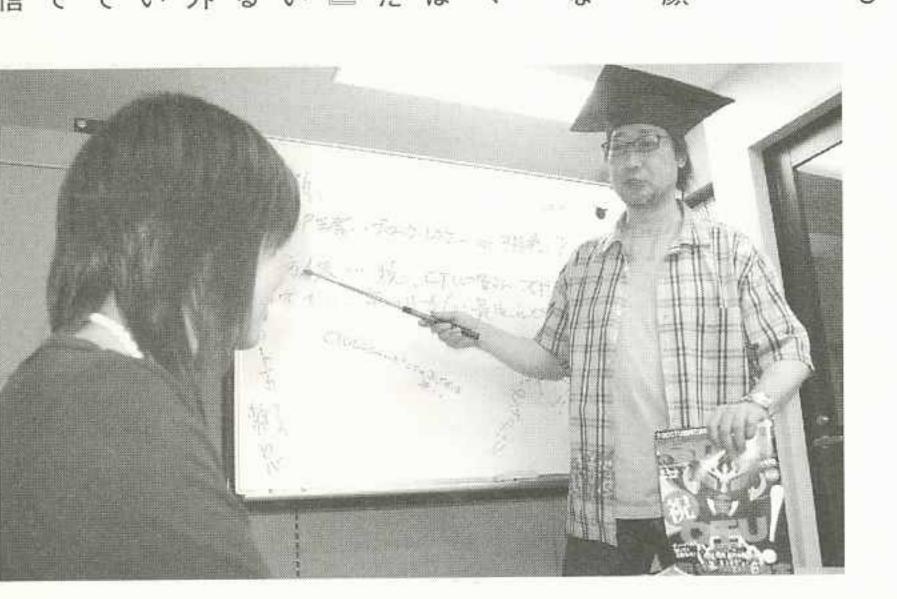
ミワ　へえ〜！（急に小声になって）……じゃあ、先生もわからないんですか？

GK　わからないよ、そんなもん！（笑）。あとG1のおもしろさを挙げるとすると、すべてシングルマッチだから、どうしてもほかの試合と比べられてしまう。勝ち負けも問われるけど、試合のクオリティでも負けられない闘いになるんだよ。そこでも評価が下されるから、選手の意地が問われてくる。どう？　おもしろそうでしょ、G1？

ミワ　はい！　もの凄く楽しみですね。（ニッコリ）。

GK　じゃあ、全7大会取材して、レポートするように！

ミワ　……え？　そ、それはちょっと考えさせてください……。

生徒、松下ミワのG1予想

まず、Aブロックの予想から！　私の考えでは、Aブロックから小島聡が1位、棚橋弘至が2位で上がってくるのではないかと思います。なぜなら、小島選手は少し前まで三冠王者だったということもあるし、全日本プロレスを代表してG1に参戦するので、これは、負けられない闘いになると思うからです。棚橋選手は、新日本の若いエースという印象なので、リーグ戦は手堅く2位につけてくると思います。

一方、Bブロックは、前号の『kamipro』に登場した、永田、天山が上がってくる！　と言いたいところですが、I編集長が大プッシュする真壁選手も怪しいかな、と思ったところで、編集部の談話に耳を傾けると……ん？　金本が怪しい？　う〜ん、ここは自分の意志を貫いて、「永田選手1位、真壁選手2位で押します！　というわけで、小島vs真壁、永田vs棚橋ということになりますが、小島vs真壁は小島、永田vs棚橋は若い力で棚橋！　そして小島vs棚橋の再戦で棚橋がリベンジを果たす！　という展開になるのではないかと予想しました。

（松下ミワ）

金沢先生のG1予想

なんだよ、おいっ！　I編集長推薦の真壁以外、凄え順当な予想じゃないか!?　こ〜れは授業の成果じゃなく、極めて予想しやすい、ミワでも予想できちゃう出場メンバーに問題あり、じゃないの？　やっぱり、曙とか、ザ・エスペランサー（※各方面の関係者の方、ゴメンなさい。ジョークですよ、冗談ですから）とか、リーグ戦の星取りが予側不能な選手の参加に期待したかった。

いや、いまからでも間に合う。G1男、蝶野よ、出てこいやぁー！　そしたら、もう一枠増えるから、長州力が緊急参戦したり、鈴木みのるか、健想、あるいはメカマミー（※これもジョークですけども）が出てきちゃったり……。いやあ、すいません、どうも！

悔しいけど、Aブロックの小島進出は堅いね。棚橋もそれに次ぐけど、あたりまえすぎるから、もうバーナード進出だよ。Bブロックの永田は当確。もう一人は天山が有力だけど、これもあたりまえすぎるから、金本アニイでいってみよう。で、結局、優勝は永田裕志としておく。いや、もしかしたら、メカユージの可能性もあるぞ、これは！　なんせナガタロックの立ち上げで、のどから手が出るほど、その出てきた手で敬礼しちゃうほど賞金がほしいからね。

なんかミワの予想のほうが当たりそうなんだよねえ。もし、そうなったら、俺は坊主にする気はないから、ミワ先生による『ダンヘン』講義の受講生になることをここに誓います！

（金沢先生）

三時間目『教えて!! ドラゴン問題』

――本日の最終授業は藤波辰爾の新日本プロレス退団についてです。

GK 藤波さんが辞めた理由はなんだと思う?

ミワ ……新日本に居づらくなったんですか? 私から見ても、なんかあんまり新日本プロレスに関わってるイメージはなかったような……。引き留めようとする人はいたんですよね?

GK そりゃいましたよ。アントニオ猪木、藤波辰爾という名前の浸透度は大きいから、みすみす手放すようなことはしない。ゲーム会社ならなおさらだよね。

ただ、藤波さんはもう何年も前から独立志向はあったんだよ。だけど、藤波さんの性格上、石橋を叩いても渡らない的なところがあって、自分の理想としているものが固まらないかぎり動かない

ミワ 用心深い性格なんですか?

GK 用心深い……いい表現だなあ(笑)。

ミワ ありがとうございます(笑)。

GK 結局あの人は新日本で何と闘ってきたかと言えば、アントニオ猪木とずっと闘ってきたんだけど、藤波さんは猪木さんに逆らうことはできないんだよ。

ミワ それはどうしてですか?

GK だって猪木さんの付き人からレスラー人生が始まった人だから。そういうもんじゃん、人間関係って。不満はあったとしても、その人の前に出ちゃったら「どうも!」ってなっちゃう。それはもうしょうがない話なんだよね。とくに藤波さんは日本プロレスから新日本プロレスに移って……日本プロレス知らないでしょ?

ミワ ……すいません。

GK 新日本プロレスの始まりというのは、ホントにいまでいうインディー団体の誕生に近い状況だったんだよ。猪木さんが日本プロレスの体質を改革しようとしたのを、クーデターと思われて追放処分になって、そこについてきた人が山本小鉄さんと……。小鉄さんは知ってるでしょ?

ミワ 知ってます。坊主の人。

GK そう、坊主の人ね(笑)。あと木戸修やレフェリーのユセフ・トルコさんは知ってる?

ミワ あ、ユセフ・トルコさんは知ってます!(この日一番元気よく)

GK ユセフ・トルコは知ってるんだ(笑)。

ミワ ちっちゃい紙プロにいっぱい出てたじゃないですか。

GK そういうことね(笑)。その二人と、あと藤波さんが猪木さんに付いていった。イガグリ坊主の藤波さんは、その頃からアントニオ猪木と運命を共にしてるわけだけど、藤波さんはよく言えば純粋な人だから、猪木さんの突拍子もない考えや裏にある戦略とか、そういうものに対して翻弄され続けてきたわけよ。ところが長州力という人は非常に賢いというか、アントニオ猪木に対しても対抗しうる何かを持ってる人なんだよね。

ミワ じゃあ、長州力は猪木さんに翻弄されなかったんですか?

GK 最初はね。で、新日本プロレスの一番よかった時代というのは、90年代の約10年間。年商40億円はあったから。

ミワ 『PRIDE』とかK-1より凄かったんですね。

GK その時代は坂口(征二)さんが社長で、長州力が現場監督だった。猪木さんは坂口さんにいろいろ恩義があるから、坂口さんに対しては強く言えなかったんだよね。それに坂口さんは凄く常識派、良識派で、銀行とか取引先の信用が厚い。そして長州力が現場をしっかり仕切っていた、そうして黄金時代を築いたわけよ。

ミワ それがどうして崩れてしまったんですか?

GK それはね、極端なことをいうと、猪木さんは坂口さんがいると自分の意向が通らないから、藤波さんを社長にしちゃったの。

ミワ そ、そんな理由で社長が替わるんですか? 私のこと騙してませんか?

GK 本当のことなんだよ!

ミワ へぇ~、おもしろいですね!(笑)。

GK おもしろくないよ!(笑)。で、長州さんも決して藤波さんのこと嫌いなわけじゃないから、藤波体制で頑張っていこう、と。ただ、思った以上に猪木さんが介入しまくったんだよね。

ミワ 猪木さんはどんなふうに介入してきたんですか?

GK 『PRIDE』に新日本の選手を送り込めとか、マッチメイクを覆したりとか。

ミワ あ~。

GK 長州はそういった猪木さんの介入に絶対に「NO!」だった。藤波さんは『PRIDE』に選手を絶対出さない!」って言ってたのに、猪木さんに命令されると次の日には「やっぱり出します!」という感じだった(笑)。

ミワ お、おもしろいですね!(笑)。

GK おもしろくない人もたくさんいたんだよ!(笑)。で、藤波さんは藤波さんで自分の中では矛盾してないはずなんだよね。ただ結論しか言わないから、周りが「前と話が違うじゃん!」っていうことになっちゃう。たとえば、ケンドー・

7月7日の"七夕"というタイミングで、伽織(かおり)夫人を帯同して、織姫と彦星ばりの仲の良さをアピールしながら、新日本プロレス退団会見を行なったドラゴンの笑顔がまぶしい!

藤波辰爾、新日本プロレス退団までのあゆみ

- **4月13日** 新日本プロレスの取締役会で、藤波が辞意を表明。
- **4月22日** 藤波が新日本に辞意を表明していたことが、スポーツ紙等で大きく報道される。
- **4月24日** 新日本プロレスの第35回株主総会。藤波の最終意思の表明があると伝えられたが、退団に関する結論は先送り。
- **5月1日** 藤波とユークスの谷口行規社長が新日本プロレス事務所で最初の会談。
- **5月15日** 藤波と谷口社長が新日本プロレス事務所で会談(この時点で3回目の会談)。結論は出ず。
- **5月27日** 藤波と谷口社長が都内某所で4度目の会談。またもや結論は出ず。
- **6月20日** 藤波、新日本プロレスのサイモン猪木社長へ正式に辞表を提出。
- **6月23日** 西村修、田中秀和リングアナ、吉江豊、竹村豪氏、ヒロ斉藤らが、東京ドームホテルで8月2日「新無我伝説」(後楽園ホール)の旗揚げ記者会見。田中リングアナは「藤波さんにも出てほしい」とコメント。
- **6月23日** 長州力現場監督が藤波退団に関し、自身との不仲説を否定する発言。
- **6月30日** 藤波、この日をもって新日本プロレスを正式に退団。新日本プロレスの記者会見はなし。
- **7月5日** 藤波は、西村、田中リングアナとともに都内・広尾レストランで記者会見を行い、「新無我伝説」へのバックアップを約束。
- **7月7日** 藤波は、東京ドームホテルにて新日本プロレスの退団を正式に発表した。

ドラゴンが新日本プロレスをついに退団! 7月7日の七夕の日に、新日本プロレス退団を正式に発表した。ドラゴンは退社まで、親会社のユークスの谷口社長と数回話し合ったあと、6月30日にサイモン社長に辞表を提出。新日本から引き留めがなかったため、「気持ちを受け取ってもらったのかな」と判断したドラゴンは6月30日付けで退社。

退社の理由は「簡単に言えば、ビジネスの考え方の違い」とユークス側との方向性のズレを強調した。

また壇上に呼び寄せられた藤波伽織夫人は家族全員のドラゴン・サポートをアピール。レスラー生活35周年、結婚生活25周年のドラゴンがさわやかなドラゴン・スマイルで再スタートを切った。

藤波さんって用心深い性格なんですか？（ミワ）

用心深い……。いい表現だなぁ…（GK）

カシンが『PRIDE』に出たときも結論として「出さない！」って会議で決まったんだけど、猪木さんに「どうだい、出せるか？」って聞かれたら、藤波さんは「はい！」って返事しちゃった。

ミワ　……いい人ですね、藤波さん（笑）。

GK　長州力からすれば、もうたまらないよ！（笑）。それがちょうど長州が猪苗代で静養しているときの出来事でね。俺はカメラマンと取材に行ってて、長州力と3人でまさにこれからメシ食いに行こうってタクシーに乗り込む寸前に永島勝司から電話がかかってきて。その報告を受けた長州力が「ナニ、コノヤロー！」って怒った、怒った！

ミワ　やっぱりおもしろいですね（笑）。

GK　こっちは何事かと思ったよ！（笑）。まあ、これは極端な例だけども。とにかく藤波さんは、やっぱり年代が近いという部分で、長州力と藤波社長でうまく回るんじゃないかと思ったし、自分が大役を任されたからには、新日本プロレスをどんどんいい方向に導いていかなけりゃいけないと思っていたことはたしかなんだよ。結果的に猪木さんの力ばかりが増大してしまって、それに反発した長州力が出て行ってしまった。猪木との闘いに敗れたというか。それもまた猪木さんの発言をまた強めるきっかけを作ってしまって、藤波さんの立場はつらくなるよね。社長の座も追われることになったしさ。

ミワ　ここにきて藤波さんはどうして退団の決断をしたんですか？

GK　そのへんはよくわかんないんだけど、『東スポ』で「サイモン・長州体制が崩れないかぎり自分はここにはいられない」みたいなことを言ってたでしょ。そのあと「僕は具体名を出してません」って否定するわけだけど（笑）。

ミワ　？　ホントはどっちなんですか？

GK　どっちというか、藤波さんって新聞記者とかにうまく乗せられてしゃべっちゃって、そのニュアンスでストレートに書かれることが多かったわけよ。

――それがそのまま『紙の新聞』のネタになってたわけですね（笑）。

GK　やっぱり記者は自分の書きたい方向に持っていきたいわけだから。藤波さんもついつい「そうだね」って言葉にしちゃうわけよ。やっぱり藤波さんは人がいいから、誰にでも愛想よくちゃんと話を合わせちゃう。だから会社としては「広報を通さずに、藤波さんには取材しないでください」というお触れが出たぐらいなんだよね。

ミワ　そんなことまで……。

GK　だから長州力が戻ってきたことが気にくわない、長州力が戻ってきて自分より立場が上であることが気にくわないということが、本音としてあると思うけど、それは一部でしかないと思うんだよね。やっぱり、ここずっと30年以上、新日本プロレスに関わってきた歴史の中で、すべてが今回の決断の理由として積み重なっていると思うんだよ、たぶんね。

ミワ　藤波さんが辞めたことによって新日本はどうなるんですか？

GK　逆にどう思うの？

ミワ　う～ん……あんまり変わらない？

GK　あんまり変わらない？（笑）。

ミワ　変わるんですか？

GK　あんまり変わらないだろうね。

ミワ　藤波さんは新しい団体をつくるんですか？

GK　西村修とかケロちゃんの独立グループに藤波さんは参加する。その流れでいくと、現役の藤波辰爾が復活！　……って言葉としてはへんだけど（笑）。現役なんだよ、一応。

ミワ　あっ、そうなんですか？

GK　まだ引退してないんだよ。何度か引退って話があったんだけど、いつの間にか取り止めになってた。ところで「無我」ってわかる？

ミワ　無我？　最近立ち上がったやつですか？　西村とケロちゃんが一緒の。

GK　いやいや、そもそも無我は藤波さんが始めたんだよ、ずいぶん前に。

ミワ　無我って団体なんですか？

GK　自主興行。いまでいう『WRESTLE LAND』みたいなもの。

ミワ　あー。

GK　藤波自主興行として無我は立ち上がったんだ。でも、無我のイメージはいまや西村なわけよ。

ミワ　藤波さん、かわいそうですね。

GK　まあ、西村は藤波さんを敬愛してるからね。それに無我という独立グループの興行は、ホントだったら5月ぐらいに興行やるんじゃないかって噂あったけど、これが延びたってことは、藤波さんの決断を待ってたところもあるんじゃないかな。

ミワ　藤波さんを信じたわけですね。

GK　ようやく藤波さんが決断を下したということで、8月にやることになったんじゃないのかな。

ミワ　藤波さんが無我に来ない、って可能性あるんですか？

――手探りながら鋭い質問だ（笑）。

GK　それはないんじゃないかな（笑）。まあ、藤波さんが来なくても彼らは独自でやるでしょうけど、でも藤波さんは来るでしょう。藤波さんはじつはレスラーとしてはかなり凄いんだよ。もう体力的にキツイところはあるけど、あの人がジュニアヘビー戦士として凱旋帰国したときは、並の人気じゃなかったからね。藤波さんがきっかけでプロレス好きになった人っていっぱいいるし、若い女の子がキャーキャー騒いでね。いまの須藤元気とか山本KID徳郁みたいなもんだよ！

ミワ　ホントですか！　アイドルだったんですか？

GK　アイドル、アイドル！　初めてプロレス界に現われたアイドルてって感じ。細身で全身が筋肉でバネのような身体で腹筋が出てて、顔は小さくて男前で。動きが素早くてシュートも強い印象があった。あとトペとか飛び技を「ドラゴンロケット」という名前でポピュラーにしたのは、藤波さんなんだよ。

ミワ　へぇー。

GK　やる技やる技に全部ドラゴンがついてたもん。ドラゴン・スクリューもあるでしょ？

ミワ　ドラゴン・スクリュー？

GK　相手の片足を持ってひねって身体を回転させる技。武藤敬司がよくやる。ドラゴン・スープレックスは知ってる？

ミワ　？？？？

GK　フルネルソンからスープレックスするやつ。ジャーマン・スープレックスは腰を持って投げるでしょ？　ドラゴン・スープレックスはフルネルソンで……あぁ～～、もういいや（笑）。

ミワ　ドラゴン・スリーパーなら知ってますけど……。

GK　なんで!?（笑）。

ミワ　え？　え？　いや、サッカー選手でドラゴンファンがいて、運命の対面みたいな番組で見たことあります。

GK　凄いところから知ったね。とにかくいろんな技術を持ってる人なんだよ。だからレスリングの職人なんだよ。

ミワ　でも、社長には向いてなかったんですよね？

GK　……むむ！　今月の授業はここまで！

松下ミワ講義後の感想

はーっ！　約2時間みっちり受けさせていただきました!!　家庭教師のトライもビックリの超マンツーマン講義。金沢先生、ありがとうございました！　しかし、……正直言って、自身の無知ぶりにはため息が出ます。はぁ～、私って、プロレスのこと、ぜんっぜんわかってなかったのね（放心状態）。でもですね、まったく知らないなりに、これがかなり楽しかったんですよ。“講義”と名のつくものでこれほどワクワクしたのは、高校の数学教師だった樽谷先生の授業以来です！　あと、選手、関係者の皆さま、名前等、誤って記憶しており、大変申し訳ありませんでした。でも、もう大丈夫です。“アキヒロ”ではなく“マサヒロ”ですから!!

イン　サイド　コリア

인 사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第5回

韓国格闘技ドタバタキャンセル事件簿

ボブ・サップも裸足で逃げ出す!?

文／大川“隊長”義之

今年5月13日にオランダの「K—1欧州GP」で、ボブ・サップがグローブを着けたまま、**謎の敵前逃亡**をして格闘技界を驚かせた事件は、まだ我々の記憶に新しいところ。しかし韓国格闘技界においては、総合が始まってわずか3年しか経っていないのに、サップのような選手の**ドタキャン劇が頻発**しているのである。これも熱いときは**火が出るように熱く、気分が乗らないときは大不発する感情大国の韓国らしい**とは言えるだろう。**今回はそんな韓国版ボブ・サップ事件を引き起こした3人の選手とその事件**を紹介しよう。

■大会3時間前にメインイベンターから驚きのメールが!

最初に紹介するのは、今年7月に開催された『PRIDE無差別級GP2ndROUND』に初参戦し、**中尾KISS芳広**と対戦した、**イ・ウンス**。彼は若いながらも、韓国総合格闘技がスタートした時点からメインイベントを張り続けた『スピリットMC』の看板選手である。第一回の『スピリットMC』で、パンクラスで活躍したキム・ジョンワンを破って準優勝したのを皮切りに、第二回大会では堂々の優勝を果たして初代SMCヘビー級チャンピオンになった。

エンセン井上に憧れて総合を始めたという彼のファイトスタイルは、アグレッシブで破天荒。アマチュア臭い試合が多かった当時の韓国人の試合の中で、彼の試合内容はひときわ光っており、常に**『スピリットMC』のメインを任されていた**。しかし、才能に溢

メインイベンターが試合当日、山を散歩して足を挫いたから欠場!!

れる彼の格闘技センスとは異なり、**精神的には不安定さ**を抱えており、メインイベンターとして活動しながらもその裏では、**所属していたチームの離脱と復帰を何度も繰り返していた。**

そのような複雑な状況の中で**軍隊に入隊**し、ブランクの開いたウンスだったが、プロ活動も許される部隊にいたため、05年7月2日の『スピリットMC6』のメインイベントで久しぶりに彼の復帰戦が組まれることになった。ところが大会当日、来るはずの**ウンスがいくら待っても姿を現わさない**。関係者が気を揉んでいたところ、**大会開始3時間前**になって、なんとウンス本人から携帯メールの着信が! しかし、その内容は……**「山を散歩していて、足を挫きました。試合は無理です」**という、欠場理由としてはあまりにも荒唐無稽なものだった! 当然、関係者や大会スタッフも電話で必死の説得を続けたが、ウンスに試合に出場する意思はなく、結局欠場が決まっ

『PRIDE無差別級GP』で中尾さんと対戦したイ・ウンスは、かつて試合当日にメールで欠場を伝えてきたというトンデモ戦士だった!!

た。**彼の欠場を告げるアナウンスに会場内の観客もしばし呆然**。大会のメインイベントが直前になって立ち消えになる前代未聞の事件だった。この事件を境にウンスは信用を失ない、韓国格闘技界から追放されたも同然の身となった。そんな行き場を失なったウンスに日本での出場機会を与えたのが、韓国格闘技事情に詳しいCMAだったのである。

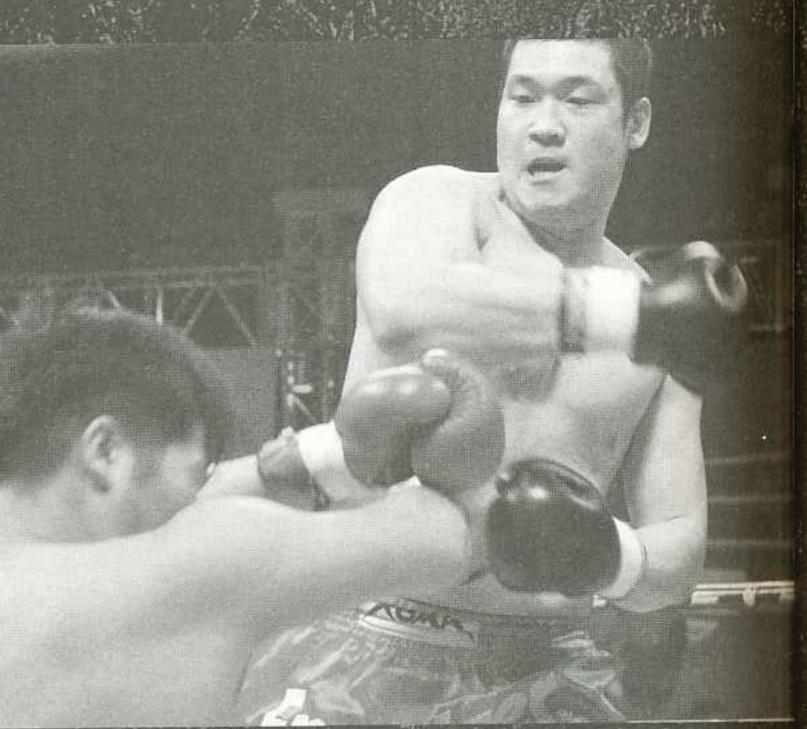
敗れたもののなんとか、今回日本で再デビュー戦を終えたイ・ウンス。信用を取り戻すための闘いはまだまだ続くだろう。再び彼が韓国のリングに立つのはいつになるのか?

■日韓を股にかけるドタキャン男!

次に紹介するのは、**日本と韓国両国でドタキャン事件**を起こしているというイム・ジュンス。彼が韓国総合格闘技界に登場したときは、それなりにセンセーショナルだった。韓国にある数少ないWWAという**プロレス団体所属のプロレスラー**として、『スピリットMC』の無差別級トーナメントに出場。一回戦で韓国を主戦場にしている総合経験豊かな**真武館・奥田正勝**と対戦し、柔道仕込みの豪快な投げとプロレスラーらしからぬ強力な打撃で（微妙な判定ではあったが）勝利を収め、この大会でベスト4に入った。この大会をきっかけに総合のおもしろさに目覚めた彼は、**プロレスラーを廃業**し、**チェ・ムベのチーム・タックル所属**となった。総合格闘家となったイムは、**アントニオ猪木も関わるWXF**の16人トー

ナメントで準優勝を果たし、次世代の有望なヘビー級ファイターとして注目されるようになる。『HERO'S』や『MARS』韓国大会では外国人選手相手に敗れたが、05年10月にはキックボクシングの大会であるKOMAの無差級トーナメントに出場し、二連続KO勝利を収め、見事決勝大会にコマを進めた。しかし、同年12月の決勝大会には大会当日、**すべての人からの連絡を絶ち、特別な理由もなく大会を無断欠場**。ウンスは携帯メールで出場しないことを連絡してきたが、こちらは無言でバックれ、当然その無責任な行動は大きく批判された。その後、日本の『MARS』（06年2月4日開催）からオファーがあり、腕相撲世界王者アラン・カラエフとの試合が発表されたが、これもビザの発給が遅れてドタキャンし、見事**〝日韓ドタキャン二冠王〟**を達成した。

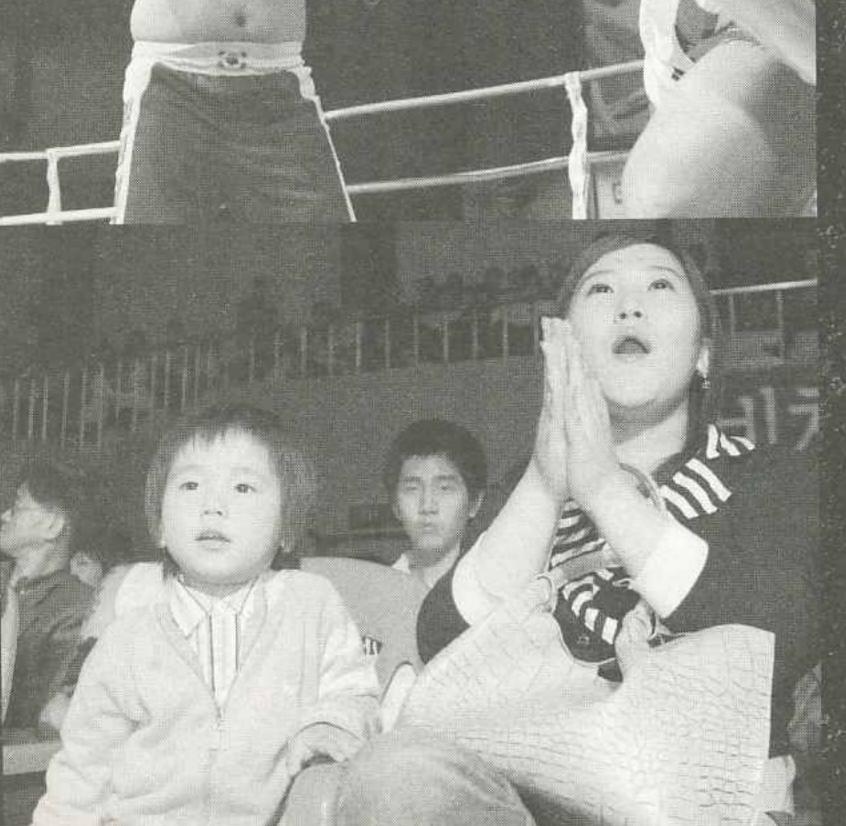
イムは彼の総合デビュー戦である奥田正勝戦で、試合中に**足が痛い**と言って**「タイム！」を要求**するという奇行にでたことがある。試合ができないほど足が痛いなら、レフェリーは試合を止めるべきだったが、**レフェリーはなぜかイムのタイムを認め、インターバルを与えてしまった**。結果的にその**「タイム！」が奏功してイムは試合に勝利**したのだが、いま考えると、あのときレフェリーは彼を試合放棄にして負けにし、社会の厳しさを教えるべきだったと思えてならない。試合の開催日は、彼がいくら**個人的な事情で「タイム！」を要求しても待ってくれはしない**のだから。

試合中に選手が足が痛いと「タイム」!!
その要求をレフェリーが認めた！

試合中に「タイム！」を要求する男、イム・ジュンス。要求するほうもするほうだが、認めるレフェリーもどうなってんだ!? このデタラメさ加減はたまらない!!

■韓国版リアル「あしたのジョー」は試合中に失踪！

韓国版リアル『あしたのジョー』ことソ・チョルは、非常にドラマチックな劇画的人生を持つファイターとして有名だ。その一端を紹介すると、**若い頃から街の喧嘩屋**として名をはせたソ・チョルは、早くから**暴力団の構成員**となった。裏社会で生きる彼は、まだ成人する前に暴行事件に関わったことで、98年の初めに**懲役4年の実刑判決**を受けてしまう。少年刑務所で失意の中で服役していたソ・チョルが出会ったものは、ボクシングだった。入所後、一ヵ月で始めた**ボクシング**のトレーニングに没頭したソ・**チョルはメキメキと頭角を現わし、服役中に参加した00年10月の韓国国体ではヘビー級の部で準優勝**を果たす。ボクシングに生きがいを見つけた彼は、模範的な受刑生活を送り、それが認められて刑期一年を残して01年3月に仮釈放される。同年10月の国体でも再び準優勝に食い込み、02年11月にはプロボクサーとしてデビュー。プロでも3戦全勝をあげ、03年10月から総合格闘家に転向した。こうした**彼の波瀾万丈の人生は、韓国で『拳が啼く』というタイトルで映画化**されたほどであった。

『スピリットMC』を経て、K-1韓国大会、『NEO FIGHT』、KOMA（キック団体）、バー・ファイトまで精力的に試合をこなしながら生計を立てていたソ・チョルだったが、そのあいだにも出所後、**足を洗った暴力団からの誘いは絶えなかった**。組織に戻れという組員の要求に対し、彼が「練習に専念したい」とこれを断ると、**激昂した組員が振り回した刃物で背中を切りつけられるという事件**もあった。このためソ・チョルは**裁判所に自らの身辺警護を申請**しながら、プロファイターとしての活動を続けた。06年5月5日には、7ヵ月ぶりに『NEO FIGHT』に出場したが、練習に集中できなかったためか、身体は絞りきれていなかった。1ラウンドこそ、かつて「韓国のタイソン」と呼ばれたパンチ力で相手から二度のダウンを奪うも、すぐスタミナ不足を露呈し、2ラウンド開始後、突然**「あ〜！ もうやめたやめた！足がイテェから、もうやめるわ」**と言い残してリングを降り、レフェリーやセコンドが制止するのも聞かず、スタスタと退場してしまったのである。しばらく皆、あっけに取られていたが、事態収拾を図ったレフェリーがセコンドにタオルを投入させ、結局ソ・チョルは試合放棄で負けとなった。会場には**ソ・チョルの奥さんと子どもが応援に来ていた**のだが……。

格闘家としては抜群におもしろい人生を背負っているソ・チョルだが、**まだ身辺の整理がついていない**のかもしれない。果たして、ソ・チョルが格闘家として純粋に練習に集中できる日は再び来るのだろうか。

奥さんと子どもの声援むなしく、試合中にさっさと退場してしまったソ・チョル。腕っぷしが強くて、かなり適当。日本のマット界に足りないのは、こんな男たちだ！

Back Number

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 '02.05 880yen

「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!／ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 '02.06 880yen

両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談／新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 '02.07 880yen

全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム／戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!
no.53 '02.08 880yen

ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・ガファリ／爆笑! 川村社長ガチンコ語録!／偽道王の知られざる半生!

『Dynamite!』を大総括!
no.54 '02.08 880yen

"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット／純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!
no.56 '02.10 880yen

田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦／蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山／『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号
no.57 '02.11 840yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ／北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!
no.58 '03.01 880yen

夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×高阪／Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健／カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸
no.59 '03.02 880yen

いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス／爆発!! WJマグマ語録／吉田道場の秘密兵器 中村和裕／UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!
no.60 '03.03 880yen

ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気／あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし／全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 '03.04 880yen

裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン／プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!
no.62 '03.05 880yen

ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介／現役復帰間近!? 船木誠勝／藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル／新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 '03.06 880yen

「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!／憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー／芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 '03.07 900yen

"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー／ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!
no.65 '03.08 880yen

"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル／"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ／吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司／闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!
no.66 '03.09 880yen

緊急独占インタビュー! ミルコ／マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!!／長南亮／"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦／『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 '03.10 880yen

ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー／アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 '03.11 880yen

大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦／曙とは何者か!?／一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志／"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林聡

ハッスル1開催、ド直前!!
no.69 '03.12 900yen

出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也／『泣き虫』著者登場! 金子達仁／大晦日直前インタビュー! 田村潔司／アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!
no.70 '04.01 880yen

PRIDE征服宣言! ミルコ／シウバに直戦布告! 近藤有己／ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶／発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!
no.71 '04.02 880yen

『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／待望の『紙プロ』初登場! 川田利明／理想のプロレスを追い求める! AKIRA／幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!
no.72 '04.03 840yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁／全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!
no.73 '04.04 880yen

GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド／キックの名伯楽登場! 伊原信一／魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 '04.05 880yen

PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー／掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 '04.06 880yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 高田総統／インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン／年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 '04.07 880yen

小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志／新連載「月刊PG談(仮)」吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!
no.77 '04.08 880yen

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ／サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号
no.78 '04.09 840yen

衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 高田延彦／K-1のトップが小川を語る 谷川貞治／壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!
no.79 '04.09 840yen

キャプテンに休息なし! 小川直也／特別付録・高田総統ポスター／谷川さん推薦企画「曙は是か非か?」／ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!
no.80 '04.10 880yen

独占ロングインタビュー ミルコ／ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也／新連載! 佐山サトルの右流々探訪紀／袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 '04.10 880yen

ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／スーパーひとし君登場! 草野仁／佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!
no.82 '04.12 890yen

"道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪／伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!

no.83 '05.01 880yen

『PRIDE男祭り』怒濤の大総括!／蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝／『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 '05.02 880yen

"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司／"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!
no.85 '05.03 860yen

PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦／パンクラス2大王者が揃い踏み! 高阪剛×近藤有己／HBKが大暴れ!! 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 '05.04 860yen

大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!／PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 '05.05 860yen

敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫／蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文　②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

読者がやみつきになってもしらないインフォメーションコーナー

kamipro Addict!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

マット界中毒警報発令!

WARが6年ぶりに復活! 平成維震軍メンバーと最終決着戦!!

WAR FINAL
『~REBORN to FUTURE~』

★日時 7月27日(木)18:30開始
★会場 東京・後楽園ホール
★主要対戦カード
【WAR vs 平成維震軍】
天龍源一郎 & 北原光騎 & 折原昌夫 & ドン・フジイ vs 越中詩郎 & 青柳政司 & 小原道由 & X
【ミックスドタッグマッチ】
マグナムTOKYO & イーグル沢井 vs 天龍源一郎 & 風間ルミ
邪道 & 外道 vs 金村キンタロー & GENTARO　維新力 vs 石井智宏
【IJ選手権】(王者)望月成晃 vs (挑戦者)ペンタゴン・ブラック
★問 DRAGON FACTORY 03-3269-7451

大森、3度目の正直で初制覇なるか!?

ZERO1・MAX
『AWA WORLD GP火祭り06決勝戦』

★日時 7月29日(土)18:30開始 ★会場 東京・後楽園ホール
★主要対戦カード
(Aブロック最高得点者) vs (Bブロック最高得点者)
【リーグ戦参戦選手】Aブロック:大谷晋二郎、田中将斗、吉江豊、村上和成、本間朋晃
Bブロック:大森隆男、佐藤耕平、崔領二、後藤達俊、関本大介
★問 ファースト・オン・ステージ 03-5730-3966

邪道&外道は大忙し!! ディファが"プロレスハッピーランド"に!?

新日本『WRESTLE LAND』

★日時 7月23日(木)18:00開始 ★会場 東京・ディファ有明
★主要対戦カード
棚橋弘至 & 2代目ペガサス・キッド vs ミラノコレクションA.T. & 魔界マスクド・デビロック
江戸侍 vs マスクド・ハリケーン
小原道由 & スーパー・ストロング・マシン vs 魔界倶楽部
邪道 & 外道 & X vs 矢野通 & 柏大五郎 & 石坂鉄平
★問 エンターテイメントワークス 03-5464-2220

新日本『LOCK UP』

★日時 7月29日(木)18:30開始 ★会場 東京・新木場1stRING
★出場予定選手 長州力、石井智宏、宇和野貴史、金村キンタロー、BADBOY非道、黒田哲広、邪道、外道ほか
★問 エンターテイメントワークス 03-5464-2220

新日本『C.T.U 2nd. Anniversary』

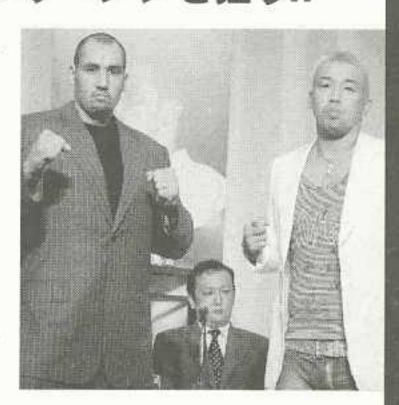
★日時 7月30日(日)18:30開始 ★会場 東京・後楽園ホール
★全対戦カード
【CTUレンジャー vs K-DOJO】レッド & ブルー & イエロー & グリーン & ピンク vs 柏大五郎 & MIYAWAKI & 石坂鉄平 & PSYCO & アップルみゆき
TAKAみちのく & ブラック・タイガー & 後藤洋央紀 vs タイガーマスク & エル・サムライ & 田口隆祐
邪道 & 外道 vs 金村キンタロー & 黒田哲広　鬼神ライガー vs BADBOY 非道
稔 & X vs 金本浩二 & 井上亘
★問 新日本プロレス 03-6407-3111

「殴る」「蹴る」で会話ができる!!

フーテン『バチバチの穴』

★日時 7月29日(土)18:00開始
★会場 東京・北千住シアター1010
★全対戦カード
池田大輔 vs 原学　佐々木恭介 vs 伊藤博之
大場貴弘 vs 柴田正人　橋本友彦 vs イナズマジュンジ　飯伏幸太 vs 澤宗紀
★問 フーテンプロモーション 03-3373-7939

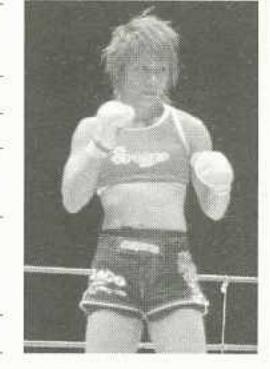
アンディ・フグ追悼イベント開催! KOされた武蔵がクラウベにリベンジを狙う!!

"K-1の象徴"アンディ・フグの7回忌追悼イベントが開催。負けても立ち上がってくるアンディをモチーフに"リベンジ"というテーマで豪華なワンマッチがラインアップされた。昨年のワールドGP準決勝でクラウベの飛びヒザをモロに顔面に食らって敗れた武蔵が再戦に挑む。またアーツとグッドリッジも04年の名古屋大会の再戦。敗れたグッドリッジがリベンジを希望したことで対戦が実現した。それぞれ雪辱を果たせるか!?

K-1『REVENGE 2006
アンディ・フグ七回忌追悼イベント』

★日時 7月30日(日)15:00開始 ★会場 北海道・真駒内アイスアリーナ
★主要対戦カード
グラウベ・フェイトーザ(極真会館) vs 武蔵(正道会館)
ピーター・アーツ(チーム・アーツ) vs ゲーリー・グッドリッジ(フリー)
ポール・スロウィンスキー(ファインダーズ・ユニ・ムエタイジム) vs 富平辰文(SQUARE)
ビヨン・ブレギー(マイクスジム) vs 中迫強(ZEBRA244)
フレディ・ケマイヨ(ファウコンジム) vs 天田ヒロミ(TENKA510)
藤本祐介(MONSTER FACTORY) vs 新村優貴(大誠塾)
★その他出場予定選手 アーネスト・ホースト(ボスジム)、チェ・ホンマン(フリー)、シリル・アビディ(ブリゾンジム)、アラン・カラエフ(リングス・ロシア)、内田ノボル(ビクトリージム)
★問 FEG 03-3796-5060

スマックがグラップリングのオープン戦開催!!

SMACK GIRL
『グラップリング・クイーン・トーナメント』

★日時 7月23日(日)11:30開始
★会場 東京・ゴールドジム大森
★トーナメント出場予定選手
藤井恵、赤野仁美、SAYAKA、玉田育子、二宮亜基子ほか
★その他ワンマッチ
【ネクストシンデレラ・トーナメントフライ級準決勝】KM-MAKI vs MITSUKI
【ネクストシンデレラ・トーナメントミドル級準決勝】諸星和奈 vs 竹下嘉奈子
★問 スマックガール実行委員会 03-333-7426

火星人もビックリ! MARSが両国に進出!!

総合&打撃のミックスイベントとして生まれ変わったMARS。5月には幕張メッセで、ある種、無謀とも言えるビッグマッチをブッ放したが、今度は格闘技イベントとしては、03年のパンクラス以来となる両国国技館に進出!! 同日に開催される『PRIDE武士道ウェルター級GP』を向こうに回して、同じ83キロ級のGPを開催! 若きプロデューサー・天野氏のその大胆な手腕に期待だ!! なお、夏休みということもあり、いろんな層の方に来てもらいたいとのことで、チケットは2000円から。お見逃しなく!!

MARS『ATTACK 01』

★日時 7月21日(金)18:00開始 ★会場 東京・新宿FACE
★出場予定選手 、ホドリゴ・ダム、カリーナ・ダムほか
※新人及びアマチュア選手のためのオーディション「チャンス&チャレンジ」も開催!

MARS『in 両国国技館 ~NEW DEAL~』

★日時 8月26日(土)18:00開始 ★会場 東京・両国国技館
★83キロ級トーナメントGP一回戦開催予定
★問 トリニティ 03-3368-3355

米国出張を経てさらに貫録を増した天野エグゼクティブ・プロデューサー

エンセンのもとに、続々と仲間が集結!!

ピュアブレッド『心~Kill or to be killed~』

★日時 8月15日(金)18:30開始 ★会場 東京・後楽園ホール
★主要対戦カード
金原弘光 vs スティーブ・バーンズ　ジェイソン信長 vs セルゲイ・シュメトフ
ISE vs ジャダンバ・ナラントンガラク　ハービー vs 矢作尚紀
★問 ピュアブレッド大宮 048-686-3328

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5385-8285
〒164-0001 東京都中野区中野3-17-1 コーポフロンティア301
http://www.cbox100.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘 03-3524-1071
〒104-0061
東京都中央区銀座4-14-17 渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区東六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seikenshinkageryu.com

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F
http://alljapan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.net

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP：http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp

■GIRLS DOOR
03 - 3907 - 2909
東京都新宿区西新宿7-2-6 西新宿K－1ビル6F
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO
044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R
044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193－11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

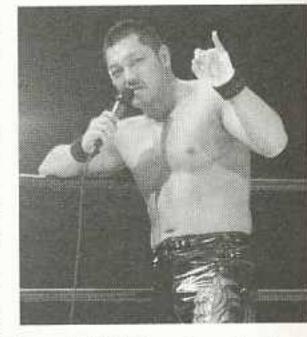
■ZST
03-5388-0808
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

関西のファンに朗報!
“ハッスル軍最強タッグ”が大阪でトークショー開催!!

“キャプテン・ハッスル”小川直也とHGのハッスル軍最強コンビが帝国ホテル大阪で、それぞれ初となるトークディナーショーを合同開催!! トークはもちろん、抽選会や質問コーナーなどファンとの交流イベントが盛りだくさん。シークレットゲストの登場も予定されており、アドレナリン放出しまくりのイベントになることは間違いなし! ここでハッスル魂を注入してこの夏を乗り切れ!!

『小川直也 vs レイザーラモンHGトークディナーショー』
★日時 7月31日（月）19:00開演 ★会場 帝国ホテル大阪 孔雀の間
★チケット スタンダート（2万円） スペシャル（2万3000円）
★問 トークディナーショー運営事務局 06-6882-8762

ワインと焼酎に自信アリ!!
坂田が和風ダイニングを都内・代官山にオープン!!

“坂田軍団”を率いて『ハッスル』のリングで活躍する坂田亘が和風ダイニングを都内・代官山にオープン! 坂田本人もよく顔を出す同店は、地鶏と青魚を中心とした料理に加えて、坂田がその確かな目と舌で厳選した良質のワインと逸品焼酎を取り揃えており、開店以来、大人気! ハッスラー、坂田ファンならずとも要チェック。惚れるなよ!!

和風ダイニング『わたる』
★場所 東京都渋谷区猿楽町1-3 ★営業時間17:00～26:00（月曜休）
★問 わたる 03-5428-5533

本誌・松澤チョロ絶賛!!
女子格闘家の赤裸々なボーダレス親子アルバム!!

女子格闘家の複雑な家庭環境や彼女らの乗り越えてきた挫折・コンプレックスを赤裸々に描写しつつ、娘がなぜ闘うか理解に苦しむ母や、逆にひたすら娘を溺愛する母など、女子格闘家とその母親の濃密な人生に迫った本書。登場するのは辻結花、渡辺久江、フジメグらトップ選手とそのママ27組。ジョシカクの黎明期からサムライTV!のディレクターとして熱心に取材し、選手からの信頼も厚い著者だから引き出せた選手の生き様は一読の価値アリ!

『ママダス! ～闘う娘と語る母～』
★著者 松本幸代 ★発売中 ★価格 ￥1,680（税込）
★問 情報センター出版局 03-3358-0231

マット界のメッカ・水道橋でファイティングカフェ・コロッセオがスタッフ急募!!

カフェ並びマット界に神出鬼没のマスクド・コロッセオ（右）

K-1審議員も務める大森マスターが運営する、格闘技好きの、格闘技好きによる、格闘技好きのための“格闘的アジアン厨房”コロッセオ。もちろんプロレス好きにもたまらないお店なのだが、そのコロッセオがプロレス&格闘技好きのスタッフを絶賛募集中!! 100インチのスクリーンが常設され、有名選手がフラッと遊びに来ることも多いこの労働環境、マット界中毒者にはたまらないはず! また本格的アジアンフードを学びたい方もぜひ!!

『ファイティングカフェ・コロッセオ』
★職種 ホール ★時給 900円～ ★勤務時間 16:30～24:00（応相談）
★問 ファイティングカフェ・コロッセオ 03-3512-0522

制作総指揮は榊原代表!
トリノの感動再び!!
シムソンズがDVDに!!

今年開催されたトリノ冬季五輪でブームを巻き起こした“氷上のチェス”カーリング。ちょうど五輪開催中に劇場公開し、映画のモデルになった日本女子代表チームが活躍したことで、注目を浴びた映画がDVD化! 主演の加藤ローサ、藤井美菜らに交じって、髙田PRIDE本部長も喫茶店のマスター役で名演技! また島田同ルールディレクターも出演。しかし北海道まで撮影に行ったにもかかわらず、2秒しか出ていないとのこと。はたしてキミは探せるか？

『シムソンズ』
★価格 ￥3,800（税込） ★発売日 7月28日
★収録 本編約113分＋特典映像
★問 ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン 03-5403-6800

本邦初公開のプライベート映像も!
“戦後最大のヒーロー”力道山を描いた感動作!!

©リキ・エンタープライズ

戦後の英雄、力道山。国籍のため、大関への道が断たれると、相撲界に見切りをつけ、国籍や人種にとらわれないプロレスに活路を見出した。そのとき、それがのちに日本国民を熱狂の渦へと巻き込むことになると誰が想像しただろうだろうか？ ヒーローの強さと孤独を描いた物語。主演を韓流実力派俳優ソル・ギョングが演じるほか、武藤敬司や船木誠勝ら豪華な顔ぶれも出演。また本作品は約一年前に急逝した橋本真也さんにとっては遺作となった。

『力道山プロレス“源流”BOX 3枚組』
★価格 ￥10,290（税込） ★発売日 8月4日
★収録 約149分（本編＋特典＋プレミアム） ★非売品フィギュアつき
★問 ソニー・ピクチャーズエンタテインメント 03-5551-0828

Hand

携帯サイト『kamipro Hand』では、いよいよ8月から“I編集長”こと、井上義啓氏の「kamiボイス」を配信!! 毎号毎号熱くプロレス・格闘技を語りおろすあの声で、メール着信や電話着信を教えてくれちゃうぞ!! 6月・7月と配信済みのケロちゃんボイスも絶品なので、これはもう、今月から入会してボイスをダウンロードするしかない!! 写真は中川画伯による鈴木みのるカレンダー。7月中はウィルコム配信開始を記念した「色紙27枚プレゼント」も実施中！ 来月と言わず、いますぐアクセス!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲	紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技	紙プロHand
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技	紙プロHand
WILLCOM	趣味＆スポーツ	スポーツ	総合		紙プロHand

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

『ザ・テレビジョン』に対抗して、ビワを持ってみました！　キャハハハハ!!（爆笑）。というわけで、小学生時代に松下ビワと言われ、いじめられていた悲しい過去を思い出しながら、『ハガキ愛ランド』、始めたいと思います。ちなみに、「ヤン坊、マー坊、天気予報！」と言われていじめられたこともあります。それではいきまっせ～。3、2、1、トンカチ、トンカチ、う～、藁人形!!（流血）。

kamipro100号へのお便り紹介

記念すべき100号発行、そして新日取材解禁、おめでとうございます！　今号は、保存用と読む用に2冊買いました。緊急速報号2冊、101号も2冊買います！　『kamipro』の力で、ぜひ『ハッスル18』に永田さんや天山さん、ターナー・ザ・インサートさんを登場させてください！
【茨城県・和田智裕さん・学生・22歳】

⬇毎号、2冊ずつご購入いただき、ありがとうございます。その調子でどんどん2冊買ってください!!　ちなみに、私も『ハッスル』には、野村沙知代や石原良純、ダン・ヘンダーソンらに出てほしいと思っているのですが、なかなかうまくいきませんね。お互い頑張りましょう！

天山広吉インタビューは最高でした！　っていうか、正直、ビビりました。破壊王との素晴しい関係に超感動しました。それにしても、天山の素晴しい笑顔！　夢に出てきそうで、少し恐くなりました。
【大阪府・山内義久さん・旅人・37歳】

⬇GK先生が「天山は他誌では真面目にインタビューを受けてるのに、なぜ『kamipro』ではあんなに弾けてたんだ!?」と言っておられました。初登場だったのに嬉しい限りです！　あっ、もしかして、これも破壊王パワーか？

永田裕志インタビューにはビビってたじろいだ!!　みんな大好きな永田さんが『kamipro』に降臨するとは。これからもどんどん永田さんを載せてほしい。
【東京都・寺田純さん・豆腐売り・25歳】

⬇記念すべき新日取材解禁一発目で実現した、我らが永田さんインタビュー。100号の中でも、ビジュアル・インパクトは文句なしの一等賞でした。しかし、永田さん、ギャラなしでヒョードルと闘ってたなんて……。"男の中の男"がここにもいた!!

チェ・ムベの記事を見て安心した。最近、ムベ様、見ねえなあ～と思いながら『kamipro』を開けてみると、まさに本人のインタビューがあって、チェ・ムベが『PRIDE』を離れた理由がよくわかったから。
【茨城県・石塚裕伴さん・学生・14歳】

⬇ソア・パラレイ戦を闘ったムベ様をもう一度見たい！　と絶叫しよう。ほら、みんなで絶叫だ!!　そうしたら……、あっ！　見えてきたぞ!!　人差し指のあの人が。……と思ったら、自由の女神でした～、っ残念！

メカマミーがまたしゃべったのが凄いと思う。しかも、メカなのに電話ができるなんて。とにかく、メカマミーが凄いレスラーってことがわかってワクワクしてきた。
【香川県・国方健太さん・小学4年生・9歳】

⬇鈴木みのる戦でメカマミーが空を飛んだ写真を見て、編集部はメカにさらなる幻想を抱きました。いつか、『kamipro』の表紙に「メカなら何をやっても許されるのか」と見出しが打たれる日を夢見て、これからもどんどん応援しましょう！

藤田和之のアメリカ潜入取材がおもしろかった。さすがが、日本人唯一のヘビー級戦士。うつわがデカイのと、威風堂々とした性格は最高です！　ヒョードルを倒すのに一番近い日本人だと思います！
【長崎県・前多料臣さん・通信自営業・33歳】

⬇『PRIDE無差別級GP』の藤田 vs シウバの凄まじさは、速報号でお伝えしたとおり。負けても光るというのはまさにあの日の藤田のことをいうのだと学びました。う～ん、やっぱり勝負の世界はおもしろい！

なぎら健壱さんのインタビューがおもしろかったです。なぎらさんのプロレスLOVEが伝わってきましたよ。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・39歳】

⬇なぎらさんの『男は馬之助』エピソードは抜群！　しかし、正直、馬之助さんのことはあまり存じ上げないのですが、竹刀を買って「領収書ください」って言ってることだけはわかりました！　3、2、1、勉強、勉強!!

今回はなんといっても上田勝次!!　あの頃はFMWに心酔してましたからね！　本当に年齢を感じさせない体格。これはプロですね!!
【千葉県・大木憲博さん・会社員・36歳】

⬇上田さんの新宿&三鷹話はまさに"壮絶"すぎです。そして、見逃せないのがやっぱり上田さんのマッチョボディですよね！　還暦にして、あのボディは素敵です!!

DSE記者会見の記事は凄いですね。まさかフジが『PRIDE』を切るとは!!　凄くショック。大晦日は本当のところどうなるのか!?　『男祭り』も放送しないんですよね!?
【徳島県・竹内博史さん・調理士・41歳】

⬇テレビ放送はよくわかりませんが、『男祭り』はいまのところ変更なく開催ということです。なので、ショックを受けるばかりではなく、会場 or PPVで応援しましょう！　ついでに、年末の『猪木祭り』開催を目指して、『INOKI GENOME』も応援しよう!!

ジョシュ・バーネットが大特集されていたのが嬉しかった。珍しく、選手としてのジョシュにスポットライトが当たっていて本当によかったです。
【大阪府・幸崎明さん・公務員・29歳】

⬇といっても、全12ページ中、5ページはジョシュのオタク特集なんですけどね。それにしても、大事な試合の直前にあんなに細かくコメントするジョシュも変人すぎる（ありがたい話なんですけど）。"男の中の男"とともに"オタクの中のオタク"と評さずにはいられない！

100号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	ジョシュ・バーネット インタビュー
2位	永田裕志インタビュー
3位	なぎら健壱インタビュー
4位	天山広吉インタビュー
5位	DSE公開記者会見/藤田和之インタビュー

記念すべき100号の第一位に輝いたのは、全12ページにも渡って大特集したジョシュに決定!!　無差別級GPでの快進撃もまだまだ続いてほしい！　そして、新日取材解禁後、第一発目のインタビューとなった永田さん&天山広吉はやっぱり強い!!　さらにさらに、見事に"下町のうんちく王"っぷりを発揮してくださったなぎら健壱さんも堂々3位に。一緒にホッピー飲みたかった……。

東京都・英加直純さん
⬇なんだかわからないけど、勢いのある4コマ漫画をありがとう!!　「アサッテ君」目指して、毎号4コマ漫画を送ってください！（「ののちゃん」でも可）。

神奈川県・ようちゃんさん
⮕フィーバーポーズで再び『kamipro』再登場してくれたムベ様。予想以上に元気でなにより!!　また日本のリングで闘う姿が見たい～。

埼玉県・大崎洋二さん
⮕『HERO'S』ミドル級GPで唯一勝ち残った日本人・宇野薫。去年はKIDに敗れたが、今年こそ優勝できるか!?　う～ん、でも、ブラックマンバも本気で応援したい!!

神奈川県・岡田健生さん
⮕PRIDE無差別級GP決勝ラウンドのリザーバーに何がなんでも推薦したい男・マークから、100号を突破した『kamipro』へ激励のお言葉をいただきました！　ありがとう!!　ショーグン戦で見せた、あのオヤジの底力をもう一度見せてくれ～。

スクープ！ザ・目撃!!

●こんにちは。自分は日体大の生徒なのですが、このあいだ、健志台キャンパスの門のところでターザン山本!さんをおみかけました。いったい何をされていたんですか?【ふっくんさん(kamipro Hand投稿)】

●6月2日、大森のジムで格闘技の練習やってたらハンマーハウスの連中が来ました。バローニ、コールマンです! コールマンは噂にたがわぬ暑い…あっ違う! 熱い男でした!! 自分は41歳だと伝えると、「Oh～! オレも41歳だ! 今年の12月で42歳だ～! いいか、よく聴け。now start! オマエも俺もnow start! 45歳まで頑張るからな!! ……多分な、フッ」と説かれました。予想以上にナイスガイでしたよ!【ぼとさん(kamipro Hand投稿)】

●『PRIDE無差別級GP』前日、水道橋の交差点でジョシュ・バーネット選手と遭遇しました!「明日、頑張ってよ!」と声をかけたら、満面の笑みで握手してくれました。北斗神拳最高!【佐竹 皓太さん(kamipro Hand投稿)】

●都内、芸能人御用達で有名なお店「"じゅうじゅう焼き"千徳」で、木村響子さんを発見しました! 木村さんは男性と一緒だったのですが、その男性、どこかでみかけたことがあるような気がするんですよ。う～ん、誰だったんだろう? 思い出したらまたご報告します!【東京都・匿名希望・29歳】

●『PRIDE無差別級GP』二回戦の会場で、ユン・ドンシクさんを発見しました! ウェルター級GPをケガで欠場したという噂を聞いていたのですが、本当にミドル級GPで桜庭さんと闘ったときより身体が小さくなってて驚きました。早くケガを治して、次はリングで会いたいなと思いました。【ドンシク・マニア2006】

●『ハッスル』の大会前日に、六本木ヒルズの近くのラーメン屋で、大谷晋二郎さんを発見しました。僕はテーブル席に座っていて、そこからカウンターに座っている大谷さんをチラチラと観察していました。大谷さんは、友人っぽい人(男性)と一緒でした。そのお店はかなり辛いラーメンで有名なのですが、大谷さんが「あちち、あちち」といいながらラーメンをすすっていたかどうかまではわかりませんでした。【ラーメン・マニア2006】

●今日、新大久保のとあるショップで、DJゴズマにそっくりの郷野聡寛さんを見かけました。郷野さんは、アフロのカツラを探していたようで、赤色にするか、金髪にするか迷っていたようですが、結局、両方を買っていったようでした。ファイターもいろいろ悩みが多いんだなと感じた出来事でした。【DJ・マニア2006】

●先日、渋谷のマークシティの4Fで、木村健悟さんを見かけました。マークシティ4Fはレストランフロアなのですが、木村さんが、そこで何を食べたのかまではわかりませんでした。【東京都・Wさん・デザイナー】

埼玉県・稲葉聡さん
➲「筋肉があれば、なんでもできる!」が信条のこの3人(適当)。いつか、『スポーツマンNo.1決定戦』で池谷直樹を倒してほしい! ハンマーハウス、カムバック!!

坂田軍団ボスがRGMにお説教!?

某写真週刊誌・編集次長・S波氏、またの名をペイントマン(自称)さんから、衝撃ショットがどっさり届きました! ペイントマンによると、写真週刊誌『FRIDAY』に小池栄子さんとの熱愛記事を掲載された坂田氏が「勝手に人の写真を載せやがって!」と怒りの電話、さらにその代償として「六本木高級クラブ接待」を迫ってきたとか。これに追いつめられたペイントマン、本当に六本木の高級クラブへGO! と思ったら、どこで聞きつけたのか、なぜかRGMが珍入!? なんだかわからないけど、予想以上に弾けるRGMとペイントマンのご機嫌なツーショットがこちら!! さらにさらに、御一行が二軒目に場所を移したところで、今度は坂田氏がRGMに説教か!? ここ最近、"解雇"という二文字におびえるRGM、坂田氏に相談したところ、坂田軍団入りを強引に勧められたとか(付き人として)。さあ～、これでRGMが落とされたのかどうなのか? その答えは六本木の闇の中に埋もれている～!? とまあ、なんともハチャメチャな投稿なのでした～。

紙のワシントン条約

松澤チョロ、ついに必殺技を命名!

6・24新日本・ディファ有明大会でNWAインターコンチネンタルタッグ王座を奪取した大森&中西組。その合体技の名前、皆さん覚えてますか!? せーの、ワシントン条約ぅ! はいっ、そのとおり!! この技の名前、じつは松澤チョロ氏が命名したものなんです!! おめでとう! 本当は、二人のタッグ名として応募した名前だったんですが、なんと、合体技名として採用。当日は、本人も大喜びだったのでした。祝杯!

こんなの発見!!

こんな記事を発見しました。タッキーの心意気に感心しました。【静岡県・森上屋のりさん】

タッキーこと滝沢秀明さんは7・3全日本プロレス大田区大会のリングにも上がったばかり(試合はしてないですけど)。プロレスとは縁が深い芸能人の一人ですが……、ない!『kamipro』がないではないか! も～、ブンブン(珠緒調)。というわけで、タッキーさん、『kamipro』もご愛読よろしくお願いします～。三宅さんも、インディアンに夢中になってる場合じゃないよ!!

Jたちのお気に入りの本

SMAP中居	『BE BOP HIGH-SCHOOL』きうちかずひろ
SMAP木村	『悪童日記』アゴタ・クリストフ『ONE PIECE』尾田栄一
SMAP稲垣	『MONSTER』浦沢直樹『ライ麦畑でつかまえて』J・D・サリンジャー『星の王子さま』サン・テグジュペリ『ゆかいなヘンリーくん』ビバリイ・クリアリー『怪盗ルパン』モーリス・ルブランほか多数
SMAP草彅	『バガボンド』井上雄彦『北斗の拳』武論尊、原哲夫
TOKIO松岡	『成りあがり』矢沢永吉『クレヨンしんちゃん』臼井儀人
TOKIO国分	『[illegible]』[illegible]
V6三宅	インディアン関係の本
V6岡田	『二十歳の変奏曲』稲葉稔、『忘れ雪』新堂冬樹ほか多数
嵐・松本	『パラダイスキス』矢沢あい 銀色夏生、山本文緒の作品
嵐・櫻井	『もの食う人びと』辺見庸『「正しい戦争」は本当にあるのか』藤原帰一
タッキー&翼・滝沢	『週刊プロレス』『週刊ゴング』
タッキー&翼・今井	『自分にふさわしい場所』[illegible]
NEWS小山	『犬を飼うと、恋人ができる。』中谷彰宏
KAT-TUN亀梨	『だからあなたも生きぬいて』大平光代
KAT-TUN田口	『亡国のイージス』福井晴敏『ダ・ヴィンチ・コード』ダン・ブラウン
KAT-TUN中丸	『品のいい人と言われる技術』夢プロジェクト 宇宙関係の本、アインシュタインの伝記

中尾"kiss"芳広さんの人生相談

さ～あ、中尾さんの人生相談第二回目を迎えました! 今回はどんなお悩みが届いているんでしょうか? 今日もバシッと中尾さんに斬っていただきましょう!!

お悩みごと

東京都の松本美加さん19歳から恋のご相談

■私は19歳の大学生で、4つ上の社会人の彼氏がいます。彼にはぜんぜん不満とかはないんですが、一緒にデートしたりすると、食事代も遊園地代とかもデート代は全部彼氏が払ってしまいます。はじめは嬉しかったのですが、最近ちょっと悪いような気がしちゃって。一回「私も払うよ」って言ってみたことがあるんですけど、「いい」って言われてちゃいました。気持ちは嬉しいんですけど、やっぱりそうなると食べたいものとか行きたいところとか遠慮してなかなか言えなくなってしまったんです。大学生と社会人とはいえ、私はちょっとでもお金を払いたい。これっておかしいことですか?

中尾

いや～、二回目ですね。今日も恋のお悩みですか。自分、思うんですけど……、あの、これって真面目に答えたほうがいいんですよね? それともある程度このなんていうんですかね、ボキャブラリー的なその～……。ま、いっか! 要するに、なんか、非常にその……自分はうらやましいんですよ! はっきり言っちゃえば!! 本当に、なんか「私たち、幸せなの～」っていうのをね、みんなに言ってるような感じですね。非常に。だから、まあ、なんていうんですかね、つまり「ごちそうさまです!」って感じなんですよ! それは悩みでもなんでも(ないような)。凄くいいかたちで付き合ってるんじゃないかなって。そう思いますよ。(ちなみに、現在、中尾さんはお一人なんでしょうか?)。そうですね、アハハハ!!(なぜか爆笑)。だから、普通はだいたい彼氏がお金払わなくて私が払ってるとか、そのかたちが凄い多いと思うんですけど、なんかね、いい人で。凄いいい人! だったらもう、それに群がって、ごちそうになれっていう人が多いと思うんですけれど、その女性は「私も出そう」という気持ちがあるというか。もっと歳取ったら、そのへんがわかっていくんじゃないかなって。若いからそういう感じになっていくんじゃないかって思うんですけども。はっきり言って、悩むことじゃないですね!(自信満々に)。

松本さん、おわかりになりましたでしょうか? どうぞ、中尾さんのアドバイスをご参照くださいませ。
※中尾さんへの人生相談もドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。

中尾さんの近況=改名しました。

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「メカファクトリー」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

kamipro calendar

22 SAT.
全日本■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
ガッツワールド■東京・新木場1stRING(18:30)
ガロガ■埼玉・バトルスフィア(19:00)
WFA■米国:イングルウッド/ザ・フォーラム
NJKF■東京・後楽園ホール(17:30)

23 SUN.
WRESTLE LAND■東京・ディファ有明(18:00)
全日本■石川・石川県産業展示館号館(18:00)
ZERO1-MAX■青森・青森産業会館(16:00)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)
ユニオン■東京・新木場1stRING(18:00)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(14:30)
みちのく■福島・サンシャイン浪江(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
イーグル■栃木・小山市文化センター(13:00)
JD■東京・新木場1stRING(13:00)
SMACK GIRL■東京・ゴールドジム大森(11:30)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30)

24 MON.
ZERO1-MAX■秋田・秋田市立茨島体育館(18:30)
WWS■群馬・伊勢崎第二市民体育館(18:30)

25 TUE.
ZERO1-MAX■福島・いわき市総合体育館(18:30)
グレプロ■東京・新木場1stRING(19:00)
J-NETWORK■東京・後楽園ホール(17:30予定)

26 WED.
全日本■青森・青森産業会館(18:30)

27 THU.
全日本■岩手・宮古シーアリーナ(18:30)
ZERO1-MAX■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:30)
WAR■東京・後楽園ホール(18:30)
JD■東京・新木場1stRING(18:00)

28 FRI.
全日本■青森・弘前市河西体育センター(18:30)
みちのく■岩手・奥州市水沢体育館(18:30)
パンクラス■東京・後楽園ホール(19:00)

29 SAT.
LOCK UP■東京・新木場1stRING(18:30)
ZERO1-MAX■東京・後楽園ホール(18:30)
DRAGON GATE■京都・KBSホール(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
フーテン■東京・北千住シアター1010(18:00)

30 SUN.
K-1■北海道・真駒内アイスアリーナ(15:00)
CTU■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■東京・後楽園ホール(12:00)
大日本■埼玉・桂スタジオ(14:00)
DRAGON GATE■岐阜・岐阜商工会議所(17:00)
みちのく■秋田・大仙市大曲体育館(14:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
リングソウル■東京・新宿FACE(18:30)
ターザン後藤一派■東京・インディーズアリーナ(17:00)
我闘姑娘■東京・新木場1stRING(12:30)
REALRHYTHM■大阪・Zepp Osaka(16:00)
修斗■東京・北沢タウンホール(16:00)
DEMOLITION■東京・新木場1stRING(17:30)
全日本キック■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(15:00)
NKB■東京・ディファ有明(16:00)
R.I.S.E.■東京・ゴールドジム大森(17:30)

31 MON.
DRAGON GATE■兵庫・SITE KOBE(19:00)

1 TUE.
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:00)
LLPW■福島・白河市中央体育館(19:00)

2 WED.
新無我伝説■東京・後楽園ホール(19:00)
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:00)

3 THU.
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:00)

4 FRI.
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
DEEP■東京・後楽園ホール(18:30)

5 SAT.
HERO'S■東京・有明コロシアム(16:00予定)
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)

6 SUN.
新日本■新潟・新潟市体育館(17:00)
ZERO1-MAX■群馬・庚申山第二体育館(16:00)
大日本■大阪・鶴見緑地万博記念公園(15:00)
DRAGON GATE■愛知・名古屋国際会議場(16:00)
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:30)
豊田真奈美興行■東京・新宿FACE(12:00)
LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
JD■東京・新木場1stRING(13:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(13:00)
JWP■東京・板橋グリーンホール(17:00)
天空■東京・新宿FACE(18:00)
新日本キック■東京・京王プラザ八王子(16:00)
MA日本キック■東京・後楽園ホール(17:15)

7 MON.
DDT■東京・新木場1stRING(19:00)

8 TUE.
ハッスル■東京・後楽園ホール(19:00)
新日本■神奈川・横浜文化体育館(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:00)

9 WED.
ハッスル■東京・後楽園ホール(19:00)
新日本■大阪・グランキューブ大阪(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:00)

10 THU.
新日本■愛知・愛知県体育館(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:00)

11 FRI.
DDT■東京・新木場1stRING(19:00)
みちのく■秋田・本荘市体育館(18:30)

12 SAT.
K-1■米国:ラスベガス/ベラージオホテル
新日本■東京・両国国技館(18:00)
ユニオン■東京・新木場1stRING(19:00)
大日本■茨城・北茨城市民体育館(18:00)
みちのく■宮城・中田町登米祝祭劇場(19:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
Ozアカデミー■東京・新宿FACE(19:00)
DEEP■長野・HAKUBA47(15:30)

13 SUN.
ノア■東京・ディファ有明(17:00)
新日本■東京・両国国技館(15:00)
DDT■東京・新木場1stRING(18:00)
みちのく■青森・弘前市川西体育センター(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■東京・後楽園ホール(12:00)
静岡プレロス■静岡市民文化会館(13:00)
JD■東京・新木場1stRING(13:00)
JWP■東京・板橋グリーンホール(13:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(17:00)

14 MON.
ノア■宮城・Zepp Sendai(18:30)
ZERO1-MAX■宮城・石巻市総合体育館(19:00)
みちのく■岩手・久慈市民体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

15 TUE.
ノア■秋田・皆瀬総合支所前特設リング(18:30)
大日本■愛知・名古屋市民体育館(18:30)
みちのく■青森・平内町立体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
心■東京・後楽園ホール(18:30)

16 WED.
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

18 FRI.
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)
みちのく■岩手・釜石市民体育館(18:30)

19 SAT.
WRESTLE EXPO■東京・臨海副都心イベント場(18:00)
フーテン■東京・北沢タウンホール(18:00)
みちのく■山形・米沢市体育館(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)

20 SUN.
ビッグマウス・ラウド■東京・後楽園ホール(12:00)
WRESTLE EXPO■東京・臨海副都心イベント場(14:00&18:00)
みちのく■宮城・鹿島台鎌田記念ホール(14:00)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

kamipro column

RGMのレイザーラモン

英知自慰

第10回 笑いのHR（ホームラン）を連発!! 有田総統のこだわりとは!?

イラスト◎出渕誠

どうもー、RGMでーす！　いや～激動の一ヵ月でした。しかし、この荒波を乗り越え、RGMとハッスルに参戦しているレスラー、スタッフとのあいだの絆はいっそう深まった気がする。みんな……「♪一ッ生一緒にいてくれやァ！」（by三木道三、withRGダンス）

絆が深まったぶん、上司であるRGMへの期待も大きい。その期待に応えるため『ハッスル・ハウスvol.16』オープニングでは掟破りのサ◯ラバ・タイガーマスクで登場。額には「KS」ではなく「RG」と書いてあるマスクは特注。ヒザと足首も入念なテーピング。マジックでDSEと書いてもらい細部にも凝る。こりゃ、ブーイングどころか拍手喝采だろうなぁ……。

そして、あのテーマで入場！　あれ？　思ったより歓声少ない。「行けと言われたので来ました」とマイク。あれ？　俺の命懸けのギャグに反応少ないヨー！　ここで見るに耐えかねたキャプテン乱入、「ハッスル潰す気か！」とリング外に放り出されるRGM！　ようやくお客さんが大爆発！

とぼとぼと控室に帰ると、みんなの冷たい視線。「あれはヤバイでしょ」と某スタッフがこぼす。空気読めないのもRGMの魅力、だがDSEのお偉いさんの視線も冷たいヨウ……。

しかし、もっとも力を入れるべきは『ハッスル・エイド』。みんなの気合の入り方も違う。もちろんオープニング担当のRGMも。ケイ・グラントさんのコールにもいつもと違う重みを感じる。「アァ～ル……ジィィエム！」で飛び出していくRGM！

花道をRGウォークでリングインすると、凄いブーイング。いままでに聞いたことのない声の厚みだ。そして帰れコール発生！　早いヨー！　しかし帰れコールにノってRGダンス！　「俺も腕上げたな……」と感慨にふけってる時間は終わりを告げた。次に出てきた〝お笑いモンスター〟に、力の差をまざまざと見せつけられたからだ。

有田総統……。完璧な髙田総統、猪木、長州、髙田統括本部長のマネであのさいたまスーパーアリーナを揺らした。

そう、ハッスルのファンは有名人だからといって、安易に声援を飛ばしたりしない。浮かれてるようでいて、しっかりリング上の人物を見極める。とってつけたモノマネやプロレスネタものだったり、〝プロレス愛〟がなかったりするとファンからのきつい野次にさらされるだろう。

いわば日本一シビアなお客さんを前に〝笑いのホームラン〟連発の有田総統。そのモノマネはテレビで見せることはほとんどない。あの芸はお金のためじゃない。忙しいスケジュールをぬって、ビデオを何回も見返し、猪木や長州の最新情報をチェックしていたに違いない。でなければサイモン社長や永久電機をネタにできるはずがない。そんなマニアックなネタにもお客さん大爆笑。

あれは贅沢な時間だった。ゴールデンの司会を務める超大物芸人のテレビでやれない楽屋ネタをコスプレ、音楽、照明、リング、花道つきで観れたんだから。

出番が終わって、控室に有田総統に挨拶に行った。「いやー緊張したわ。でもなRGM、長州の〝なぁ、智宏〟だけは絶対入れたかったんだ……」

……どこにこだわってんだヨー！

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
HGを〝アレンジ〟した「ヨウヨウヨウ！」をキメ言葉に活躍中。ハッスルでは最高責任者という名の前説男、RGMとして参加。

第10回

“殺し”と“笑い”が観れた?

『東京ゾンビ』DVD、7月28日発売★

リングの汁ミニ

花くまゆうさく

よし 打ってこい
オーラッツ ここ!
そっちかよ~
バシィ
吉田新喜劇?

『キックの星』(サムライTV)の「須藤通信」観てるから、やっぱK―1まで須藤(信充)辿り着いてほしいなあと思いながら、K―1MAXをぼんやりテレビで観る。でもこのトーナメントはキツそうだなあ。ワンマッチでパーといってほしい。パーと。

こないだはじめて『SMACK GIRL』を生で観ました。まず目についたのが、ラウンドガールを何度も写真に撮りまくったり、話しかけて御満悦な人。

試合は、やはり寝技30秒ルールにストレス溜まる&試合数が多いので少々グッタリ。目当てのセミ&メインまで長かったなあ(遠い目で)。でも主役の二人(フジメグ&辻)は素晴らしかった。

まずはフジメグ。はじめの全選手セレモニー時にヘラヘラせず厳しい顔してたのが印象的。やはり相手が階級上だから、ちと心配だったんだけど、あの厳しい顔を見てすこし安心しました。んでいざ試合。やっぱはじめの当たりの感じで体格差を感じ、ヒヤッとしたけど、勝機を逃さずキッチリ極めて完勝でシビれました。メインの辻結花も、これまで挑発してきた相手をキッチリ絞め落としてカッコよかったなあ。フジメグ&辻結花、この二人にはもう無邪気に素直にミーハーにファンになってしまう。

それだけ強くてカッコよくて気品があるね。トップのプロ女子選手で、そう思えるのはこの二人だけ。“自分大好き!私を見て見て”オーラがないのが、気品があってカッコいいんだよね。

『PRIDE』はPPV。「紫のけむり」で入場し、試合開始時に目が完全にイっちゃってる藤田の凄い形相が印象に残る。体が硬いからなのかカクカクした動きも印象的で、メカマミーよりメカっぽいんじゃないかな。最後のほうなんてもうメカ藤田だ。体格上でそれも打たれ強そうな藤田に、ああやって勝つシウバは凄いね。でも、ジョシュとやったらやっぱ体格的に厳しそうだから、つぎはノゲイラvsジョシュ、ミルコvsシウバが順当なんじゃないかな。リザーブは、吉田vsファブリシオがいいなあ。吉田が道衣着てきたら、ファブリシオの本領発揮が見られそうなんで。

Hanakuma Yusaku
◎具志堅ナイス!

不定期コラム

これぞプロレス界のタブー!? “プロレスラーと離婚”とは何か?

まいど! 原タコヤキ君でっせ!! 最近、唐突に座談会の司会を担当したりしていて、「そもそもこのタコヤキ君って誰やねん?」とお思いの読者も多いでしょうから、この場を借りて改めて自己紹介させていただきまっせ!

ボクは、まだ『紙のプロレス』がちっちゃい版型だった頃、ダブルクロスに入社。吉田豪さんなんかと机を並べて編集作業に勤しむ日々を送る。まあ、その頃はいまよりもふざけたことばっかりやっていたので、ボクが一号限りの編集長になって、前田日明さんと表紙を飾ったりと、ま、ファンのあいだではそれなりにスターだったわけですよ(妄想)。

ま、そんな話はええとして、いったんダブルクロスを離れ、なんやかんやいろいろあって、地元大阪へ戻り、まともな会社に入って、美人の奥さんをもらい、高級マンションを購入し、“プチ勝ち組”として、一生平穏に大阪で暮らすのかと思いきや、突然の東京支社転勤!(山口日昇曰く、「そりゃ左遷だ!」)さらに電撃離婚!! どないなっとんねん、ワシの人生……。やっぱりダブルクロス出身者には消えない刺青みたいなもんがあるんやろか……。

とかなんとか言いながら、東京でそれなりに独身生活を楽しんでいるのですが、ふと考えたのが、“プロレスラーと離婚”というテーマ。

離婚したプロレスラーというと、まず思い出すのがアントニオ猪木さん。一回目はアメリカで結婚したものの、離婚。日本に戻って、女優の倍賞美津子さんと再婚するも、事業の失敗なども影響してか、再び離婚。で、いまは3回目の結婚生活を送っている。このへんは全部、自伝で綴られている事実だ。

ほんで、最近一周忌を迎えた、“破壊王”故・橋本真也。破壊王は亡くなる前に離婚し、冬木薫さんと婚約。復帰後、入籍する予定だったという。

あと馳浩とかね。最初の奥さんがビクトル古賀さんの娘さんで、いまの奥さんがタレントの高見恭子さん。

プロレスラーではないけど、ターザン山本さんなんかは、学生結婚→離婚→仁香さんと再婚→元部下に寝取られ離婚という、破天荒を絵に描いたような半生だ。このへんはもう、すっかり本人のネタだ。

ホンマはほかにもたくさんいるのだけど、どうにも書きにくい。プロレスラーは結婚したときは大々的に発表するのに、離婚のときは黙して語らずだ。芸能人なんか、記者会見開いたりすんねんで? もしくはファックスくらいは流したりする。しかし、プロレスラーはそれがない。だからあとで「あの選手はじつは離婚していたらしい」なんて気を使うこともしばしばだ。いっそのこと、“隠れバツイチ”の選手は、ボクと対談して、みんなカミングアウトしていくっていうのはどうやろ?

「いや、ボクのときはこうでして……」

「いやいや、自分なんかはこんなことがあって……」

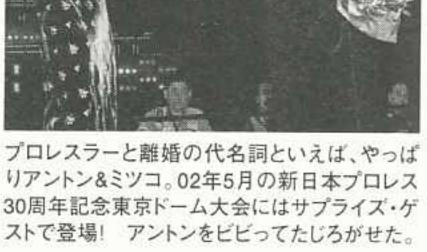
これぞ、リアルトークやろ!? 戸籍にバツのついたヤツ、出てこいや〜!

プロレスラーと離婚の代名詞といえば、やっぱりアントン&ミツコ。02年5月の新日本プロレス30周年記念東京ドーム大会にはサプライズ・ゲストで登場! アントンをビビってたじろがせた。

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第6回

魔裟斗クロックに気をつけろ!?

『マサト』。格闘技ファンならずとも、この名前を一度は耳にしたことがあるだろう。

1961年、大阪に生まれる。若手の頃は特に際立ったところはない、その他大勢の中の一人という認識しかされていなかった彼だが、一人の男に出会ったことが彼を変えていく。その男の名前は森脇健児。森脇と共演した番組がヒットしたことにより、彼の名前は全国区となった。同時に森脇とのライバルストーリーも幕を開けた。

彼の必殺技といえば、もちろん『競馬実況』であろう。競馬好きが高じて誕生したネタである。彼の頭の中でのみ展開するレースをあたかもその場で行われているかのように架空の実況を行うのだ。聞いているほうはまるで自分が競馬場にいるような錯覚すらする。「言葉」が持つ可能性を知らしめた技であろう。

また武勇伝にも事欠かない。中でも特筆すべきは始球式の話だ。1991年の阪神対近鉄の試合で彼は始球式を行ったわけだが、この時、彼の投げた球がバッターボックスに立っていた高橋慶彦の背中を直撃。この時の怪我が原因で高橋慶彦は引退へと追い込まれたのであった……。

このように、格闘家の魔裟斗と山田雅人を故意に間違ったのには訳がある。7月になり、真夏のような寝苦しい夜が続き、布団もかけずに全裸に近い姿でエアコンつけっぱなしで寝たのだが、その結果、予想通り風邪をひいた。自業自得であるし、誰かに八つ当たりするわけにもいかず、かといってさほど治そうとする努力もせずに放っておいた。『時間が解決する』という得意のオリジナル民間療法に頼ることにした。

そのオリジナル民間療法はそれなりに効果を示し、風邪特有の身体のだるさはなくなり、一日中ゲーセンに居っぱなしでも平気なまでに回復した。だが、ただひとつ、咳だけは止まることがなかった。

「おい時間だ！　起きろ。世界の頂点目指して行くぞ！」の他に「朝だ、目を覚ませ。いつまで寝てんだ。遅れるぞ！」という少し厳しめ、でもどこか優しさのあるメッセージも。もちろん、魔裟斗の生音声だ！

風邪をひくといつも咳を最後まで引きずるので気にはしていなかった。まあ、8月頃には治っているだろうと気に留めていなかったのだが、これが思わぬ事態を引き起こした。

その日もいつものように咳をしたのだが、その瞬間腰に激痛が走った。いままでに経験したことがない痛みは私を立たせることさえも不可能にした。崩れ落ちるように倒れ、そのまま横になりながら、くしゃみでギックリ腰になった船越英一郎のことを思い出した。自分も間違いなくギックリ腰になったことを確信した。

その時もいつものように全裸に近い状態だったので、近所の知り合いを呼ぶことは阻まれた。一時の恥よりも痛みに耐えることを選択し、またしても『時間が解決する』ことに希望を託した。

10時間後。痛みが少しだけ和らいだような気がしたのと、どの体勢が痛くてどの体勢が痛くないのか試行錯誤で学んだ知識が、とりあえず立ち上がって布団へと行こうという気にさせてくれた。あらゆるものを掴み、様々な物を杖代わりとしながら、まるで産まれたての子牛のようになんとか立ち上がった。

布団にたどり着き、身体を横たえ、「時間だけでは解決しない、病院へ行こう」と当たり前のことを思った。痛みを耐えながら待合室で座るのは避けたく、いや、座っている自信すらなかったので朝一で病院へ行くことにした。そのためには朝7時には起きたいところだった。だが、もちろん自信はなし。

そこで這いずりながら取り出したのが『魔裟斗目覚まし時計』であった。「魔裟斗の生音声目覚まし・眠気をぶっ飛ばせ！」とのキャッチコピー付き。いつか使うかもしれないと自分に言い聞かせつつも、多分使わないだろうとどこかで思っていたこの時計をまさか使うことになるとは。人間、何があるかわからない。

アラームをセットしようとスイッチを入れる。その瞬間「ちゃんと起こすから安心して寝ろ」という魔裟斗の声が聞こえた。力強く、そして頼もしいその一言に私は少し安心した。

だがセットに失敗して、一度アラームのスイッチを切った。すると「グッドラック！」という声が聞こえた。「成功を祈る」と励まされた気がした。もう一度セットしようとスイッチを入れると再び「ちゃんと起こすから安心して寝ろ」と聞こえ、またしてもセット失敗したので切ると「グッドラック！」と聞こえた。「ちゃんと起こすから安心して寝ろ」「グッドラック！」「ちゃんと起こすから安心して寝ろ」「グッドラック！」と何度も暗い部屋に鳴り響いた。

朝、軽快な音楽が鳴り響いた。魔裟斗の入場テーマソングらしい。目覚ましのことなどすでに忘れていた私は「何事か！」と目覚めた。続いて流れてきた「おい時間だ！　起きろ。世界の頂点目指して行くぞ！」の言葉。

、世界の頂点ではなくただ単に病院を目指したかっただけなのだが、魔裟斗が時間通りに起こしてくれたことには変わりはない。感謝の気持ちを抱きながら音声を止めようと時計の背後にあるボタンを押す。すると「グッドラック！」。これから病院に行くという時に幸運を祈られると、なんだかものすごいヤバそうな病院へ行くような気持ちになり少し怖くなったが、これもまた魔裟斗なりの励ましの言葉だろう……。

で、大変長くなってしまったのだが、なぜ格闘家の魔裟斗と山田雅人を故意に間違ったのかというと、結局、二度寝して病院へ行かなかったために、この原稿を書いているいまも腰が痛くてたまらないのだ。なので魔裟斗と山田雅人をおとぼけた感じで間違えて、山田雅人のことだけ書いてこのコラムを終わらそうとしたのだ。

しかし、山田雅人についてコラムを書くほど彼のことを知らず。かといって調べるほど興味もなかったために、結局、自分の体調について書くことになってしまったというわけだ。

皆さんも腰には十分気をつけて！　グッドラック！

多くの人にとって不必要だと思われる情報を書くと……「一度止めてもまた鳴るスヌーズ機能付き」「暗いところでも時刻がわかるライト機能付き」「いつでもアラーム音が聞けるモニター機能付き」「音量調節機能付き」……と嬉しい機能が盛りだくさん！しかもこれだけじゃないぞ。なんと「乾電池付き」なのだ！

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

どこに行っても“健想道”の巻

【編集部注】今月は夫・鈴木健想がメキシコ遠征中のため妻・鈴木浩子のコラムをお送り致します！

ここのところの健想の動きはわけがわからない。契機はあの〝電流爆破デスマッチ〟の発表だった。

「8月のお台場・レッスル万博に出場するからね。メインカードだから」

ところが記者会見翌日の新聞を見ると、「健想」「電流爆破」の文字。

「電流爆破……」

寝耳に水。問いただしても「そうそう、やるよ、電流爆破。俺、明日からメキシコだから、あとはよろしく！」と言い残して本人はメキシコへの空の旅。

わけがわからない。

「大丈夫。俺は約束は絶対守る。ここからは全部俺がやるから」

全部俺がやるから？

世の中にこれほど恐ろしいフレーズが二つとあるだろうか。で、いきなり電流爆破。しかも高木三四郎という知らない選手にリング上で土下座までしている。対戦相手同士が、対戦前にハグしてる（笑）。〝健想道〟の始まり。

健想という人は、迷っているうちは驚くほどグダグダと右往左往している。しかし一度決めてしまうと猪突猛進。もう動かせない。「世の中そんなもんだ」と折り合いをつけるなんて芸当はできない。損しようが、茨に足を踏み入れようが「違うことは違う」。しかも夫婦揃って似た気質だから、そんなときだけ突然〝信念の人〟になる。巻かれときゃいいのに権力にすら立ち向かう〝貧弱な頑強さ〟をいらないところで見せて損をする。

しかし、そんな場面でも異常に悪運が強いのが健想の凄さ。身一つ、この先どうなるかわからないままメキシコに飛んだはずが、そこでは大プッシュ。昨年、健想は最優秀外国人選手に選ばれたこともあり、会社もメキシコに腰を落ち着けてトップヒールとしてレギュラーでやってほしいという話で、経済的にも相当考慮を受け、運転手や住まいも用意され、しかもメインストーリーをもらっていた。

「大丈夫になったよ。経済的にも心配ない。浩子も呼べって。良かったね」

驚きの能天気丸出し。しかし、それが現実になる。これぞ〝健想道〟。

こうして彼は、到着してその翌日にはNGOのピースポートのショーに招待選手として参加。その翌日には早速テレビショーに出演。スポット参戦ではない。本筋だ。紹介用のCMも撮影され、米・欧他各国に放送が始まった。

……と、安心も束の間。3週目には予告もCMも流れメインイベントでの本格スタートが予定されていた。が、移民局に連行された（笑）。まだビザが取れてなかった。……これも〝健想道〟。国中で注目を受けたことが裏目に出たうれしい悲鳴だったのだ。

7月7日、鈴木健想と電流爆破で対戦する高木三四郎が電撃ネットワーク・南部虎弾と特訓を開始!! 痛みと火炎と電流に免疫をつけた。

Suzuki Kenzo&Hiroko
◎WWEで活躍したプロレスラー鈴木健想とDIVAとしても活躍してきた浩子の夫婦タッグ。健想は8月20日、お台場で高木三四郎と電流爆破マッチで対戦する。

日本在住メキシコ人ホセPresents

アメプロウワサルーン

イラスト◎エロコエロオ／Photo◎平工幸雄

No.3 ビンスを悩ます薬物検査の巻

ホセです。さてさて今回もチョリソのようにホットな話題をお届けするぜ！

ECWとDXが復活してますます勢いに乗るWWEに水をさすような仰天ニュースが飛び込んできた。なんとECWのトップスターであるRVDとサブゥーが現地時間7月2日の夜、ウェストバージニア州からペンシルバニア州に移動する際に逮捕されちゃったという事件が発生。逮捕の理由はスピード違反でハンドルを握っていたのはRVDだったという。

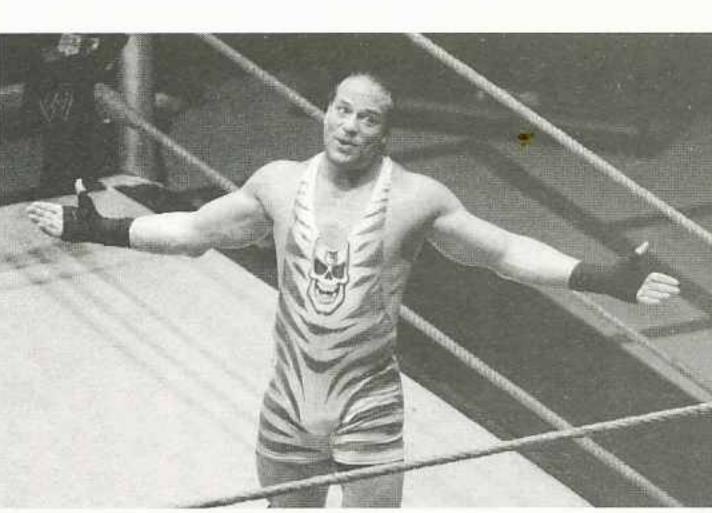
ハイウェイパトロールの取り調べに対し素直に応じた両者だったが、車内捜索の際にRVDが18グラムのマリファナとバイコディン、サブゥーは麻薬の吸引具と薬物錠剤を所持していることが発覚したという。だが、薬物吸引、服用の運転はしていなかった様子（ちなみにバイコディンは処方箋なしでは入手できない規制薬物。服用後は激しい眠気とめまいを引き起こすものだ）。

いずれにしてもスピード違反と麻薬所持のツープラトンで出頭した両者は、その場で保釈金を払い釈放となったが、この報を知ったビンス及びWWE首脳陣はヴァンダーミネーターを食らったかのように頭を抱えている様子。

WWEはかつて薬物によるトラブルが多く起こったことから、薬物に対する取り締りを絶賛実施中で、薬物に関する厳しい規定を設けている。今回のRVDとサブゥーは「WWE選手による、処方箋薬と運動能力向上における非医療的使用と乱用は、不法薬物の使用・所持・譲渡同様、許されざるものであるのでこれを禁ずる」という事項にあたり、さらに警察の検証結果をもとにRVDには30日間謹慎処分、サブゥーには1000ドルの罰金を課したという。さらにRVDはせっかく獲得したWWE王座もエッジに奪われ、ECWは離陸直後から軌道修正の事態に陥った。

薬物事件が沈静化に向かう中、なんと次はランディ・オートンがWWEのドラッグテストに引っかかったという。

テストの際にオートンのバックから「ペインキラー」を発見。ビンス・マクマホン及びWWE首脳陣はRVDとサブゥーの事件以降、全スーパースターズに対しペインキラーの使用・所持を警告したという。その矢先の事件だけに、オートンの罪は重いと言われている。

そのオートンは今年の「SUMMER SLAM」でハルク・ホーガンとの「レジェンドキラー戦」が予定されていた。オートンは先日謹慎が解けたばかりだったが、またしてもお騒がせをしてしまった。次から次へと押し寄せる問題にWWE首脳陣は怒り心頭！ Please. Don't try! それではアディオス！

—前回はポーゴさんの串焼屋におじゃましたので、そのアンサー企画として、ライバルの松永さんのお店におじゃましました。

松永 ポーゴさん、お店始めてきっとハードすぎてビックリしてると思いますよ。

—ポーゴさんに、「肉を焼く」先輩としてアドバイスはありますか？

松永 アドバイスというか、ポーゴさんにウチの店の「特製タレ」を伝授しようかなと（笑）。焼鳥って基本は甘いタレしかないから、逆にウチの特製ステーキたれも使えるんじゃないかなと。でもいまはそんなこと考えてる余裕はないくらい大変だと思うんです。あの歳から始めるのは辛いだろうし。これで自分の気持ちもわかったと思いますよ。

—（笑）。では、飲食業の一番辛いのはどんなところですか。

松永 休みが少ないし、拘束時間も長い。店も7時間は開けてて、その前に仕込み時間もあるわけですから。プロレスラーがわりと手軽に「第二の人生」ってやるけど、みんな苦労してると思うし、儲かってるところもそんなにないと思いますよ。

—でも、松永さんは9年間続けられて、「成功した」と言えるんじゃないですか。

松永 ただ、牛肉の輸入騒動があったんで。

—やっぱりダメージは大きかったですか。

松永 とんでもないことになりましたよ！ アメリカ産牛肉の輸入停止から二年半ですけど、今年の3月の時点までで焼肉屋が7000件、潰れたらしいですから。この近辺だけで、『○角』さんも3店舗なくなってますし。

—『○角』も潰れるなかで、サバイブされてましたか。

松永 まぁ、うちはうまく切り抜けたほうだと思いますね。肉の値段なんか一時期、3倍になりましたから！

—それは凄いですね。

松永 普通に考えたら商売やってけないです。お肉自体の需要と供給のバランスが崩れちゃったから、値段が高いわけですよ。そこを様々な方法で手に入れる、そういうやりくりは苦労しましたね（しみじみと）。

—それは大変でしたねえ。その状況を、松永さんはどうやって切り抜けたんですか。

松永 大きな商社が牛肉を仕入れるとき、売れ残りがセールに出るんです。それを根こそぎ買ったりして。とにかく肉屋の情報網を駆使してます。ただ買い溜めの資金が大変だし、買うタイミングの決断も難しい。「高いかな」って思っても、次にいつ肉が来るかわからないし。それに輸入解禁のニュースが何度も出回ってはなくなったり……。なんか株をやってるみたいすよ（笑）

—本当に、株売買の話みたいですね。

松永 じつは、また本を書いてるんですよ。お店の話のことも入った、衝撃の内容なんでぜひ、期待してもらいたいですね。

—あの名著『ミスター・デンジャープロレス危険地帯』に続く、第二弾が出版されますか！

松永 前作は吉田豪さんの『書評の星座』で珍しく褒められた本と言われましたから（笑）。今回はお店の話も出ますし、弁護士でも知らないような話も出てくる。出版社もプロレス本じゃなく「一般書籍として売りたい」って言ってるくらい、信じがたい内容ですから（ニヤリ）。

—それは期待してます！ あと、格闘技界やプロレス界もいろんなことが起きてますが、そんな中で、曙評論家の松永さんには、最近の曙選手のことも聞いてみたいなと。

松永 曙さんですか。やっぱり「本番に弱いタイプ」っていうのは、難しいですよね。

牛肉の輸入騒動で危機一髪!?
Mr.デンジャーのサバイブ術とは？

見てみぃ！　この顔、この肉塊！　プロレスラー松永は7月24日にはWWS、伊勢崎市民第2体育館にてポーゴとタッグ結成！　葛西純、Naoya組とサソリマッチで激突！

これが腹ペコくんも大満足にさせる圧倒的なボリュームのデンジャーステーキだ！　ライスにスープとサラダがついたセットは2000円！　ステーキの味つけは「ポーゴさんにも伝授予定」の4種類のデンジャー特製タレ（写真右上）でキマリ！

—ああ、曙さんは本番に弱いですか。

松永 相撲時代もファンで観てましたけど、「練習でやったことを試合でできない」典型的なハートが弱いタイプ。大相撲時代も「15戦全勝優勝」が一回もない人ですからね。それが現役時代の目標だったんですけど、最後まで一回もなかったですから。

—気持ちの問題なんでしょうかね。

松永 前田さんも使いづらいでしょう。あと身体能力が下がってますから。いま相撲やったとしても、幕下に勝てないくらいのレベル。三段目くらいのレベルなんじゃないんですか。もう、曙さんに関しては語ることもなくなってきましたね……。

—そうですかぁ。あと、松永さんはホームページ上では未発表デスマッチのアイデアをたくさんあげてましたよね。

松永 もうデスマッチも完全に転換期、発想を変えないとダメでしょう。大日本プロレスも「蛍光灯の連発」って感じだし。だから、これは前も言ったけど、総合の試合でマットに画鋲を撒いたりね（笑）。

—それは観たいですね～（笑）。

松永 じつはZERO1・MAXの中村さんを通してハッスルに企画を送ったんですよ。あそこはマーク・コールマンもいますから。そういう奇抜な発想が必要ですよ。まあ、デスマッチは自分がネタをやり尽くしちゃった部分もありますけどね（笑）。あと最近考えたのは、凶器が「音」であるとか。

—凶器が音！ もう物質じゃないと。

松永 ええ。何かにぶつかると、黒板を引っ掻くようなイヤな音が大音量でブワーッ！ と流れたり。360度スピーカーの部屋を用意したり……つまり聴覚を破壊するわけですよ（笑）。

—聴覚破壊デスマッチ！ それは怖い！

松永 人間が「絶対に聞くに堪えない音」ってありますからね。これは二日くらい前に考えたんです（笑）。

—素晴らしいアイデアです。

松永 フフフ。じゃ、ここらでウチのステーキを食べてください（と厨房に戻る）。

—ありがとうございます。

松永 （数分後、再び厨房から顔を出して）いま、思いついたんですけど、第六感をポイントにした、心霊デスマッチってどうですかね？

—し、心霊デスマッチ！

松永 ええ、東京近郊の心霊スポットとか自殺の名所に特設リングを組んで、そこで深夜に試合をするんですよ（ニヤリ）

—それは、別の意味で怖すぎますよ！

松永 そのくらい突飛なものじゃなければダメでしょう！ どうかなあ、バスツアーで、試合終了後は除霊サービスつきで（笑）。

—参加するのは怖いですけど、松永さんの発想は最高です！ 今日はどうもありがとうございました。

イラスト◎中川画伯

第7回 めざせ、夏のボーナス！

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

4月にパンクラスに出場して以来、4カ月ぶりの試合がよ～やく決まったよ。8月15日に後楽園ホールで開催される、エンセン（井上）のプロデュース格闘技イベント『心～kill or be killed』に出場することになったんだけど、終戦記念日に開催して大会名が『心』というのは、凄いというか、エンセンらしいよね。

エンセンとは昔からの友だちだから出場を決めたんだけど、最初は今年の春ぐらいかな、エンセンが「8月にワタシのプロデュースする総合格闘技のイベントやるヨ。ワタシがやるからには、〝心〟のある選手だけ集めたい。金原は心ある試合するから、ぜひ出てほしいヨ」って言われてたんだよ。でも、その話が来たときはさ、パンクラスのヘビー級トーナメントに出場が決まってたからさ、「俺はトーナメントで勝ち上がっていくんで、8月はちょうど決勝戦もあるし、難しいと思うよ」とか言ってたんだよ。まぁ、結果的には全然そんなふうにはならなくて、ヒマになっちゃったんだけどね（苦笑）。だから、逆に「心ある試合しますんで、8月15日、こちらこそよろしくお願いします」って出場OKしちゃったよ（笑）。

でもさ、こういうときに限ってオファーが重なるんだよね。海外からのオファーもあったりしてさ。こうやって重ならないで、コンスタントにオファーが来れば、金原家の家計も安定するんだけどな～（笑）。

いまさ、海外でもいっぱい総合格闘技の大会があるんだよね。日本は『PRIDE』とK－1が二大メジャーで、中ぐらいの規模の大会が少なくなってるけど、海外はそのくらいのイベントがたくさんあるんだよね。このあいだもアンソニー（〝辰治〟ネツラー）のセコンドでグアムに行ってきたんだけど、4000人ぐらい入って、ちゃんとした興行やってたからね。海外ではけっこう「カネハラを使いたい」っていうプロモーションも多いみたいなんで、これからは海外でも積極的に試合していこうと思うよ。海外での試合はリングス時代、嫌というほどやったからさ、「もう海外の試合は嫌だ」と思ってたんだけど、生活のためにはそうも言ってられないからね（笑）。

まずは、8・15『心』で、心のあるいい試合しないとね。エンセンが「心ある試合した選手には、特別ボーナスいっぱい出すから！」って言ってたからさ、俄然燃えてきたんだけど。その代わり〝基本給〟であるファイトマネーが第一試合もメインもほぼ一律っていうカラクリがあるんだよ（笑）。逆に言えば、心ある試合しないと、基本給のみで闘うためになるから、キツいよね。

でさ、エンセンの言う「心のある試合」って要はボコボコに殴り合うことなんだよ。これってしんどいよね～。相手はスティーブ・バーンズっていうアメリカの選手らしいんだけど、まぁ、誰が相手でも殴り合わなきゃいけないんだから、誰でもいいよ（笑）。なんとか心を見せて、夏のボーナスをゲット！　これが俺の目標です。

もしボーナスがもらえなかったら、生活が大変ですよ。まだ俺、今年2試合目だからね。このままじゃ確定申告が怖いよ～（苦笑）。

とにかく、8月15日は、心を見せてがんばります！　あと〝MVP賞〟も出るみたいなんで、それも狙います！

PUREBRED主催興行/
エンセン井上プロデュース
心～Kill or be Killed～
後楽園ホール8月15日(火)開始18:30

［対戦カード］
金原弘光 vs スティーブ・バーンズ
ジェイソン信長 vs セルゲイ・シュメトフ
ISE vs ジャダンバ・ナラントンガラグ
ハービー vs 矢作尚紀

［チケット料金］
RS席10,000円　SS席8,000円
S席6,000円　A席5,000円
※当日券は各席500円増し。

［問い合わせ］
ピュアブレッド大宮
TEL048－686－3328

第3回 S.W.S.が全日本キックで復活!? の巻

1990年に旗揚げされ、豊富な資金をもとに既存の団体から選手を引き抜いてプロレス界に激震を引き起こした「SWS（メガネスーパー・ワールド・スポーツ）」。そのSWSが、この夏なぜか後楽園で復活する……？

よくよく見たらこれは全日本キックボクシング後楽園の8月大会名。さらに、その意味も「スーパー・ウェルター・ストラッグル」と、メガネはどうやら関係ない様子。全日本キック興行部長の宮田充氏に話をうかがってみると「今回のテーマは〝裏MAX〟なんです！」という言葉が。S.W.S.で裏MAX？　豊富な資金をもとにK－1から選手を引き抜いて〝金権キックボクシング〟を展開するとか、そういうことなのだろうか？

「いや、ズバリ言ってうちの団体にそんな金はねぇですから（笑）。今回の裏MAXっていうのは、6月30日の『K－1MAX』をボクも会場で観させていただいたんですけど、非常におもしろかったんですよね。あのルールで、あのメンバーを集めて、どういうものを見せるべきかっていうのを選手にわからせてる。……で、そういう大会を観ると、どうも裏を行きたくなるんですよね。〝MAXに出るにふさわしくないやつ〟出てこい！って感じで」。

同じ70kg級でも、こっちの70kg級はヒジ、ヒザ、首相撲ありのカラッと激しいキックボクシング。「MAXに出るにふさわしくない」という、不名誉にも聞こえるその称号に最もピッタリな男が今回、全日本キック初参戦を果たす。ニュージャパンキックボクシング（以下NJKF）所属の石黒竜也だ。リング上で素っ裸になろうとしたり、試合中勝とうとするあまり噛みついたりという奇行をやりつつミャンマー・ラウェイにも参戦。つい先日のNJKF有明大会では、小比類巻貴之に背を向けさせたあのガオランを1RでKOするという快挙も成し遂げてしまった。

「ボクはずっとうちの団体に出てきてほしかったんですよ。でも、周りの人は『やめろ』とか言うんですよね～。NJKFさんにもずっと『恥ずかしくて出せない』とか言われてて。こっちが出てほしいって頼んでるのに（笑）。谷川プロデューサーにはいちおう『裏MAXをやらせてほしい』って連絡しました。そしたら『宮田くんらしいねぇ～、どんどんやってくださ～い』だって（笑）。お忙しいでしょうけど、当日はぜひ会場に来てほしいですね。谷川さんのおメガネにかなう大会になるかどうか」。ドロー裁定時に坂本龍一の『カクトウギのテーマ』（※全日本プロレスの引き分け時に流れるテーマ）」が流れたり、大会後の音楽も『マシンガン』だったりと、ごくごく一部のプロレスファンに響く演出がなされたりもする全日本キック。今回も『S.W.S.』なだけに怪獣をロゴマークに使用することは決定済み！　あとは本家「SWS」から取材拒否を通告された男・ターザン山本！氏が、会場に訪れるのかどうかが気になるところである。

～Super Welter Struggle～
S.W.S.
All Japan Kickboxing 2006

こちらが大会のために作成されたロゴ。やはりSWSといえば恐竜！　文中でたっぷり紹介した『S.W.S.』は8月27日（日）後楽園ホール、18時30分試合開始！（問／全日本キック 03－3365－1171）

イラスト◎ゴローちゃん

出産させてよ！　というわけで、前回に引き続き、今回もジャガー横田&木下さんのアツアツ夫婦がゲスト。見かけによらず武闘派な木下さんを、ジャガーさんが実力で制圧する、ハードコアすぎな夫婦関係の全貌がいま、明らかに！

掟　結婚当初は夫婦ゲンカで木下さんのアゴが外れたりしたそうですけど、妊娠中のいまはさすがにケンカしませんよね。

ジャガー　やるときゃやりますよ！　いまはスネを狙って、ゴーンとやるくらいですけどね。

掟　骨折しない程度にと……。基本的に木下さんは手をあげないんですか？

ジャガー　あげさせないですよ！　でも何度か試みたことはあるよね？

木下　（真剣な表情で）いや、ホントに強いんですよね～。

掟　ガハハハ！　それはよく知ってます（笑）。

ジャガー　この人、中学校レベルですけど、柔道初段ですよ。ワタシに一本背負いやろうとしましたから。

掟　えっ、なにげに段持ちじゃないですか！

木下　そうなんですよ。付き合い始めの頃は「プロレスっていっても、所詮は女だろ」って思ってたんですね。柔道で寝技には自信がありましたし。それで一度、手合わせをやってみたんですよ。

掟　極めっこみたいな感じですかね。

木下　でも、あっという間に押さえられるし、全然動けない。首をクイクイって「折れるんじゃないか？」ってぐらい紋めるんですよ。ギブアップしてるのに！

ジャガー　フフフフフ。まぁ、最初が肝心ですからね。

掟　二度と刃向かわないよう恐怖感を植えつけておくと（笑）。木下さんは、やっぱり昔から勉強は得意でした？

木下　勉強は好きでしたですね～。いまも好きですけど。

掟　じゃあ、ジャガーさんが「プロレスを愛してる」のと同じように「勉強を愛してる」と。

木下　（ハッと気づいて）あ、ホントにそういう感じですね！

ジャガー　いやいや、でもこの人は中途半端ですよ。ワタシみたいにトップに立てばいいけどさ。

掟　でも、医師としてはトップですよね？

ジャガー　トップじゃないよ！　まだまだ上はいますから。

木下　でもアナタね、勉強というのはトップにならなくても自分のためになるようにするのであって……

第9回
ジャガー横田&木下博勝
ジャガー横田夫妻の巻
◆後編◆

じゃがーよこた■1961年東京都荒川区出身。日本を代表する、現役最古参女子レスラー選手。159cmと小柄ながら、鬼気迫るファイトで活躍。04年7月、医師の木下博勝氏と結婚。この5月には妊娠が発覚。本名は木下利美。
きのしたひろかつ■リングドクターのエリート外科医。ジャガー横田と結婚後は、ジャガーと好対照の気弱な旦那キャラが受けて、お茶の間の人気者に

ジャガー　（さえぎって）最近なんか、中国語とかヒンズー語とか勉強したりしてますから！

掟　なんのために突然、語学を？

木下　いまの中国の台頭を目の当たりにして、中国語を話せたほうが、日本との関係も良好になるんじゃないか？　と思ってですね。

掟　国を代表して、中国語を勉強していただいてると（笑）。

木下　それからヒンズー語ね。これは話せば長いんですけど……。

ジャガー　（さえぎって）それは今度、飲みに行ったときにでも聞けば？

掟　ガハハハハ！　せっかくインタビューに来たんだから、いま聞かせてくださいよ！

ジャガー　どうせ意味わかんないよ！　時間の無駄！

掟　いやいやジャガーさん、我々は木下さんのお話にもかなり興味が……。

ジャガー　（またまたさえぎって）「ジャガーのどこが良くて結婚したのか」って聞きたいんでしょ！（取材陣を見渡して）こういう人たちはアタシみたいなの大ッ嫌いなのよ！

掟　そんなことないですよ！　ホントに嫌いなら取材に来ませんし（笑）。

ジャガー　私はプロレスマスコミに愛の目で見られたことないんだから！

掟　あまり愛の目で見ても木下さんが嫉妬しますよ（笑）。では、せっかく振りがあったので……ジャガーさんのどこが好きなんですか？

木下　最初に「いいな」と思ったのは、後輩に対する思いを聞いたときなんですよね。「みんなチャンピオンを目指して入ってくるハズなのに、実際は数人しかなれない。ほとんどが挫折してゆく」という話で、「そんな後輩にもプロレスをやって良かったな、と思うように接してる」と聞いて、「怖い目をしてても、本当は優しい人なんだ」と思って……。それで結婚を決めたんです！

掟　「優しい人＝だから結婚」って、あいだを飛ばしすぎでわかりませんよ！

木下　いや、自分の奥さんにはこういう人じゃないと無理だなと思ったんですね。

掟　もともと木下さんの好みのタイプは？

木下　キツイ顔ですね。いや、といっても「顔がキツイ」のがいいだけで、性格は優しいのが好きです。

ジャガー　いままで付き合った人と殴り合いはないの？

木下　ないよ、そんなの～！

掟　ジャガーさんはいままで付き合っていた人のタイプって、木下さんみたいな感じの人ですか？

ジャガー　全然好みじゃないですよ！　ワタシのタイプは真田広之さん。ああいう顔でスポーツ万能でね。

木下　（不満そうに）よく僕の前で昔の男の話ができるね。

掟　タイプの話をしてるだけですよ（笑）。

ジャガー　いや～、この人も凄いやきもち焼きなんです。

木下　そうじゃないよ！　聞いてもいないのに、ベラベラしゃべるからさ。

ジャガー　聞かなきゃいいじゃんよ！　過去があって40過ぎてるんだからさぁ！

掟　過去にはそういうこともあったと。

ジャガー　惚れ込んで惚れ込んで、というのは少ないかも。女は惚れられてナンボですから。この人は誠意と純粋さと素直さがあるんですよ。そういうところをいいなと思って。「こういう人のほうが幸せになるのかな？」と思って、いまがある感じですね。

掟　12月出産予定ですが、もしかして産後にすぐ復帰を？

ジャガー　来年の3月には30周年興行をやろうと思ってますから。12月は無理ですけど、休む時間が長いとそのぶん復帰が大変になるから、なるべく早いほうがいい。

掟　しかしキツイ顔好きの木下さんとしては、ジャガーさんの目はそのままお子さんに受け継がれてほしいですよね。

ジャガー　睨みながら出てきちゃったりしてね（笑）

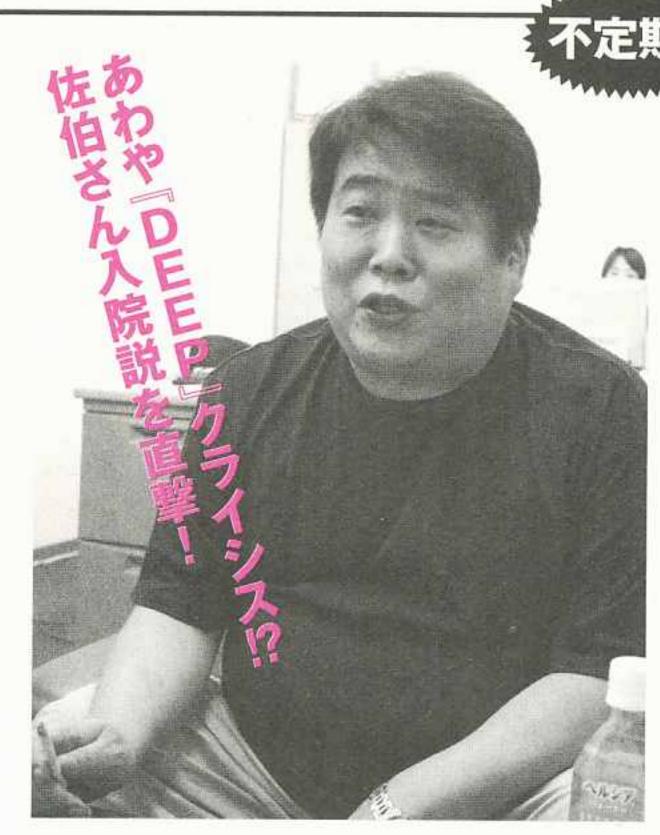
掟　ガハハハ！　睨みをきかした乳児・ジャガージュニアの誕生を期待してます！

『人生、何が起こるかわからない』ジャガー横田（イーストプレス）

さらにジャガー夫妻のラブラブぶりを知りたい人のテキストとして最適なのが、ジャガー渾身の自叙伝。幼少から女子プロ現役時代、「三禁」話に前カレとの恋愛、絶望の果てのリストカットから、木下氏との結婚までを完全告白。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
掟ポルシェ■8/27（日）札幌　ホール・スピリチュアルラウンジでロマンポルシェ。ライブ『ハートフル体罰'06』やります。チケットはローソンとかなんかいろんなところで地味に発売中。その他の出演情報は掟ブログを参照！　[http://blog.excite.co.jp/porsche]

不定期!!

あわや『DEEP』クライシス!? 佐伯さん入院説を直撃!

『DEEP』INFORMATION CORNER

佐伯繁の部屋

「食うときは食う!」が信条の『PRIDE』広報&『DEEP』代表の我らが佐伯さんが、糖尿病で緊急入院!? まさにフジテレビ騒動に続いて『DEEP』もクライシス寸前? な佐伯さんに真相を緊急直撃!

聞き手/ジャン斉藤

―佐伯さん!! 今日の『club DEEP』は消防法の限界に迫る大入りでしたね。

佐伯 ウシシシシ。……ていうか、今日ぐらいの入りでやっとトントンなんだよねぇ(しみじみと)。

―う〜ん。一部&二部構成で24試合もあって、『DEEP』本戦に出場してもおかしくない選手が何人も出てましたしね。

佐伯 使いたい選手がいっぱいいるから。8月4日は後楽園で本戦でしょ? 8月12日に白馬のスキー場で『club DEEP』やるでしょ? それにアマチュアだけの大会もやるからね!!(鼻息荒く)。

―そんな好調『DEEP』に、〝フジテレビ騒動〟ばりのクライシスが迫ってるという噂が流れてるんですよ。

佐伯 はん? いつだって大ピンチだよ!!

―いや、佐伯さんが糖尿病の体調不良により長期入院するって聞いたんです。

佐伯 いや、入院はなくなりました。

―あ、なくなったんですか。

佐伯 入院しない代わりに週一回、神奈川まで通院しなきゃならないんだけどさあ。

7月8日に開催された『club DEEP 東京』は新宿FACEが934人、パンパンの超満員札止め! メインは『PRIDE武士道』出場経験ある大場貴弘が大堀竜二に2RTKO勝ち。セミは柔術ファイター、モンテイロがアンクルホールドでアベアニからタップ奪取!

―『武士道』もあるし、この時期に佐伯さんが入院なんかしたら、ゾッとしますけど。

佐伯 でもさ、週一回の通院ってけっこう大変だよ。だったら一週間ぐらい入院しようかなってね。じつは今週の月曜から一週間ぐらいの検査入院を覚悟してたんですよ。

―でも通院を選んだ、と。

佐伯 それにインシュリンをもう打ち始めましたから。今日も打ってきたよ。

―大変な状態で動かれてるんですねぇ。

佐伯 でも、インシュリンやりだしてからは調子がいいよ。もう3週間ぐらい食事制限してるし、身体もよくなってきてる。ただ、食べたいもの食べられないというのはけっこう大変だよなぁ……(遠い目で)。

―健康のためにガマンガマン(笑)。というわけで、佐伯さんの入院話がデマで安心しました。今日はありがとうございました!

佐伯 ちょ、ちょ、そんなんでインタビュー終わり? 興行の宣伝もさせてよ! チケット売れないとヤバイんだからさ。

―でも、チケットは売れてるんですよね。

佐伯 ただ、正直言ってお金はかかってるからさぁ。今回のメンツも凄いから!

―今回もいいカードが揃ってますよね。

佐伯 まだ発表できないけど、今成(正和)の相手を聞いたら、ちょっと驚くと思うよ。

―楽しみにしてます! あと目玉は、しなしさとこvs渡辺久江になるんですか?

佐伯 目玉というかさぁ……ときどき見たくない試合ってあるんですよ。

―見たくない試合ですか?(笑)。

佐伯 ほら、結果が出てほしくない試合っていうの? ボクらから見てもそうだけど、勝ち負けによってこの先どうなるんだろう?って、今後の絡みが変わってくる試合ってあるじゃないですか?

―要は今後の重要なポイントになる試合ってことですね。

佐伯 そういう試合なんだよなぁ。(急に小声になって)じつは、今回は組みたくなかったんですよ。大きな声じゃ言えないけど。

―大きな声じゃなくても、誌面になれば津々浦々まで伝わります(笑)。

佐伯 (無視して)2月の頃に勢いで「7月ぐらいに」って言っちゃったから、性格的に二人とも「いや、7月は……」って言えないじゃないですか。だからやっぱりこうなっちゃったって感じだなぁ。

―なんて他人事なんですか!(笑)。

佐伯 もう言っちゃった手前があったんで。ホントは時期的に9月とか10月のほうがおもしろいのかなって感じはしたんですよ。だから余計にドキドキ緊張するし、もの凄く楽しみだよね。うん! そんなカードに加えて桜井隆多の復帰戦もあるし、中尾受太郎vs窪田幸生もあるし、長谷川秀彦vs雷暗暴が下のほうでやるんだからね。後楽園じゃ、ある意味もったいないんだよ! 日本vsブラジル対抗戦にあのホアン・ジュカオン・カルネイロが来ちゃったりね。そこに今成も出て。

―メインで桜井隆多と闘うプロフェッサーXも、かなり強そうですし。

佐伯 みんなさ、名前を聞いたときは「はあ?」って首を傾げたでしょ?

―傾げましたね!

佐伯 隆多の復帰戦だからって、イロモノ連れて来たと思ったでしょ?

―イロモノだと思いましたね!

佐伯 でも、実際ヤバいんだから!

―たしかにヤバイそうですね!

佐伯 こないだもキム・フンというけっこう強い韓国人がビビっちゃってさ、あっという間に病院送りにされたんだから。

―まず名前を変えたほうがいいですね(笑)。

佐伯 正直言って、隆多は危ないし、試練だよね。誰も知らなくて強いフランス人に勝って、メインを締めないといけないんだから。どうなるんだろうねぇ。でも、これは壮絶な殴り合いになるから、絶対におもしろくなるよ。

―盛り上がり間違いなし! と。血糖値の心配をしつつ、楽しみにしてます!

さえき・しげる■1964年富山県生まれ。人気風俗誌を発行する実業家から、徐々に格闘技の世界に関わり、01年に『DEEP』を立ち上げ、代表就任。現在は『PRIDE』の広報も兼任。その巨体から百十kgの王の異名をとるも、絶賛食事制限中。

『DEEP 25 IMPACT』

東京・後楽園ホール
8月4日(土)開始18:30(開場17:30)

ついに実現、女のタイマン勝負!
サンボ姫と格闘ジャンヌ・ダルクが激突!!

[対戦カード]
桜井隆多(R-BLOOD)vs プロフェッサーX(TEAM Boon!)
【DEEP女子初代ライト級王者決定戦】
しなしさとこ(フリー)vs渡辺久江(フリー)
長谷川秀彦(SKアブソリュート)vs雷暗暴(雷道場)
中尾受太郎(フリー)vs窪田幸生(フリー)
山崎剛(GARABAKA)vs 杉内勇(TEAM-ROKEN)
アンソニー辰治ネツラー(TEAM Boon!) vsマッスルヒラヌマ(club EDO)
【日本vsブラジル3対3】
石井大輔(フリー)vs ホアン・ジュカオン・カルネイロ(BTT)
今成正和(Team-ROKEN)vsX
横田一則(GRABAKA)vsXX

[チケット料金]
VIP(最前列) 15,000円
指定A 8,000円/指定B 6,000円/指定C 5,000円
※当日は500円増し。

[問い合わせ]
DEEP事務局 052-339-0303

悩める“逆境ファイター”直撃！
どうしたらいいんですかねっ？
昨年、『HERO'S』に出場し、大ブレイク。一躍、格闘技界のトップスターとなった“世界の所さん”。風呂なしアパートに住み、清掃のアルバイトをしながらの“逆境ファイター”が先日、ついにワンルームマンションに引っ越しをはたした！　しかし、試合では今年に入って、なかなか結果が出ないのも事実。背水の陣となる8.5『HERO'S』を前にした所さんを直撃した！
聞き手&撮影／堀江ガンツ
design by さおとめの事務所
8.5『HERO'S 2006』に出場決定!
風呂つきワンルームマンションに引っ越し完了!!
所 英男
HIDEO TOKORO

所　すいません、負けてる人間の取材に来ていただいて。

――どうしたんですか。やっぱり『HERO'S』のトーナメントで一回戦敗退して以来、取材は減ってます？

所　かなり少なくなりましたね（苦笑）。

――あ、そんなに減っちゃった（笑）。

所　あんな毎日のように入ってたのに、いまは月に数本なので、去年とは逆の意味でマスコミの洗礼を受けてます（笑）。

――でも、先日は風呂つきマンションに引っ越したというだけで会見が開かれたんで、さすが"世界の"所英男だな、と思いましたよ（笑）。

所　いや、本当に申し訳なかったですよ、あれは（笑）。

――なぜか、GAORAでZSTの定期放映を開始する会見と所英男のお引っ越し発表会見が同時に行なわれたという異例の事態だったわけですけども。GAORAへの質問よりも、所さんのお引っ越しの話題に質問が集中したという（笑）。

所　いやあ、GAORAのスタッフの方も困ってましたよね（苦笑）。僕の引っ越しなんかのために、せっかくの会見が……。

――というわけで、今日はさらに引っ越しの詳しい内容についてうかがいたいんですが、そもそも、今回はどういう理由で引っ越しを決意したんですか？

所　もう、一番はタイミングですよね！

――あ、それだけですか（笑）。

所　はい。というか、じつは自分がよく通ってるコンビニに、凄くよくしてくれるおばちゃんがいるんですよ。賞味期限切れた弁当だとか、「ニンニクの力」みたいなのとか、いろいろ分けてくれる方がいて。

――また、妙な人脈を持ってますねえ。

所　で、その人がじつは不動産関係の仕事もしてる人だったみたいで、引っ越しの話とかをしてたら、ちょうど「もしよかったら、ウチの物件に入らない？」って言ってくれて。

――それで、そのままなだれ込んだ、と。

所　でも、自分でもいろいろ探そうとは思ってたんですよ。……けど、その方にはいろいろお世話になってたし、もう、このままお世話になっちゃおうかなと思って。で、甘えた感じになりました。

――これからもごはんがもらえるかもしれないし、この付き合いは続けておいたほうがいい、という判断で決心したんですね。

所　はい。

――「はい」って（笑）。新居はどんな間取りなんですか？

所　普通のワンルームですね。で、玄関開けたら洗濯機置き場があって、こっちに風呂……というか、ユニットバスですか。それからドアを開けると、そこにワンルームがあって、その中にキッチンがあるという感じです。

――部屋の中にキッチンがあるんですか？

所　そうです。だから、臭いがこもるかなと思って空気清浄機も買ったんですよ（胸を張って）。

――おっ！　ちょっとリッチっぽい買い物じゃないですか。

所　これがマイナスイオンでキレイになるんですよ!!

風呂つきの部屋に引っ越したんですけど お風呂沸かすのがけっこう面倒なんですよ

――ダハハハ！　マイナスイオン（笑）。それにしても、所選手は非常に地道にステップアップしてますよね。

所　そうですかねえ。

――テレビ的に言うと、風呂なしアパートから一気に高級マンションとかに引っ越すっていう絵がほしいところですけど、所選手の場合、風呂なしからワンルームという、非常に小ステップというか（笑）。

所　まあでも「一番上に住む」という目標を立てて頑張ろうかなと思ってるんで！

――おっ！　それは立派な目標ですねえ。

所　僕、前のアパートでは、二階建ての二階に住んでたんですよ。だから、今回も4階建ての4階ということで、一応ジンクスは守れてるかな、って。

――一番上ってそういう意味ですか！（笑）。決して、値段の話ではなく。

所　はい（キッパリ）。だから、自分の中では目標も達成できてるし、非常に満足はしてます。

――それはなによりです。でも、風呂があるといっても、ユニットバスなんですね。いまは大学生でも風呂とトイレは別がいいという人が多いと思うんですけど。

所　贅沢ですよねえ。ま、自分の場合はとりあえずシャワーが浴びれればいいかなって感じで、あんまり深く考えずに決めましたけど。

――湯船には浸かってないんですか？

所　まだ浸かってないですねえ。

――それじゃ、前の生活とあんまり変わってないじゃないですか!!（笑）。

所　だって、けっこう面倒くさいんですよ、風呂沸かすの。でも、シャワーがあるだけでだいぶ違いますけどね。やっぱシャワーがあると、走りに行くときもためらわずにいけますし。

昨年の大ブレイクから一転 所英男 2006年上半期 苦闘の軌跡

3.15『HERO'S』日本武道館

○vs 池田祥規（1R0分49秒、三角絞め）

所さんがなんと武道館のメインに登場！　相手は極真会館の猛者・池田。開始早々、強烈な右ローキックを食らうも、落ち着いてグランドに移行し、三角絞めで49秒殺。

2.28 ZST.9　ディファ有明

×vsエリカス・ペトライティス（2R4分3秒 KO）

過去2戦2勝しているエリカスと、なぜか3度目の対戦。しかし、所はスタミナ切れを起こしコーナー際でパンチの連打を叩き込まれ、まさかのKO負け。前田日明も厳しい言葉を並べた。

―それは素晴らしいですね。近所でロードワークしてシャワーを浴びることもできると。ちなみに、いままではどうしてたんですか？

所　いままでは本当に走んなきゃヤバイなと思ったときしか走らなかったです。

―ダハハ！　格闘技界のスターがそんなんで大丈夫なんですか（笑）。

所　でも、いまはフラフラっと出ていって、チョコチョコっと走って帰ってくるという感じなんで、凄い健康的というか、いいですよね。なんだか、アスリートって感じがします。

―いまさら何を言いだすんですか、この男は（笑）。じゃあ、引っ越して一番よかったことは、やっぱりシャワーだった、と？

所　あとは100メートルぐらい駅が近くなったぐらいですか。

―小さい幸せですねえ。

©ZST

上の写真が引っ越したばかりの所さんの新居。以前、住んでいた風呂なしアパート（写真・下）に比べると、住んでいる所英男自身のイメージも変わるほどの違いだ。

HIDEO TOKORO

所　あ、でも、じつは引っ越しして3日目ぐらいにけっこう大変なことがあったんですよね。

―なんですか？　大変なことって。

所　僕、いま4階に住んでるんですけど、間違えて3階のドアのカギを開けようとしてしまったんですよ。ガチャガチャって、けっこう執拗に。僕、自分の部屋だと思い込んでたから、ぜんっぜん開かないのがいい加減頭にきたんで、ドアをちょっと蹴飛ばしちゃったんですよね！

―そこまでやってしまいましたか（笑）。

所　でも、そしたら、知らない人が中から出てきて、「なんすか？」って。それだけでもヤバいのに、それが夜中の12時だったんですよね。しかも、それが自分ちの真下の人との初対面で。凄く気まずい感じになりました。

―っていうか、そもそもなんで間違ったんですか⁉

所　いや～、その日疲れてたんですかねえ。自分の中では、すっかり4階に上がった気になってたんですけど。

―ちなみに、その方は恐い方だったりとかは？

所　いやいや。眼鏡をかけた普通の人でした。それだから助かったんですよね。本当に恐い人じゃなくてよかったっていうか。前田（日明）さんみたいな人じゃなくてよかったなって……（しみじみ）。

―ダハハ！　前田さんだと一生気を遣って生活しないといけませんね。それこそ物音一つも立てられないというか（笑）。

所　それだったら、また元の場所に引っ越します（冷静に）。

―ちなみに、僕も以前、所選手のお宅訪問企画で前のアパートにうかがいましたけども、あそこに男が4年も住んでると、持ち物もかなり増えたんじゃないですか？

所　相当、ありましたよ！　でも、僕、ゴミ屋さんと仲良くなったっていうか、たまたま知ってる人が取りにきたりしてくれたんで、それでちょっと格安で捨てられたりとかしましたね、おかげさまで。

―また、素晴らしい人脈ですねえ。いらないものってやっぱりメチャクチャあったんじゃないですか？

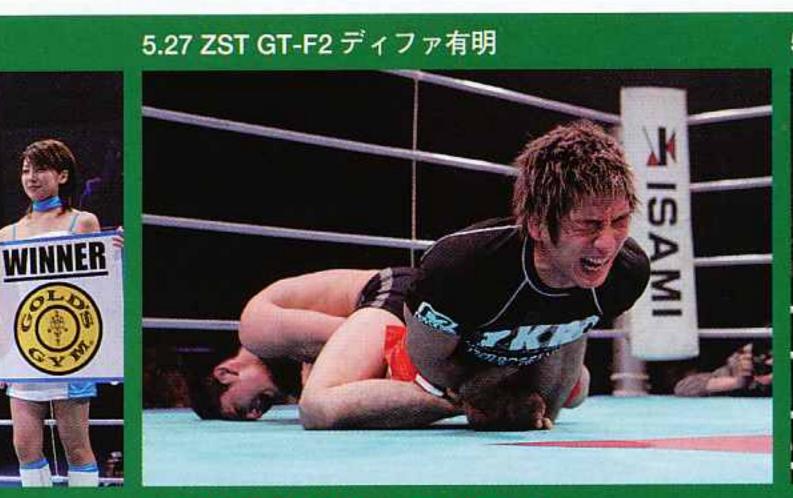
所　本当、多かったですね。腹筋マシンとか……。

―腹筋マシンですか！　だいたいあの部屋の散らかりようじゃ、腹筋できるスペースないじゃないですか（笑）。

所　あとはやっぱりビデオとかが多かったですね。

―"所英男DVDコレクション"のほうは処分したんですか？（笑）。

5.27 ZST GT-F2 ディファ有明

×vs勝村周一朗（1R4分55秒、三角絞め）

普段も一緒に練習する二人ということで、注目度は高かった。勝村をロープへ押し込む攻勢を見せた所だったが、勝村の三角締めにプチ失神！『GT-F』、2連覇ならず。

5.27 ZST GT-F2 ディファ有明

○vs今泉堅太郎（2R終了 判定勝ち）

ZSTの第2回フェザー級グラップリングトーナメント『GT-F 2』に前回覇者として出場。一回戦はサンビスト今泉に果敢に腕十字やフロントスリーパーを狙い、判定勝利。

5.3『HERO'S』代々木第一体育館

×ブラックマンバ（1R0分43秒、TKO）

『HERO'Sミドル級トーナメント』一回戦。距離を取り、グラウンドに持ち込みたい所だったが、タックルにいった瞬間、待っていたのはブラックマンバのヒザ。わずか43秒で脱落。

一回戦であんな負け方した僕が今度また『HERO'S』に出てもいいのかなって

所　あ、もうそこらへんは大事なものとして、ダンボールに入れてます。
――大事なものなんですか（笑）。
所　いらないものと大事なものをきちんと分けてダンボールに入れてました。で、いらないほうのダンボールは仲良くなったゴミ屋さんにプレゼントしました（笑）。
――どうぞご自由に再利用してくださいと（笑）。
所　本当は橋の下に捨てようかと考えたんですけどね。誰か偶然拾った青少年に夢を与えようと思って（笑）。
――どんな夢ですか！（笑）。で、ずっと気になってたんですけど、あの素敵な色をした布団は買い替えたんですか？
所　いや、とりあえず前の布団を使ってます。ホントはマットレスとか買いたいんですけど、布団とか枕って愛着があるんですよね。
――いろいろ思い出が詰まってますか（笑）。
所　思い出とかシミとか（笑）。
――どんな愛着ですか（笑）。じゃあ、次なる目標はマットレスということで。
所　はい。あとは、しばらくしっかり家賃を払うことを目標に頑張ります！
――はい、頑張ってください。というわけで、今日はこんな感じで……。
所　あっ！　あの～……、今日は試合の話はなくていいんですか？（弱気に）。
――試合？　なんか話すことありましたっけ？（とぼけながら）。
所　い、いやぁ、これといって……（小声で）。
――ダハハハ！　そういえば、8月の『HERO'S』出場があるとかないとか。
所　そうなんですよ！　一回戦であんな負け方した僕が出ていいのかなって（困り顔で）。
――まあ、本人としては複雑でしょうね。
所　どうしたらいいんですかね、こんなときって。『HERO'S』に出たい選手はたくさんいるのに、「なんで負けたあいつが」って思う人もたくさんいるだろうし。
――それも人気者の宿命ですよ。何を言われても開き直って、結果出すしかないんじゃないですか。
所　開き直って、『HERO'S』の歯車になって頑張るしかないですよね。いやー、でも今回また負けたら本当に「なんなんだ！」って感じですよね。はぁ～。
――結果が出てないときは、やっぱりマイナスに考えちゃいますよね。
所　とにかく、8月に結果を出すために来週から沖縄合宿に行こうと思ってるんですけどね。平仲さんのボクシングジムに。
――沖縄でボクシングのキャンプですか。それはいいですね！
所　平仲さんにコーチしていただけることもありがたいんですけど、とりあえずなんか気分を変えたいなって。あと、やっぱ砂浜とか走りたいなと。
――家の近所ばかりじゃなく、海辺を走りたいですか（笑）。
所　はい。ちょっと、いい空気を吸って、気分転換して戻ってきたら、また頑張れそうなんで。
――また、適当なことを（笑）。まあ、これを一つのチャンスと思って、勝ち上がってくださいよ。
所　はい。それで頑張ります！　今年はちょっと負けが込んでるんで、このへんで名誉挽回しとこうかなって。
――じゃあ、所英男の復活を心待ちにしております！

【7月7日／代々木八幡・『リバーサルジム』にて収録】

ところ・ひでお■1977年岐阜県揖斐郡出身。昨年、『HERO'S』に出場して大ブレイク。「今年は勝負の年！」と宣言していたが、ミドル級トーナメントではブラックマンバに秒殺負けを喫し見事1回戦負け。下半期の逆襲に期待。170cm、67kg。

8.5『HERO'S』ライトヘビー級
世界最強王者決定トーナメント出場決定！

"リトアニアの髙田延彦"ケスタティス・スミルノヴァスとは何者か？

KESTUTIS SMIRNOVAS
1976年4月8日、リトアニア出身。地元では"リトアニアの高田"の異名で大人気を誇るスター選手。リングスバルト三国王座、修斗欧州クルーザー級王座を獲得。日本ではZSTで"負けず嫌い王"としておなじみ実弟ミンダウガス・ミルルノヴァスのほうが有名だったりする。178cm、98kg。

8・5『HERO'S』ライトヘビー級トーナメント出場選手の中で、最もファンになじみの薄い存在がケスタティス・スミルノヴァスだろう。だが"リトアニアの高田"と呼ばれるこの男はまぎれもない強豪であり、『HERO'S』のトーナメントに参戦する充分な実力を持っていることは疑いようがない。

そもそも、なぜ"リトアニアの高田"なのか？ 90年代、リトアニアではUインターの試合が『BUSHIDO』の番組名で放送され、爆発的人気を博した。そのことがリトアニアにおける総合格闘技のスタート地点にある。Uインターのエースだった高田は、いわばリトアニアではプロ格闘技における象徴。そして、そんな偉大なる先駆者の名を冠するのがスミルノヴァスなのである。彼がリトアニアのファンにどれだけ愛されているかがわかろうというものだ。

もちろん、リング上での活躍がなければ、栄光に彩られたキャッチフレーズをいただけるわけもない。スミルノヴァスは90キロ以下級のリングス・バルト三国&リトアニア王者に認定され、のちには修斗の欧州クルーザー級タイトルも獲得。リトアニアの総合格闘技大会『BUSHIDO』には第一回大会から出場し続けている。リトアニアのファンが、スミルノヴァスの闘いにかつてテレビ画面で観たヒーロー"高田"の存在をダブらせただろうことは想像に難くない。2003年、編集部の堀江ガンツが初めてかの地を訪れ、リトアニア格闘技界の現状を取材した際にも、試合会場に来ていたファンの大半が「好きな選手はスミルノヴァス」と答えたという。

スミルノヴァスは、いわばリトアニア総合格闘技の開拓者である。日本では80キロ代の選手になかなかスポットライトが当たらなかったこともあって軽量級のレミギウス・モリカビュチスがリトアニアの代表選手として認識されている。だが、レミギウスが活躍するようになる以前からリトアニアの総合格闘技を支え、定着させる原動力となってきたのがスミルノヴァスなのである。

公式なファイト・レコードは16勝5敗（その中にはリングス時代、フルタイムの激闘の末わずか1ロストポイント差で敗れた横井宏考戦、1R55秒で圧勝した『THE BEST』のアングロサクソン大場戦も含まれる）。勝利のうち半分がサブミッションによる一本勝ちであり、とりわけ多いのが腕十字、アームロックによるフィニッシュである。

このあたりもUインター時代の高田を彷彿とさせるが、これは考えてみると奇妙なものでもある。リトアニアのファイターといえば、レミギウスを筆頭にパワフルな打撃が持ち味で、グラウンドに持ち込まれると分が悪いというイメージが強い。そんなリトアニアにあって、一人スミルノヴァスはグラウンドの、とりわけ極めの強さで結果を残してきたのだ。

"リトアニアの選手？ じゃあ寝かせれば簡単じゃん"という予測は、スミルノヴァスには通用しない。もちろん、リトアニア選手特有の破天荒なまでのパワーと、セオリーをあっさり崩壊させる体力も、彼の大きな武器。

そんな"リトアニアの高田"は、以前からかつての高田の愛弟子である桜庭和志との対戦を熱望してきた。今回のトーナメントはその絶好のチャンス。『kamipro』としても、この対戦はおおいに興味深い。

が、それは決して"（リトアニアの）高田VS桜庭が実現！"といった安直すぎる話題性によるものではない。もしスミルノヴァスVS桜庭が実現すれば、それはあくまで日本とリトアニアの総合格闘技界を引っ張ってきたスター同士の好勝負なのである。

（橋本宗洋）

ミドル&ライトヘビー級 世界最強王者決定トーナメント準々決勝

有明コロシアム
8月5日（土）16:00開始

［チケット料金］

席種	料金
SRS席	¥23,000
S席	¥13,000
KID 応援シート（S席特典つき）	¥13,000
秋山成勲応援シート（S席特典つき）	¥13,000
宇野薫応援シート（S席特典つき）	¥13,000
A席	¥ 6,000

出場予定選手

【ライトヘビー級世界最強王者決定トーナメント】
桜庭和志　ケスタティス・スミルノヴァス
秋山成勲　メルヴィン・マヌーフ
ホドリゴ・グレイシー　大山峻護
カーロス・ニュートン　他1名

【ミドル級世界最強王者決定トーナメント】
宇野薫
アイヴァン・メンジバー
J.Z.カルバン
ブラックマンバ
ハニ・ヤヒーラ　他3名

大注目の桜庭和志HERO'S初陣!!

8月26日、名古屋レインボーホール『PRIDE武士道 其の十二 ウェルター級GP』に再び出現か!?

今年の夏をさらに熱くするアフロヘアのニクいヤツ!

DJ GOZMA aka 郷野聡寛

6月4日、『PRIDE武士道　其の十一』の花道に衝撃的な登場を果たしたDJ GOZMAこと郷野聡寛。DJ OZMAの「アゲ♂アゲ♂EVERY☆騎士」に乗って、本家そっくりのダンスを披露して大歓声を浴びたのだ。PRIDE武士道のシリアスでストイックな世界観の中では異質にもほどがあるが、これは「ビッグマウス」「判定上等」というイメージが定着している郷野に大いなる変化が起こりつつある兆しなのだ。笑うだけでは見えてこない、郷野の本音をDJ GOZMAに聞いてみた。

聞き手／坂井ノブ　松澤チョロ　撮影／丸山剛史　試合写真／乾晋也
designed by bun-chan (Two Three)

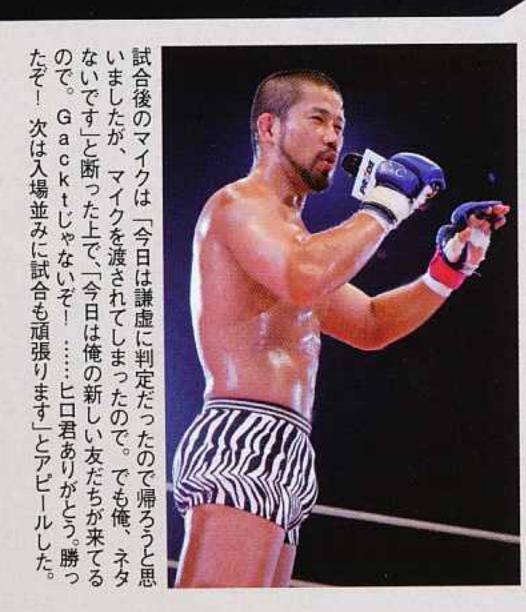
——DJ GOZMAとして取材を受けるのは今日が初ですか？
GOZMA そうですね。そんな取材してくれるのは『kami pro』ぐらいですよ。ほかのどの雑誌がするっていうんですか？
——まあ、たしかに格闘技専門誌には敷居が高いですよね（笑）。評判はどうでしたか？
GOZMA 女の子ウケが良かったかな。
——それは最高ですね（笑）。今日も衣装がばっちり決まってますよ。
GOZMA 全部自前ですよ。「郷野様」って領収書を切って（笑）。
——オーダーメイドですか？
GOZMA これをやろうって決めたのがギリギリのタイミングだったんで、オーダーメイドの店に行ったら「間に合いません」って言われて。「試合前に何やってるんだろうな？」って思いながら、身体に合うサイズを探して東京中をかけずり回りました……でも、そんな俺が好き。
——アハハハハ！ ダンスもバッチリ息が合ってました。GRABAKA勢の見事なチームワークでしたね。
GOZMA まあね。でも、ダンサーを務めてくれたGRABAKAのみんなを説き伏せるのが大変でしたよ。田代トレーナーには「山宮（恵一郎）さんもやるって言ってますから、田代さんもやらないと浮いちゃいますよ」って言って、山宮さんには「田代さんもやるって言ってますよ」って。
——見事な二枚舌だ（笑）。
GOZMA 大会当日の控室で当人同士が「山宮くんがやるっていうから」「あれ、僕は田代さんがやるからOKしたんですよ！」「えっ!?」って。そんな声が聞こえてきたんで控室では「ヤベェ」って小さくなってましたよ。
——でも好評だったし、試合も勝ったんで結果オーライでしたね。もちろん計算があった上でのパフォーマンスだとは思うんですが、その計算によってヘクター・ロンバートが怒りの猛ラッシュでスタミナ切れになるという最高の〝答え〟が出ましたよね。

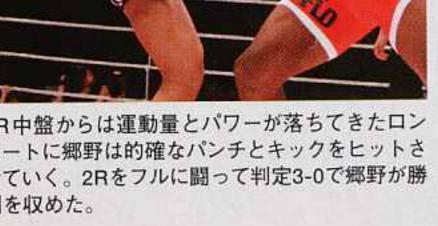
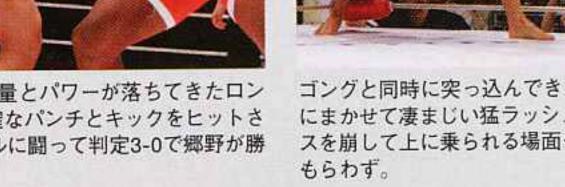
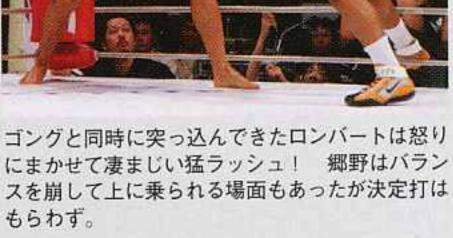
今回は俺の普段の顔を見せただけです 俺の力を出しきる環境が整いましたね！

GOZMA 俺としては入場で凄く盛り上がってたという実感があるんですよね。だから、リングに上がった時点で「ああ、今日の俺はいい仕事をした！」って気になっちゃったんです。
——達成感がありましたか（笑）。
GOZMA リングに上がってコールを受けて、カメラ目線でズボンを脱いでゼブラ柄のコスチューム姿になったときもどよめいたでしょ。あそこでも「ああ、いい仕事したなぁ」ってもう一つ達成感があって。
——試合が始まったらロンバートのもの凄いラッシュでしたね。
GOZMA あそこで「ああ、仕事はまだ終わってなかった！」って思いました（笑）。
——あの瞬間も客席はかなりどよめいてました。
GOZMA ダンスより、入場コールのときよりどよめいてたでしょ（笑）。
——お笑いでいえば、さんざんネタ振りしたあとのオチみたいな感じでしたからね（笑）。
GOZMA まあ、あそこでオチなくてよかったですね。あれはビックリしたなぁ。あのときは相手の怒りの感情が感じられましたから。でも、あいつの力はすぐ見切りましたよ。
——そこからは郷野さんの時間になりましたよね。試合中に拳と足首を痛めていたそうですが。
GOZMA そうなんですよ。痛める前までに判定で優劣がつけられるぐらいの内容だったと思ったんで、あとは流しました。
——判定勝利という結果で、試合後にマイクを渡されましたよね。
GOZMA 試合も判定だったんでマイクを渡されないだろうと思ってたんですよね。あそこで俺のアドリブの利かなさが露呈さ

6・4 PRIDE武士道～其の十一～ 郷野聡寛vsヘクター・ロンバート PLAY BACK

セコンド陣とばっちりダンスを決めて入場してきたDJ GOZMA。このパフォーマンスが試合前の記者会見からヘクター・ロンバートの怒りに火をつけた。

ゴングと同時に突っ込んできたロンバートは怒りにまかせて凄まじい猛ラッシュ！ 郷野はバランスを崩して上に乗られる場面もあったが決定打はもらわず。

1R中盤からは運動量とパワーが落ちてきたロンバートに郷野は的確なパンチとキックをヒットさせていく。2Rをフルに闘って判定3-0で郷野が勝利を収めた。

試合後のマイクは「今日は謙虚に判定だったので帰ろうと思いましたが、マイクを渡されてしまったので。でも俺、ネタないです」と断った上で、「今日は俺の新しい友だちが来てるので。Gacktじゃないぞ！ ……ヒロ君ありがとう。勝ったぞ！ 次は入場並みに試合も頑張ります」とアピールした。

れちゃいました。もう、あのマイクはなかったことにしてください！　みんなあの瞬間は同じ夢を見てたんでしょう（笑）。

――基本的にマイクの内容は事前に仕込んでおくんですか？

GOZMA　幹の部分だけは決めておいて、枝葉の部分はアドリブですね。今回は幹の部分を用意してなかったから、どうにもしようがなかったんです。最大の失態ですね。あとでスカパー！のVTRを観たら、放送席の髙田（延彦）本部長が試合が終わってすぐに「このあとマイクがあるからね」って言ってるんですよ。あれを観たときには「ホントすいません！」って思いました。誌面を通じてですが、髙田本部長には謝りたいと思います。

――でも、今回の入場は、郷野選手のことをよく知る佐伯（繁・DEEP代表）さんに言わせると「まさか郷野はあんなことをやるとは思わんかった！　性格的にああいうことをするヤツじゃないから」ということなんですが。

GOZMA　それは佐伯さんの人を見る目がなかったってことでしょう。今回は普段の俺の顔を見せただけですから。もう、あとはなにをやってもOKでしょう。また俺の力を出しきる環境が整いましたね。

――批判の声はありました？

GOZMA　俺の耳にはとくに入ってきてないですね。むしろ「次やるときは俺も踊らせてください！」って売り込みが各方面から殺到ですよ。まあ、ノーギャラでやってくれとは言えないから丁重にお断りさせてもらいましたけど。

――当然、次の試合の入場も期待されると思うんです。DJ OZMAの新曲も7月に発売になるみたいだし。

GOZMA　（間髪入れずに）新曲の発売は7月12日ですね。そのうち氣志團團長・綾小路翔さんに怒られるんじゃないかとドキドキしながらやってるんですけど……。まあ、成り行き次第ですね。

――入場のダンスということで須藤元気選手とも比較されたりすると思うんですけど、そのへんは意識していますか？

GOZMA　俺は基本的に笑いながら盛り上がってほしいと思ってるんですよ。

――氣志團的なスタンスですね（笑）。

GOZMA　憧れますね。俺は二枚目じゃないし、基本的に「かっこいいヤツなんて死んでしまえ！」と思ってますから（笑）。これは須藤選手がどうのこうのという意味ではないですけどね。中学、高校の頃はかっこいいヤツに対しては本当にコンプレックスがあったんですよ。俺がかっこいいことをやっても、かっこいいヤツには勝てないから、どうやって女の子の気を引くかというとしゃべって笑わせたり、おかしなことをするしかないんです。修斗のときも周囲は（佐藤）ルミナさんとかかっこいい選手ばっかりで、同じことやってもしょうがないからってSPEEDの曲を入場テーマに使ってたら、それはそれで朝日（昇）さんの二番煎じでまたかっこ悪かったりして。

――SPEEDのテーマ曲を使ってたのは、そういう意味があったんですね。

GOZMA　やっぱりかっこつけて入場するのはできなかったんで。笑ってほしかったという面もあったんですけどね。

――7月1日の『PRIDE GP』では、郷野選手と因縁のある吉田道場の中村和裕選手が入場テーマでドン・キホーテの曲を使ってましたよね。しかもドンペン君も一緒に踊ったりして（笑）。あれはどう見ましたか？

GOZMA　やっぱり俺よりドンペン君のほうがメジャー感があるし、俺より元気君のほうがかっこいいじゃないですか。俺の衣装は全部自前で、ヅラも本家とはだいぶ違ってるし（笑）。お金をほとんどかけないでビッグなことをやるのが俺の腕の見せどころだと思ってるんで。女の子に対して外見に頼らず中身で勝負するのと似たようなもんで、アイデアと行動力と度胸で勝負したいと思います。でも、ずっと見ているうちに好きになってもらいたいというか……俺はスルメ男になりたいんですよ！

――スルメ男ですか!?　噛むほどに味が出る男を目指すと。

GOZMA　そう。パンクラスに出たときも最初はめちゃくちゃ嫌われたけど、ずっとやってた俺のことけっこう好きになってくれたみたいだし、女の子に対しても同じことなんですよ。実際、飲み会に行くと俺はモテないですから。

――とっつきにくそうなんですかね？

GOZMA　そうなんです！　頑張ってメールして電話してってやってるうちに気がついたら向こうが好きになってたりとか。そういうパターンはけっこうあるんですけど第一印象がホントに悪いみたいです。

――以前はPRIDEガールにも果敢にアタックしてましたよね。こないだ卒業して5月から新しいPRIDEガールになりましたけど、もう仲良くなりました？

GOZMA　いまも言ったとおり俺は第一印象が悪いんですよ！（怒）。

――失礼しました（笑）。それ以外にもDSEの臼杵元PRや渡辺久江選手にアタックしてましたけど……。

GOZMA　どれもこれも悪い印象を与えただけで、その先に進展しないまま終わってますからね。節操なく種はまくけど芽が出ないというか。恋に発展しない男ナンバーワンでしょう。

――キャーキャー言われたいという願望はあるんですか？

GOZMA　言われたいですねぇ（しみじみ）。どんな状態か体験してみたいですよ。

――こないだの大会の煽りVTRは「プロ野球の始球式で投げてこそスターだ！」っていう打ち出しでしたけど、実際に郷野さ

んも千葉ロッテ・マリーンズの始球式で投げてますよね。着実にスターへの階段を昇ってるじゃないですか。
GOZMA　まあね。ただ、スターになりたいというよりは女の子にキャーキャー言われたい願望のほうが強いですね。
――以前から男性の支持は根強いですよね。それこそ会場で「俺だけの郷野！」って野太い声が飛ぶような。
GOZMA　もうそろそろ、〝みんなの郷野〟になりたいですよ（笑）。DJ OZMAを知ってて、俺の入場をおもしろいと思ってくれる感性を持った女の子たちと仲良くなりたいですね。それはつまり、人前で水着になったりすることに抵抗がない子ってことなんですけど。簡潔に言えばエロい子ですね。
――また単刀直入な（笑）。
GOZMA　まあ、でも人の心は時間とともに変わっていくもんで、以前はこういう考え方をしてる部分と、自分の試合で「判定上等！」って言ってた部分は完全に切り離してたんですけど、それが最近くっついてきてるんですよ。
――どういうことですか？
GOZMA　入場でこういうことをやるのって、飲み会のときに「凄い身体してるね～。何やってるの？」って聞かれたときに「オナニーを少々」って答えるような感覚に近いんです。
――それ、近いですか？（笑）。
GOZMA　近いんです！　とにかく盛り上げたいという気持ちだけなんですよ。でも、そんなに入場を頑張ってるのに、試合がしょぼかったらかっこ悪いじゃないですか。最近は試合でもできるだけお客さんを楽しませたいなと思うようになりました。時間の経過とともに人の心も変わるもんだなと思いますね。考え方が変わるってことは自分の中で変化が起きてるってことじゃないですか。俺はそれを自分が成長してると思いたいですね。
――素晴らしい考え方じゃないですか（笑）。
GOZMA　飲み会のときの俺が、試合でも出てきてるんですよね（笑）。これからも試合のときは飲み会に臨むときのようにネタをいっぱい用意して、入場から退場までを俺のエンターテインメントとして磨きをかけて、それによって肌を露出することをいとわない女の子を引きつけたいです。
――最終的にはそこなんですね。
GOZMA　そうです。次の試合では、飲み会で絶好調のときの「ああ、今日の俺にはしゃべりの神が降りてるよ～！」みたいな状態の俺をお見せしたいと思います。飲み会ってやっぱり女の子ありきで、その場を盛り上げようと思って一生懸命頑張るわけじゃないですか。それを試合に置き換えると、試合はお客さんありきなんですよね。どうしていままでは試合のときに、飲み会のときの発想がなかったんだろうって思いますね。まあ、俺もまだ青かったってことですよ。10月で32歳なんですけど（笑）。こういうことに気がつくまで現役でいられて良かったですよ。

いままでは試合に飲み会の発想がなかった
まあ、俺もまだ青かったってことですよ！

――お客さんも「次はどんな入場を見せてくれるんだ？」って楽しみにしてると思いますからね。
GOZMA　「イロモノ」と言われないようにキッチリと結果も出しますよ。単なるイロモノになっちゃうのは嫌ですから。きっちりしたものを見せる試合があるから、こういう入場ができるんだっていうスタンスは崩したくないですね。
――これからは判定上等じゃなく一本を狙いにいくんですか？
GOZMA　飲み会における一本って〝お持ち帰り〟だと思うんですけど、俺はお持ち帰り率が凄く低いんですよ。メアド交換したりするのは、言ってみれば次につながる判定勝ちみたいなもので、そういうのばっかりなんですね。試合も判定勝ちばっかりですけど（笑）。飲み会でも試合でも、すぐに一本勝ちをするのは難しいと思うんです。ただ、その中でも盛り上がるようにしていきたいですね。
――6月4日の大会で一番印象に残ってるのはDJ GOZMAだという声も多いですから。
GOZMA　それはそれで、選手としては一抹の寂しさを感じますけど（笑）。
――ちなみに次の『PRIDE武士道』の当日と翌日に、氣志團が富士急ハイランドで『極東NEVER LAND』っていう大規模なイベントをやるんですよね。
GOZMA　そうなんですよ。次の試合は名古屋レインボーホールなんで東京に帰る前に寄りたいですね。試合に勝って気持ちよく遊びに行きたいと思います！

【06年7月5日、新宿区GRABAKA柔術道場にて収録】

でぃーじぇい・ごずま■本名・郷野聡寛（ごうのあきひろ）。1974年10月07日、東京都出身。修斗、パンクラスなど総合格闘技のリングで闘い続け、全日本キックでもヘビー級王座を奪取した。打撃の技術とセンスは抜群。身長176 cm、体重82.8 kg。GRABAKA所属。

「一日3試合のトーナメントを勝ち抜くには普通の人間じゃ無理！」

人類未踏のおもしろさ！
だからこそメカと語ろう

K-1 MAX 座談会

谷川プロデューサーも「今年のK−1シリーズ一番のおもしろさ」と絶賛した、6.30『K−1　MAX』。見どころ続出、人類未到のおもしろさ&人類最激戦区の『MAX』を、メカの視点から鋭く語る！　僕らは『K−1 MAX』が大好きです!!

構成／ささきぃ　試合写真／乾晋也　designed by Tani-yan（Two Three）

●『K-1 MAX』に新たな論客

チョロ　今回はゲストコメンテーターとして、なんと『kamipro』上半期MVPアンケートでブアカーオを抜いて9位に輝いた、メカマミー選手に登場していただくことになりました。よろしくお願いします！

メカマミー　（一礼して）お願いします。

ささきぃ　丁寧ですね（笑）。

橋本　今日はお会いできて光栄です。ライターの橋本です！

メカマミー　ああ、よろしく。

チョロ　前からK-1 MAXには興味があるとおっしゃっていたメカマミーさんですけど、6・30当日は試合されてたんですよね。

メカマミー　そう。ちょうどホテルに戻ってきたら……。

チョロ　メカマミーさんはホテルに泊まってるんですか（笑）。

メカマミー　あぁ。ホテルに戻ったらちょうどK-1 MAXをやってて。魔裟斗とアンディ・サワーの試合を観て思ったのは、正直な話、ちょっとキレがないんじゃないかなと感じた。

ささきぃ　ああ、魔裟斗の。

メカマミー　アンディ・サワーが「芸能活動ばっかしてるからじゃないのかな」って言ってたけど、芸能活動のツケがきたんじゃないかって。これは観ててぶっちゃけ、ちょっといつもよりオーラ的なものが薄かったなっていう感じがしたな。そろそろメカになったほうがいいんじゃないかな、と。

ささきぃ　あ、坊主じゃなくてメカになったほうが。

橋本　それはたぶん一回戦で小比類巻と予想以上に激闘しちゃったっていうのが大きいと思うんですよね。

チョロ　前蹴りで飛ばされたり。

橋本　だから魔裟斗が準決勝でキレがなかったのは、一回戦のダメージも大きかったんじゃないかなと。小比類巻はいつもの小比類巻じゃないっていうか、ホントに勇気を持って前に出てたんですよ。それは魔裟斗にとって予想外だったと思うんですよね。

メカマミー　どっちみちね、決勝まで上がったら一日に3回試合しなきゃいけないわけだから。それはやっぱ生身の人間には相当無理な話だな。

チョロ　そうですよね（笑）。

メカマミーを中央に招いて行なわれた座談会の光景。左が立ち技を偏愛する巨漢ライター橋本宗洋、右が立ち技担当&電気部ささきぃ。独自の意見に二人も感心するのみだ。

ささきぃ　大会全体を通してみると、ブアカーオのパンチがとにかく強くなっていたのが印象に強く残ってるんですよ。

橋本　とくに右ストレートがもの凄く強くなってたんですけど、あれ、もしかしたらメカ化してきたんですかね。

メカマミー　可能性は高い（キッパリ）。

橋本　あれだけの変貌ぶりはメカ化してたんじゃないのかと。

ささきぃ　あ、そういうことなんですか。

メカマミー　一部分にちょっとモーターを入れた可能性はある（キッパリと）。

ブアカーオの急激なレベルアップは メカ化をほどこしたんじゃないかと思う

チョロ　気づかないうちにみんなメカ化してるのかもしれないですね、『PRIDE』とかも含めて。

メカマミー　やっぱりある程度メカ化しないと勝てない部分もあると思うんでね。

ささきぃ　実力がせめぎ合ってきたら……。

メカマミー　それはメカ化しかない。

チョロ　芸能界とか、それこそ整形は当たり前って言われてますけど、格闘技界はメカ化が進んでるのかもしれないと。

メカマミー　もしくは動力源をちょっと変えるか。そうすると、今回みたいに一日3試合あっても息がまったく乱れない。

ささきぃ　それだ！（笑）。

●MAXの魅力とメカの秘密

チョロ　メカマミーさんは、以前から魔裟斗選手と須藤元気選手には興味があるとおっしゃっていましたよね。

メカマミー　あと、メカマミー的に気になるのはアンディ・オロゴンだな。

チョロ　よくご存じですね。

メカマミー　自分がK-1 MAXに参戦するのなら、彼と対戦する予定だったDDTの飯伏幸太みたいなヤツじゃなくて、やっぱり魔裟斗かアンディ・オロゴンと闘いたいところだな。

チョロ　飯伏選手よりは自分のほうがっていう気持ちはやっぱりあるんですか？

メカマミー　もちろん。飯伏は身体能力的にもただの人間だからな。

ささきぃ　まぁ、そうですね（笑）。

メカマミー　あいつがK-1に出てもたぶん負けるだろうし。メカマミーなら間違いなく勝つ。

チョロ　メカマミーさん的にはあくまでMAXで、ほかのK-1シリーズではないわけですか。

メカマミー　MAXはおもしろいし、人気が出る理由はすごくよくわかる。みんな等身大で親しみも持てるしな。女性からも支持されてるし、一般への浸透度も高い。もう一つ、メカマミー的に興味があるのは、出ている選手がみんなイケメンということだ。

チョロ　それは自分が出るにふさわしいということでしょうか？

メカマミー　もちろんだ。メカマミーはマミー界ではかなりのイケメンだ。MAXに匹敵するぐらいの女性人気は保っている。

チョロ　保ってましたか（笑）。

橋本　あとは体重制限の70キロってとこですよね。メカマミーさんはいま何キロくらいあるんですか？

メカマミー　いま2万7000トン。

チョロ　それは相当減量しないと（笑）。

メカマミー　しょうがない、身体の半分が鉄でできてるんだから。そこは谷川さんに英断してもらうしかない。

橋本　須藤元気が入場でロボットダンスとかやってることに関しては、メカ的にはどうなんですか？

メカマミー　あれを最初に観たとき、須藤元気もメカなんじゃないかと思わされたな。どうも、人間の格好をした仲間が紛れ込んでいるんじゃないかと。それから注意して観るようにしていたが、彼は確実にメカだな。あの

座談会参加者

メカマミー
見ての通りのメカだが、人工知能を内蔵されているため日本語会話もペラペラ。K-1 MAXと魔裟斗には興味を持っていると以前から発言している。

橋本宗洋
中に人は入っていない巨漢格闘技ライター。立ち技をこよなく愛しつつメカマミーにも興味津々。座談会前にはツーショット写真を撮影してほくほく顔。

ささきぃ
携帯サイト『Kamipro Hand』を担当する電気部リーダー&立ち技担当。持病の腱鞘炎悪化の際には右腕のプチメカ化を本気で望んでいた。マイブームは自炊。

松澤チョロ
電気部&インディー担当。K-1 MAXの大会当日にはスマックガール後楽園へ。辻結花の強さに感動、後日テレビでMAXを観ておもしろさにまた感動。

動きは。
橋本　「トリッキーな動き」とか言っていますけど、それどころじゃないと。
メカマミー　そう。あれはトリッキーじゃなくてメカの動きだから。
チョロ　メカだからしょうがない（笑）。
メカマミー　メカだからしょうがない。前田日明さんが「あれは対戦者をバカにしてる」って言ってるけど、しょうがない、メカだから。
チョロ　前田日明が怒ってることまで知ってるわけですね。
メカマミー　もちろん。
チョロ　いざK－1に出るとしたら、メカマミーさんはプロレス界を背負うというかたちになるんでしょうか。
メカマミー　いや、メカ界を背負う。最近IT化が進んで、いろんなものが人間の手から機械に替わってるわけだろう。それをもっともっと推進させるというか。最終的には人間がこの世からいなくなればいい。
チョロ　それは食い止めなくちゃいけないですね（笑）。
ささきぃ　セコンドは誰に付いてほしいですか？
メカマミー　新田明臣はすでにメカなんで。
ささきぃ　そうなんですか！
メカマミー　みんな気づいてないけど、あれはもうメカだ。かなり天然なメカだけど。
チョロ　もしその話があったら、対K－1用の練習はしっかり……。
メカマミー　そうだな。まずはルールを把握するところから。ルールをちゃんとメモリに入れて、前回大会で使用したジェットスクランダーは新田さんに取りつけてもらう。
ささきぃ　話を強引に今回の大会へ戻しますけど、ドラゴの入場とかは地上波で映ってました？
チョロ　いや、映ってなかったですね。
橋本　ドラゴは試合もおもしろかったけど、ハイテンション入場も毎回いいんですよ。サッカーの日本代表ユニフォーム着て。
ささきぃ　凄いトリッキーというか、狂ってるような（笑）。
橋本　あれはみのる戦で水をかけられたあとのメカマミーさんに近い動きでしたね。
チョロ　入場時から（笑）。
橋本　あれはショートしてたんじゃないかな（笑）。ただ、ドラゴがクラウスを一回戦で負かしたことで、結果的にブアカーオを楽にしちゃった面もあるかもしれない。アップセットを起こしたんで興行的には功績が大きいんですけど。あとテレビに映ってない選手でいうと、オープニングファイトに出たヨーセングライっていうタイ人が強かったですね。蹴りがバンバン出て、かつパンチでダウンとって勝ってる。

右上が、リングス時代煙を吐き出しながら入場した須藤元気。まさかメカだったとは驚きだ。左下は独自の動きと入場のダンスに、メカ疑惑が持ち上がる初参戦のドラゴ。何よりブアカーオがメカ化したというのは驚愕の事実だ。気づいたのは世界でもメカマミー氏のみだろう

あの動きを見る限り 須藤元気はメカの可能性が高い

チョロ　あと武田幸三選手の試合が映っていなかったんですよね。
ささきぃ　それを聞いてビックリしましたよ。たしかに負けちゃいましたけど、カットするとは思わなかった。
橋本　武田幸三は1ラウンドにパンチでダウンとられて、挽回及ばず判定負けって感じで。会場は超満員だったし、武田もやっぱりおなじみの選手ですから歓声はあったんですけど。なんかね……。
ささきぃ　負けループみたいなのにはまっちゃってる感じがしました。どうやってそれを抜け出すかですよね。やっぱりそれもメカ化するしかないんですかね（笑）。元が超合筋なだけに。
メカマミー　間違いない。

●ライバルの存在、そして魔裟斗の笑顔

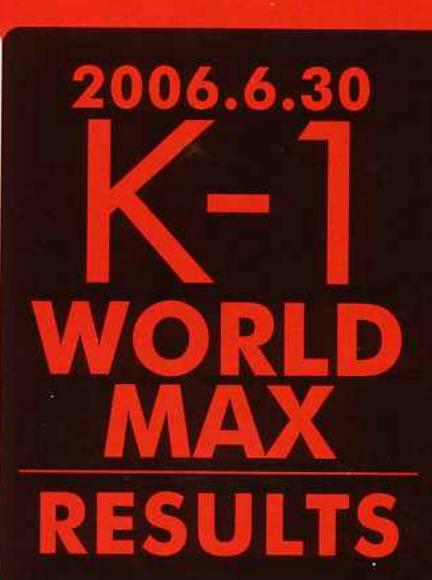
チョロ　大会直前にみんな口を揃えて魔裟斗は優勝だとか、公開練習でも仕上がり具合が凄かったってことは言ってましたけど。
橋本　調子のよさとか持ってる実力でいえば、ホントに優勝してもおかしくないんですけどね。一回戦、準決勝とも潰し合いみたいな試合になったのが痛かった。今回の小比類巻、とくに1ラウンドは久々に褒められますよ。本来のっていうか、若手の頃に「このまま成長したら凄いことになるな」って思ってた小比類巻が見られた感じがしましたね。
ささきぃ　そういう意味で、今回は魔裟斗と小比類巻のライバルストーリーがクローズアップされてましたけど、あれは成功だったと思いますね。
橋本　成功だったんじゃない？
ささきぃ　あれでやっぱり大会に火がついたみたいな感じはありましたしね。今回の一回戦、魔裟斗と小比類巻選手の闘いを観て、あらためてライバルっていうのは選手にとって

1 ○魔裟斗【3R 判定3-0】小比類巻貴之×
コヒが前に出て前蹴り、魔裟斗はローを返していく。魔裟斗がボディから左フックでダウンを奪い、ゴングと同時に魔裟斗は両手を挙げ、小比類巻の肩を抱いて笑顔。判定は魔裟斗勝利を告げた。

2 ○アンディ・サワー【3R 2:23 KO】ヴァージル・カラコダ×
"K-1 MAXの亀田親子"と紹介されたカラコダ（父親はスティーブ・カラコダ）。対するは昨年王者、アンディ・サワー。火がついたサワーがパンチの乱れ打ちでカラコダを棒立ちにさせ、KO勝利。

3 ○ドラゴ【3R 判定3-0】アルバート・クラウス×
ドラゴが右フックを放とうとしたクラウスにカウンターで右ヒザ！ これがクラウスをとらえダウン。変則的な動きを見せるドラゴにクラウスはペースを乱され、初代王者が初戦で消える結果となった。

4 ○ブアカーオ・ポー.プラムック【2R 0:18 KO】佐藤嘉洋×
日本トーナメント優勝・佐藤嘉洋が左フックから右ストレートを食らってダウン。2R開始直後、佐藤の前蹴りをキャッチしたブアカーオが左ストレートを叩き込んで佐藤を殴り倒し、この一撃でKO勝利！

K-1 MAX 座談会

大きい存在だと思わされましたね。メカマミーさんにとって、そのあたりはどうですか？

メカマミー　うん。自分の頭の中では須藤元気と魔裟斗の存在は常に大きいな。そして最近は未知数のアンディ・オロゴンがライバルだ。

ささきぃ　ちょっと負けてられないっていうような。

メカマミー　うん、今回の魔裟斗の頑張りを観て、やっぱり自分ももうちょっとやらなくちゃな、と。

ささきぃ　ああ、気合いが入って（笑）。

メカマミー　いまの動力だと、ひょっとしたら彼らには勝てないかもしれない。（ポツリと）原子力にするかな。

ささきぃ　原子力！

メカマミー　いまは入場時にドリルを持って来て回すことが動力になっているんだ。あれを一回転するごとにかなりの電力が強化される。

橋本　災害時用のラジオみたいな。

メカマミー　そう。あれを一回チャージすると一時間ぐらい保つようになる。それよりも、魔裟斗はノーコメントで会場を去ったそうじゃないか。

ささきぃ　谷川さんからの電話にも出ないって記事が出てましたね。

チョロ　このまま辞めちゃうんじゃないかっていう説もありますよね。今回に賭けていたものが大きいと。

ささきぃ　そこにはちょっとエールを送りたいところですよね。魔裟斗選手の試合はもっと観たいですし、まだまだ辞めてもらっちゃ困りますからね。

メカマミー　そう。彼はまだまだ、やることがいっぱいあるはずだからな。

ささきぃ　メカマミーさんとの闘いとか（笑）。

メカマミー　そう。俺との闘いはどうなったんだ！

橋本　ライバルストーリーはまだ終わってないぞ、と。小比類巻に勝ったからってね。

メカマミー　終わってないよ、まだ。

ささきぃ　小比類巻のストーリーが終わっただけであって、まだまだ。

メカマミー　まだまだ終わってない。メカマミーと魔裟斗でお互い納得いくまで試合をして、終わったあとには秋葉原にでも飲みに行きたい。

チョロ　電気街なんですね（笑）。

橋本　試合のあと、「魔裟斗？　サバサバしてますよ」って言ってる関係者もいたらしいんで、それが、「ここまでやられたら気持ちよく出直せる！」って意味でサバサバしてたのか、「もういいや」ってサバサバしてたのか、どっちなのかが気になりますね。

魔裟斗はまだ辞めるべきじゃない 俺との試合も残っているだろう！

3R、試合終了直前にアンディー・サワーからダウンを奪われて優勝の夢敗れた魔裟斗。試合後はノーコメントで会場を去っていることからも、賭けていたものの大きさを感じさせるが、まだまだ引退は惜しすぎる選手だ

チョロ　負けた瞬間はいい笑顔でしたけどね。

橋本　だからどうなのかなって。中田（英寿）にへんな影響受けなきゃいいけど。これがカッコいいってことなのかとか思わないでほしい。魔裟斗にこそ、キング・カズ（三浦知良）を見てほしいね。

●せめぎ合いと新たなスターへの期待

ささきぃ　今回は全体を通して非常におもしろい大会で、判定になるにしても不透明な判定っていうのがなくて、全部ダウンを取ったから「ああ、だからこっちが負けてるのか」って感じで、判定っていうよりも3ラウンドきっちり見せてくれたっていう試合が多かったんですよ。

橋本　出場者のレベルも、みんなネジが一段巻かれた感じでね。

ささきぃ　ネジがですか。

橋本　キュッと巻いて。その中でもブアカーオがとくに図抜けてたなっていう。

ささきぃ　ただ、このまま行くと来年もこのメンバーになってしまうんじゃないかという心配もないですか。

橋本　でも、考えてみたら今年もドラゴと佐藤嘉洋が初出場してるわけだから、新陳代謝はするんじゃないかな。

チョロ　橋本さんは佐藤嘉洋選手をずっとプッシュしてましたよね。

橋本　推してたんですけどね。ブアカーオに右ストレート当てられた瞬間にすべてが狂ったというか。佐藤って強いんですけど、ガリ勉君タイプなんですよ。コツコツ練習して練習して練習して、強さを身につけた選手で。閃きタイプじゃないんですよね。受験でいうと、覚えた辞書のページ食っちゃうようなかたちで強くなってきたんで、想定外のことが起こると応用が利かない感じがしましたね。

ささきぃ　メカマミーさんは佐藤選手のこと

5［スーパーファイト　3分3R延長1R］

○TATSUJI【3R 判定3-0】白須康仁×

日本トーナメント準優勝のTATSUJIと、MAキックウェルター級王者の白須。互いに退かない打ち合いから、TATSUJIが終了寸前に猛ラッシュ、ともに倒れず終了、判定でTATSUJIが勝利を手にした。

6

○アンディ・サワー【3R 判定3-0】魔裟斗×

昨年トーナメントの“幻の対決”でもある顔合わせ。残り20秒、サワーのラッシュを受けた魔裟斗がバランスを崩したところへヒザを受け、痛恨のダウン。これが決定打となり判定でサワーが決勝進出した。

7

○ブアカーオ・ポー.プラムック【3R 判定3-0】ドラゴ×

ブアカーオがドラゴに厳しいミドル。2R、ドラゴがワンツーを叩き込んで挽回を試みるが、ブアカーオは強烈な右ストレートを叩き込んでドラゴをダウンさせ、3年連続でブアカーオが決勝進出を決めた。

8［スーパーファイト　3分3R延長1R］

○フェルナンド・カルロス【3R 判定 3-0】武田幸三×

久々のMAX登場となる武田幸三だが、突進したカレロスから顔面への右を受けてダウンを喫してしまう。渾身のローで反撃を狙う武田だったが挽回ならず。K-1復帰戦を勝利で飾ることはできなかった。

9

○ブアカーオ・ポー.プラムック【2R 2:13 KO】アンディ・サワー×

ジャブ連打からミドルのブアカーオが左フック、驚異のスタミナを持つサワーをダウンさせる。呆然としながらも立ち上がったサワーを右ストレートで沈めたブアカーオは涙を見せ、返り咲きを喜んだ。

はご存知ですか？

メカマミー さいたまスーパーアリーナでのK−1 MAXは観てる。あれは同じメカ仲間の新田明臣を応援しに行ったからな。新田さんはどちらかといえばコツコツやるタイプなんだけど、同じようなタイプに感じたな。

橋本 ちょっと地味なんだけど、実力はあるんですよね。ただ自分の型にはめて勝つタイプなんで、応用がなかなか。ある程度は利くんでしょうけど、あそこまでメカ化した相手になると（笑）。

メカマミー 佐藤選手こそビジュアル面をもっとメカ化したほうがいいかもしれない。たとえば髪型をアフロにしてメカにするだけでもだいぶ印象が変わると思う。

ささきぃ それはもう別人ですね（笑）。まあ、メカじゃなくて35歳のほうの須藤信充とかもいますし、ほかにも出てきたらおもしろそうな選手はたくさんいますしね。

橋本 シュートボクシングの宍戸大樹とかもいるし。

ささきぃ K−1 MAXでも活躍していた山本KID徳郁が『HERO'S』を制して、レスリングに専念するっていう報道が一部で出ましたよね。北京でメダルを目指すって。

メカマミー 北京って、オリンピック？

ささきぃ はい。

メカマミー ほう、凄いですねえ！

チョロ 敬語になっちゃいましたね（笑）。

ささきぃ 大英断なんです。実際そうなるのかどうかはまだわからないんですけど。

メカマミー 俺も北京目指さなくちゃ。

ささきぃ メカマミーも（笑）。

チョロ 出場は谷川さん以上の英断を期待しないとダメそうですけど（笑）。メカマミーさんも、魔裟斗vs小比類巻戦に劣らない大一番を終えたばかりですよね。鈴木さんが再三再四「メカなわけねえんだから」って発言されてましたけど、そういう意見は一通り目にはしてらしたんですか？

メカマミー ネット上で。スポナビから『kamipro Hand』から、全部チェックしたけど。まあ、そんなこと言ってもしょうがないじゃない。メカなんだもの。

チョロ 相田みつをみたいですね（笑）。

メカマミー 鈴木みのる戦はメカマミーにとってターニングポイントだったな。水に弱いっていうところがちょっと発覚してしまった。

ささきぃ 弱点を露呈してしまったというか。

メカマミー やっぱり防水加工をしなきゃいけない、今後の課題としては。水が漏れる継ぎ目をなくすっていうのが難しい。そこがちょっと科学的に難しいところだな。

ささきぃ そうですね、継ぎ目から水が入らないように加工しなきゃいけないですからね。

メカマミー もし次にやるとしたら全身にサランラップを巻くしかない。

ささきぃ それ、ハイテク化なのかなんなのかわかんないですよ（笑）。

世紀の一戦でメカマミー戦闘停止に!?

メカじゃないとか言われたけどしょうがない、メカなんだもの

橋本 そういえば、みのる戦のレフェリーだった和田（良覚）さんもMAXでレフェリーやってますよね。

メカマミー そういえばそうだったな。

橋本 みのる戦の翌日に全日本キックの興行があったんですよ。で、和田さんは全日本キックでもレフェリーやってるんですけど、その日だけ休みで。あれはドリルのダメージじゃないかって噂になってましたね（笑）。

メカマミー たしかにレフェリーへの誤爆があった。

橋本 ありましたよねぇ（笑）。MAXで誤爆したら大変なことですよ、これ。

メカマミー もしK−1 MAXでメカマミーvs魔裟斗っていう世紀の一戦が実現したら、レフェリーはアイアンマン西田。そこは譲れないな。ジャッジ3人は、鶴見五郎、剛竜馬、高杉の3人だ。

チョロ 思い切りメカマミーさん寄りの人選ですけど、判定狙いってことですか？

ささきぃ MAXはそれじゃダメですよ（笑）。

メカマミー ガチガチの判定狙い。

メカマミー 難しいというなら実力で、メカ予選を勝ち上がって出てもいい。メカマミー、メカスタンリー、メカゴロー……。

チョロ 新田さんもそこに入るんですか？

メカマミー 新田さんも入る。新田さんはそこからだな。その4人でやってもいい。

橋本 予選トーナメントをやって。

ささきぃ K−1ルールで（笑）。

メカマミー 新田さんvsメカスタンリー、新田さんvsメカマミー、新田さんvsメカゴロー。

ささきぃ どれを取っても永久保存版ですね（笑）。MAXはミドルウェイト・アーティスティック・エクストリームの略ですから、メカ・アーティスティック・エクストリームで（笑）。

メカマミー 実現の際には谷川さんに新木場1st RINGの最前列を用意します。

チョロ なんか谷川さんもメカ化してそうですよね。最近ほとんど寝てないんじゃないかっていうくらい仕事してるし。

橋本 あの人の原稿書く速さはメカなんじゃない？

ささきぃ だって「手が4本あればもっと速く原稿が書ける」って言った人ですからね（笑）。それはメカの発想ですよ。

チョロ もし、メカだとしたらメカマミーさんの出場も期待できますよ！

メカマミー そうか！ なら、俺が出るということは、イコール谷川さんがメカ化したということの証でもあるわけだな。

橋本 いや〜、今回の大会を観てて思ったのは、去年から今年の開幕戦までのMAXってイマイチ盛り上がらなくて、それはなんでかなと思ったら、階段でいうとみんな同じ踊り場にいて蹴落とし合ってる感があったんですよ。相当高い踊り場ではあるんですけど。で、同じレベルでの蹴落とし合いだから、「一回戦の組み合わせが肝心」とか、「いかにダメージなく勝ち上がるか」ってことがいわれると思うんですよね。魔裟斗も「3試合のうち一回はKOしないと身体が保たない」みたいなことをいってましたし。でも、みんなが蹴落とし合ってる中で、ブアカーオだけはもう一段高い階段に上がったなって感じがしましたね。相手を下に蹴落とすんじゃなく、次元の違う強さを手に入れることでみんなに勝つっていう。その秘密がまさか、メカ化にあるとは思わなかったけど（笑）。今日は勉強させていただきました。

チョロ では、谷川さんの勇気あるカミングアウトとメカマミーさんのMAX出場に期待してます！

メカマミー 頑張ります。

【7月6日／水道橋「コロッセオ」にて収録】

メカマミーからメカミノル、メカユージまで……!?

マット界に空前のメカブーム到来!!

いまマット界に空前のメカブーム到来！　いや、これホント！　もちろん、その発端は、ここ最近の本誌でも必要以上にプッシュしてきたメカマミーの存在であることは間違いない！　昨年11月の初登場以来、ナウでアバンギャルドなインディー野郎どものハートを鷲づかみにしてきたメカマミー。メカドリルとメカロケットパンチを武器に、気がつけばマット界の先っちょのほうへと進出していたメカマミーは鈴木みのると激突！　新兵器・ジェットスクランダーやラリアット増強マシーンを駆使し、みのるを追い詰めたメカマミーだったが頭から水をかけられ哀れ機能停止に……。しかし、その激闘を目の当たりにした元『週刊ゴング』編集長のGKが「俺が編集長なら、みのるvsメカマミーを表紙にする」と断言するなど、上半期の『kamipro』大賞MVP9位にランクインしたのもうなずけるメカヒットぶりを見せたメカマミー。しかしだ！　そのメカマミーを完膚なきままで叩き潰した一人のメカがいた。そのメカこそ今回紹介するメカゴロー！　あのカシンもゾッコンだという、このメカを専門誌初直撃ッ！（当たり前）

もちろん本誌独占

メカゴローだってしゃべります!!

話題のメカゴローを『スナックGT』で発見!?

普段は言葉を発しないメカマミーだが、なぜか『kamipro』では饒舌。これマット界のメカ不思議。果たしてメカゴローも、この法則に当てはまるのか？　その姿がたびたび目撃されるという茅ヶ崎を捜索すること3時間。茅ヶ崎駅からほど近い場所にメカゴローが掲載された『東スポ』が入口に貼られた一件のスナックを発見！　その中にあのメカがいた!!

聞き手／メカチョロ　撮影／メカガンツ　designed by nogu (Two three)

――メカゴローさん、今日はお会いできて光栄です！

メカゴロー　わざわざ、どうも！……って、俺は鶴見五郎だから！（笑）。

――あ、鶴見さんでしたか。失礼しました！　ちなみに鶴見五郎さんとメカゴローさんは別人ってことになるんですか？

メカゴロー　そんなもん一緒だよ（笑）。でも、メカゴローのときは、ちゃんとなりきってやるけどね。

――じゃあ、今回はメカゴローということで勝手に進めさせてもらいます！

メカゴロー　あ、そうなの？　まあ、どっちでもいいけどさ（笑）。

――7月23日のDDT後楽園大会で鶴見五郎さんのほうの引退カウントダウンマッチが発表されたわけですが、メカゴローの登場を期待してるファンも多いと思うんですよ。

メカゴロー　それもちょっと考えたんだけど、やっぱり後楽園って聖地だし、引退カウントダウンっていうこともあるし、今回は普通の鶴見五郎として出ようかなって。

――まあ、当然といえば当然ですよね。でも、聖地・後楽園だからこそメカゴローが観たいという声も多いわけですよ。

メカゴロー　でも、それじゃあ結婚式の衣装替えみたいじゃない？

――それもちょっと違うような気もしますが（笑）。いまのところメカゴローというのは一度しか観客の前に姿を見せていないわけですけど、あのメカマミーをメカ裏拳一発で完全KOしてしまいましたし、とにかくメチャクチャ強いっていうのは伝わってきました。

メカゴロー　俺はわかんない。どれぐらい強いかっていうのは。

――本人もわからないぐらいの強さだと？

メカゴローの貴重なファイトシーンだ!!

愛弟子メカスタンリーとタッグを組んだメカゴローは黄金のロケットパンチを装着。メカマミーと壮絶なパンチの打ち合いを見せたメカゴローは、次の瞬間、目にも止まらぬ早さで……!!

メカゴローがその姿を現したのは、いま現在6・18ユニオン新木場大会のみ。「メカマミーを倒すにはメカ化するしかない」と決意した鶴見五郎がメカボディに変身！

メカゴロー　ホントわかんないもん。

――そもそもメカゴローっていうのは、メカマミーを倒すにはメカ化しかないということで改造手術を受けたのが始まりなんですよね？

メカゴロー　なんか、そういうことみたいだね（笑）。

――また他人ごとみたいに！（笑）。手術のときの状況とかは覚えてます？

メカゴロー　手術？　いや～、手術を受けた記憶はないなぁ。

――覚えてませんか（笑）。でも、メカマミーを吹っ飛ばした巨大なメカ裏拳なんてホントに凄かったですよ！

メカゴロー　そりゃあ、そうでしょう。あんなデカイ手で裏拳やったら、いくらメカだろうが効くでしょ。

――たしかに。でも、マジメな話、近い将来の引退を決意したのは足首のケガが原因なんですよね。

メカゴロー　そうそう。まだまだ、やりたいのはやまやまだけどね。……メカゴローだったらなんとかなるかなって（笑）。

――メカなら、まだまだいけるでしょうね。ここ最近、一部でメカマミーがブレイク中なんですが、ご存知ですか？

メカゴロー　なんか、そうみたいだね。元はといえば、マミーはウチで育てたようなもんなんだけどな（笑）。オリジナルのマミーにブラック、ブルー、レッド、あとはクローン、いっぱいいたからね。

――女子選手のピンク・マミーも登場したことがあるみたいですけど。

メカゴロー　いや、ピンクはない！　ウチでは出してないから。たぶん、どっかのパクリだよ。

――ピンクはパクリでしたか（笑）。

メカゴロー　ウチはね、いくらイロモノって言ってもね、そこまでは広げてないから。まあ、メカマミーっていうのもウチで考えたものじゃないんだけど、あれは、「まあいっか」って感じで。

――メカマミーはユニオンで登場したキャラ……じゃなくてメカでしたね（笑）。

メカゴロー　べつにやるぶんにはかまわないし、〝メカ〟がつけばパクリでもないし。ウチも〝マミー〟を商標登録してたわけでもないしさ（笑）。

――さすがに、商標登録はしてませんでしたか（笑）。バカバカしいと思う人もいるでしょうけど、やっぱり〝メカ〟って強いですからね。

メカゴロー　そう。究極のかたちだからね。普通の人間じゃかなわないもん。

――実際、メカゴローとして試合をしてみて、どんな感想を持ちました？

メカゴロー　2～3度、映像観たけど、あれは悪くないよ。素晴らしいなと思った。「これもアリかな」って。

――でも、あんな派手なコスチューム…というか、派手なメカボディは女子プロでも、なかなか見れないですよね（笑）。

メカゴロー　たしかに派手だったよなぁ。

――鶴見さんのトレードマークでもあるアフロも完璧にメカ化されてゴールデンアフロになってましたし（笑）。

メカゴロー　そうそう（笑）。ただ、ちょっとね、改造されたのはいいんだけど、正直、動きづらいんだよね。

――それじゃあ、ダメじゃないですか？

メカゴロー　肩とか足とかもそうだけどカッチカチになってるから。ロボット的な細かい動きがやりづらいんだよな。

――一応、鶴見さんなりにメカゴローになりきろうとしていたわけですね（笑）。

メカゴロー　もちろん、そうだよ。

――動きづらかったとはいえ、あのメカマミーを初めて完璧にKOしたわけですからね。個人的には、いまのプロレス界でメカゴローが最強なんじゃないかと思ってるんですよ！　これマジで!!

メカゴロー　アッハッハッハッハッ！

改造されたのはいいんだけど、正直、動きづらいんだよな

——ケンドー・カシン選手も、「メカマミーに勝つにはメカゴローに改造しなければ」と改造手術を決意したメカゴローに首ったけらしいんですし。
メカゴロー　アッハッハッハッ！　メカミノルのほうじゃないんだ（笑）。
——そうみたいです。カシン選手は『PRIDE』でシウバ戦直前の藤田選手と一緒にアメリカでトレーニングしてたんですけど、そのときにメカマミーのドリルを使った特訓もしてたんですよ。
メカゴロー　あ、そうなの？　凄いなぁ。総合でもメカ化が進んでるんだ（笑）。
——そういうことです（笑）。永田選手も9月に武道館で開催される『INOKI GENOME』という大会に〝メカユージ〟として出場をブチあげてますし。
メカゴロー　へぇ～。じゃあ、今度はメカ大会でも開こうか（笑）。
——それは実現してほしいですねぇ。マット界でメカ化が急速に進んでいる状態は先輩として、どう思われます？
メカゴロー　それはそれで、またプロレス界も活性化するんじゃない？　お客さんが来て、そういうものを望むんならいいんじゃないの。お客の興味を引かないんだったらどうかと思うけど、ポリシー持ってやるんならべつにいいと思うよ。
——というわけで、今日はポリシーを持ってやっている鶴見さんに、メカゴローとしての撮影もお願いしたいんですけど。
メカゴロー　いや、店には持ってきてないのよ。だってアレ、運ぶの大変だもん。それに職務尋問とかされたらエライことになるでしょ（笑）。
——たしかに、持って歩いてたら怪しすぎますね（笑）。最後に次の試合に向けての意気込みを聞かせてもらいたいんですが、試合は3WAYで、メカマミーとメカマミーLiteっていう150センチの空中殺法が得意な新たなメカが登場するみたいで。
メカゴロー　え、150センチしかないの？
——そうみたいです。それとフランチェスコ・トーゴーとモリ・ベルナルドっていうイタリア軍が相手なんですけど、どうやらイタリアではゴロー・ツルミは一番有名な日本人レスラーで、子どもたちは「ボンジョルノ」と言いながら、みんな裏拳をやってると会見でアントーニオ本多さんが言ってましたが（笑）。
メカゴロー　なんか、そんなこと言ってたな（笑）。たしかに昔、イタリアで試合してたことはあるから、そうかもしれないね。
——もう一度お聞きしますが、強敵のメカマミー組やイタリア軍相手にズバリ、メカゴローの登場の可能性はあるんでしょうか？
メカゴロー　う～ん、どうなんだろうねぇ。メカマミーは闘ったことあるけど、新しいメカマミーLiteのほうは心配だね。そんだけ、ちっちゃいと動きも速いんだろうし。あんまり速すぎて視線に入らなかったらどうしようって（笑）。
——それは厳しいですね（笑）。
メカゴロー　でも、まあ、ダイエットに成功して体重がだいぶ落ちたんで足首のケガもだいぶ良くなってきたんだよ。だから、大丈夫だと思うんだけどね。
——鶴見五郎として充分に闘えると？
メカゴロー　うん。前はそれが心配だったんでね。いまは30キロの減量に成功したから。二週間でバーッと落として、いまは106キロ。その前までは136キログらいあったんだよね。
——どんなダイエット法で30キロも落としたんですか？
メカゴロー　カロリー計算。食べるものを減らして運動してね。ダイエットっていうのはホントはじっくり落とすのが一番いいんだけど、たくさん落とすときは一気にバーッと落とさないと落ちないのよ。おかげで、いまはフラフラで体力も落ちちゃったけどな（笑）。
——あららら（笑）。
メカゴロー　試合までには、なんとかベストコンディションに持っていこうと思ってるんだけど。ただ、パワーは30キロぶんなくなったから、そこは心配よね。
——メカ化したらパワーは一気にアップすると思うんですけどね。
メカゴロー　いやいや、だから今度はメカゴローじゃないから！（笑）。
——それは充分わかってはいるんですが、メカゴローの登場も、ちょっとだけ期待してます！
メカゴロー　いや～、それは俺の口からはなんとも言えないな。期待させるようなこと言って、看板に偽りありになっちゃうのは嫌だからな。まあ、そのときが来たら応援してくださいよ！

【7月8日／茅ヶ崎『スナックGT』にて収録】

見よ！これが“メカ界”最強のメカゴロ

メカゴローは鶴見五郎の必殺技・裏拳と同じ要領で黄金に輝くロケットパンチを装着してのメカ裏拳をメカマミーに発射！　この一撃で大きく吹っ飛んだメカマミーはピクリとも動かず。その隙にメカスタンリーがメカマミーをフォールし238代アイアンマンヘビーメタル級王者に。このメカゴロー、どうにもこうにも強すぎ!!

試合後、あっさりメカアフロを取り素顔に戻ると愛弟子のメカスタンリーにベルトを巻いてやっていた鶴見。メカゴローの勇姿が再び見られる日は来るのか？

入口に貼られているのは『東スポ』で大きく取り上げられたメカゴローの記事。その下には「7/23（日）後楽ホールで試合があるため休ませていただきます」。……や、やっぱり!?

メカゴローの秘密をもっと知りたいという人は茅ヶ崎駅南口からすぐの『スナックGT』にGO!　鶴見五郎の秘蔵写真も満載のこのスナックのオススメ“GT”サービスコースは、2時間カラオケ歌い放題、焼酎または発泡酒飲み放題で男性3000円、女性2500円！

『カラオケスナックGT（ゴロー・ツルミ）』
神奈川県茅ヶ崎市共恵1-5-1第2SKビル102
※JR茅ヶ崎駅南口徒歩2分（走って30秒!）
TEL.0467-86-6926（時間18:00～1:00）

DDT『Summer Vacation 2006』
7月23日(日)東京・後楽園ホール　開場11:30 開始12:00

［決定分対戦カード］

★［鶴見五郎引退カウントダウン試合 3WAYタッグマッチ］
鶴見五郎&高木三四郎 vs フランチェスコ・トーゴー&モリ・ベルナルド vs メカマミー&メカマミーLite

★［鶴見五郎引退カウントダウン試合に関する試合］
剛竜馬（友情参戦）vs マッスル坂井（高木三四郎に次いで鶴見五郎にお世話になった者）

★［DISASTER BOX軍 vs DDT本隊 全面対抗戦 4対4シングル勝ち抜き戦］
（DDT本隊）長井満也、ポイズン澤田JULIE、蛇ット省吾、飯伏幸太
（DISASTER BOX軍）大鷲透、HARASHIMA、男色ディーノ、X

★［ゴージャス松野復帰戦］
ゴージャス松野&MIKAMI vs 猪苦魔裕介&中澤魔イケル

※他 1～2試合予定

■問／DDT TEL.03-5360-6653

なんとメカマミーが小型化に成功！

これが7・23DDT後楽園大会で初お目見えする小型化したメカマミー、その名もメカマミーLite！　身長は150センチながら体重は1万トン。得意技はウルトラウラカンラナをはじめとする各種空中殺法。しかもワンセグ対応だってさ！

ッスvol.17』(後楽園ホール) 大会レポート

文／坂井ノブ 撮影／平工幸雄 designed by matsu (TwoThree)

の中で生き続ける!!

ハッスル・キングメモリアル6人タッグトーナメント 優勝は大谷晋二郎率いるチームハッスル・キング！

7月9日にパシフィコ横浜で開催されたハッスル18、橋本真也さんが亡くなってからちょうど一年にあたる7月11日に超満員の後楽園ホールで開催されたハッスル・ハウスvol.17、この両大会では橋本さんの一周忌にちなんだセレモニーやさまざまな企画が行なわれた。会場では橋本さんのコスチュームや写真などが展示され、スタッフはハッスル・キングにちなんだ巨大アフロを着用したり「破壊王」と書かれたハチマキを締めて、イベントを盛り上げた。また、会場にもアフロで観戦するファンも数多くいて、主催者と観客が一緒になって作り上げるお祭りムードが漂っており、大会は成功したと言っていいだろう。

湿っぽいことが嫌いで、バカバカしいことを真剣に取り組むということを体現していた橋本さんの精神は、いまハッスルという舞台で生き続けている。筆者はハッスルのオフィシャルサイトと大会パンフレットの企画で、橋本さんにゆかりの深い選手をインタビューする機会に恵まれた。そのインタビューの中から非常に印象に残った崔領二の言葉を引用してみたい。

「僕は橋本さんが亡くなったら亡くなったで、それをも力に変えるぐらいのことをあの人はもともと望んでると思うんです。だから暗くなる必要はないし。ホントにあの人が大好きだったイタズラ心っていうんですかね、人と違ったことをあらゆる角度でやってみることが一番喜ぶことなんじゃないかな、と。どうしてもこの国の人って、ちょっと違うことやると不謹慎どうこうって言われますけど、橋本さんってそういう考えがまったくなかった人なんで。全力で腰抜かすようなことをやっていきたいですね」

破壊王イズムをここまでわかりやすく伝えてくれる言葉が他にあるだろうか？　ハッスルはイベント全体を通して全力で腰抜かすようなことに取り組み、ファンも喜んでそれを受け入れていた。11日の第一試合に恐イタコを投入して、破壊王の霊が降りてくるという普通の感覚では不謹慎な部類に入るであろうこの試合を後楽園ホールに集まったファンは「ハシモト」コールで賞賛した。

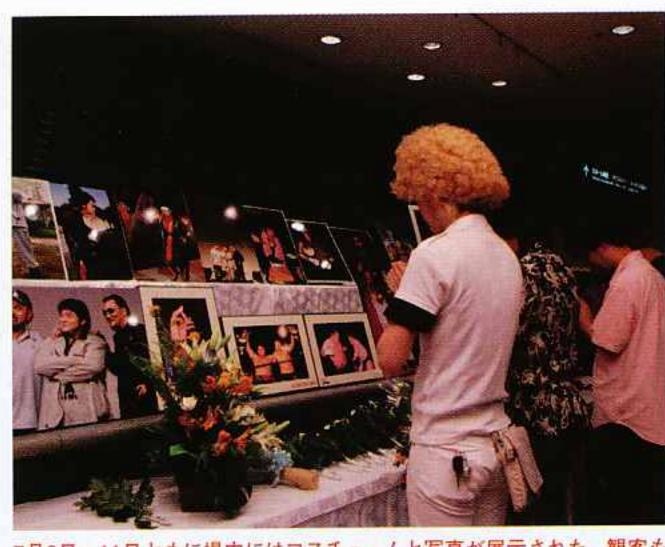
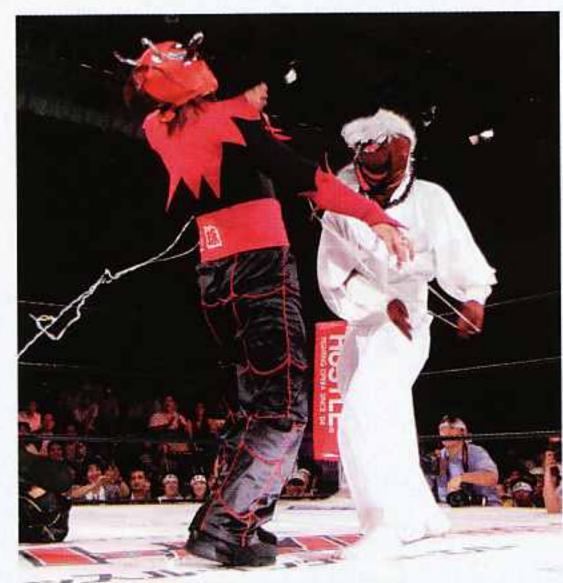
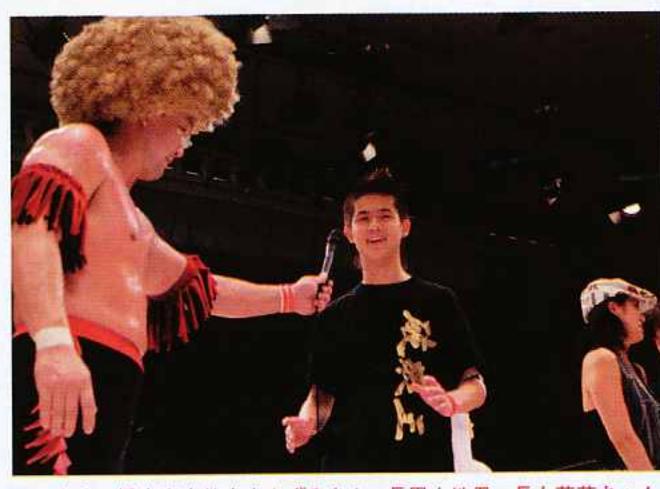
7.9『ハッスル18』(パシフィコ横浜)／7.11『ハッスル・ハウス vo

橋本真也(ハッスル・キング)はみんなの

ハッスル・キングメモリアル
6人タッグトーナメントは
熱戦が続出!!

トーナメントに出場したKARI族最強3人衆は橋本と対戦して敗れ去ったKATAKARIの復讐のために参戦！

ハードコアブラザーズは会場狭しと場内を走りまくったが、会場のパシフィコ横浜を傷つけないようにセーブしたためか敗退してしまった。

チームハッスル・トゥモローは日高郁人を中心に奮闘したがどっこい浪口の積極性が裏目に出てチーム6メートルに敗退。

7月9日、11日ともに場内にはコスチュームと写真が展示された。観客もアフロ着用でイベントに積極的に参加していた。

11日の第一試合に髙田総統がこの日のために青森から呼び寄せた恐イタコにハッスル・キングが降臨！『爆勝宣言』が流れて大「ハシモト」コールの中、味方のモンスター軍をキックとチョップで蹴散らしてハッスル仮面の勝利をアシストした。

両日ともに橋本真也前夫人かずみさん、長男大地君、長女茉莉ちゃん、次女ひかるちゃんが来場。9日には小川の「将来、プロレスやるんだろ」という問いに「ハッスルなくして創造なし」と答えた。現在はまだ中学生だが将来が楽しみだ。

"破壊王"橋本真也の重爆キックをほうふつとさせる坂田のミドルキック、それに耐える大谷晋二郎の表情、それに熱狂する観客。相乗効果で場内はどんどん盛り上がっていった。田中将斗、安田忠夫、天龍源一郎、崔領二もガンガンと激しくぶつかり合った。

それだけではない。とくに素晴らしかったのは「ハッスル・キング　フォーエバー」と銘打たれた7月シリーズの目玉企画であるハッスル・キングメモリアル6人タッグトーナメントの決勝戦だ。6人の思いが重なり合い、それぞれの熱い気持ちが伝わってくる試合だったが、とりわけ坂田のミドルキックを胸で思いっきり受ける大谷、大谷のチョップで顔をしかめる坂田の意地の張り合いは観る者の心を締めつける激しい内容だった。

「橋本さんの後継者は僕しかいない」と優勝宣言してトーナメントに挑んだ大谷には、口にこそしないが悲しみを押し殺してZERO1・MAXとハッスルで闘ってきた一年がある。それに噛みついた坂田も、橋本さんの存在がなければZERO－ONEやハッスルといった純プロレスの世界に飛び込んでくることはなかったと明言しているほど受けた影響は大きい。また、つい最近も『FRIDAY』で順調交際がスクープされた小池栄子さんとの縁も橋本さんが取り持ったことは広く知られている。「プロレスは闘いを見せなきゃだめだ」という橋本さんのプロレス哲学を消化した二人は、それぞれの譲れない気持ちをリングで激しくぶつけ合った。最後は大谷が勝ったが、プロレスは勝ち負けだけではない。熱い気持ちが伝わってくる試合内容に観客からは惜しみない拍手が送られた。

プロレスを通じて自分の気持ちをダイレクトに伝えてきた橋本真也というプロレスラーの魂は、それぞれの心の中で生き続けているということが、この試合を目撃した人ならわかるはずだ。時価総額711万円のゴールデンアフロを被った大谷は言った。

「後継者は一人じゃない。みんなが後継者だ」

おそらく、試合で闘ったプロレスラー、遺族の皆さん、イベントを企画した主催者側、そして観客の誰しもが破壊王の魂を感じることができたのではないか。破壊王はそれぞれの心の中で生き続けている。みんなが心の中から破壊王を持ち寄って、この素晴らしい追悼イベントができ上がったのだ。ハッスル・キング、フォーエバー！

ス vol. 17』(後楽園ホール) 大会レポート

文/坂井ノブ　撮影/平工幸雄　designed by matsu (TwoThree)

ス・ニューリン様誕生!!

ニューリン様ことザ・Mペランサーの衝撃的な裏切り
ハッスル軍に加入してM字ハッスルポーズを初披露!

ザ・エスペランサーと対戦して心に傷を負ったTAJIRIとの対戦を前に、髙田総統はニューリン様をザ・Mペランサーにした。

“モンスターK”川田利明がTAJIRIをキャメルクラッチに捕らえたところでニューリン様は毒霧を噴射した。直後に川田はフォール負け。

「アタシの本当の敵は、髙田! テメーだ!」

ハッスル18のメインイベントに対TAJIRI用にザ・Mペランサーとして登場したニューリン様は、突如〝モンスターK〟川田利明に毒霧を噴射すると髙田総統に向かって宣戦布告を行なった。

「信頼していた人間がある日、突然どこかに行ってしまうということが最近、頻発しているというが、ニューリンよ! オマエもか!?」と怒りをあらわにする髙田総統。一方、「髙田総統のカリ首……セイセイ、首を狙うならハッスル軍に入ってくださいよ〜」と勧誘するHG。そして、ニューリン様が11日のハッスル・ハウスvol.17のリング上で出した結論は「ハッスル軍入り」だった。

今回のニューリン様のハッスル軍入りは単なる裏切り行為や共通の敵を倒すための打算というより、もっと大きな意味を持っている。ニューリン様には顔に大きな傷があることがハッスル・エイドのリング上で発覚した。年頃の女子にとって、この傷が大きなコンプレックスとなっていることは想像に難くない。傷をつけた犯人が髙田総統であることを知ってしまった以上、磨きをかけた戦闘能力を発揮する相手はハッスル軍ではなく、髙田総統になるということだ。

そもそもニューリン様の闘いは「日本のプロレス界を根こそぎぶち壊す」という髙田モンスター軍の目的とは違うところにあった。コンプレックスに打ち克つため、そして復讐のための闘いだ。

ハッスルでは大会の冒頭にいつもこんなナレーションが流れている。

「ハッスルとは日本のプロレス界を根こそぎ壊滅しようとする髙田モンスター軍と、それを阻止せんとするハッスル軍が織り成す壮大なるファイティング・オペラである」

これは言い換えれば、格闘技にコンプレックスを持つ日本のプロレス界を潰してしまえばいいというモンスター軍と、そこから前向きに脱却しようとするハッスル軍の闘いでもある。

プロレス界は本来持っている魅力を発揮しな

7.9『ハッスル18』（パシフィコ横浜）／7.11『ハッスル・ハウス vo

究極のベビーフェイス

高田総統に見せつけるようにHGとニューリン様がシェイクハンド!! この歴史的瞬間に観客は大きくどよめいた。

ニューリン様は自ら考案したM字ハッスルポーズを披露!「3、2、1、ハッスル!! ハッスル!!（腰を回しながら）トルネードMAX!!」TAJIRIが一晩で作ったM字台の上で披露した。

最後には四方に向かってハッスル軍のメンバーと一緒にハッスルポーズを披露したニューリン様。凄いチームだ!!

いままに、勝手に格闘技にコンプレックスを抱いて底が丸見えの底なし沼でもがき苦しんでいた。そこに一石を投じたのがハッスルであり、その象徴的な存在がインリン様であり、ニューリン様であった。

おそらくニューリン様が復讐のために前へ進む姿には多くの共感が寄せられるに違いない。ハッスルから始まるプロレスの逆襲を象徴する存在だからだ。そしてニューリン様本人が好むと好まざるに限らず、観客はニューリン様の姿にプロレス界の未来を見ることになるだろう。

数年前のＷＷＥで絶対的なベビーフェイスだった〝ストーンコールド〟スティーブ・オースチンや〝ＨＢＫ〟ショーン・マイケルズは、ちょっとヒールっぽいところも残したベビーフェイスだった。単純な勧善懲悪ではなく、善と悪の両面を併わせ持つ〝ちょいワル〟な存在として人気を博したのだ。おそらくニューリン様にも善と悪の両面があり、その魅力を引き立たせるスパイスとなるはずである。

相変わらず言葉遣いは悪いニューリン様だったが、初めて披露したM字ハッスルポーズに後楽園ホールに集まった観客も大熱狂！ それは究極のベビーフェイス誕生の瞬間だった。いつキレるかわからない危険なニオイのする〝ハッスル軍〟のニューリン様。これは見逃せない!!

ハッスル8月シリーズの見どころ

ニューリン様のハッスル軍入りという大いなるサプライズと橋本真也さんの思い出を心に刻んだ7月シリーズも終わり、ハッスルは灼熱の8月シリーズへと突入していく。注目は何と言っても“ハッスルあちち”大谷晋二郎と江頭2：50のタッグ結成だ。“モンスターK”川田利明から「おい、江頭!」と毛髪のことをさんざん指摘されていた大谷に、昨年12月25日にモンスター軍から「クリスマス・プレゼント」として贈られたのがエガちゃんだったのだ。そこで一緒に「ガッぺむかつく!」を披露して以来、約8ヵ月ぶりの再会となる。もちろん、ハッスル軍と髙田モンスター軍の抗争もますます激化していく。髙田総統への復讐に燃えるニューリン様のハッスル軍入りに対して、モンスター軍の攻撃が激化するのは間違いない。ますますハッスルから目が離せない!

ハッスル今後の大会スケジュール

ハッスル・ハウスvol.18
8月8日（火）東京・後楽園ホール（18:00開場／19:00開演）
※チケット絶賛発売中!

ハッスル・ハウスvol.19
8月9日（水）東京・後楽園ホール（18:00開場／19:00開演）
※チケット絶賛発売中!

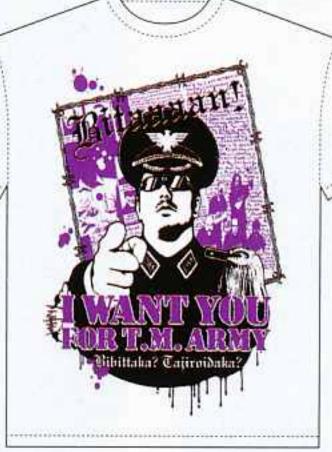
ハッスル・ハウスvol.20
9月7日（木）東京・後楽園ホール（18:00開場／19:00開演）
※7月22日（土）10:00～ ハッスル携帯サイト&ハッスルPCサイト有料会員先行発売開始
7月23日（日）10:00～ ハッスルPCサイト先行発売開始
7月30日（日）10:00～ 一斉発売開始

【お問い合わせ】ドリームステージエンターテインメント
ハッスル事業局 TEL.03-5464-1731

まさにエスペランサー級の衝撃波!!

"俳優"髙田延彦がドラマ界の頂(いただき)へ NHK大河ドラマ『功名が辻』に出演!!

今回の出演に関して髙田は「大河ドラマでも、そうでなくても与えられたものをきっちりと演じるだけ」と語り「先につながるように大切に演技をしようと心掛けている」「『この役は髙田延彦しかできない』と言われるぐらいのところを目指していきたい」とコメント。

「鳥肌立った！」まさにエスペランサー級の衝撃写真を編集部が入手！　現在、PRIDE統括本部長として活躍中の髙田延彦が、この夏、俳優としてドラマ界の"頂"に挑戦！　NHK大河ドラマ『功名が辻』のレギュラー出演が決定した。

髙田は俳優として、映画『シムソンズ』や単発ドラマ『戦国自衛隊・関ヶ原の闘い』（日本テレビ系）に出演しているが、連続ドラマ、大河ドラマの出演は初。徳川家康（西田敏行）に仕えた功臣で、幾多の武勇伝を残す、本多忠勝役を演じる（オンエアは8月13日からの予定）。「演じることに関しては"新弟子"の状態」と謙虚ながら「取り替えの利かない俳優になりたい」と語る髙田の演技に要注目！　日曜夜8時はNHKに、チャンネル合わせろや〜！

さらに妻・向井亜紀と夫婦で共演!! 朗読劇『LOVE LETTERS』に登場!

髙田が大河ドラマに続き、舞台にも初登場。しかも妻・向井亜紀との夫婦共演！『LOVE LETTERS』は全世界で上演され、静かなブームの朗読劇。男女が2時間、台本を読み上げるシンプルな構成だが、様々な個性のタレントたちが登場しており、髙田も「夫婦ということを忘れて、恋人気分で演じたい」とヤル気充分だ。

『LOVE LETTERS』INFORMATION

『LOVE LETTERS』16th Anniversary Special

東京・パルコ劇場／8月2日(水)開演19:00
作／A.R.ガーニー　訳・演出／青井陽治　企画制作／パルコ
出演／髙田延彦、向井亜紀
料金／¥5,000（全席指定・税込）
イープラス、チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド で発売中
[パルコ劇場「LOVE LETTERS」ホームページ]
http://www.parco-play.com/web/play/loveletters/

『kamipro』読者&『kamiproHand』ユーザーが選ぶ

kamipro大賞

2006年上半期発表!!

構成／松下ミワ designed by matsu (TwoThree)

早いもので、もう上半期MVP発表の時期がやってきた!! フジテレビ騒動、ボブ・サップ失踪事件など、上半期は大事件が頻発しっぱなしだったが、そんな状況下でマット界に大インパクトを残した好選手、好試合も続出!! その激戦の中、MVPに輝いたのは、なんと"バリケード"を取っ払ってついに覚醒したアノ男だった!

MVP

なんと! 上半期たった一試合で"野獣"がMVP獲得!!

1st 藤田和之 312POINT

2nd 高阪剛 234POINT

3rd ジョシュ・バーネット 234POINT

4th 桜庭和志 117POINT

5th マーク・ハント 91POINT

6th 髙田総統 39POINT

7th 石田光洋 37POINT

8th 山本"KID"徳郁 35POINT

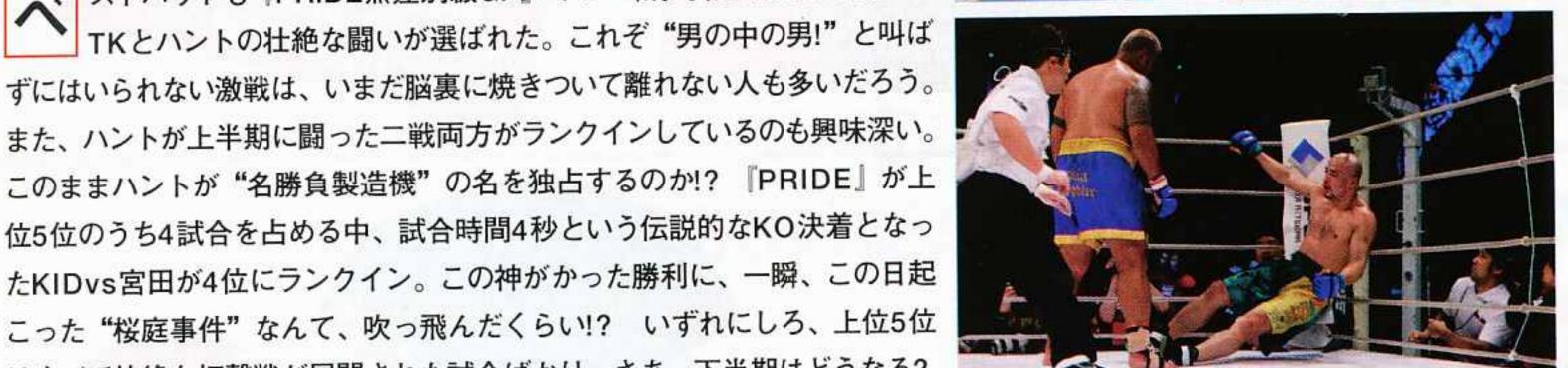
9th メカマミー 26POINT

10th ブアカーオ・ポー.プラムック 25POINT

2006年上半期のMVPは、なんと! たったの一試合しか闘っていないにも関わらず、その一試合でとんでもないインパクトを残した藤田和之に決定!! その藤田を筆頭に、今回は『PRIDE無差別級GP』参戦選手が、TK、ジョシュ、マーク・ハントと上位を独占。その中で孤軍奮闘しているのが、5・3『HERO'S』で電撃移籍を発表した桜庭和志だ。4位ランクインは『HERO'Sライトヘビー級GP』という次なる挑戦への期待の表われか!? また、一試合もしていないのに入賞している髙田総統、期待の新星・石田光洋という面々も。さらに、9位には『kamipro』初のメカが入賞!! MVPで山本KIDやブアカーオと名前が並ぶなんて、どんな雑誌だよ、まったく。

BEST BOUT

1st マーク・ハント VS 髙阪剛 390POINT
(5・5『PRIDE無差別級GP開幕戦』)

ベストバウトも『PRIDE無差別級GP』での一戦。引退を懸けて闘ったTKとハントの壮絶な闘いが選ばれた。これぞ"男の中の男!"と叫ばずにはいられない激戦は、いまだ脳裏に焼きついて離れない人も多いだろう。また、ハントが上半期に闘った二戦両方がランクインしているのも興味深い。このままハントが"名勝負製造機"の名を独占するのか!?『PRIDE』が上位5位のうち4試合を占める中、試合時間4秒という伝説的なKO決着となったKIDvs宮田が4位にランクイン。この神がかった勝利に、一瞬、この日起こった"桜庭事件"なんて、吹っ飛んだくらい!? いずれにしろ、上位5位はすべて壮絶な打撃戦が展開された試合ばかり。さあ、下半期はどうなる?

2nd 藤田和之VS ジェームス・トンプソン
(5・5『PRIDE無差別級GP開幕戦』)
234POINT

3rd J・バーネットVS エメリヤーエンコ・アレキサンダー
(5・5『PRIDE無差別級GP開幕戦』)
195POINT

4th 山本"KID"徳郁VS 宮田和幸
(5・3『HERO'S』)
91POINT

5th マーク・ハントVS 西島洋介
(2・26『PRIDE.31』)
65POINT

BEST SHOW

1st	5・5 PRIDE無差別級GP開幕戦	332POINT
2nd	5・3 HERO'S	130POINT
3rd	6・17 ハッスル・エイド2006	78POINT
4th	4・2 PRIDE武士道・其の拾	39POINT
5th	6・3 K-1 WORLD GP in SEOUL	26POINT

上位5位はDSE＆FEGの興行が独占!! その中でも、ぶっちぎりで1位に輝いたのは『PRIDE無差別級GP』開幕戦。この日の試合がベストバウトのトップ3を独占したことからして、まさに納得のランキングか。それを追うように2位につけたのが5・3『HERO'S』。KIDvs宮田に代表される好試合のみならず、"サク・サプライズ"も影響して堂々2位に。また、プロレス興行で唯一の登場となったのは『ハッスル・エイド2006』。タマアゴの中身が非常に注目された大会だったが、その中からザ・エスペランサーが登場するという『HERO'S』もビックリの大事件に、観客はただ魅了されるばかりだった!?

WORST FIGHTER

1st	ボブ・サップ	208POINT
2nd	曙	156POINT
3rd	桜庭和志	117POINT
4th	フジテレビ	115POINT
5th	川又誠矢	65POINT

WORST BOUT

1st	チェ・ホンマン vsセーム・シュルト (6・3『K-1 WORLD GP in SEOUL』)	234POINT
2nd	吉田秀彦vs西島洋介 (5・5『PRIDE無差別級GP開幕戦』)	195POINT
3rd	ドン・フライvs曙 (5・3『HERO'S』)	78POINT
4th	A.R.ノゲイラvs田村潔司 (2・26『PRIDE.31』)	39POINT
5th	アーネスト・ホースト vsピーター・アーツ (5・13『K-1 WORLD GP in AMSTERDAM』)	37POINT

WORST SHOW

1st	6・3 K-1 WORLD GP in SEOUL	377POINT
2nd	1・4 新日本ドーム	143POINT
3rd	5・13 K-1 WORLD GP in AMSTERDAM	117POINT
4th	3・15 HERO'S	91POINT
5th	6・4 PRIDE武士道・其の十一	52POINT

ワーストファイターは、"事件"勃発から二ヵ月以上経ついまもマット界をおおいに賑わせているボブ・サップに決定!! 突然すぎる"試合放棄"はやっぱりマイナスだったのか。その他、ファイター以外の面々が名を連ねているのは、なんとも今期のドタバタ劇を象徴するかのようだ。ワーストバウトは"巨人対決"ホンマンvsシュルト、その対戦が行なわれたK-1ソウル大会がワースト興行に。『kamipro』は記念すべき100号で4ページに渡って特集したのに……。ん〜、残念!! 下半期、ベスト枠に好転することを期待するしかない!

06年夏、日本列島に"死神"Tシャツ降臨!!
死神復活まで、しばし待て!!
死神の目が光る! ラインストーン付き!!
NEW
SK
SERGEY KHARITONOV
ハリトーノフ
"死神"Tシャツ
ホワイト ¥4,200(税込)
S·M·L·XL
※商品は完成予想図です。色、デザインが若干、異なる場合があります
ロシアの残虐超人セルゲイ・ハリトーノフ
SERGEY KHARITONOV
ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)
ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.prideofficial.com/
『紙プロHand』でも購入可能!!
SERGEY KHARITONOV
RUSSIAN TOP TEAM
ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト/レッド ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
SERGEY KHARITONOV
RUSSIAN TOP TEAM
KHARITONOV
ハリトーノフSKULL Tシャツ
レッド/ホワイト ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
SERGEY KHARITONOV
RTT
ハリトーノフFACE Tシャツ
レッド/ホワイト/カーキ ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
RUSSIAN TOP TEAM
コピィロフTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
VOLK
ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
MIKHAIL
RUSSIAN TOP TEAM
ミーシャTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S·M·L·XL
SERGEY KHARITONOV
ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド¥7,350(税込)
M·L·XL
ロシアン·トップチームグッズは『kamipro』通販でご購入できます。電話、メール注文もできますよ!!
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797(平日13:00〜19:00まで)
【メール注文方法】郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)代引手数料約¥315がかかります。(代引金額によって異なります)。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。販売元:(株)ダブルクロス
非会員でもショッピング可能!!
アクセス方法
DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
vodafone メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶
kamipro Hand
[通販の問い合わせ先]
株式会社ダブルクロス
TEL:03-5368-1795
(受付時間/13時〜19時)
販売元:株式会社ダブルクロス

言うちゃ悪いけど、大人気沸騰中!!
"プロ格者、垂涎!!"
I編集長"殺し"Tシャツで夏を迎え撃て!!

I編集長"殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

I編集長"殺し"シャツに関してコメント!

なんと、今回、私がひんぱんに使っている"殺し"の語句をモチーフしたTシャツを売り出すと聞いて思わず苦笑してしまった。どう考えても売れるはずがないからで、「一枚も売れなかったらアイツが寂しく思うだろうと、同情して買ってくれる人がいるかもしれないよ」などと話している。デザインはブルー色に大きく"殺し"の字が躍動するもので、それ自体は上出来なのだが、下方に私の上半身がコーヒー・カップの中に鎮座ましましているというのは感心しない。「喫茶店トーク・ラウド」を英訳した「CAFE TALK LOUD」がシャレていて「まぁいいか」。（後略）

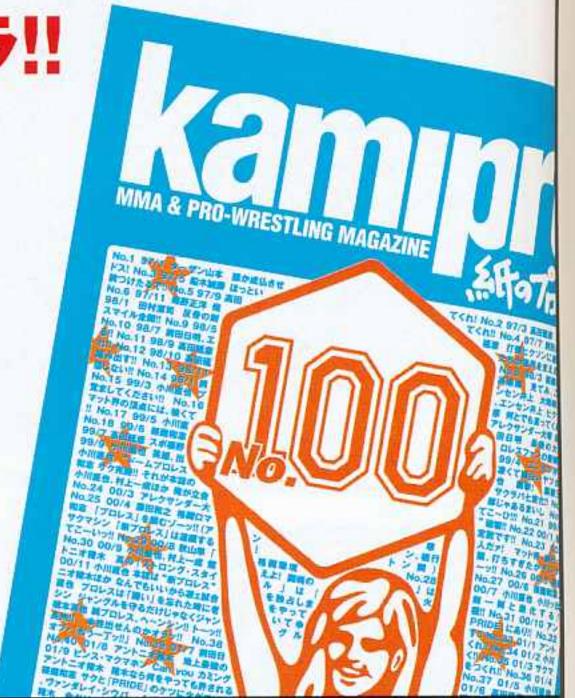
（kamipro Hand　I編集長の喫茶店トークより抜粋）

kamipro100号記念グッズはコチラ!!

100号記念特製Tシャツ
ブラック
特別定価 ¥2,625（税込）
S･M･L･XL

タテ
132cm

ヨコ68cm

100号記念
特製巨大バスタオル
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150（税込）

話題沸騰! kamiproオリジナルグッズ

『kamipro』サマーキャンペーン
特製携帯ストラッププレゼント!

夏、真っ盛り！ いま、『kamipro』オリジナルグッズ、もしくはハリトーノフグッズ、どれでも合計5,000円以上お買い上げの方に『kamipro』特製携帯ストラップをプレゼント！『kamipro』ストラップで夏を満喫！（景品は商品に同封されます）。
［対象期間］
7月21日〜8月末日まで

ついに出た！

kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

"藤原イズム"を着用せよ！

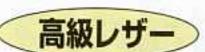
藤原敏雄Tシャツ
ホワイト×ブラック ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

※新商品はすべて完成予想図。色、デザインが若干、異なる場合があります。

このページの商品はkamipro Handでも購入可能!! 詳細は右ページ下段を参照ください➡

ファイティングバッグ

パンチにキック激しい衝撃をガッチリ受け止める。自宅でできる本格トレーニング!

30,000円→14,980円（消費税込）

Wプレゼント!

今、ファイティングバッグをお買上げの方に、トレーニンググローブをプレゼント。さらに、トレーニング解説DVD「ファイティングⅡ」もプレゼント!

「ファイティングⅡ」DVD

プロフェッショナルボクシンググローブ

19,800円→4,980円（消費税込）

8・10・12・14oz／カラー:白・黒・赤

最高級本革製

プロフェッショナルヘッドガードインナーバー

17,800円→5,980円（消費税込）

サイズ:フリー／カラー:白・黒・赤

最高級本革製

プロフェッショナルレッグガード

14,800円→4,980円（消費税込）

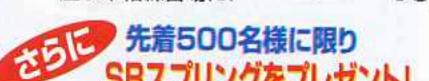
サイズ:フリー／カラー:白・黒・赤

最高級本革製

セット内容 ファイティングスタンド＋サンドバックDX150＋パンチングボール＋トレーニンググローブ＋安定用重し袋

ファイティングスタンド・フルセット

サンドバックを使いパンチ、蹴りの練習。逆サイドでパンチングボールを使いコンビネーションの練習。これ1台であなたの部屋が本格練習場に!

50,000円→10,980円（消費税込）

トレーニング時の揺れやショックを軽減しすばらしい打撃感を実現!!

プロフェッショナルパンチングミット

9,800円→3,980円（消費税込）

サイズ:フリー 両手

最高級本革製

プロフェッショナルキックミット

9,800円→3,980円（消費税込）

サイズ:40×18×10
カラー:黒（打面）・赤（打面） 1個

最高級本革製

ナックルガードPRO

1,200円→580円（消費税込）

素材:コットン・ポリエステル
サイズ:幼児・少年・一般

レッグサポーターPRO

2,500円→1,200円（消費税込）

素材:コットン・ポリエステル
サイズ:XS・S・M・L

ファールカップサポーターPRO

1,800円→780円（消費税込）

素材:コットン・ポリエステル
サイズ:S（60〜75）・M（70〜85）L（80〜100）・XL（90〜120）cm

W67×D107×H200

ラットマシーン—TRUST

付属プレート5kg20枚付

パンチ力強化に最適!

95,000円→42,800円（消費税込）

ファイティングセットⅢ

97,000円→49,980円（消費税込）

アブ・バックベンチ—TRUST

腹筋・背筋を効果的に鍛える!（プレート別売）

55,000円→23,800円（消費税込）

ファイティングセットⅡ

65,000円→35,980円（消費税込）

ムーブでアゲアゲ!! ゴー・トゥー・サマー!! GO TO SUMMER!!

夏だ! 麦茶だ! 全員集合!!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は8月20日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦好きなプロレス、格闘技大会（団体）トップ3⑧人生相談したいファイター

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「もろこし体操」係まで

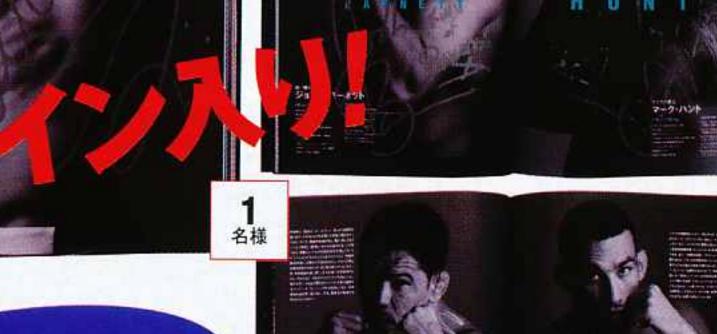
※締切は2006年8月19日（土）当日消印有効

kamipro 101 応募券 6月吉日

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

サイン入り

3 GP4強サイン入り!

1名様

『PRIDE無差別級GP 2nd ROUND』サイン入りパンフ

無差別級GPの決勝ラウンドに勝ち残ったビッグファイター4人のサイン入りパンフをプレゼント!! という当初の予定は、一夜明け会見当日のミルコ・クロコップの寝坊により、阻まれてしまいました。というわけで、3人のサイン入りパンフをプレゼント! ミルコのサインは自己調達!!

PRIDE

■PRIDE***http://www.prideofficial.com/

10名様

「We are PRIDE」バンド

DSEの「We are PRIDE」キャンペーン（詳細はオフィシャルHPへ）で応援メッセージを送ってくれた方に配られる「We are PRIDE」バンドを、特別に10名様にプレゼント。くれぐれも、血管を圧迫しないようにお使いください。

五味フィギュア ¥3700（税込）

『PRIDE』フィギュアシリーズ、五味（金髪バージョン）がついに登場!! 五味信者たちは、次の勝利を願って、いますぐ神棚に飾るべし! ちなみに、PRIDEオフィシャルサイトでは茶髪バージョンも販売中。

2名様

HAKAIO

■CD販売サイト***www.hakaio.jp
■双葉社***http://www.prideofficial.com/

3名様

さらば破壊王…橋本真也 入場テーマ曲 Welcome To The Pleasuredome (Into Battle Mix) 〜爆勝宣言（新録音カヴァーヴァージョン）
¥2000（税込）

破壊王の肉声がこの中に!! 橋本真也さんの一周忌を迎えるこの時期に、「爆勝宣言」をはじめ、長州力との伝説の「コラコラ問答」や、サムライTVで収録された「真也の部屋」などを完全再録したCDが発売されました! 恥ずかしがらずに、聞くんやー!!

主な収録内容

★爆勝宣言
★真也の部屋より ゲスト:小池栄子
★真也の部屋より ゲスト:MEGUMI
★独り言 14連発
★長州力／ZERO-ONE道場に乱入
★橋本真也入場コール／沖田リングアナほか

5名様

冬木薫著『橋本真也の遺言』（双葉社）¥1680（税込）

橋本真也さんの婚約者・冬木薫さんが衝撃の激白本を出版! 破壊王から冬木氏に送られたメールや自筆の手紙、二人の秘蔵写真などが赤裸々に明かされている、ちょっと凄い暴露本（?）です。いや〜、これは凄い。本当に凄いんですよ!

Back

2名様

破壊王メモリアルTシャツ ¥4200（税込）

ハッスル・キング・メモリアル『ハッスル18』から販売された破壊王メモリアルTシャツ（新作!）を2名様にプレゼント。これを着て、心の底からハッスル軍を応援するんやー!

各1名様

美濃輪HEAVEN Tシャツ ¥4200（税込）（レッド／ブラック）

HEAVENな男・美濃輪育久の新作Tシャツが完成! 美濃輪カラーの赤と黒の二色で展開されています。これを着て、キミもスタンディング・リアル・フィスト8回を決めるんだ!! （ご近所迷惑に注意してね）。

WEAR

■雪崩式***http://www.nadareshiki.com

セットで1名様

ナチョ・リブレTシャツ&キーホルダー

今秋公開予定の映画『ナチョ・リブレ』のオリジナルグッズは、先月アメリカに取材に渡ったライター・橋本さんからのお土産です。ある男が「新人ルチャドール、求む!」のチラシをきっかけに人生を変えていく……。こんな映画の概要を聞いたら、見ずにはいられない!

3名様

那賀田Tシャツ

おっと! これは前号で取材解禁になったばっかりの、某団体を思わせる非常にナウなTシャツ!! バックプリントのデザインの抜かりなさも素敵です。というわけで、雪崩式さんから初夏の新作第一弾のプレゼントをいただきました。

GOZMA

DJゴズマサイン色紙

DJゴズマさん初のサイン色紙です! これはアゲアゲで応募するしかないでしょう!! ちなみに、次回はドン・キホーテで購入したと思われる金髪アフロ(本当は赤毛も持っている)をおねだりしたいと思います。乞うご期待!

2名様

BALL

1名様

宮本和志サインボール

残念ながら活動停止となってしまったキングスロード。そのエースであった宮本和志選手が最後にリング上から客席に投げ込んだサインボールを松澤チョロがキャッチ! というわけで、記念すべきこのボールを読者の方にプレゼントします!

ART JUNKIE

■URL***http://www.artjunkie.jp/index.html

セットで1名様

R-BLOODメッシュキャップ&ポストカード

ART JUNKIE初の個展が決定!! 「サマーアートシリーズ」と題して、8月14日(月)～20日(日)、新宿のFEWMANYで開催。普段、手に入りにくいレア商品は、この一週間で入手せよ! もしくは、都内・笹塚のショップまでダッシュで駆けつけよう!!

SAMURAI

■URL***http://www.samurai-tv.co.jpml

サムライ・オリジナル・ネックストラップ

「FIGHTING TV サムライ」から開局10周年を記念してオリジナルストラップをプレゼント! さらに、7月からは新編成&新価格によるサービスを開始! 新番、特番、復活番組など放送し、月額視聴料は1,890円に値下げ! さすが、プロレス&格闘技ファンの味方だ!!

20名様

HEAR

■アデランス***http://www.aderans.co.jp/
***男性向けコンテンツ0120-02-1960(24時間)
***女性向けコンテンツ0120-86-0930(24時間)

セットで5名様

アデランス コンディショナー・イン・シャンプー&育毛ローション

7月15日から"ほしのあき"さん熱演のTV-CM開始! というわけで、アデランスさんからまたまたコンディショナー・イン・シャンプー&育毛ローションのプレゼントをいただきました。ちょいワルオヤジを目指して、3、2、1、育毛! 育毛!!

BOOK

■WWEオフィシャルファンクラブ***http://www.wwefanclub.ne.jp/
■マキノ出版***http://www.makino-g.jp/
■情報センター出版局***03-3358-0231
■マンガショップ***http://www.mangashop.co.jp/

梶原一騎、吉田竜夫『チャンピオン太 完全版』1～5巻

各¥1890(税込)

1962年から講談社『週刊少年マガジン』で連載された梶原一騎先生のデビュー作『チャンピオン太』が待望の復刻! 類いまれな運動神経を持つ大東太がプロレスに情熱を注ぎ込むストーリー。全5巻を5名様にプレゼント!

各5名様

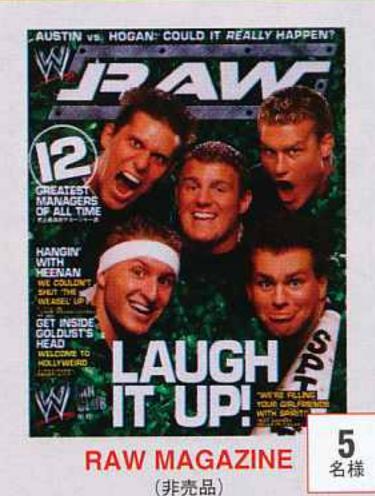
真樹日佐夫、一峰大二『プロレス悪役シリーズ 完全版』1～4巻

各¥1890(税込)

マット界を繁栄に導いた「リングの殺人鬼」「恐怖の殺戮者」「呪われた悪魔」など、怪しくも禍々しいキャッチフレーズに彩られた悪役レスラーたちを見事な想像力で書き下ろした真樹日佐夫先生の作品。こちらも全4巻を5名様に。

RAW MAGAZINE

(非売品)

5名様

WWEオフィシャルファンクラブ会報誌(非売品)の『RAW MAGAZINE』を5名様にプレゼント! 今回は闘う(?)男子チアリーディング"スピリット・スクワッド"が表紙です。このさわやかなスマイルを見よ!!

山本郁栄著『神の子』

マキノ出版/¥1365(税込)

1名様

五輪への出場が噂されている(?)山本"KID"徳郁の30年にわたる軌跡を、レスリングの師でもある父・山本郁栄が激白!「生きる」とは何か、そして、親子や家族のあり方などまで書かれている、ありがたい一冊。神の子を育てたいお父さん、お母さん必読です。

松本幸代著『ママダス～闘う娘と語る母～』

情報センター出版局/¥1680(税込)

3名様

辻結花、WINDY智美、しなしさとこ、渡辺久江、藤井惠、小林由佳ら、さまざまなジャンルの女子格闘家・プロレスラーとその母親27組のユニークすぎる親子関係に迫った単行本。400ページに渡り、涙あり笑いありの親子ストーリーが、豊富な写真とともに読めるゾ!

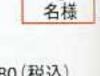
足関十段 今成正和

98分/¥5880(税込)

"足関十段"の異名を持つ現・DEEPフェザー級チャンピオン・今成正和の巧みな足関節技を、今成本人が徹底紹介するDVD。入り方、極め方、防御法まで、優に100を超えるバリエーションを持つ"職人"から、技を盗むべし!!

QUEST

各1名様

■QUEST***http://www.queststation.com/

01★ボクシング完全教則 サウスポー篇 part.1 71分/¥5880(税込)
02★國際松濤館空手完全教則 上級篇 113分/¥5880(税込)
03★女子プロレス M's Style -NEW STYLE SYSTEM- 238分/¥5880(税込)
04★武神館DVDシリーズvol.28 大光明祭'92 気空の戦い 113分/¥5880(税込)
05★時津賢児 自成武道 92分/¥5880(税込)

kamipro 紙のプロレス
No.101
2006年8月4日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（総取り成功のため非番）

電気部
さささぃ
松澤チョロ
ヒデト☆ウエスギ

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長リローデッドPart.10
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口“やっぱり猫が好き”ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
林 一枝

夏本番？
入江まだ冷えてません（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“飲むなら電車で行きます”芳司

“EBOS推進中”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

NEXT ISSUE

夏だ！ 暑さをカッ飛ばせ!!

次号No.102号は
8月18日（金）
発売予定！

※地域によっては多少発売日が遅れます。

kamipro 2006 101 PRIDE vs UFC開戦! 格闘スターウォーズ、ボッ発!!

2006年8月4日 発行人／浜村弘一 編集人／山口日昇、高柳昌行 発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

特別定価：本体876円＋税
雑誌61954-26 Ⓗ2006.11
Printed in Japan 図書印刷

ISBN4-7577-2879-4
C9476 ¥876E